第６表　第２面　Ⅴ区　遺物観察表

11・25号溝

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第420図 PL.249	11溝 1	陶器 碗	口縁～底部	口器	＊ ＊	底	＊		陶胎染付碗、主文様は欠損、口縁二重、体下部および高台部に一重圏線。	肥前陶器
第420図 PL.249	25溝 1	在地系土器 内耳鍋	口縁部	口器	－ －	底	－		口縁部外傾、口唇部は丸みを持つ、内外面なで調整。外面に煤付着。	遺構は（４）で報告済み
第420図 PL.249	25溝 2	在地系土器 内耳鍋	口縁部	口器	－ －	底	－		口縁部外傾、口唇部は丸みを持つ、内外面なで調整。	遺構は（４）で報告済み
第420図 PL.249	25溝 3	在地系土器 内耳鍋	胴部	口器	－ －	底	－		器壁は厚く内外面なで調整、成形時の指頭圧痕残る。	遺構は（４）で報告済み
第420図 PL.249	25溝 4	在地系土器 内耳鍋	底部	口器	－ －	底	(24.0)		器壁は厚く底部はやや薄手の作り、砂底。内面に煤。	遺構は（４）で報告済み

土坑・ピット

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第421図 PL.249	91坑 1	在地系土器 内耳鍋	口縁部	口器	－ －	底	－		口縁部は丸みを持って外傾、口唇部は平らに成形、内外面なで調整、耳は断面円形。内面に煤付着。	中世
第421図 PL.249	109ﾋﾟｯﾄ 1	須恵器 坏	底部～体部	口器	－ －	底	6.0		ろくろ成形、底部右回転糸切り、内面端部に欠損後に付着した煤見られる。	遺構は（４）で報告済み
第421図 PL.249	368ﾋﾟｯﾄ 1	在地系土器 鉢	底部	口器	－ －	底	(17.0)		厚手で内面使用痕、底部右回転糸切り。	中世､遺構は（４）で報告済み
第421図 PL.249	1004ﾋﾟｯﾄ 1	青磁 青磁碗	口縁部	口器	(14.0) －	底	－		外面に鎬蓮弁文。	龍泉窯系

遺構外

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第422図 PL.249	1	在地系土器 内耳鍋	41X-8 口縁部	口器	(31.0) －	底	－		口縁部やや肥厚、全体に薄手作り。	在地系、中世
第422図 PL.249	2	在地系土器 内耳鍋	41T-16 口縁部	口器	－ －	底	－		口縁部やや外傾、稜を有す、全体に薄手作り。	中世
第422図 PL.249	3	在地系土器 焙烙	41M-24 口縁部	口器	－ －	底	－		口唇部やや広く、体部は僅かに膨らみを持つ。	
第422図 PL.249	4	在地系土器 碗	泥流中 底部	口器	－ －	底	6.2		ろくろ成形、内面黒色研磨、底部なで。	

２　Ⅷ区から発見された遺構と遺物

平成29年度・30年度調査の遺構、遺物について報告する。平成31年度調査分については、全体図のみ記載し、個別の遺構、遺物については次報告とする。

（１）畑

天明畑耕作土下より、部分的ではあるが畑が検出されている。

１号畑（第423図）

位置　42M・N・O－３・４グリッド。

重複　無し。

平面形状　溝状。

主軸方位　N－62°－W。

規模　長さ8.0m、畝幅0.8m、高さ0.15m。

埋没土層　砂礫層。

遺物　無し。

所見　Ⅷ区の南西隅に検出された、幅７×８m程の範囲で、畝の走行は南東方向で、天明畑と直行する。畝幅は広く、サクはやや浅い、砂礫層で埋まっていることから、洪水により埋没したと考えられる。時期は江戸時代。

２号畑（第423図）

位置　41W～Y－21・22グリッド。

重複　無し。

平面形状　溝状。

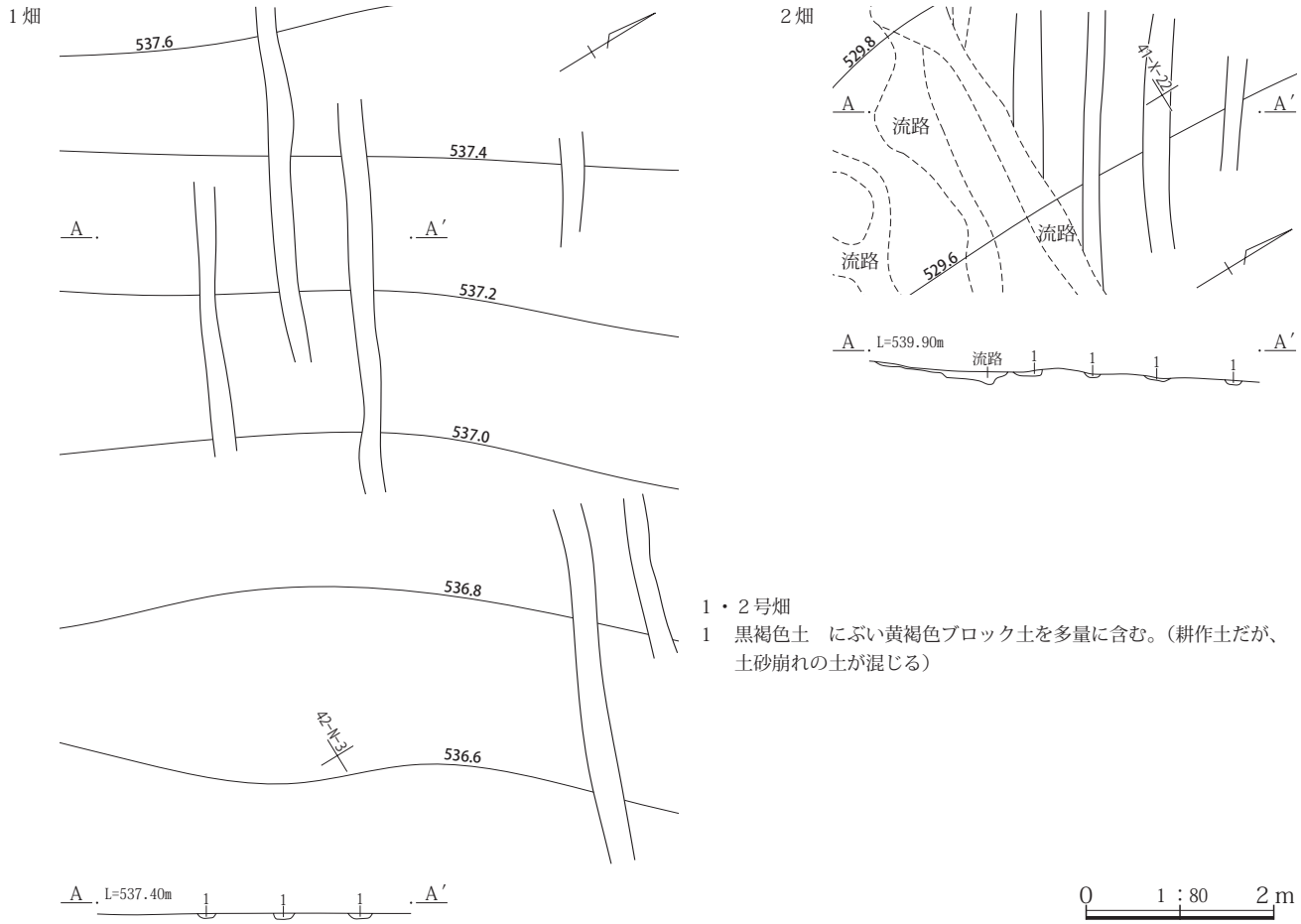
主軸方位　N－56°－W。

規模　長さ3.0m、畝幅0.8m、高さ0.1m。

埋没土層　砂礫層。

遺物　無し。

所見　Ⅷ区の北東に検出された、幅３×３m程の小範囲で、部分的な検出に留まる。畝の走行は南東方向で、傾斜方向に作られる。畝幅はやや広く、サクはやや浅い、砂礫層で埋まっている。時期は江戸時代。



第423図　Ⅷ区１・２号畑

（2）土坑

３号土坑（第424図、PL.236）

位置　42N－４グリッド。

重複　無し。

平面形状　長円形。

主軸方位　N－65°－W。

規模　長軸0.80m、短軸0.70m、深さ0.50m。

埋没土層　上層に黄褐色土、下部には黒褐色土。

遺物　無し。

所見　黄褐色土主体土で埋められた人為的埋土である。

４号土坑（第424図、PL.236）

位置　42M・N－４・５。

重複　無し。

平面形状　長円形。

主軸方位　N－60°－W。

規模　長軸1.92m、短軸1.2m、深さ0.65m。

埋没土層　暗褐色土主体、小礫を含む。

遺物　無し。

所見　西側部分が一段深く掘り込まれる、埋め土は一括埋土と見られる、時期は中世以降。

５号土坑（第424図、PL.236）

位置　42M－７グリッド。

重複　無し。

平面形状　円形。

主軸方位　－。

規模　長軸0.57m、短軸0.56m、深さ0.15m。

埋没土層　黄褐色土主体。

遺物　無し。

所見　黄褐色土で埋まる。一括埋土、３号に似るが掘り込みは浅い。

６号土坑（第424図、PL.236）

位置　42M－６グリッド。

重複　無し。

平面形状　長円形。

主軸方位　N－57°－W。

規模　長軸0.75m、短軸0.44m、深さ0.18m。

埋没土層　黄褐色土、礫が確認された。

遺物　無し。

所見　黄褐色土で埋まる。礫が入り込む、一括埋土、３・５号に似る。

７号土坑（第424図、PL.236）

位置　42Ｊ－８グリッド。

重複　無し。

平面形状　隅丸長方形。

主軸方位　N－51°－W。

規模　長軸1.65m、短軸1.27m、深さ0.05m。

埋没土層　黄褐色土主体、の１層が確認された。

遺物　無し。

所見　掘り込みは極めて浅い。

８号土坑（第424図、PL.236）

位置　42Ｊ－８グリッド。

重複　無し。

平面形状　長円形。

主軸方位　N－29°－W。

規模　長軸0.7m、短軸0.51m、深さ0.16m。

埋没土層　黒褐色土で砂礫含む層が確認された。

遺物　無し。

所見　攪乱土坑か、浅く底部はＶ字形。

９号土坑（第425図、PL.236）

位置　42Ｊ－９グリッド。

重複　26号土坑を切る。

平面形状　長円形。

主軸方位　N－65°－W。

規模　長軸1.0m、短軸（0.83）m、深さ―。

埋没土層　黄褐色土主体、砂礫多く含む。

遺物　無し。

所見　掘り込みは浅く、粗粒土で埋まる。中世か。

10号土坑（第425図、PL.236）

位置　42Ｉ－９グリッド。

重複　無し。

平面形状　長円形。

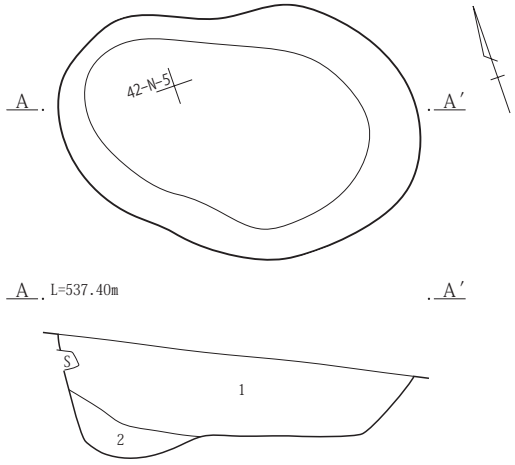
主軸方位　N－35°－Ｅ。

規模　長軸0.9m、短軸0.54m、深さ0.22m。

３坑

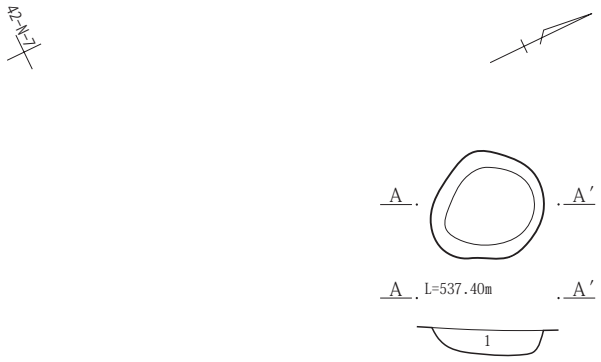
３号土坑
1　にぶい黄褐色土　黄橙色ブロック土少量、炭化物粒少量含む。
2　暗褐色土　黄橙色粒少量含む。

４坑



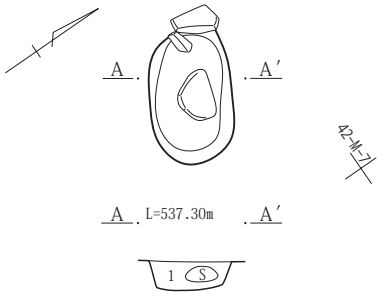
４号土坑
1　にぶい黄褐色土　黄橙色ブロック土少量、炭化物粒少量含む。
2　暗褐色土　黄橙色粒少量含む。

５坑



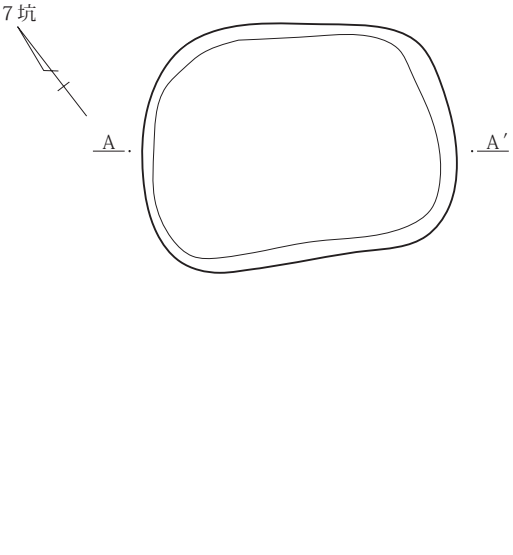
５号土坑
1　黄褐色土　暗褐色ブロック土少量、φ10～50㎜の礫若干含む。４号ピットの１層と似ている。

６坑



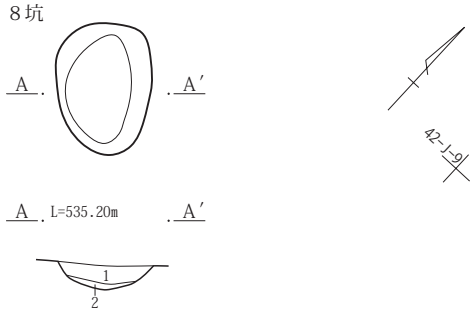
６号土坑
1　黄褐色土　黄橙色粒若干、粘質土で建物などの貼り床に使われているものに近い。

７坑



７号土坑
1　にぶい黄褐色土　黄橙色粒多量、炭化物粒少量、白色粒若干、φ１～３㎝の礫若干含む。

８坑



８号土坑
1　にぶい黄褐色土　焼土粒を若干含む。
2　黒褐色土　やや砂質の土。

0　1：40　1m

第424図　Ⅷ区土坑（１）

埋没土層　黄褐色土主体、締まりがある。
遺物　無し。
所見　礫および黄色ブロック土多く含む。時期は中世以降。

11号土坑（第425図、PL.236）
位置　42Ⅰ－９・10グリッド。
重複　無し。
平面形状　長円形。
主軸方位　Ｎ－19°－Ｅ。
規模　長軸0.53m、短軸0.4m、深さ0.12m。
埋没土層　黒色土主体、１層が確認された。
遺物　無し。
所見　浅く、締まりの弱い黒色土で埋まる。
時期は中世以降。

12号土坑（第425図、PL.236）
位置　42Ｈ・Ⅰ－８グリッド。
重複　無し。
平面形状　長方形（溝状）。
主軸方位　Ｎ－60°－Ｗ。
規模　長軸3.0m、短軸0.8m、深さ0.68m。
埋没土層　黒褐色土主体、砂小礫多く含む層が確認された。
遺物　無し。
所見　一括埋土で埋められている。溝状で掘り込みはほぼ垂直、時期は中世以降。

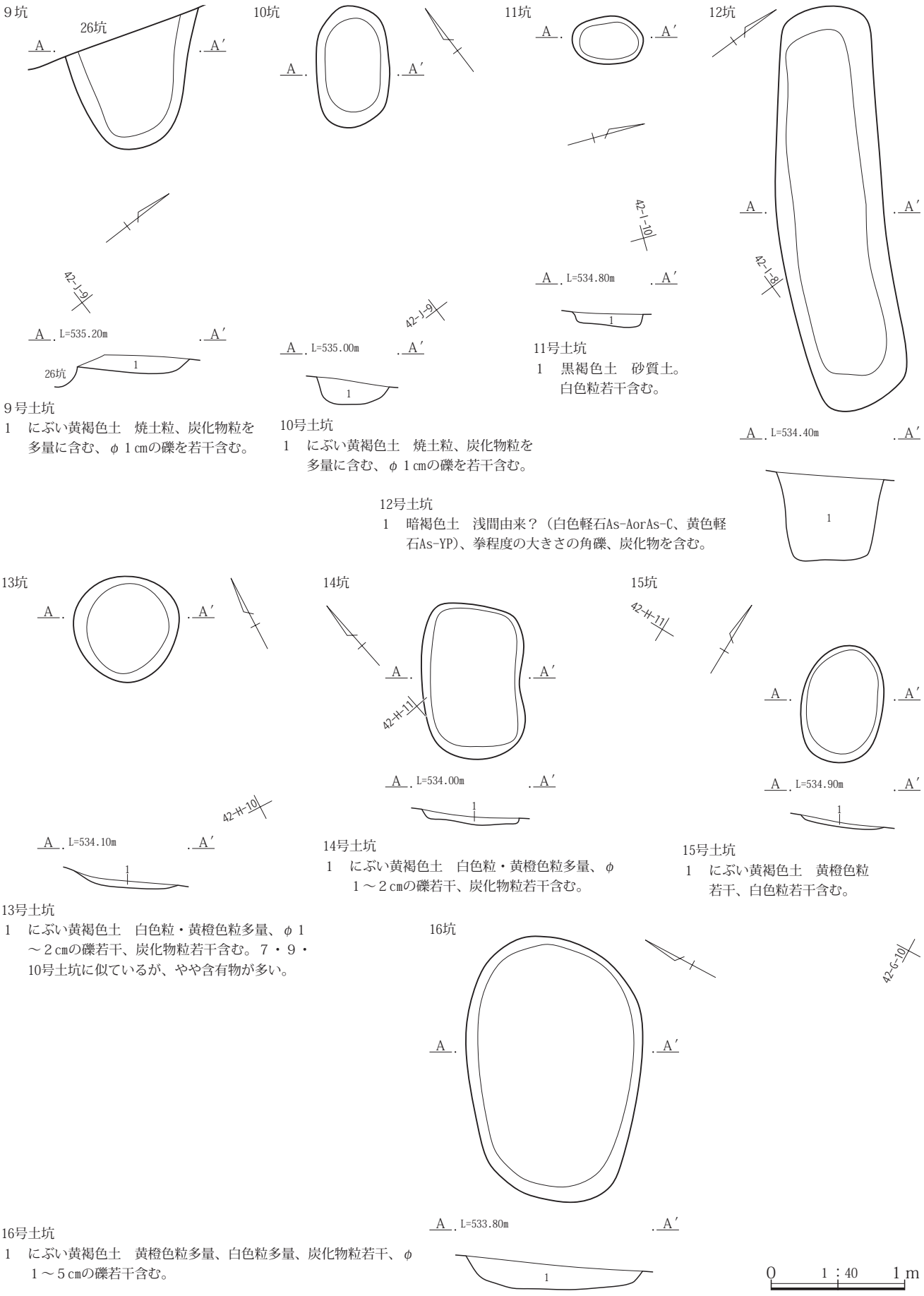
13号土坑（第425図、PL.236）
位置　42Ｇ・Ｈ－10グリッド。
重複　無し。
平面形状　円形。
主軸方位　－。
規模　長軸0.8m、短軸0.77m、深さ0.15m。
埋没土層　黄褐色土主体、角礫含み締まり強い。
遺物　無し。
所見　浅い掘り込み、明確な掘り込みは見られない。時期は中世か。

14号土坑（第425図、PL.237）
位置　42Ｇ－10・11グリッド。
重複　無し。
平面形状　長方形。
主軸方位　Ｎ－42°－Ｅ。
規模　長軸1.2m、短軸0.72m、深さ0.13m。
埋没土層　黒色土主体。
遺物　無し。
所見　黒色土が浅く落ち込む、明確な掘り込みは認められず、時期は中世以降。

15号土坑（第425図、PL.237）
位置　42Ｇ―11・12グリッド。
重複　無し。
平面形状　長円形。
主軸方位　Ｎ－20°－Ｅ。
規模　長軸0.9m、短軸0.6m、深さ0.12m。
埋没土層　黒色土主体、小礫含む。
遺物　無し。
所見　浅い落ち込みで､中央にピット状の掘り込みあり。
時期は中世以降。

16号土坑（第425図、PL.237）
位置　42Ｇ－10グリッド。
重複　無し。
平面形状　長円形。
主軸方位　Ｎ－60°－Ｅ。
規模　長軸2.0m、短軸1.0m、深さ0.15m。
埋没土層　黒色土主体、小礫含む。
遺物　無し。
所見　掘り込みは浅い、時期は中世以降。

17号土坑（第426図、PL.237）
位置　42Ｇ－11グリッド。
重複　無し。
平面形状　長円形。
主軸方位　Ｎ－７°－Ｅ。
規模　長軸1.0m、短軸0.7m、深さ0.15m。
埋没土層　黄褐色土主体、礫を含み締まり有り。
遺物　無し。



9号土坑
1　にぶい黄褐色土　焼土粒、炭化物粒を多量に含む、φ１㎝の礫を若干含む。

10号土坑
1　にぶい黄褐色土　焼土粒、炭化物粒を多量に含む、φ１㎝の礫を若干含む。

11号土坑
1　黒褐色土　砂質土。白色粒若干含む。

12号土坑
1　暗褐色土　浅間由来？（白色軽石As-AorAs-C、黄色軽石As-YP）、拳程度の大きさの角礫、炭化物を含む。

13号土坑
1　にぶい黄褐色土　白色粒・黄橙色粒多量、φ１～２㎝の礫若干、炭化物粒若干含む。７・９・10号土坑に似ているが、やや含有物が多い。

14号土坑
1　にぶい黄褐色土　白色粒・黄橙色粒多量、φ１～２㎝の礫若干、炭化物粒若干含む。

15号土坑
1　にぶい黄褐色土　黄橙色粒若干、白色粒若干含む。

16号土坑
1　にぶい黄褐色土　黄橙色粒多量、白色粒多量、炭化物粒若干、φ１～５㎝の礫若干含む。

第425図　Ⅷ区土坑（２）

所見　埋土は締まった黄褐色土で掘り込みは浅い。時期は中世以降。

18号土坑（第426図、PL.237）
位置　42Ｇ－11グリッド。
重複　無し。
平面形状　長円形。
主軸方位　Ｎ－23°－Ｅ。
規模　長軸0.9m、短軸0.58m、深さ0.12m。
埋没土層　黄褐色土主体、上層は黒味あり。
遺物　無し。
所見　浅い掘り込みで礫を含む、時期は中世以降。

19号土坑（第426図、PL.237）
位置　42Ｆ・Ｇ－10グリッド。
重複　無し。
平面形状　長円形。
主軸方位　－。
規模　長軸（1.3）m、短軸（1.5）m、深さ0.25m。
埋没土層　黒褐色土主体、礫を含む。
遺物　無し。
所見　規模はやや大きく、底は平坦である。掘り込みは余り深くない。時期は中世以降。

20号土坑（第426図、PL.237）
位置　42Ｆ－11グリッド。
重複　無し。
平面形状　長円形。
主軸方位　Ｎ－62°－Ｗ。
規模　長軸（0.7）m、短軸0.6m、深さ0.09m。
埋没土層　黄褐色土主体。
遺物　無し。
所見　浅い掘り込みで、中央に角礫の頭が見られる、自然の落ち込みか。

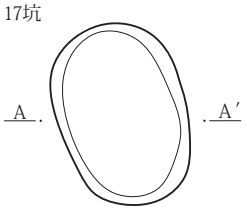
21号土坑（第426図、PL.237）
位置　42Ｇ－11・12グリッド。
重複　無し。
平面形状　長円形。
主軸方位　Ｎ－15°－Ｗ。
規模　長軸0.9m、短軸0.52m、深さ0.15m。
埋没土層　黒褐色土主体。
遺物　無し。
所見　掘り込みは浅い、20号土坑に似る。

22号土坑（第426図、PL.237）
位置　42Ｅ・Ｆ－11・12グリッド。
重複　無し。
平面形状　溝状。
主軸方位　Ｎ－35°－Ｗ。
規模　長軸（4.42）m、短軸0.3m、深さ0.15m。
埋没土層　黒褐色土主体、小礫含みやや粘質土。
遺物　無し。
所見　土坑としたが、機能的には溝である、断面は半円状で、南東に向かって緩やかな傾斜を持つ。時期は中世以降。

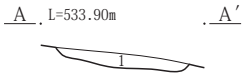
23号土坑（第426図、PL.237）
位置　42Ｇ－11グリッド。
重複　24号土坑。
平面形状　長円形。
主軸方位　Ｎ－88°－Ｗ。
規模　長軸（1.16）m、短軸（1.10）m、深さ0.37m。
埋没土層　黒褐色土主体、角礫含む。
遺物　礫含む。
所見　やや黒味を持つ粘質土で埋まり下層に礫が見られる。時期は中世以降。24号土坑を切る。

24号土坑（第426図、PL.237・249）
位置　42Ｆ・Ｇ－11グリッド。
重複　23号土坑。
平面形状　長円形。
主軸方位　Ｎ－75°－Ｅ。
規模　長軸1.44m、短軸（0.7）m、深さ0.37m。
埋没土層　黄褐色土、粗粒土でやや粘性あり。
遺物　礫、内耳鍋。
所見　23号土坑と重複、本遺構が新しいとわれる。内耳鍋片出土、時期は中世以降。

17坑



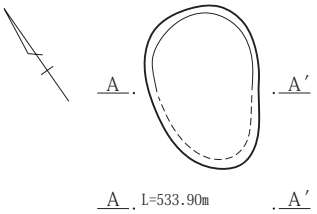
42-H-11



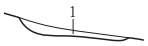
17号土坑
1　暗褐色土　黄色軽石、炭化物粒を少量含む。

18坑

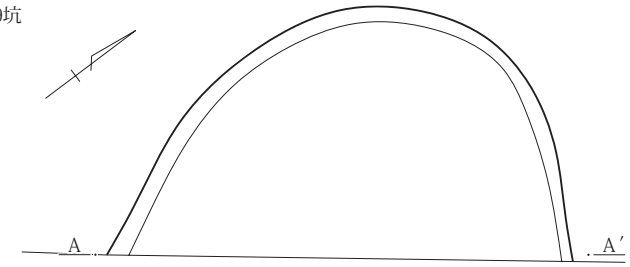
42-H-12



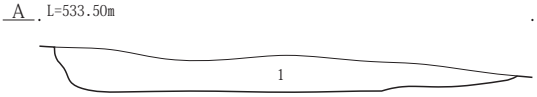
18号土坑
1　暗褐色土　黄色軽石を少量含む。



19坑

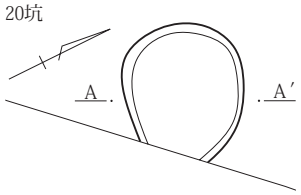


42-G-10

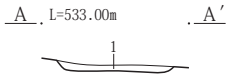


19号土坑
1　暗褐色土　黄色軽石、炭化物粒、岩片、φ10㎝の礫を含む。

20坑

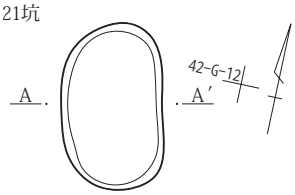


42-F-11



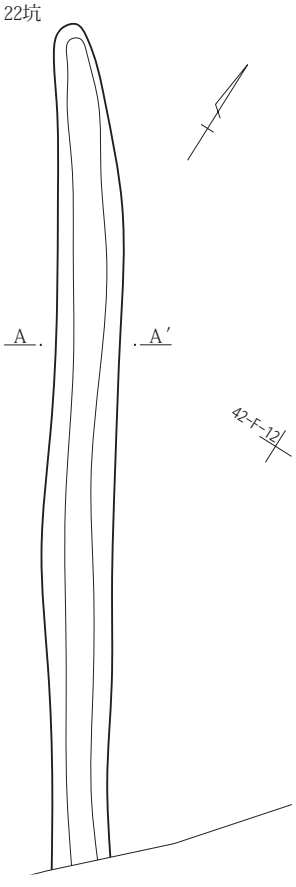
20号土坑
1　暗褐色土　黄色軽石、炭化物粒を少量含む。

21坑



21号土坑
1　暗褐色土　炭化物を含む。

22坑

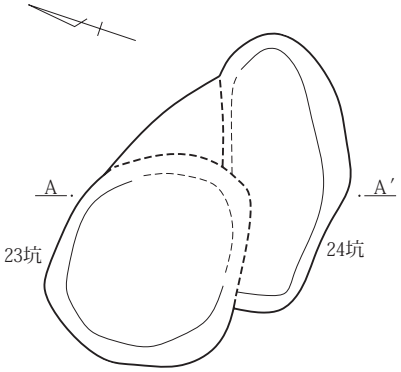


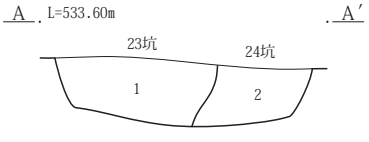
42-F-12

22号土坑
1　暗褐色土　黄色軽石、炭化物、φ３㎝の礫を少量含む。

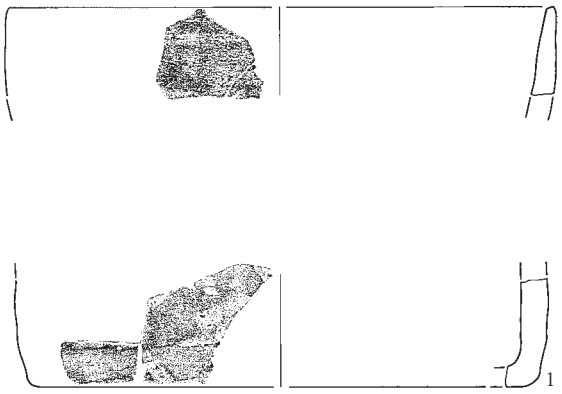
23・24坑

42-G-12





23・24号土坑
1　暗褐色土　炭化物粒多量、黄橙色粒少量、φ５～10㎝の礫を少量含む。
2　暗褐色土　１層に比べるとやや明るい、黄橙色粒多量、白色粒少量、φ１～３㎝の礫若干含む。



1 (1/4)

0　1：4　10㎝

0　1：40　1ｍ

第426図　Ⅷ区土坑（３）24号土坑出土遺物

25号土坑（第427図、PL.237）

位置　42Ｄ－14グリッド。

重複　無し。

平面形状　長円形。

主軸方位　Ｎ－28°－Ｗ。

規模　長軸0.6m、短軸0.52m、深さ0.2m。

埋没土層　黒褐色土主体、粘質土。

遺物　無し。

所見　やや黒味を持つ粘質土で埋まる。時期は中世以降。

26号土坑（第427図、PL.237）

位置　42Ｊ－９グリッド。

重複　９号土坑に切られる。

平面形状　長方形。

主軸方位　Ｎ－15°－Ｅ。

規模　長軸2.1m、短軸1.1m、深さ0.4m。

埋没土層　黒褐色土主体、角礫含む。

遺物　無し。

所見　やや黒味を持つ締まりのある土で埋まり、小礫含む、底面南側が一段低くなる。時期は中世以降。

27号土坑（第428図、PL.237）

位置　42Ｉ－10グリッド。

重複　無し。

平面形状　円形。

主軸方位　―。

規模　長軸0.58m、短軸0.54m、深さ0.15m。

埋没土層　黒褐色土主体。

遺物　無し。

所見　やや黒味を持つ粘質土で埋まる。掘り込みは浅く、時期は中世以降。

28号土坑（第428図、PL.237）

位置　42Ｉ－10グリッド。

重複　無し。

平面形状　隅丸方形。

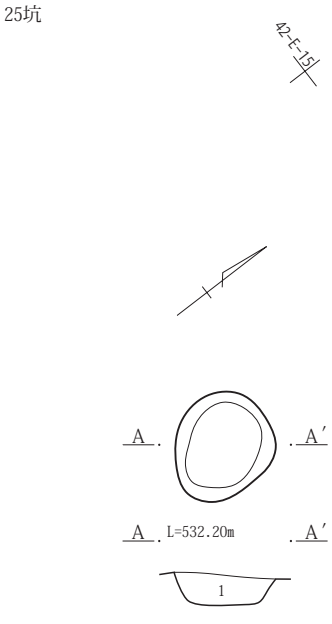
主軸方位　Ｎ－35°－Ｅ。

規模　長軸1.6m、短軸1.6m、深さ0.25m。

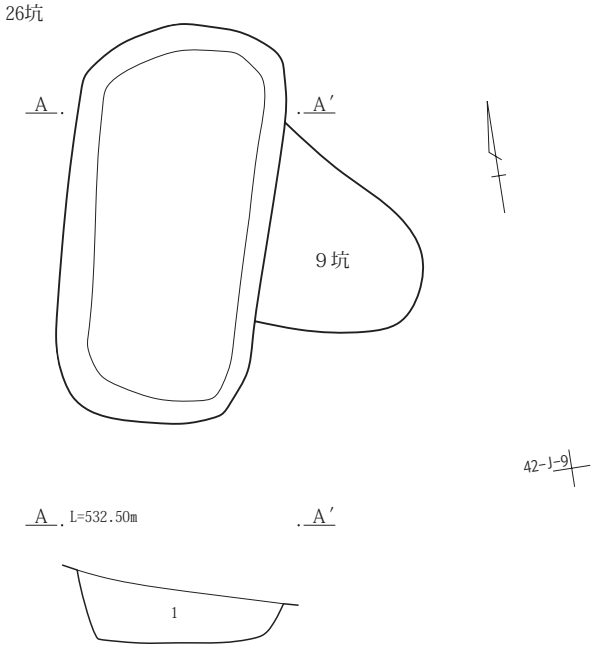
埋没土層　黒褐色土主体、角礫含む。

遺物　無し。

所見　やや黒味を持つ粘質土で埋まり下層に礫が露出、掘り込みは浅い。時期は中世以降。



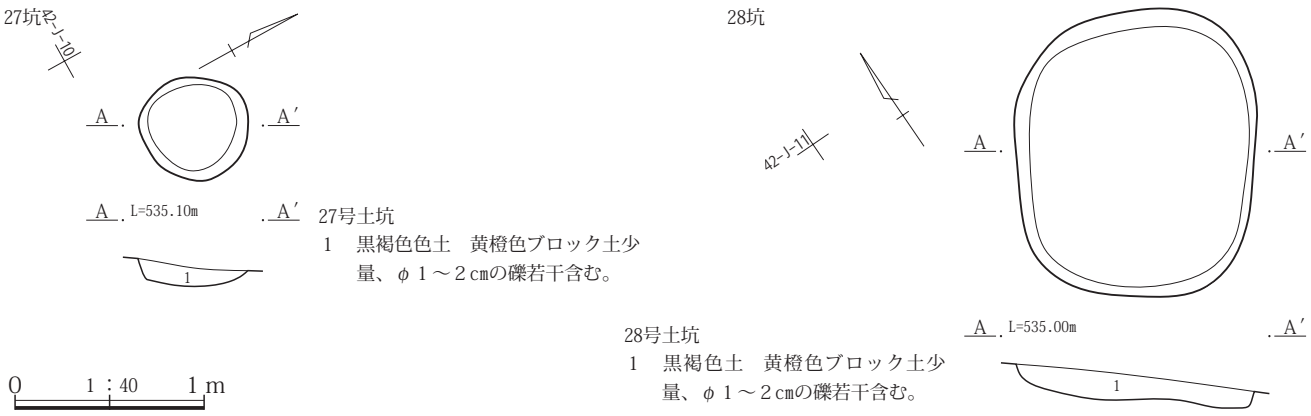
25号土坑
1　褐灰色土　炭化物を多量に含む。粘性のある土。



26号土坑
1　暗褐色土　黄橙色ブロック土少量、φ１～５㎝の礫少量、炭化物粒少量、焼土ブロック土若干含む。

0　1：40　1m

第427図　Ⅷ区土坑（４）



第428図　Ⅷ区土坑（５）

第７表　第２面　Ⅷ区　遺物観察表（１）

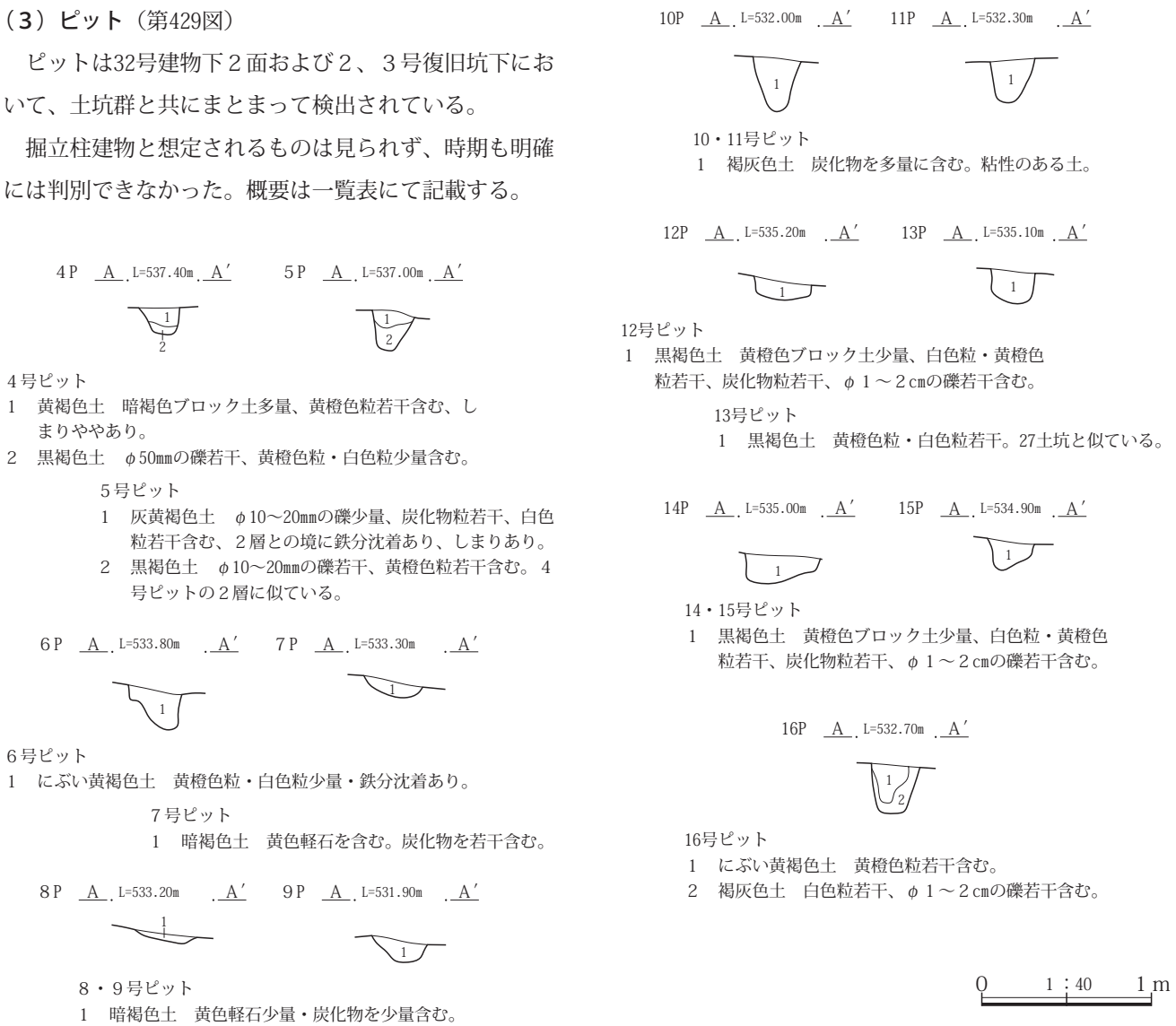
24号土坑

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第426図 PL.249	1	陶器 焙烙	胴～底部	口器	－	底	(26.0)		内外面なで、外面にすす付着。	在地系

（３）ピット（第429図）

ピットは32号建物下２面および２、３号復旧坑下において、土坑群と共にまとまって検出されている。

掘立柱建物と想定されるものは見られず、時期も明確には判別できなかった。概要は一覧表にて記載する。



4号ピット
1　黄褐色土　暗褐色ブロック土多量、黄橙色粒若干含む、しまりややあり。
2　黒褐色土　φ50㎜の礫若干、黄橙色粒・白色粒少量含む。

5号ピット
1　灰黄褐色土　φ10～20㎜の礫少量、炭化物粒若干、白色粒若干含む、２層との境に鉄分沈着あり、しまりあり。
2　黒褐色土　φ10～20㎜の礫若干、黄橙色粒若干含む。４号ピットの２層に似ている。

6号ピット
1　にぶい黄褐色土　黄橙色粒・白色粒少量・鉄分沈着あり。

7号ピット
1　暗褐色土　黄色軽石を含む。炭化物を若干含む。

8・9号ピット
1　暗褐色土　黄色軽石少量・炭化物を少量含む。

10・11号ピット
1　褐灰色土　炭化物を多量に含む。粘性のある土。

12号ピット
1　黒褐色土　黄橙色ブロック土少量、白色粒・黄橙色粒若干、炭化物粒若干、φ１～２cmの礫若干含む。

13号ピット
1　黒褐色土　黄橙色粒・白色粒若干。27土坑と似ている。

14・15号ピット
1　黒褐色土　黄橙色ブロック土少量、白色粒・黄橙色粒若干、炭化物粒若干、φ１～２cmの礫若干含む。

16号ピット
1　にぶい黄褐色土　黄橙色粒若干含む。
2　褐灰色土　白色粒若干、φ１～２cmの礫若干含む。

第429図　Ⅷ区ピット

第８表　第２面　Ⅷ区ピット一覧表

挿図	号	区	面	位置（グリッド）	平面形状	規模（cm）			重複	時代	備考	調査年度
						長軸	短軸	深さ				
第429図	1	Ⅷ	1	42C-18	楕円形	30	20	25	33号建物に付随	江戸	柱材	2017
第429図	2	Ⅷ	1	42C-19	円形	20	20	13	33号建物に付随	江戸		2017
第429図	3	Ⅷ	1	42C-19	隅丸方形	30	20	15	33号建物に付随	江戸		2017
第429図	4	Ⅷ	2	42M-6	円形	24	24	17		中・近世		2017
第429図	5	Ⅷ	2	42L-6	楕円形	30	24	25		中・近世		2017
第429図	6	Ⅷ	2	42G-11	楕円形	34	30	28		中・近世		2017
第429図	7	Ⅷ	2	42F-11	円形	30	30	15		中・近世		2017
第429図	8	Ⅷ	2	42F-11	長円形	40	28	10		中・近世		2017
第429図	9	Ⅷ	2	42C-14	楕円形	34	30	17		中・近世		2017
第429図	10	Ⅷ	2	42D-14	楕円形	34	28	33		中・近世		2017
第429図	11	Ⅷ	2	42D-14	円形	30	30	27		中・近世		2017
第429図	12	Ⅷ	2	42I-10	円形	34	34	15		中・近世		2017
第429図	13	Ⅷ	2	42I-10	円形	26	26	21		中・近世		2017
第429図	14	Ⅷ	2	42I-10	隅丸方形	46	40	20	15P	中・近世		2017
第429図	15	Ⅷ	2	42I-10	楕円形	38	28	20	14P	中・近世		2017
第429図	16	Ⅷ	2	42E-12	楕円形	30	22	30		中・近世		2017

（４）焼土

１号焼土（第430図、PL.238）

位置　42Ｎ－６グリッド。

重複　無し。

平面形状　円形。

主軸方位　Ｎ－°－Ｅ。

規模　長軸0.8m、短軸0.8m、深さ0.1m。

埋没土層　黒褐色土、炭化物、焼土の混土主体。

遺物　無し。

所見　１号建物の西側角において、構築面を掘り下げたところ、検出された、ほぼ円形に炭化物、焼土の堆積層が、角礫を含む浅い掘り込みを伴う。建て替え前の遺構は確認できなかったが、竈あるいは囲炉裏の痕跡か。

２号焼土（第431図、PL.238）

位置　42Ｊ－６グリッド。

重複　無し。

平面形状　楕円形。

主軸方位　Ｎ－35°－Ｅ。

規模　長軸0.68m、短軸0.5m、深さ0.14m。

埋没土層　焼土、炭化物含む粗粒土、角礫含む。

遺物　無し。

所見　37号石垣の南東部、１号復旧坑下で検出、数個の角礫と炭化物､焼土が認められた。浅い掘り込みを伴い、焼土面としては殆ど確認できなかった。性格は不明である。

３号焼土（第431・432図、PL.238・249）

位置　42Ｃ－15グリッド。

重複　無し。

平面形状　楕円形。

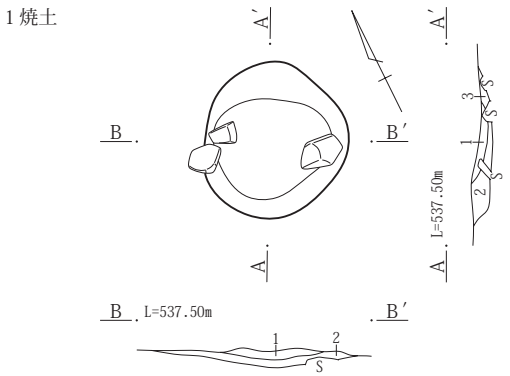
主軸方位　Ｎ－°－Ｅ。

規模　長軸1.18m、短軸0.84m、深さ0.23m。

埋没土層　黄褐色土粘質土、焼土、炭化物角礫含む。

遺物　土師器甕口縁部片。

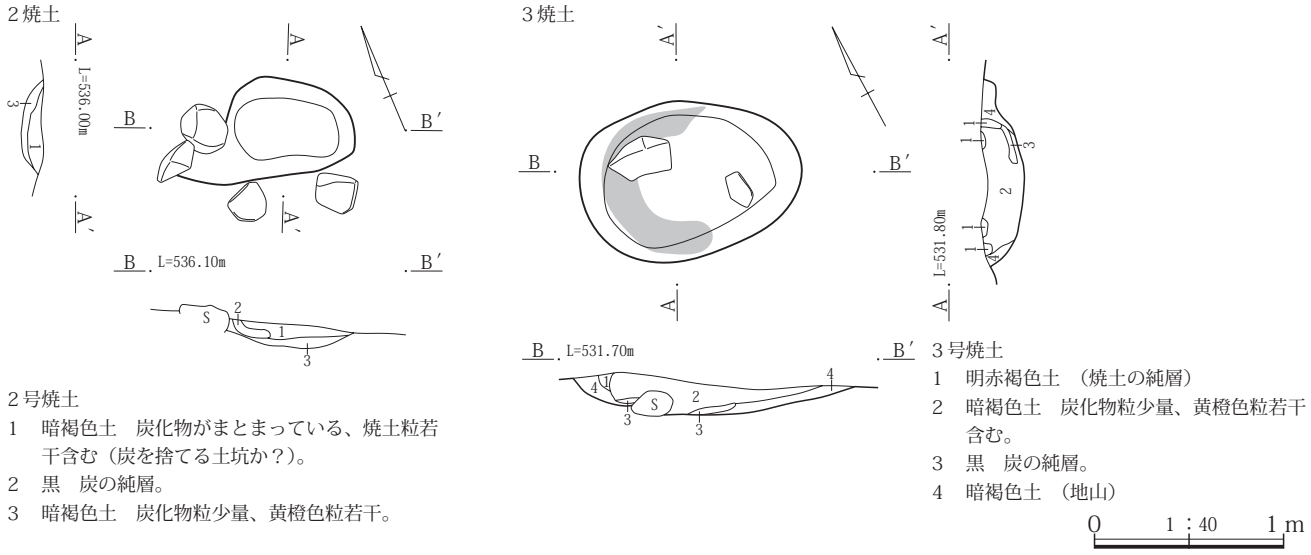
所見　45号畑下面より検出、数個の礫周りに軸を東にU字形に焼土が認められた、内部には粘性黄褐色土が見られ、下部には焼土炭化物が見られた。土師器甕の破片が出土。時期は中世以前に遡る可能性あり。



1 号焼土
1　黒褐色土　炭化物粒多量・焼土ブロック少量含む（２の土が焼けたか？）。
2　暗褐色土　φ１～５㎝の礫多量。黄橙色粒若干含む。
3　黄褐色土　φ100㎜の大の礫大量､白色粒若干､黄橙色粒若干含む(地山か？)。

0　1：40　1m

第430図　Ⅷ区焼土（１）



２号焼土
1　暗褐色土　炭化物がまとまっている、焼土粒若干含む（炭を捨てる土坑か？）。
2　黒　炭の純層。
3　暗褐色土　炭化物粒少量、黄橙色粒若干。

３号焼土
1　明赤褐色土　（焼土の純層）
2　暗褐色土　炭化物粒少量、黄橙色粒若干含む。
3　黒　炭の純層。
4　暗褐色土　（地山）

0　1：40　1m

第431図　Ⅷ区焼土（２）

第432図　Ⅷ区３号焼土出土遺物

第９表　第２面　Ⅷ区　遺物観察表（２）

３号焼土

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第432図 PL.249	1	土師器 甕	口縁部	口器	－ －	底	－	微砂粒含む/赤褐色	口唇部欠き外反、頸部幅狭で屈曲弱く、口縁部横撫、肩の張りは弱い。	平安時代

（５）暗渠

１号暗渠（第433図）

位置　42Ｄ・Ｅ－16グリッド。

重複　無し。

平面形状　溝状。

主軸方位　Ｎ－47°－Ｅ。

規模　長さ3.9m、幅0.8m、深さ0.5m。

埋没土層　灰黒色粘質土内に、大小の角礫が乱雑に詰められている。

遺物　無し。

所見　南東に傾斜を持つ場所にほぼ同方向に走る、大小の礫が乱雑に詰められた溝が複数確認されている。

長さは４mほどである。１号暗渠が掘り込まれた地山は粘性が強く、礫も多く含まれている。この暗渠の北東端に水場遺構が構築されている。

（６）水場遺構

１号水場遺構（第433図、PL.238）

位置　42Ｄ－16・17グリッド。

重複　無し。

平面形状　長方形。

主軸方位　Ｎ－69°－Ｅ。

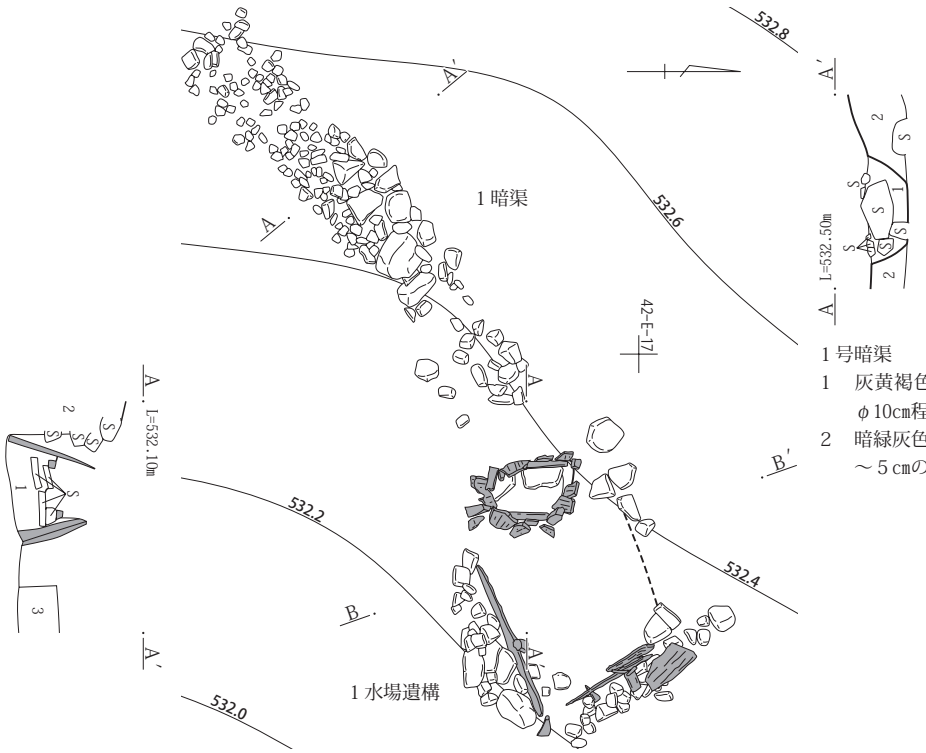
規模　長軸1.4m、短軸1.2m、深さ0.85m。

埋没土層　灰黒色土、礫、有機質含む粘性土で埋まる。

遺物　板材。

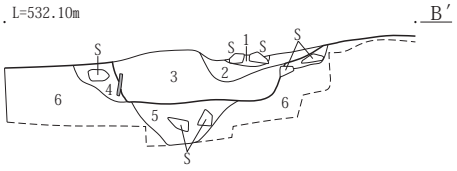
所見　１号暗渠の末端部に構築されていた。板を長方形に囲い、暗渠から取り込んだ水を一時的に溜め、生活に利用したものと考えられる。

上方奥の取り入れ口に、板材を立て外側を杭で押さえた、一次浄化用の小振りの集水桝を作り、それを囲うように大きい集水桝を構築している。外側に杭を打ち込み、横板を重ねて木枠を作っている。木枠の外側には礫を入れ込む、時期は江戸時代と思われる。



1 号暗渠
1　灰黄褐色土　φ10～50㎝の礫を大量に含む。φ10㎝程の礫が中心。（近世の暗渠部分か）
2　暗緑灰色土　φ10㎝大の礫を少量含む、φ１～５㎝の礫を多量に含む。やや砂質。（地山か）

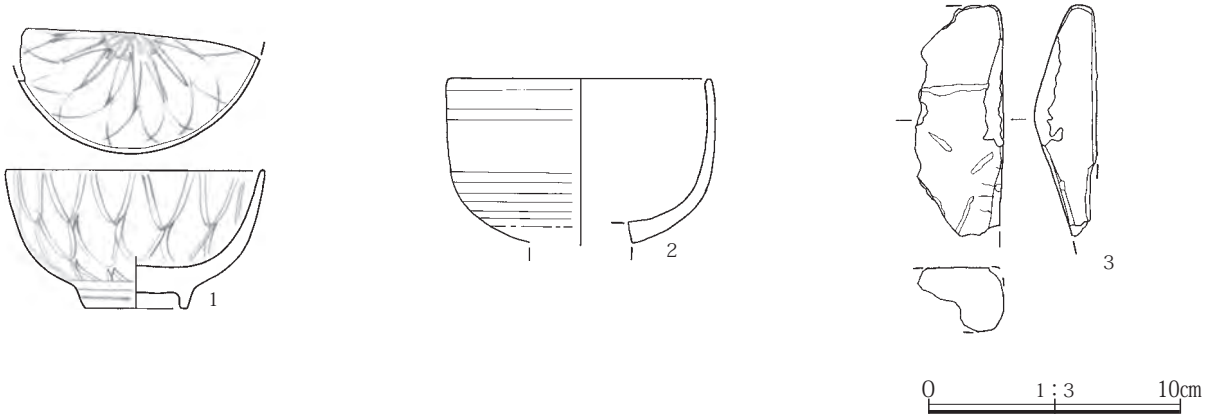
1 号水場遺構Ａ－Ａ′
1　黒褐色土　やや青灰色がかっている。大30㎝ほどの平坦な石が上部に敷かれており、その下にφ10㎝ほどの礫を少量含む。
2　Ｂ－Ｂ′の５層
3　φ10～30㎝大の礫を大量に含む。（礫層か）



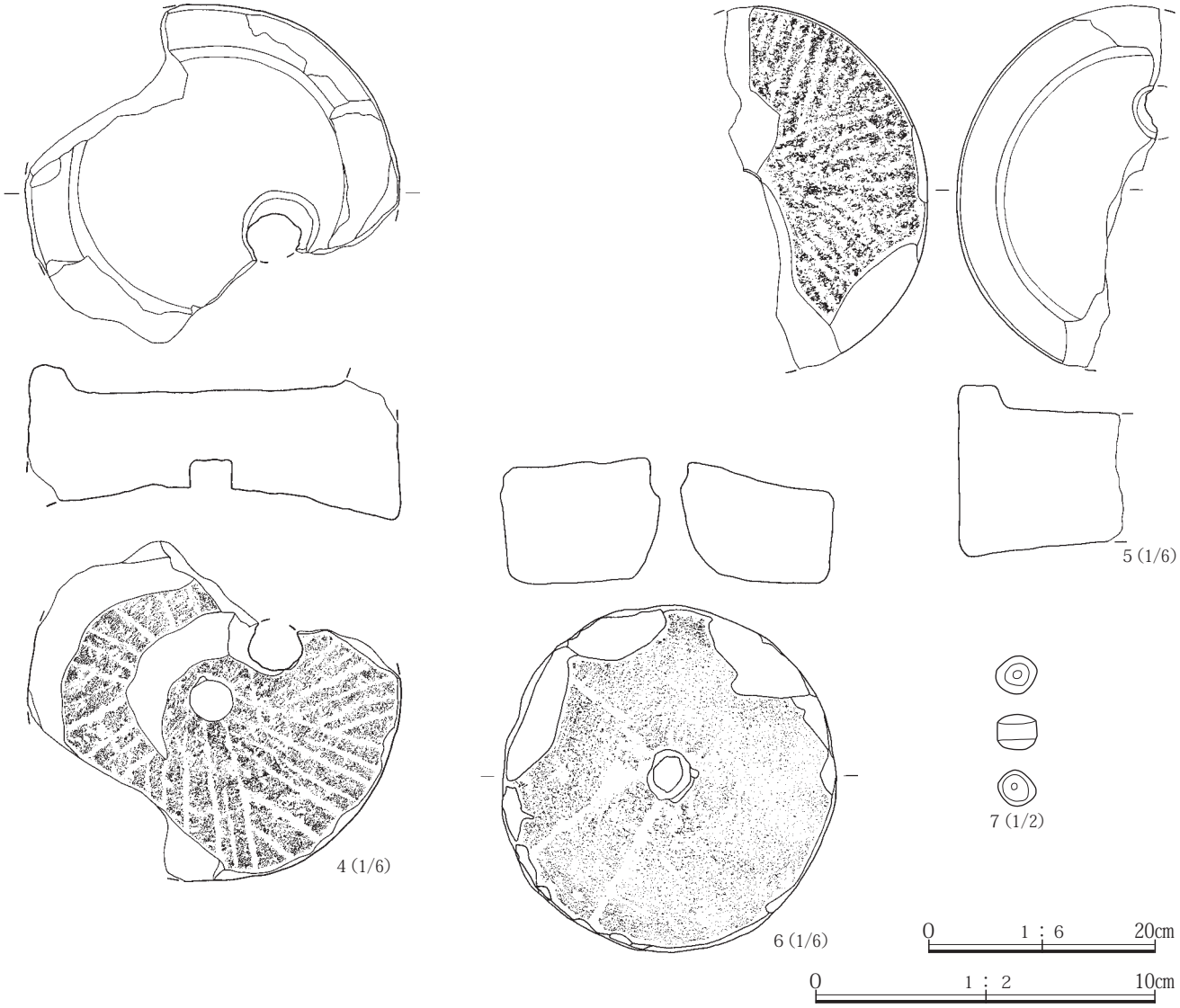
1 号水場遺構Ｂ－Ｂ′
1　灰黄褐色土　φ10～20㎝の礫を大量に含む。（近世の暗渠部分か）
2　暗緑灰色土　砂質土。（水場遺構に伴う溝部分か）
3　暗灰色土　しまりあまりなく、やや粘性あり。砂質の土を含む。木片や植物の種子が検出された。（水場遺構部分の覆土か）
4　褐灰色土　φ10～20㎝の礫を大量に含む。（１号水場遺構の材を支える礫充填層か）
5　暗青灰色土　φ10～20㎝の礫を大量に含む。（水場遺構内の木枠を支える礫充填層か）
6　暗緑灰色土　φ10㎝大の礫を少量含む、φ１～５㎝の礫を多量に含む。やや砂質。（山崩れによる層か　水場遺構の地山か）

0　1：60　2ｍ

第433図　Ⅷ区１号暗渠・１号水場遺構



第434図　Ⅷ区遺構外出土遺物（１）



第435図　Ⅷ区遺構外出土遺物（２）

第10表　第２面　Ⅷ区　遺物観察表（３）

遺構外

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第434図 PL.249	1	磁器 碗	８区 口縁～底部	口器	(10.0) 5.4	底	(4.0)		外面二重網目、内面網目文。見込み幅の広い菊花状文。	肥前磁器
第434図 PL.249	2	陶器 碗	８区 口縁～底部	口器	(10.6) －	底	－		内面から体部外面下部飴釉、釉厚にムラあり。	瀬戸・美濃陶器
第434図 PL.249	3	礫石器 砥石	42A-18 欠損	長幅	(9.0) (3.3)	厚重	(2.5) (67.7)	砥沢石	両端、側面を欠く、使用面は中央高まり平滑、側面、裏面は荒れて欠損あり。	被熱している
第435図 PL.249	4	石臼 上臼	42A-19 欠損	径幅	(33.4) －	厚重	(13.9) (12400)	粗粒輝石安山岩	縁は断面台形、内部は平らで径約6cmの供給口見られる。引き手差し込み穴部分は欠損。軸受け穴は径約3.5cm、深さは2cmとやや浅い。下面には物配りの溝が三日月状に掘られている。歯挽き目は中央部すり減る。	
第435図 PL.249	5	石臼 上臼	８区 欠損	径幅	(32.0) －	厚重	15.2 (11200)	細粒輝石安山岩	縁は低いがしっかりとした作り、内部は平らで径約4cmの供給口見られるが、欠損している、引き手差し込み穴確認できない、軸受け穴部分についても欠損する。物配りの溝は確認できない、歯挽き目についてはやや摩耗見られる。	
第435図 PL.249	6	石臼 下臼	42A-19 完形	径幅	29.6 －	厚重	11.1 (13000)	粗粒輝石安山岩	かなり使い込まれている。軸穴から放射状に３本の溝が切られているが、新たに加えられたものと思われる。軸穴の径は上面が約4cm、下面は5cm程である。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				特徴等	備考
第435図 PL.249	7	鉄砲玉	41Ⅴ－15 完形	径	1.1	厚重	1.0 8.2	白化した鉛製。外周に平らな面が廻る。	

第３節　Ⅴ・Ⅷ・Ⅸ区第１面から発見された遺構と遺物

１　Ⅴ区から発見された遺構と遺物

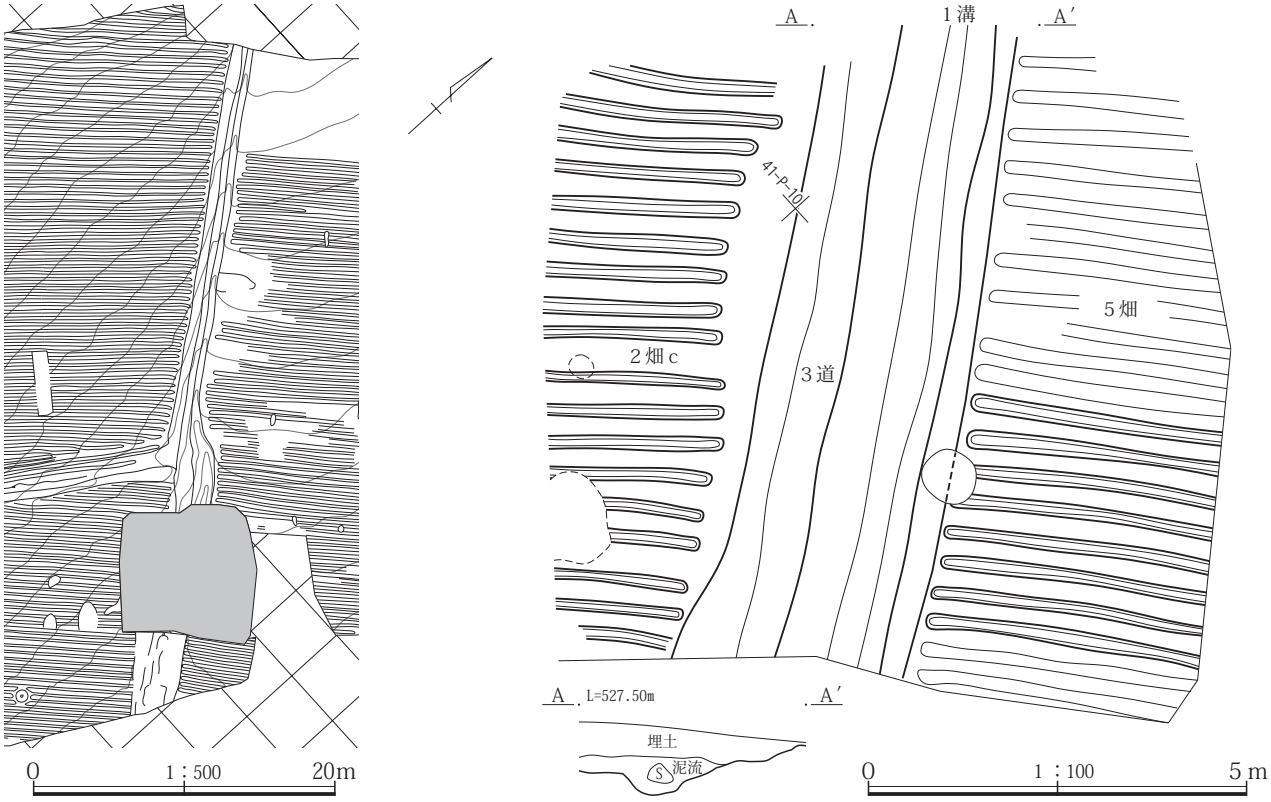
前年度未調査となっていた、電柱敷き部分（41区Ｏ・Ｐ－８・９グリッド）の平成29年度調査の報告である。調査面積は約25㎡である。

（１）　畑（第436図、PL.239）

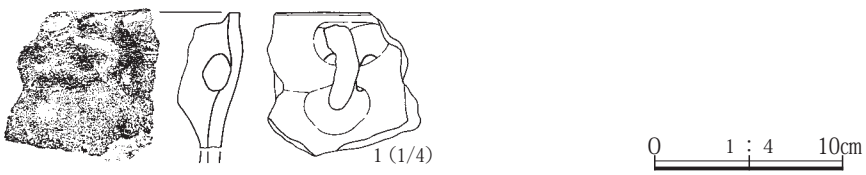
中央に北西から南東に走る溝および両側に畑を確認した。溝の北東側は５号畑、南西側は２号畑ｃの一部である。両畑とも溝に向かって、畝が傾斜している。

（２）溝（第436図、PL.239）

１号溝　平成28年度の調査で確認された溝の続きである。２号畑Ｃと５号畑を分けている。上幅約1.3m、深さは0.4mである。緩やかな落ち込みで、西側中段には幅狭な平坦部が並行しており、３号道と考えられる。溝底にはAs-Aが確認されており、畑の耕作時に溝として機能していたと考えられる。



第436図　Ⅴ区畑・溝



第437図　Ⅴ区遺構外出土遺物

第11表　第１面　Ⅴ区　遺物観察表

遺構外

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第437図 PL.249	1	在地系土器 内耳鍋	泥流中 口縁部	口	－	底	－		口縁部やや丸みを持って外に膨らむ、口唇部平らに成形、把手部縦半分欠損。赤茶褐色。	在地系

２．Ⅷ区から発見された遺構と遺物

Ⅷ区１面では、建物７棟・切石石組み遺構１基、石垣６基、畑１（９？）区画・復旧溝群（２？）区画・道路１条、Ⅸ区から畑２区画が確認された。

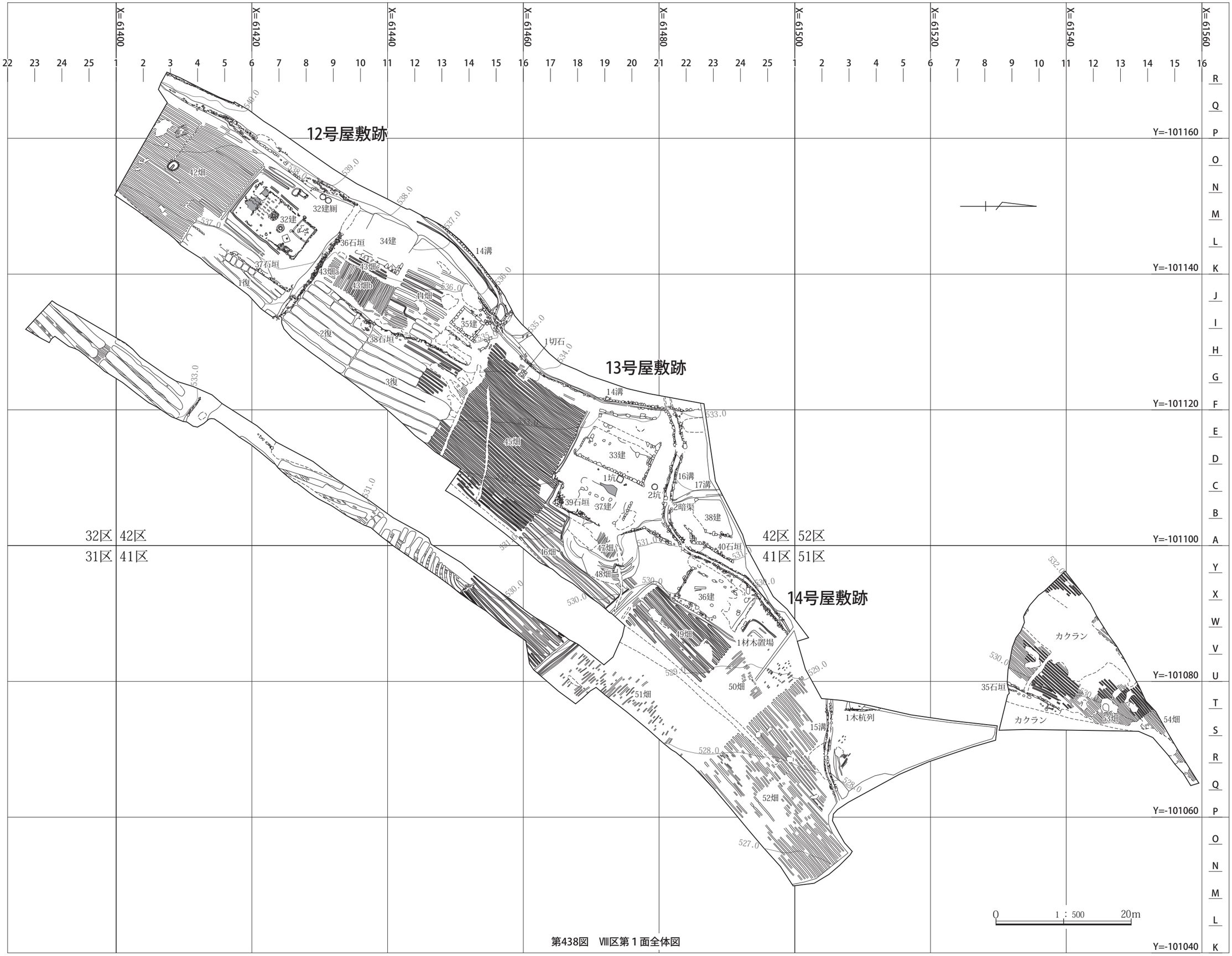
本書では、平成29・30年度調査で検出された遺構および遺物について報告する。平成31年度調査分については、建物の内、前年度調査の未調査部分となっていた部分の報告を行い、その他の遺構については、全体図のみを掲載し、検出した遺構の詳細、出土遺物については、後日報告とする。

なお、遺構番号は過年度調査からの、続き番号である、ただし、土坑、ピット、焼土については８区内で１から付番している。さらに５区との続き部分の畑、復旧坑については、５区内の番号を優先している。４・８区の調査区範囲は現道と、旧JR吾妻線線路敷きを含む細長い範囲である。調査の結果、現道下からは天明泥流で埋没した、江戸時代の道が検出された、両側には側面に石を組んだ溝が検出された、溝は所々で道を横切っており、道の上には板や材を渡してある。

建物は計７棟が検出された。38号を除き、道の直ぐ南東側に沿うように位置する。建物の間や前面部には畑が作られており、さらに南東側の５区で検出された畑へと、緩やかな傾斜を持って続いている。

第12表　第１面　東宮遺跡建物一覧表

調査	遺構名称（建物）	屋敷	グリッド	備考	調査年度	報告書名	集	刊行年
Ⅰ	１号建物	１号屋敷	51X・Y-2 ～ 6、52A-1 ～ 6、B ～ E-1 ～ 5	主屋。縁を想定した礎石を含めると桁行2108cm。縁及び３号施設推定位置を含めると梁行1590cm	平20	東宮遺跡（１）	514	2011
Ⅰ	２号建物	１号屋敷	41Y-23・24、42A・B-23・24	８基の桶を埋設	平20	東宮遺跡（１）	514	2011
Ⅰ	３号建物	１号屋敷	41X・Y-25、42A-25、51X・Y-１、52A-１		平20	東宮遺跡（１）	514	2011
Ⅰ	４号建物	１号屋敷	52A ～ C-6・7		平20	東宮遺跡（１）	514	2011
Ⅰ	５号建物	２号屋敷	52C ～ F-8・9、D-10	主屋	平20	東宮遺跡（１）	514	2011
Ⅰ	６号建物	２号屋敷	52C・D-7・8	掘立柱建物	平20	東宮遺跡（１）	514	2011
Ⅱ	７号建物	３号屋敷	51N-22・23、O-22 ～ 25、P-21 ～ 24、Q-21 ～ 23	主屋	平20			2011
Ⅰ	８号建物	１号屋敷	52A・B-6・7、C-6		平20	東宮遺跡（１）	514	2011
Ⅳ	９号建物	４号屋敷	42H-18 ～ 20、I・K-16 ～ 20、J-15 ～ 20、L-16・17	主屋	平20			
Ⅳ	10号建物	５号屋敷	42G-21・22、H ～ J-21 ～ 24	酒蔵	平20	東宮遺跡（３）	628	2017
Ⅳ	11号建物	６号屋敷	52G-1 ～ 3、H ～ J-1 ～ 4		平21	東宮遺跡（３）	628	2017
Ⅳ	12号建物	５号屋敷	42G-24・25		平20	東宮遺跡（３）	628	2017
Ⅳ	13号建物	７号屋敷	52K-3 ～ 5、L-2 ～ 6、M-1 ～ 6、N-１～ 5、O-2 ～ 4	主屋	平20・21	東宮遺跡（３）	628	2017
Ⅳ	14号建物	７号屋敷	52J・L-6・7、K-5 ～ 7		平20・21	東宮遺跡（３）	628	2017
Ⅳ	15号建物	７号屋敷	52O・P-2・3		平21			2017
Ⅳ	16号建物	８号屋敷	42O ～ R-14 ～ 19	主屋	平26	東宮遺跡（３）	628	2017
Ⅳ	17号建物	６号屋敷	52L・M-3	方形集石遺構に変更	平26			2017
Ⅳ	18号建物	９号屋敷	42O ～ Q-10 ～ 12	主屋	平26	東宮遺跡（３）	628	2017
Ⅳ	19号建物	９号屋敷	42O・P-8・9		平26	東宮遺跡（３）	628	2017
Ⅳ	20号建物	８号屋敷	42P-18・19		平26	東宮遺跡（３）	628	2017
Ⅳ	21号建物	９号屋敷	42P・Q-6 ～ 8		平26	東宮遺跡（３）	628	2017
Ⅳ	22号建物	不明		21号建物と同一	平26			2017
Ⅳ	23号建物	10号屋敷	42S ～ U-７～ 11	主屋	平26	東宮遺跡（３）	628	2017
Ⅳ	24号建物	―	42R・S-9 ～ 11	屋敷跡とはしない	平26	東宮遺跡（３）	628	2017
Ⅳ	25号建物	―	42U・V-5		平26	東宮遺跡（３）	628	2017
Ⅳ	26号建物	８号屋敷	42N・O-18・19	主屋か	平26	東宮遺跡（３）	628	2017
Ⅳ	27号建物	６号屋敷	52H・I-5・6		平26	東宮遺跡（３）	628	2017
Ⅳ	28号建物	７号屋敷	52I・J-6		平26	東宮遺跡（３）	628	2017
Ⅳ	29号建物　欠番	７号屋敷			平26			2017
Ⅳ	30号建物	10号屋敷	42R・S-12・13		平26	東宮遺跡（３）	628	2017
Ⅳ	31号建物	11号屋敷	42S ～ U-7 ～ 10	主屋　10号屋敷下に検出	平26	東宮遺跡（３）	628	2017
Ⅷ	32号建物←（１建）	12号屋敷	42K ～ N-5 ～ 8	主屋　竈１、囲炉裏１	平29	東宮遺跡（５）	675	2021
Ⅷ	33号建物←（２建）	13号屋敷	42C ～ E-18 ～ 20	倉	平29	東宮遺跡（５）	675	2021
Ⅷ	34号建物←（３建）	12号屋敷	42K・L-10・11	集石遺構か	平29	東宮遺跡（５）	675	2021
Ⅷ	35号建物←（４建）	４号屋敷	42H・I-13・14	倉	平29	東宮遺跡（５）	675	2021
Ⅷ	36号建物←（５建）	14号屋敷	42W ～ Y-21 ～ 23	主屋	平29	東宮遺跡（５）	675	2021
Ⅷ	37号建物←（６建）	13号屋敷	42B・C-18・19	納屋	平29	東宮遺跡（５）	675	2021
Ⅷ	38号建物←（７建）	１号屋敷	42A・B-22・23	納屋か	令元			
Ⅷ	１号建物（令元）（39建）	12号屋敷	42A・B-22・24	厠	令元			



第438図　Ⅷ区第１面全体図

（１）建物

32号建物（12号屋敷）（第439～442・449～451図、PL.240～242・250・251）

位置　42区Ｋ～Ｎ－５～８グリッド。

重複　無し

主軸方位　Ｎ－50°－Ｅ。

規模　桁行10.8m、梁行5.6m。

礎石　建物外郭に沿って小振りの礫が並ぶ、やや大きな石が礎石として機能していたものと考えられるが、南西壁部分には、礎石がほとんど認められない。泥流により流されたのか、調査時に除去してしまったのかは確認できないが、柱穴がほぼ等間隔に並んで検出されている。幅約20～30㎝の雨落ち溝が、北側部分を除き建物を廻っている。

柱穴　建物関連で16基、馬屋関連で８基が確認された。（計測表参照）

柱間　柱間距離は以下のとおり（柱穴名－柱穴名：距離（単位m））。

P5－P6：1.5m。P6－P7：1.5m。P8－P9：0.9m。P5－P14：1.9m。P14－P15：2.0m。P15－P16：1.9m。

板間　囲炉裏の西側部分が想定される。約50㎝の間隔で根太の痕跡が見られ、横方向にも大引痕が約１m間隔で認められた。

土間　中央北側が想定される。入り口か正面に竈、右奥に馬屋、右側が作業場と考えられる。比較的良く締まっているが版築された状況は伺えなかった。作業場部分では筵の痕跡が確認されている。また、１号土坑は方形に貼られたローム土が囲っており、内部は埋没後に掘られた状況を呈していた。おそらく唐臼が据えられていたものと思われ、泥流埋没後に掘り出された可能性が高い。西側に並んで検出されたP2，P3は足踏み杵を支える支点杭の柱穴であろう。

竈　建物の中央やや右寄りに作られている。やや大きく長円形の礫を立て、ほぼ円形に廻らし、焚き口部には鳥居状に偏平な石を渡している。廻らした礫の上には、小振りの礫で形を整え、スサを混入した土で覆い、ドーム状に成形、鍋掛け用の上径約60㎝、下径40㎝の穴が設けられ、内側には煤が付着している。

検出時、竈内部には泥流が流れ込んだ状態で、中から完形の碗、水注が出土している、竈の内面には煤の付着が見られ、底には焼土、灰層が互層に確認されている。

囲炉裏　建物のほぼ中央、竈からは約１m離れ、土間と板間との境に作られている。木枠部分は不明であるが、大きさ１辺約1.3mの方形であろう、基礎材となる角礫がほぼ四角に残り、内部中央には円形に焼土が残り、周囲には木炭、灰層が残っていた。

馬屋　建物の北隅に作られていた。大きさは１辺約2.5ｍで、４隅およびその間に計８本のピットが確認された。内部は中央部分がやや下がり、有機質土の堆積が認められる。

遺物　陶磁器類の他石製品、鉄製品、銅製品、銭貨、砥石などが多く出土している。竈内より完形の碗、水注が出土。また、鹿角も出土している。

所見　検出時は建物西側の壁寄りには、部分的ではあるが、土壁が倒れ込んだ状態で検出された。

礎石が部分的に確認されなかった部分も有り、一部掘立柱であったか、あるいは建て替えが行われていた可能性もある。柱穴は北西側にも並んで検出されている。

また、掘方調査時に竈の痕跡と思われる、角礫を伴った焼土痕（焼土遺構）が西隅寄りに確認されている。建て替え前の竈の可能性がある。建物入り口は西側に位置、裏側には、本道へと上る階段状の道が作られていた。右脇には厠が翌年度の調査で検出されている。

32号建物ピット計測表

ピットNo.	長径×短径×深さ cm	ピットNo.	長径×短径×深さ cm
P1	40×30×52	P9	15×12×35
P2	30×30×60	P10	50×40×24
P3	23×21×20	P11	20×18×25
P4	30×25×42	P12	25×22×40
P5	25×22×42	P13	44×35×25
P6	22×20×32	P14	30×22×46
P7	14×12×34	P15	36×30×44
P8	14×14×28	P16	43×32×45

32号建物馬屋ピット計測表

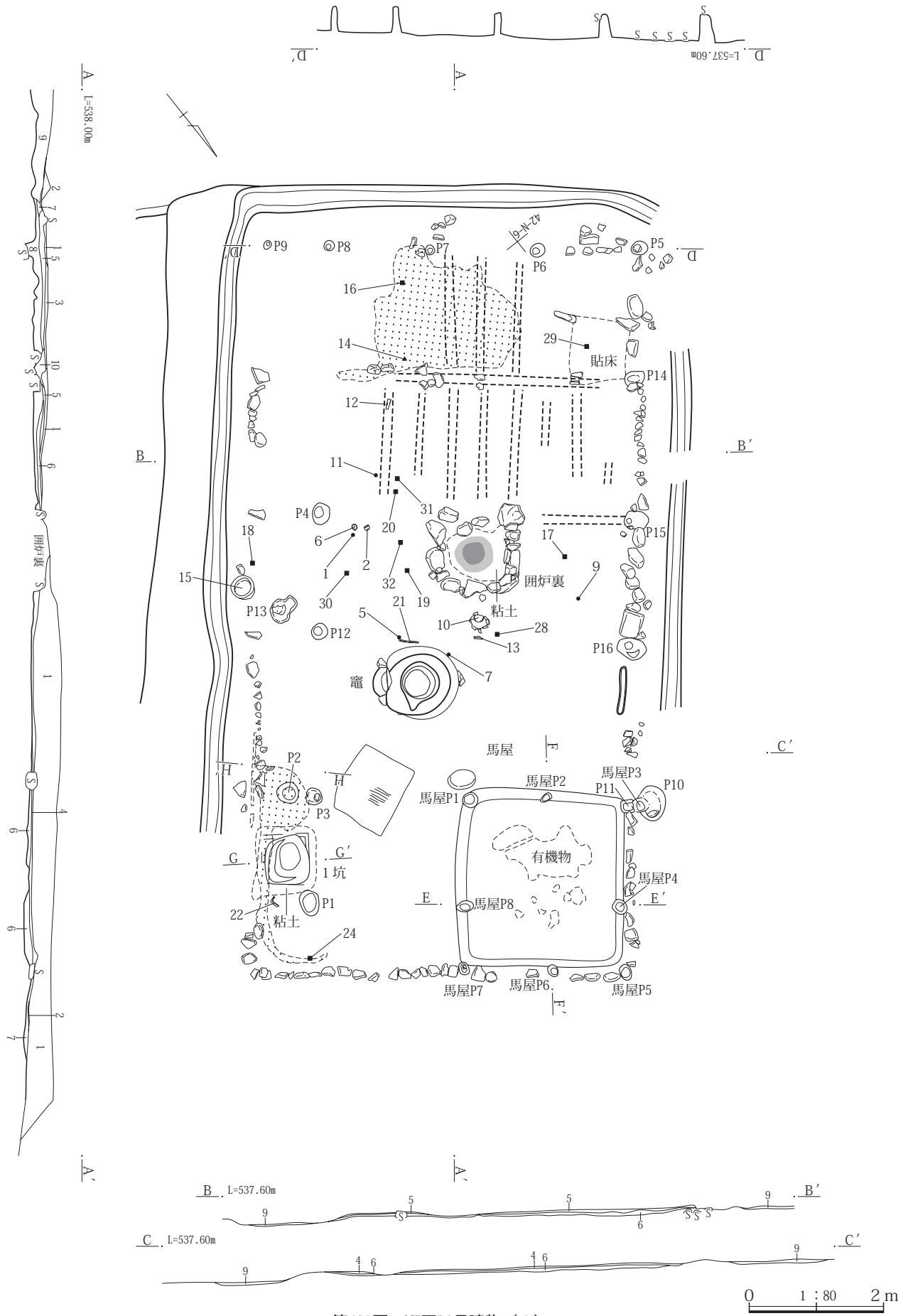
ピットNo.	長径×短径×深さ cm	ピットNo.	長径×短径×深さ cm
馬屋P1	22×22×25	馬屋P5	32×22×20
馬屋P2	18×12×20	馬屋P6	20×17×18
馬屋P3	25×20×26	馬屋P7	22×15×16
馬屋P4	22×18×30	馬屋P8	26×28×28

32号建物厠（第442図）

位置　42M－８グリッド。32号建物の北西に約４m離れて位置する。階段状の道の右脇に位置している。

重複　無し。

主軸方位　―。



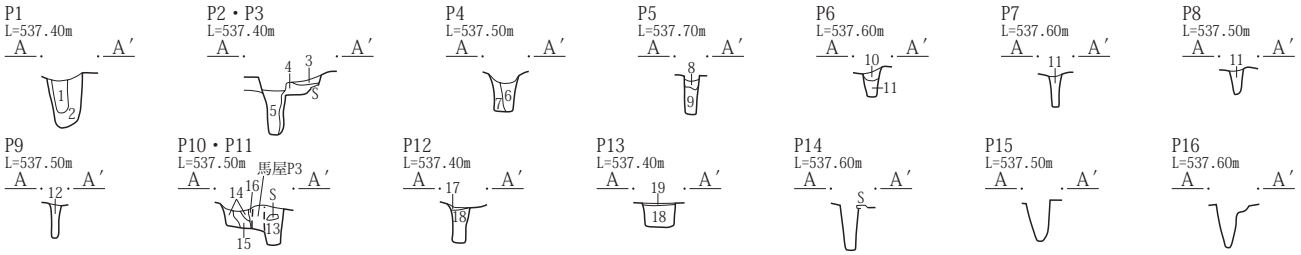
第439図　Ⅷ区32号建物（１）

32号建物
1　天明泥流　黒褐色土　φ５～200㎜の礫大量に含む、φ２～100㎜の白色・黄橙色軽石多量に含む、鉄分沈着あり。
2　As-A
3　明褐色土　白色粒少量含む、粘土質土。（32号建物の壁の崩れか？）
4　黄褐色土　白色？少量・黄橙色粒少量。しまりあり。粘土質。（32号建物の貼り床部分）
5　黄褐色土　白色粒少量・黄橙色粒少量。しまりあり。粘土質。（土座間部分の竪穴建物床面）
6　褐灰色土　黄橙色粒少量、φ２～50㎜のレキ若干、しまりあり。下層に鉄分沈着層あり。（床面下のしまりのある土。整地のために人為的にいれたか）
7　褐灰色土　黄橙色粒少量、φ２～50㎜のレキ若干、しまりあり。下層に鉄分沈着層あり。５層と似ているが、建物外のため分層
8　暗褐色土　にぶい黄褐色土　混土層　黄橙色粒少量。（32号建物の地山）
9　暗褐色土　にぶい黄褐色土　混土層　黄橙色粒少量。しまりあり。６層と似ているが、竪穴建物外で踏み固められており固くしまりあり。
10　暗褐色土　にぶい黄褐色土　混土層　黄褐色ブロック土多量。周囲に石が多い。

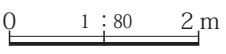
32号建物馬屋
1　黒褐色土　暗褐色土、黄褐色土が層状に堆積。葉やわらなどの自然物が重なりあっている。尿やフンも混じるか？
2　暗褐色土　φ50～100㎜の礫大量、黄橙色粒少量に含む、１の土の間に鉄分沈着が層状に広がる。
3　黒褐色土　黄橙色粒少量、炭化物粒若干含む。
4　暗褐色土　黄橙色粒・白色粒若干。
5　３と似ているが、色が少し暗く、炭化物粒を含まない。

32号建物１号土坑
1　暗褐色土　φ５～200㎜の礫大量に含む。黄橙色粒少量、炭化物粒若干。（唐臼跡か？）
2　黄褐色土　白色粒多量、黄橙色粒少量含む、粘土質。（唐臼を止めるため床構成後にさらに粘土を貼っているか？）
3　32号建物の貼り床部分。

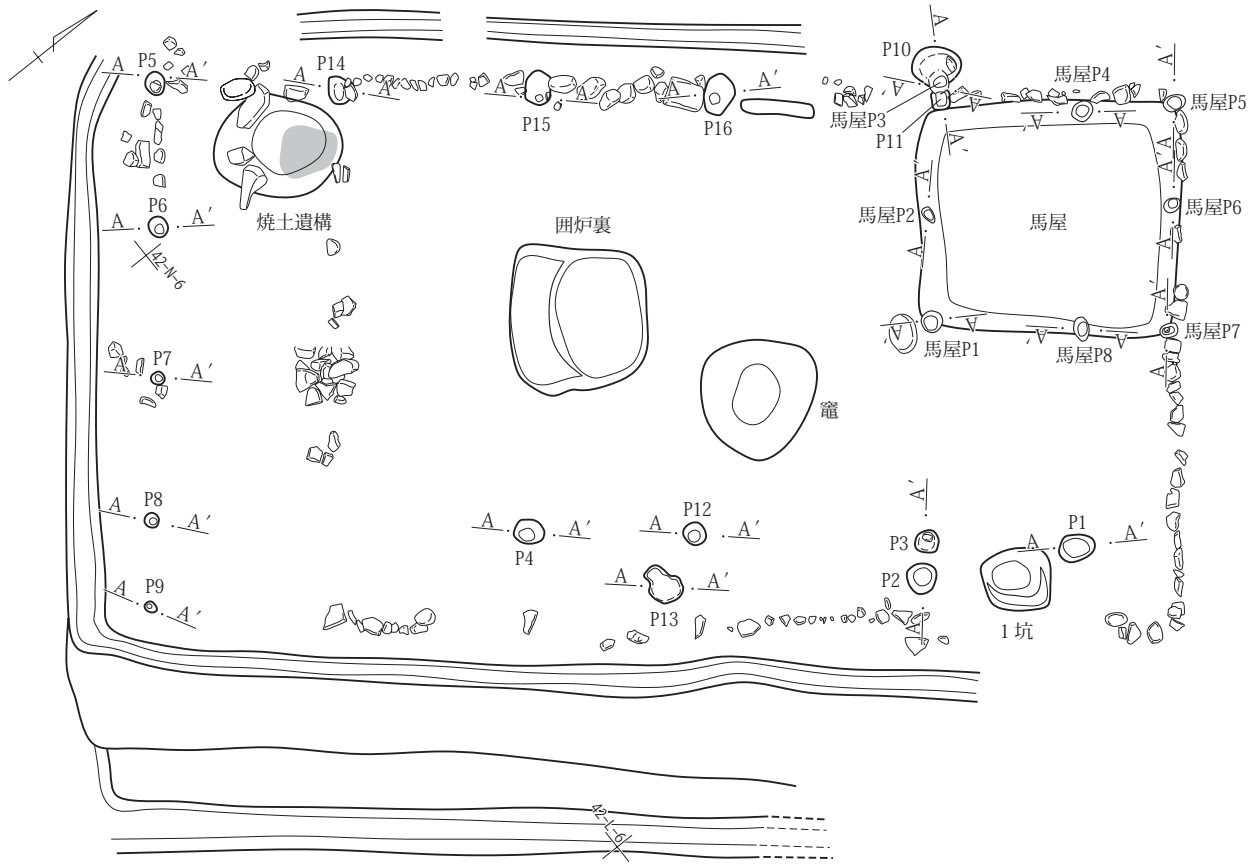
32号建物壁材
1　黄褐色土　白色粒少量、しまりあり。（32号建物の壁が天明泥流で崩れた一部だと考えられる）
2　天明泥流

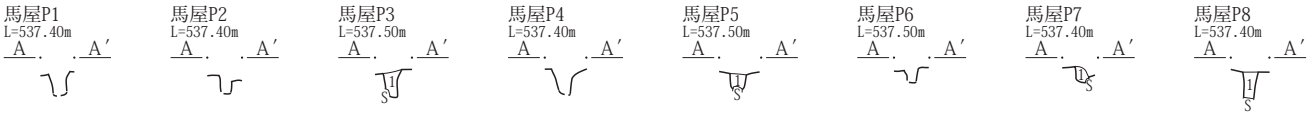


32号建物ピット
1　黒褐色土　φ５～70㎜の礫少量含む、黄橙色ブロックを１つ含む。
2　にぶい黄褐色土　白色粒少量含む。
3　黒褐色土　φ５～70㎜の礫少量含む。黄橙色ブロック土１つ含む。天明泥流か？
4　にぶい黄褐色土　黄橙色粒少量含む。掘方の土。掘方の土が一緒なため、２・３号ピットは同時に埋められた可能性あり。
5　３・４が混在　柱穴部分か？
6　黒褐色土　φ２～30㎜の礫少量、黄橙色粒若干含む。
7　褐色土　黄橙色粒若干含む。掘方の土。
8　黒褐色土　φ２～10㎜の礫若干含む。
9　暗褐色土　黄橙色粒少量含む、粘土質の土、しまりあまりなし。
10　暗褐色土　焼土粒、炭化物粒少量含む。柱痕か？
11　にぶい黄褐色土　焼土粒若干含む、しまり弱い土。
12　暗褐色土　焼土粒、炭化物粒少量含む。
13　黒褐色土　φ10～100㎜の礫多量、黄橙色粒若干含む。
14　黒褐色土　φ５～20㎜の礫少量含む。天明泥流の土か？
15　にぶい黄褐色土　黄橙色粒・白色粒若干、黒色ブロック土？瘡含む。柱痕か？
16　木の皮のようなものが認められる　桶などがあったか？
17　黒褐色土　炭化物粒・黄褐色粒若干含む。
18　褐色土　φ２～10㎜の礫若干、黄橙色粒・白色粒若干含む。
19　黒褐色土　炭化物粒若干含む。



第440図　Ⅷ区32号建物（２）



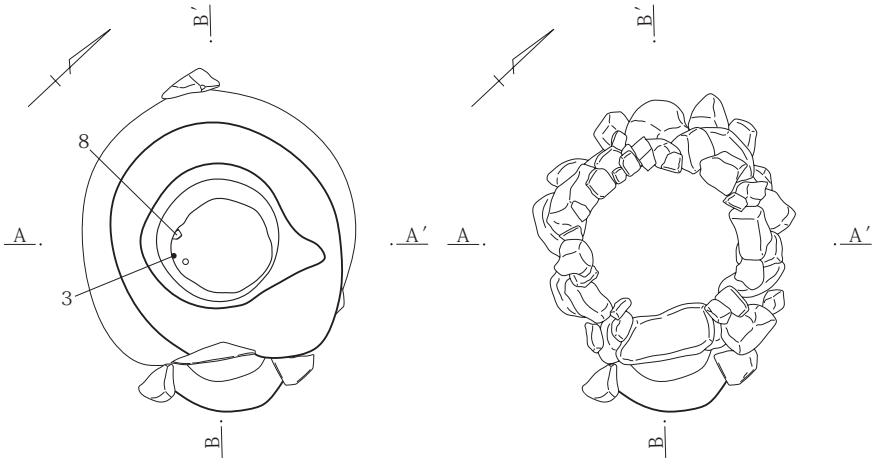


32号建物馬屋ピット

1　黒褐色土　黄橙色粒若干、φ２～５㎜大の礫若干含む、底部に礫あり。

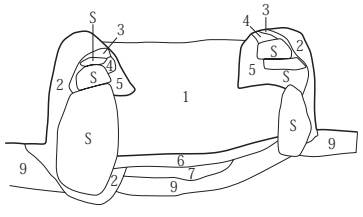
0　1：80　2m

竈



32号建物竈

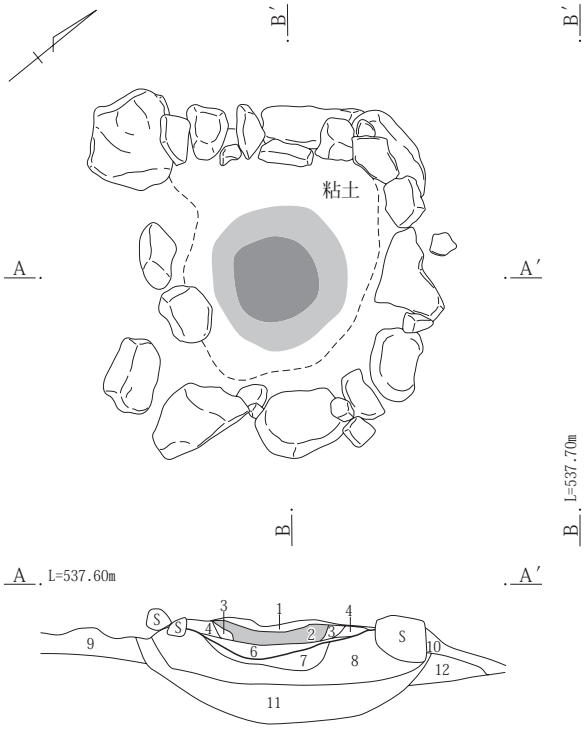
1　天明泥流
2　黄褐色土　白色ブロック土多量、黄橙色ブロック土少量、黒色ブロック土少量。（竈を構成する粘土）
3　明褐色土　白色粒多量、黄橙色粒多量。（１が焼けた土）
4　明褐色土　（２の土がさらに焼けた部分）
5　黒褐色土　φ５～20㎜の礫若干、焼土粒少量。（竈中心部の貼り付けた土）
6　灰褐色土　にぶい黄褐色土　灰層。焼土粒少量、炭化物粒少量。
7　明赤褐色土　炭化物粒若干。焼土層。
8　黒　炭の純層。
9　暗褐色土　黄橙色粒少量、白色粒若干、φ２～10㎜の礫若干含む。（１建の地山）



0　1：30　1m

第441図　Ⅷ区32号建物（３）

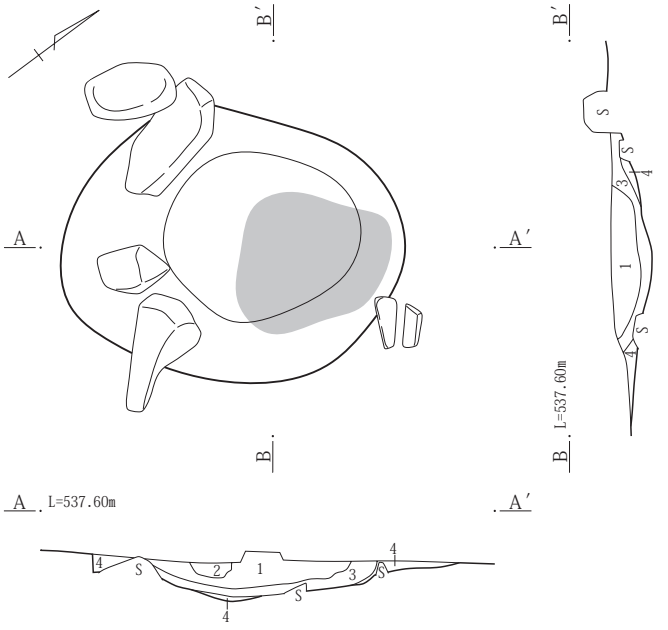
囲炉裏



32号建物囲炉裏

1　天明泥流
2　明赤褐色土　炭化物粒少量含む。焼土。
3　褐色土　炭化物粒少量含む。囲炉裏の粘土質の土が焼けてグラデーションのようになった土。
4　黄褐色土　炭化物粒少量、黄橙色・白色粒若干含む。粘土質の囲炉裏に張られた土。
5　２と色が似ているが､褐灰色ブロックを多量に含む。南側の土。
6　暗褐色土　炭化物粒少量、黄橙色粒若干含む。
7　褐灰色土　焼土・灰混じりの土。しまりあまりなし。（囲炉裏掘方の土）
8　にぶい黄褐色土　炭化物粒少量、黄橙色粒若干、φ20 ～ 50㎜の礫若干含む。
9　にぶい黄褐色土　黄橙色粒多量、白色粒少量、炭化物粒少量。８と比べて含有部が多い。
10　黒褐色土　白色粒少量、φ５～10㎝の礫若干。（32号建物掘方の土）
11　にぶい黄褐色土　黄橙色粒少量、φ５～10㎜の礫若干。（囲炉裏掘方の土。囲炉裏周りの石を入れる掘った部分に入った土）
12　黒褐色土　φ５～50㎜の礫少量、黄橙色粒少量。（地山）

焼土遺構



32号建物焼土遺構

1　褐色土　黄橙色ブロック、焼土ブロック多量、炭化物粒少量。
2　１層と同じ土だが特にブロックを多く含む。
3　赤褐色土　上面に炭化した層あり。
4　暗褐色土　黄橙色粒若干、白色粒若干、φ50～100㎜の礫含む。

0　1：30　1m

厠

0　1：80　2m

第442図　Ⅷ区32号建物（４）

規模　―。

礎石　無し。

柱穴　無し。

遺物　木桶２個。

所見　32号建物に付随する厠と考えられる。径約90㎝の木桶が二つ並んで埋め込まれた状況で検出されている。桶内部は泥流で埋まり、木桶の側板部分は殆ど残っておらず、部分的に底板が確認された。桶の周囲には取り巻く様に、黄褐色土を主体とした粘質土により僅かに高く版築されていた。何らかの上屋構造が想定されるが、柱穴は確認できなかった。

33号建物（13号屋敷）（第443・452・453図、PL.243・251）

位置　42区Ｃ～Ｅ－18～20グリッド。

重複　無し。

主軸方位　Ｎ－25°－Ｅ。

規模　桁行10.8m、梁行（7.2）m。

礎石　外縁部の石列の他、中央部南北および西側に数個の礎石と考えられる大型礫が検出されているが、一部ずれているものも有り、失われてしまったものもあると思われる。西側長辺および、短辺西半分の石積みはかなり壊れた状況であった。

柱穴　建物内には確認されず。建物東外側に３基を確認。庇か。（計測表参照）。

竈　無し。

囲炉裏　無し

馬屋　無し

遺物　若干の陶磁器片、すり鉢のほかヒデ鉢、石臼が出土している。

所見　外縁基礎に礫を２～３段積み上げ、上部は平らな面を揃える。規模は６間×４間か、基礎となる礫を長方形に組み、内部には礫を敷き詰めた構造で、北側梁部中央に長方形の角礫を３石並べた、幅80㎝の階段状の入り口施設が検出されている。

棟方向中央および周辺には、礎石と見られる大型礫が一部残っていた。以上の所見から本建物は倉と考えられる。また、内部に詰め込まれた礫を除去したところ、ローム土を貼ったほぼ平坦な面が部分的に残っており、焼土、炭化物が検出された。かまど、あるいは囲炉裏残痕の可能性も考えられ、最終的に倉として建て替えたこが考えられる。

33号建物ピット計測表

ピットNo.	長径×短径×深さ cm
P1	10×10×24
P2	25×20×23
P3	20×20×13
P4	25×20×14

34号建物（12号屋敷）

３号建物　（第444・454図、PL.244・251）

位置　42区Ｋ・Ｌ－10・11グリッド。

重複　集礫が覆う。

主軸方位　Ｎ－27°－Ｅ。

規模　桁行（6.0）m、梁行（3.3）m。

柱穴　礎石および柱穴は確認できなかった。

竈　無し。

囲炉裏　無し。

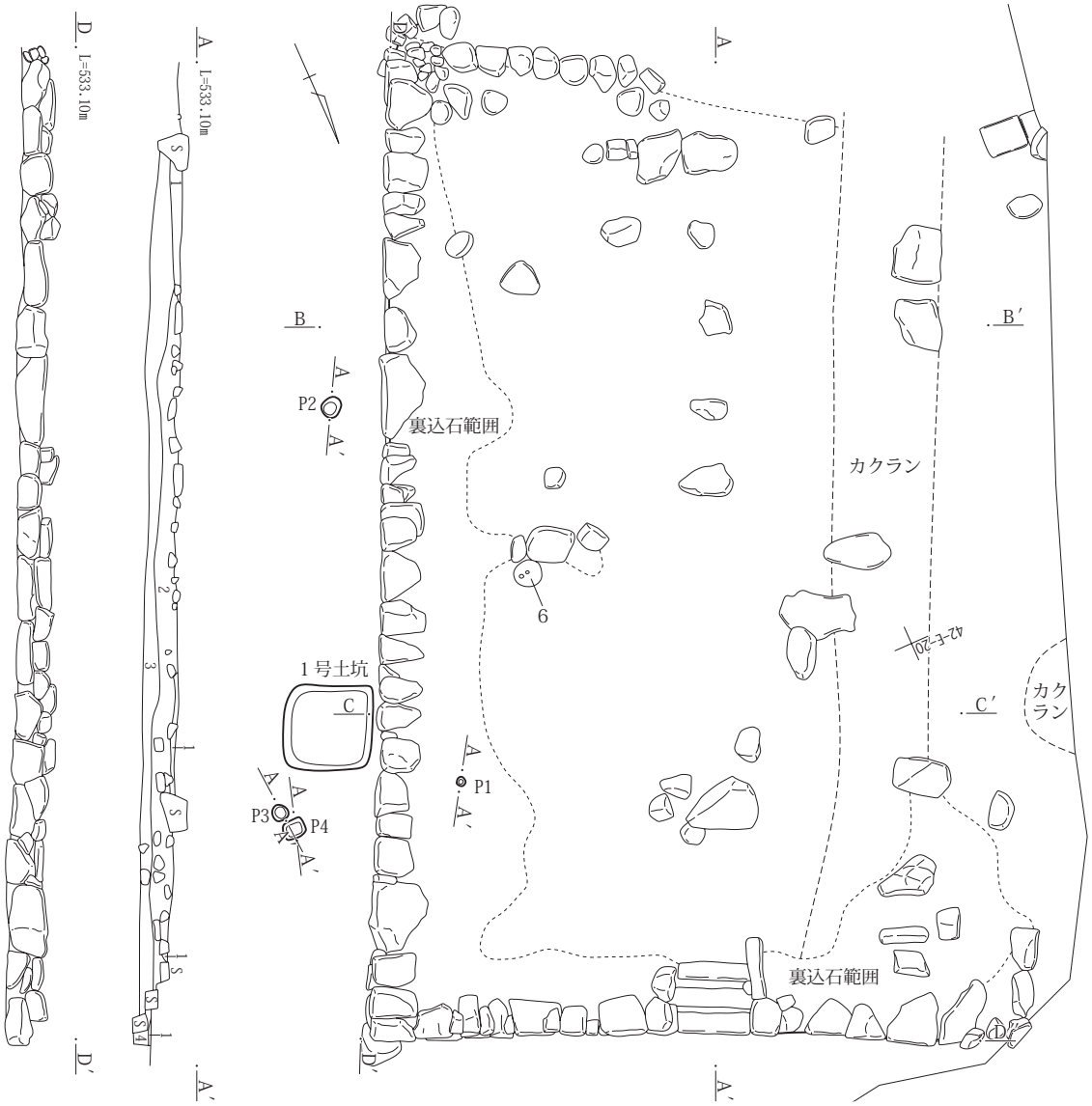
馬屋　無し。

遺物　無し。

所見　南側は一段下がっており、直近まで畑が作られている。石列は一段高く、基礎の礫、北東の隅部分がＬ字に確認された。長さ60～80㎝のかなり大型の礫が据えられている、南側部分の礫は残っておらず、礫底部の凹みが並んで検出された。内側には裏込された角礫が多く見られる。

遺構が掛かっている調査区断面には、かなり高く積まれた石垣状の石積みが残っており、内側には多量の角礫が入り込む状況も認められる。こうした状況から判断すれば、建物と考えるよりも、外周を石垣状に積み上げた張り出し状の遺構と考えることもできる。断面では集礫の上面は平らな部分が確認され、鉄分凝集が認められる。軽石は確認できなかったが、上面には泥流が部分的に残っており、当時の状況を残しているものと考えられる。

遺構上部はかなり攪乱を受けてはいたが、調査所見から判断すれば、建物ではない可能性が高い。



P1
L=532.90m
A　A′

P2
L=532.60m
A　木　A′

P3
L=532.60m
A　1　A′

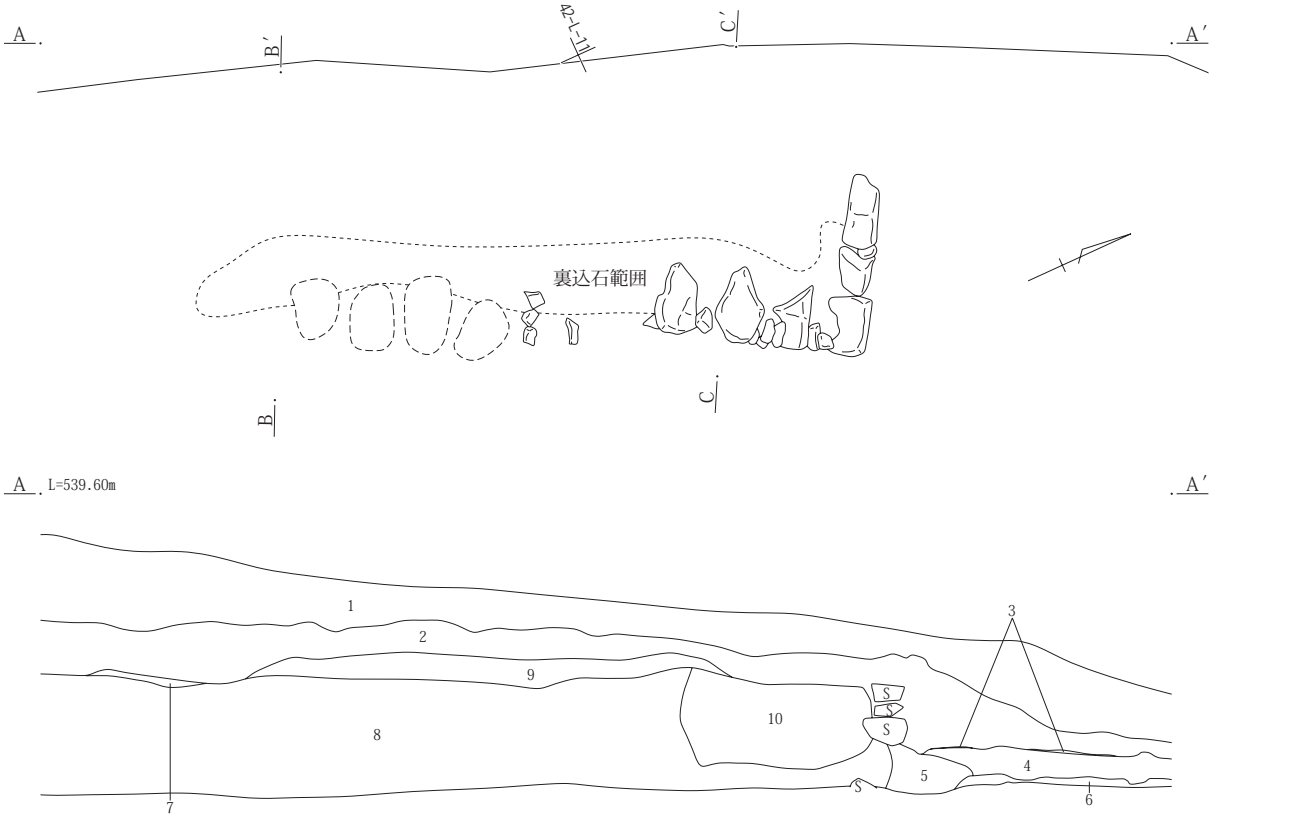
P4
L=532.60m
A　1　A′

33号建物ピット
1　褐灰色土　粘土粒・小礫・炭化物少量含む。上層に酸化した赤色土。

33号建物
1　黄褐色土　炭化物・焼土粒を若干含む（粘土化したローム。貼り床の土と思われる）。
2　黒褐色土　拳大～乳児の頭ほどの大きさの亜角～円礫を多量に含む（本層下位面に１層と類似する粘土化したロームが部分的に残存する。礫を充填する前にひいたか）。
3　黒褐色土　φ３～５㎜の礫を少し含む。掘りすぎか。

0　1：80　2m

第443図　Ⅷ区33号建物



34号建物Ａ－Ａ′
1　表土
2　天明泥流
3　As-A
4　にぶい黄褐色土　φ２～10㎜の礫少量、黄褐色粒大量、白色粒少量、炭化物粒若干含む。
5　暗褐色土　含有物は３と似ているが、炭化物を多量に含む。
6　褐色土　φ５～20㎜の礫少量、白色粒若干含む。
7　黄褐色土　黒褐色ブロック若干、白色粒若干、粘土質。上部に明褐色と灰褐色の土が層状に混じる。
8　にぶい黄褐色土　φ５～300㎜の礫大量、黄橙色粒少量、炭化物粒少量含む。石垣の裏込めの石か？
9　φ100～150㎜の礫が重なり層状に堆積。
10　にぶい黄褐色土　砂質土。φ５～100㎜大の礫大量、黄橙色粒少量、炭化物粒少量含む。８より明るい土がまとまって堆積。

34号建物Ｂ－Ｂ′、Ｃ－Ｃ′
1　にぶい黄褐色土　φ５～300㎜の礫大量、黄橙色粒少量、炭化物粒少量含む。石垣の裏込めの石か？
2　１と似ているが、裏込めではなく、巨礫の下に敷いてある。
3　褐色土　φ５～20㎜の礫少量、白色粒若干含む。

0　1：80　2m

第444図　Ⅷ区34号建物

35号建物（第445図、PL.244）

４号建物

位置　42区Ｈ・Ｉ－13・14グリッド。

重複　無し。

主軸方位　Ｎ－40°－Ｅ。

規模　桁行（3.9）m、梁行（3.0）m。

礎石　大小の角礫の小口面を合わせて、上面平らに据え、外縁部の基礎石としている。使用されている礫は最大長150㎝を測る。礎石枠の大きさは、外寸法で4.2m×3.3mを測る。

柱穴　P1：25×25×15㎝。

竈　無し。

囲炉裏　無し。

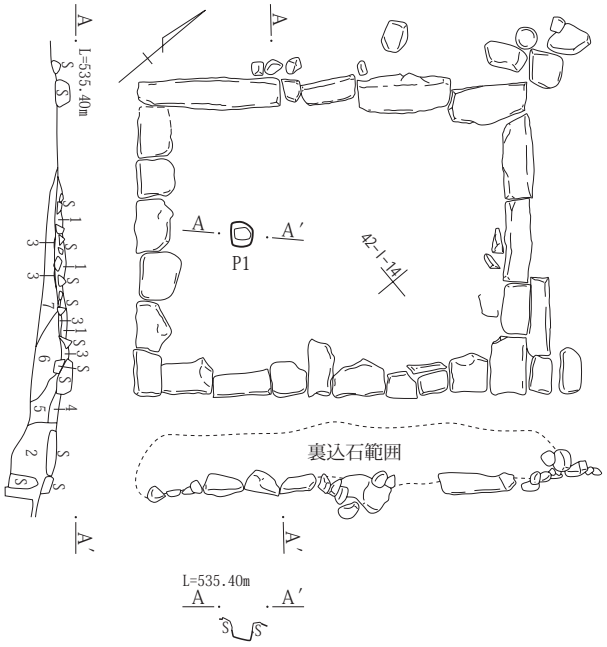
馬屋　無し。

遺物　無し。

所見　平成29年度未調査となっていた、北西部分については、令和元年度に調査を実施した。

礫で四角に囲った内部には、黄褐色土ブロック土を入れ込んだ後、上部には角礫を敷き詰めた構造が観察された。内部には礎石と思われる石は見られなかったが、径25㎝、深さ15㎝のピットが１カ所検出されている。南東側には、建物から約１m幅の犬走り状の施設が設けられ、外端部

には土留め用の礫が建物に並行して据えら　れていた。竈、囲炉裏などの施設は見られず、比較的小規模の倉と考えられる。



35号建物
1　暗褐色土　拳程度の大きさの亜角礫・円礫を多量に含む。本層上面に天明泥流と思われる土が認められる。
2　にぶい黄色土　拳程度の亜角礫を多量に含む。階段の裏込め部分。
3　明黄褐色土　しまりの強い土。粘土化したローム、35号建物の基壇に貼っている。
4　にぶい黄色土　粘土化したローム、階段部の下に貼っている。
5　黄褐色土　焼土粒若干含む。
6　黄褐色土　乳児頭の大きさの亜角礫を多量に含む。段の高さ調整に礫を引いたか？
7　青灰色土　粘質土。部分的に酸化して赤色になっている。地山部分。

0　1：80　2m

第445図　Ⅷ区35号建物

が用いられている。南側は一部で失われたものがあると思われる。最も大きなものは、70×60㎝である。
また、西側礎石上には土台が載った状態で出土しており、臍穴も確認された。柱穴等は検出されなかった。
また、南東側の石列内側および北東側には裏込の石が確認されている

竈　明確なものは確認されなかった。

囲炉裏　建物の中央からやや北東寄りに長方形の炭化物、木灰および焼土範囲が検出されており、囲炉裏の下部と考えられ、上部構造は失われていた。範囲は長辺1.1ｍ、短辺0.9ｍである。

馬屋　不明である。

遺物　土台、柱材などの建築材が良く残っていた、特に建物の北西側に倒れ込んだ状態で間隔を置いて土台や柱材が出土している。その他陶磁器碗、上臼の縁部分が出土している。

所見　規模は５間×2.5間で、礎石立建物である。南東側には畑が近接して作られている、建物は大きな礫を一列に並べ内側に礫を入れ込み、一段高く造成したところに礎石を据えている。

囲炉裏は基礎石、構築材などは見られず、下部の灰層、焼土のみが検出されている、上層部分は平に均されたようになっていたことから、建て替えが行われたものと考えられる。

建物の北側、並行する溝との間、および北東側に大量の建築材が集積された状況が見られる。

36号建物（14号屋敷）（第446・447・455図、PL.244・251）

位置　41区Ｗ～Ｙ－21～23グリッド。

重複　無し。

主軸方位　Ｎ－32°－Ｅ。

規模　桁行9.0m、梁行5.4m。５間×2.5間。

礎石　確認された礎石は西側６カ所、上面が平らな平石

37号建物（13号屋敷）第448・456図、PL.245・252）

位置　42区Ｂ・Ｃ－18・19グリッド。

重複　無し

主軸方位　Ｎ－31°－Ｅ。

規模　桁行（6.5）m、梁行（5.4）m。

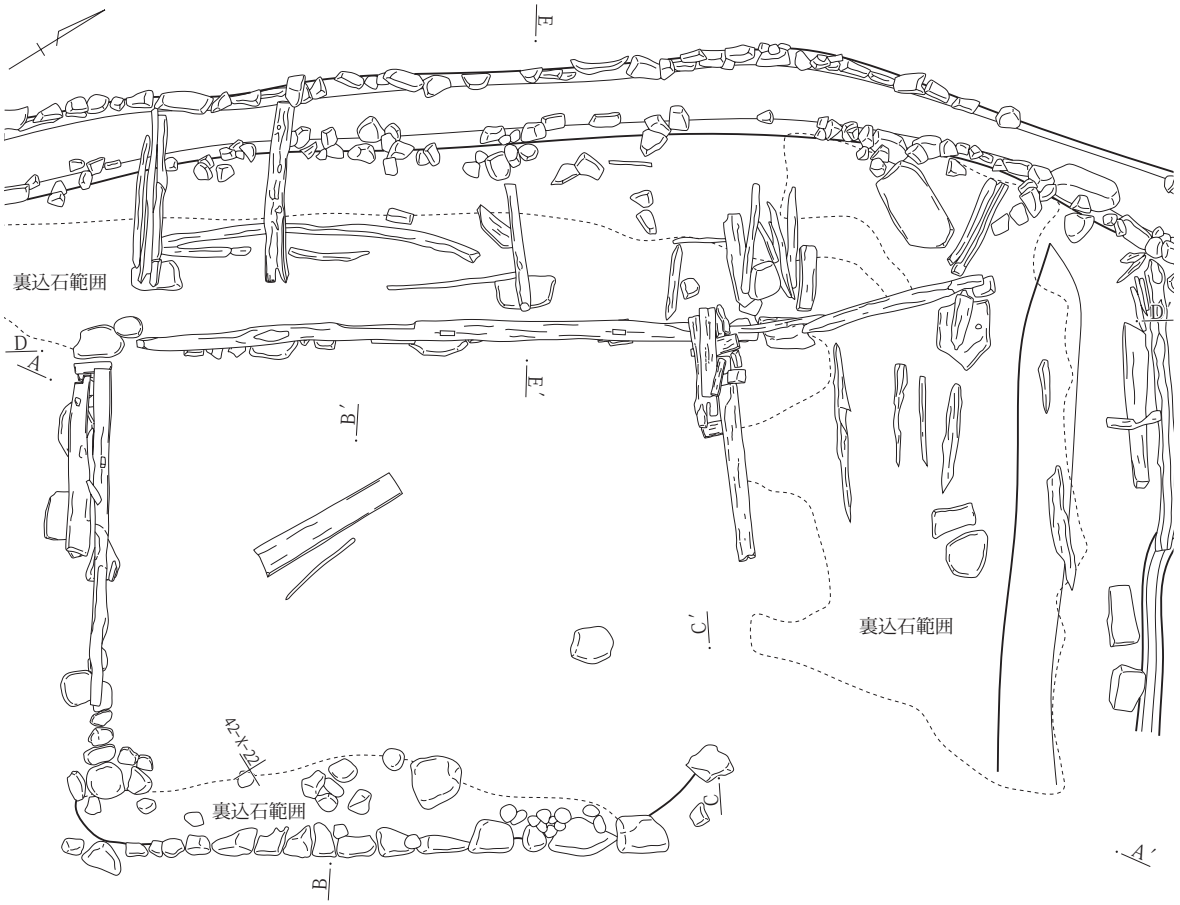
礎石　中央にほぼ直線に並ぶ４個の礎石とやや西にずれた１個が見られる。平坦面を上にした長径50㎝前後の川原石を使用。

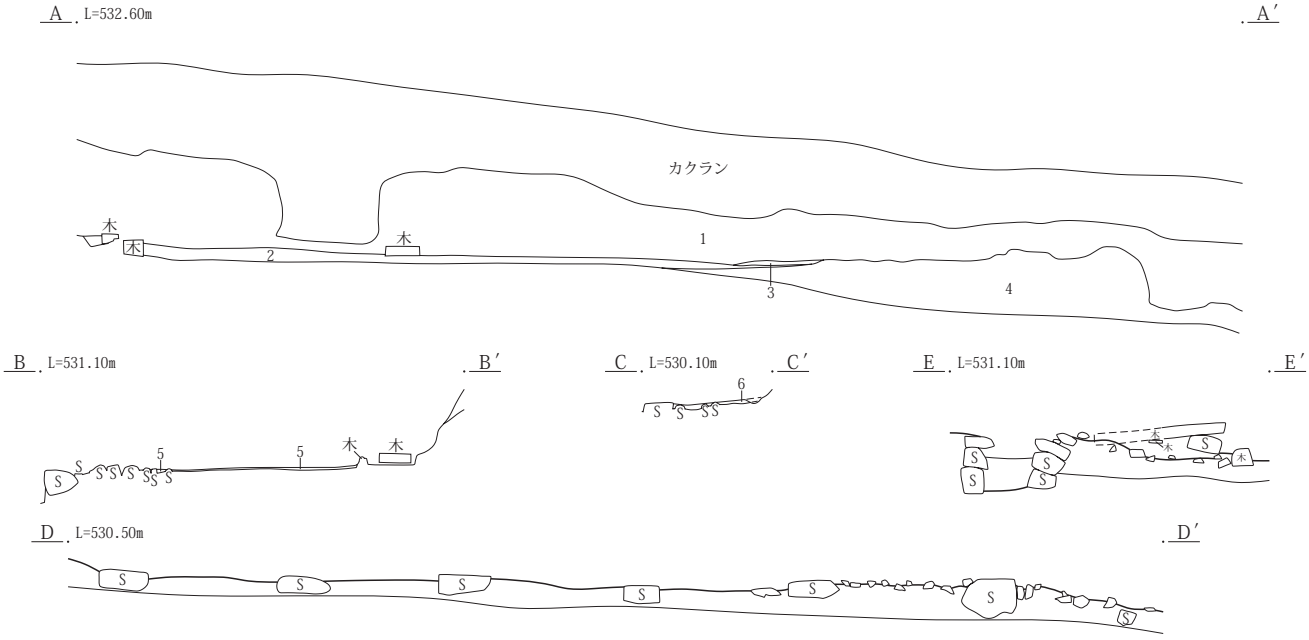
柱穴　建物範囲と推定した範囲の外周部に、やや浅い落ち込みを複数認めたが、確定はできなかった。

竈　無し。

囲炉裏　無し。

馬屋　無し。



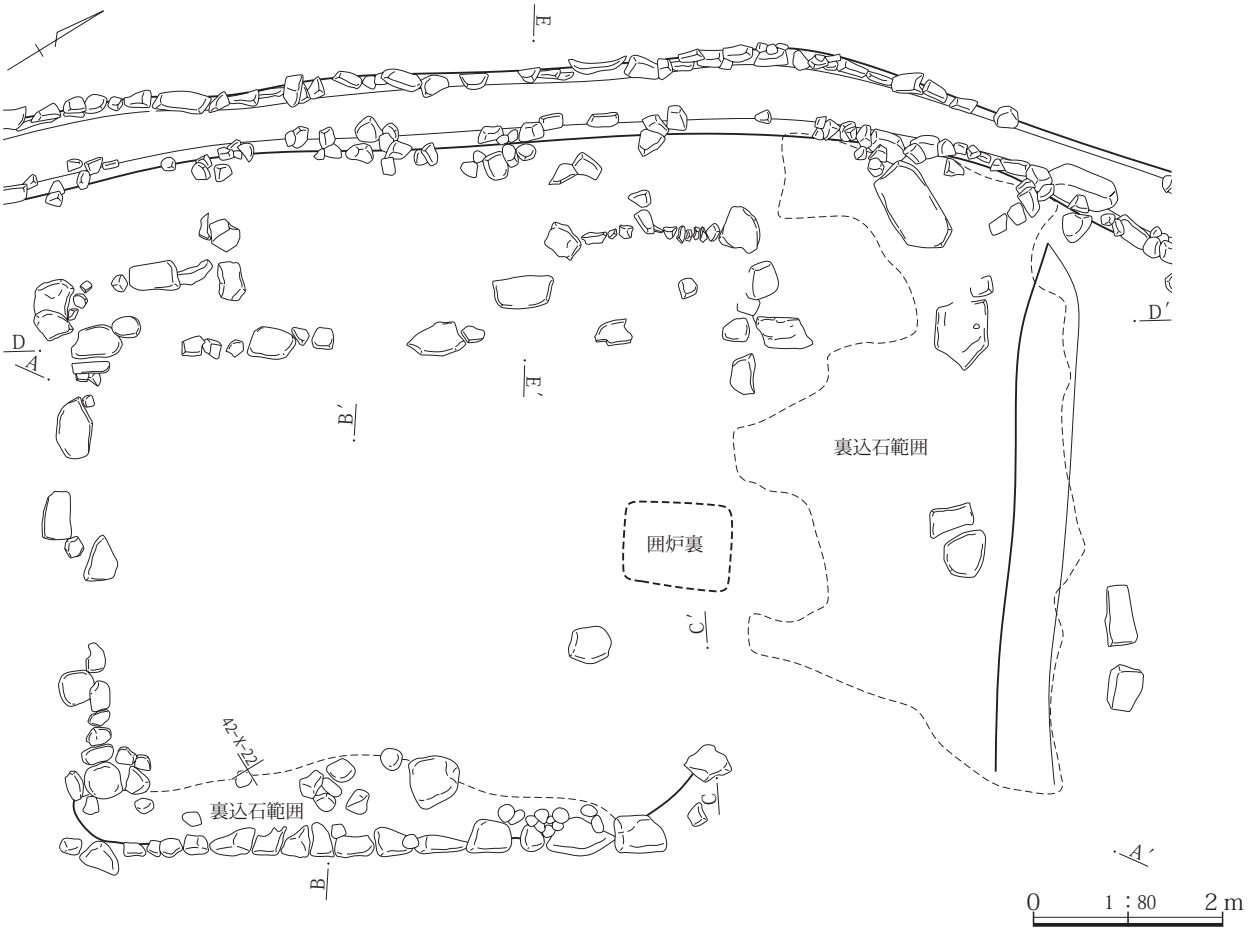


36号建物

1　天明泥流　黒褐色土　φ100～300㎜の礫少量含む。
2　５と同じ　36号建物を覆う土。粘土質の土。
3　黄褐色土　黄橙色粒少量、炭化物粒少量。
4　６と同じ　36号建物を作る際に入れら？黯礫混じりの土。上面に鉄分沈着の層や黄褐色の粘土質の土あり。
5　黒褐色土　黄橙色粒少量、炭化物粒若干含む。鉄分沈着あり。
6　黒褐色土　φ10～100㎜の礫大量に含む、黄橙色粒・炭化物粒若干含む。36号建物に入れた土と同じ上部に鉄分沈着の層あり。

0　1：80　2m

第446図　Ⅷ区36号建物（１）



第447図　Ⅷ区36号建物（２）

遺物　陶器碗、すり鉢および銭貨１点が出土。

所見　長辺約6.5m、短辺約5.4mの範囲で、ほぼ長方形にやや高く整地され、中央部分に礎石とみられる５個の平石が北東方向に検出され、この内４個は直線的に並んで確認されている。

周囲には角礫が乱雑に敷かれており、上部には黄褐色土が入れ込まれ、部分的に版築された状況が認められた。規模は不明､屋内の施設等も確認できなかったことから、倉、もしくは納屋と考えられ、泥流被災時には建物上屋部分はすでに失われていたものと考えられる。

38号建物　（第438図）

位置　42区Ａ・Ｂ－22・23グリッド。

重複　無し

主軸方位

規模　桁行（6.5）m、梁行（5.4）m。

礎石　南北に並ぶ大小の礫を確認、大型で平らな石が礎石であろう。

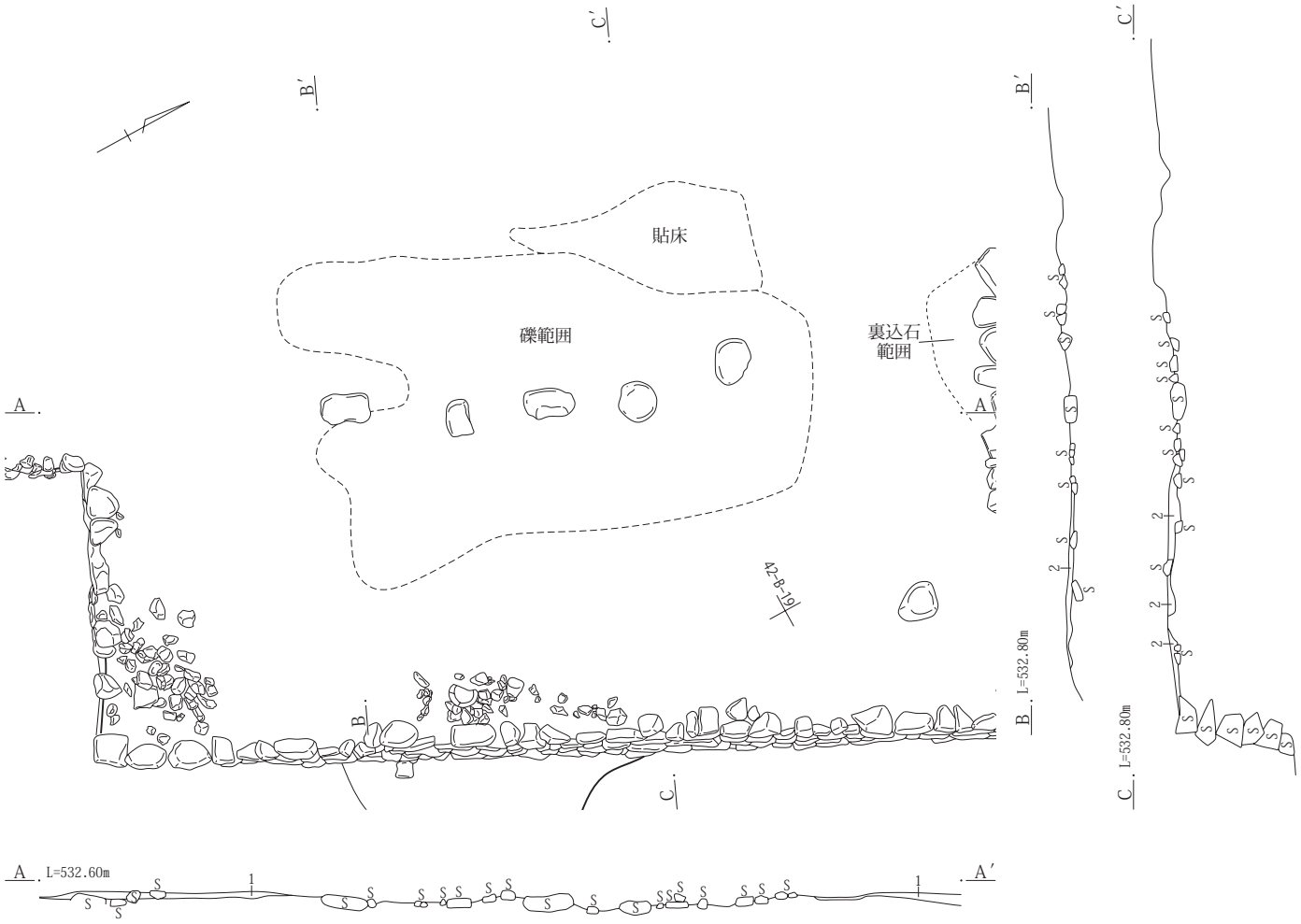
竈　無し。

囲炉裏　無し。

馬屋　無し。

遺物　無し。

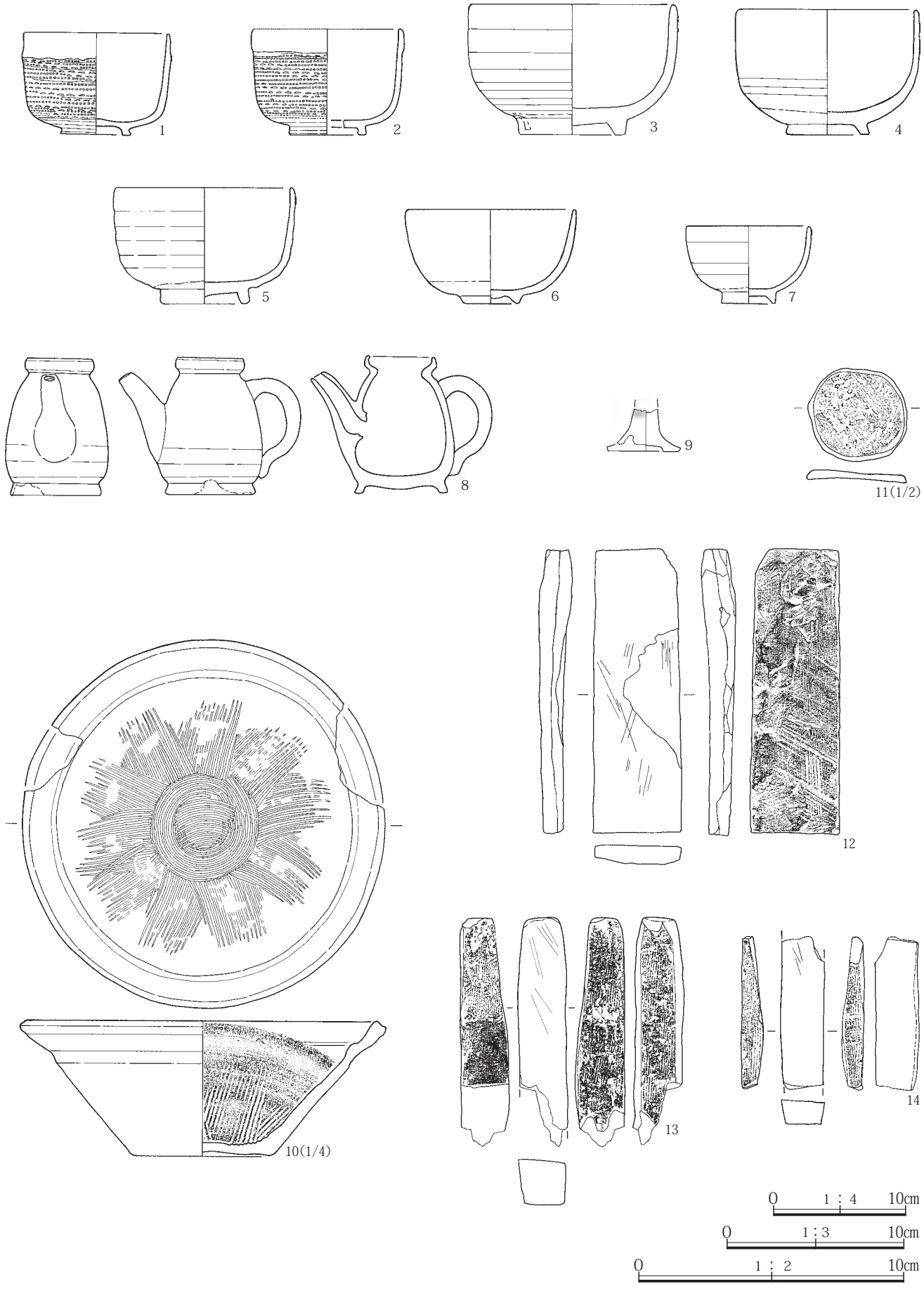
所見　南北に並ぶ礎石の西側に、黄色粘質土の張り床部分が認められた。平成20年度に調査を行った１号屋敷の２号建物の南側に近接して位置、一連の建物であった可能性もある。



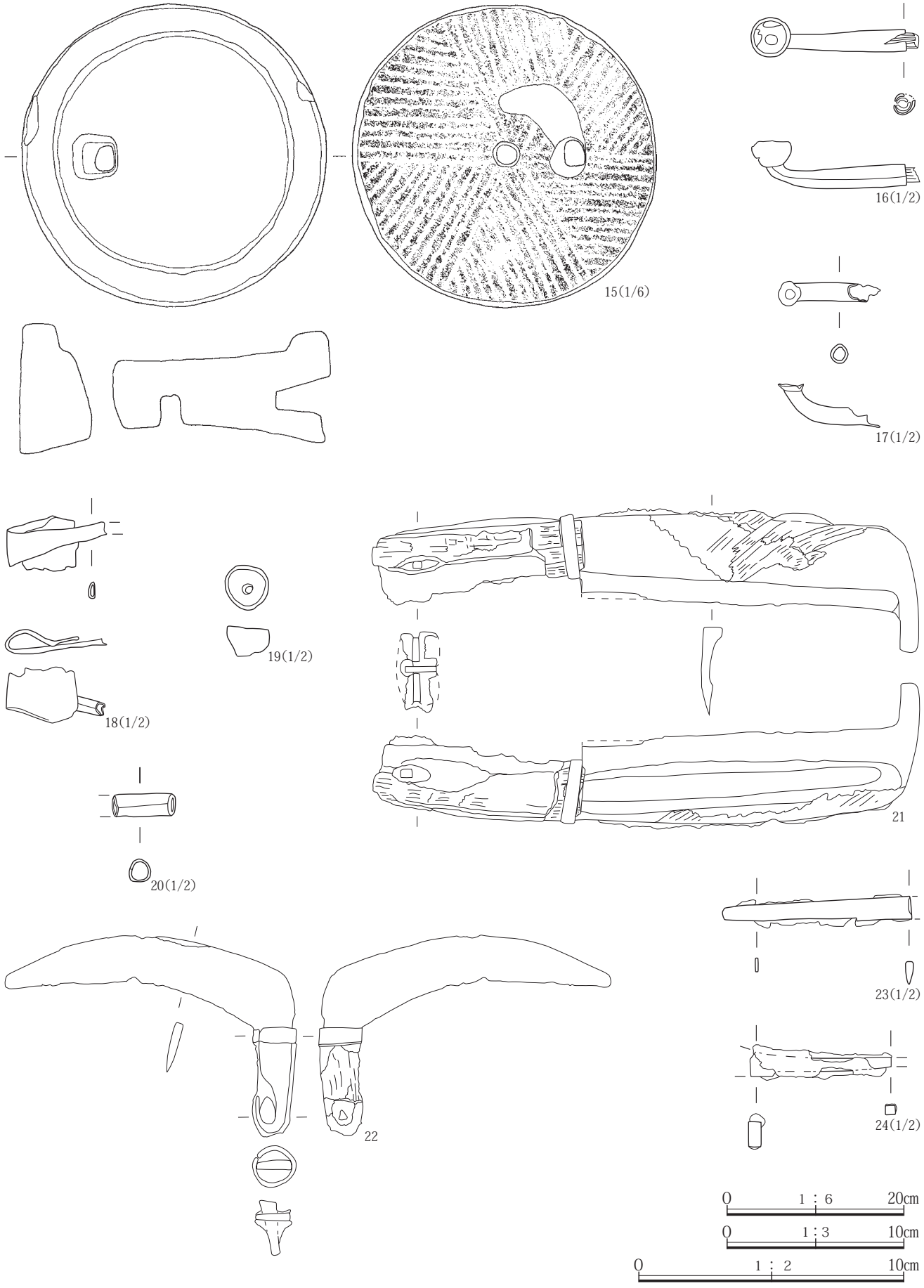
37号建物
1　にぶい黄褐色土　黄橙色粒少量。φ２～10㎜の礫若干。37号建物全体に被る土。
2　暗褐色土　黄橙色粒少量。白色粒若干。炭化物粒若干。

0　1：80　2m

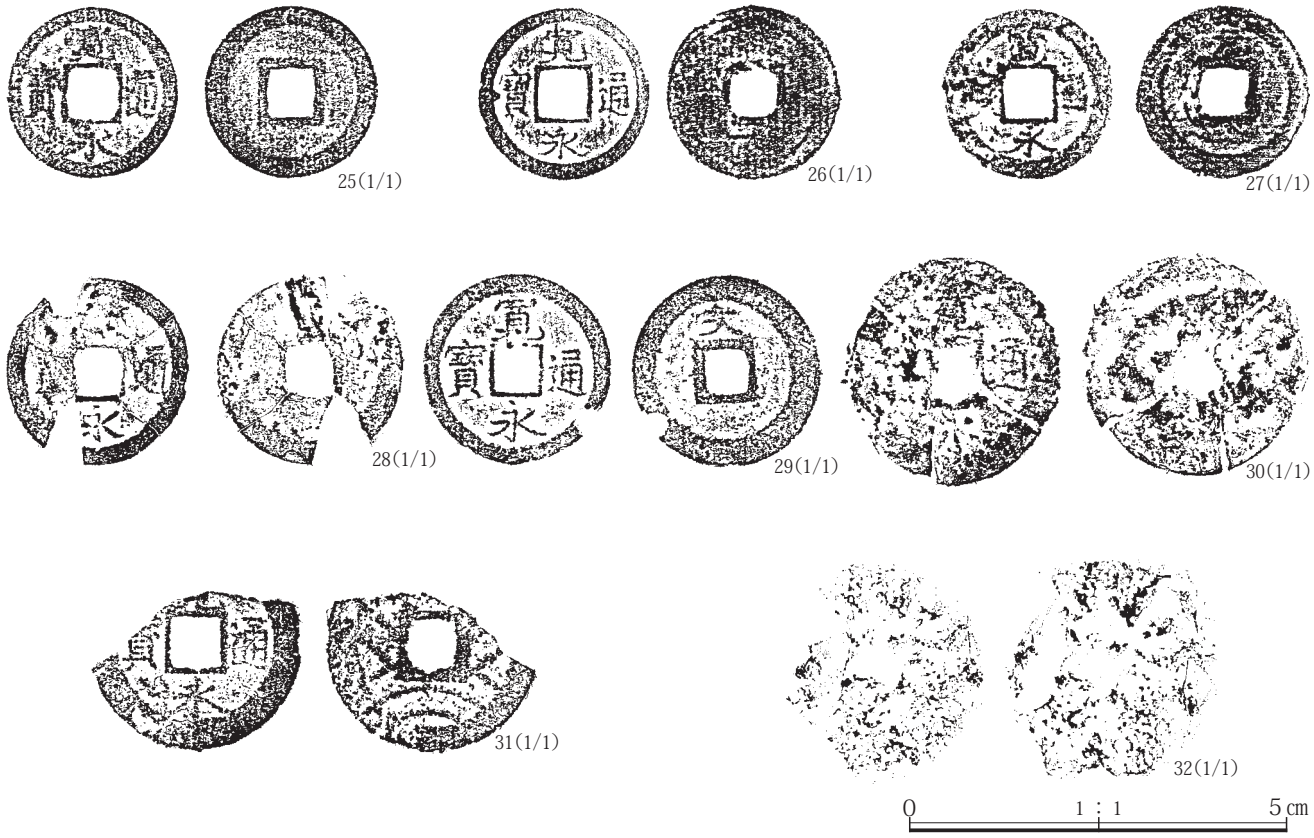
第448図　Ⅷ区37号建物



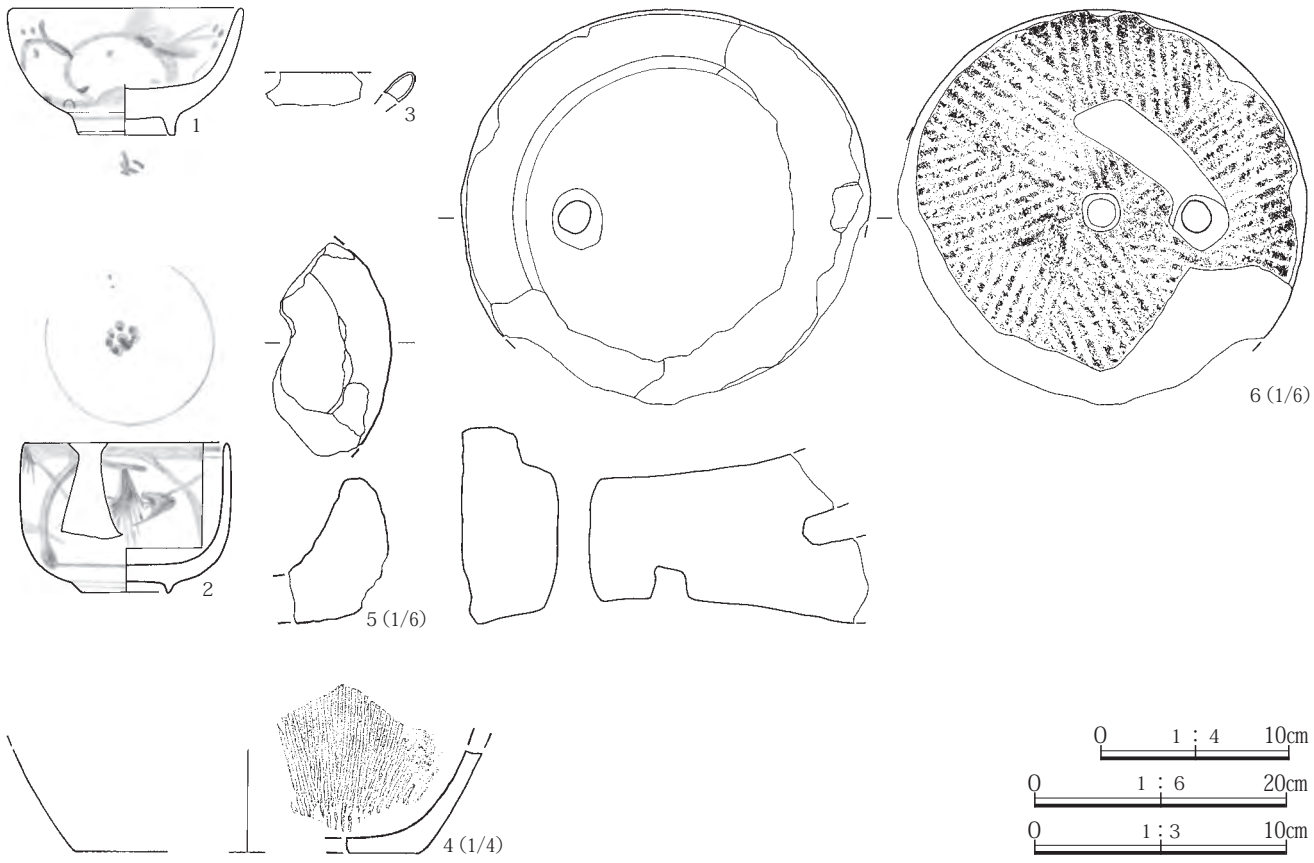
第449図　Ⅷ区32号建物出土遺物（１）



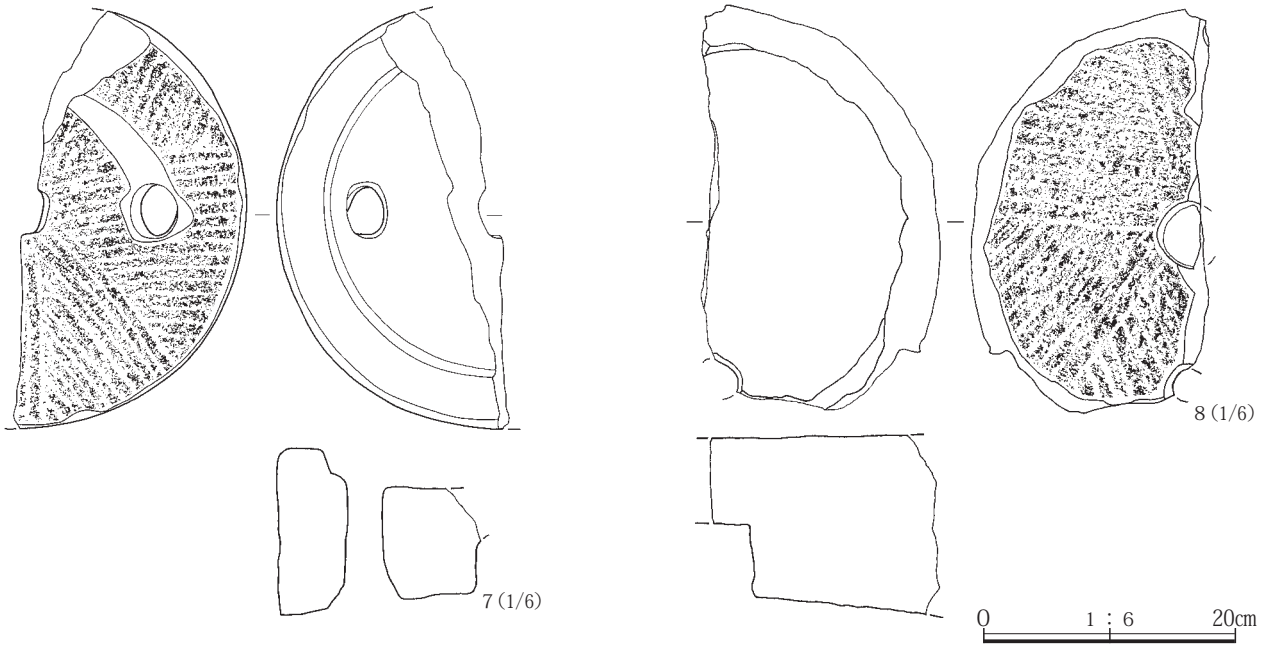
第450図　Ⅷ区32号建物出土遺物（２）



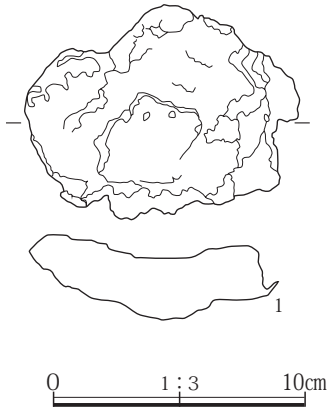
第451図　Ⅷ区32号建物出土遺物（３）



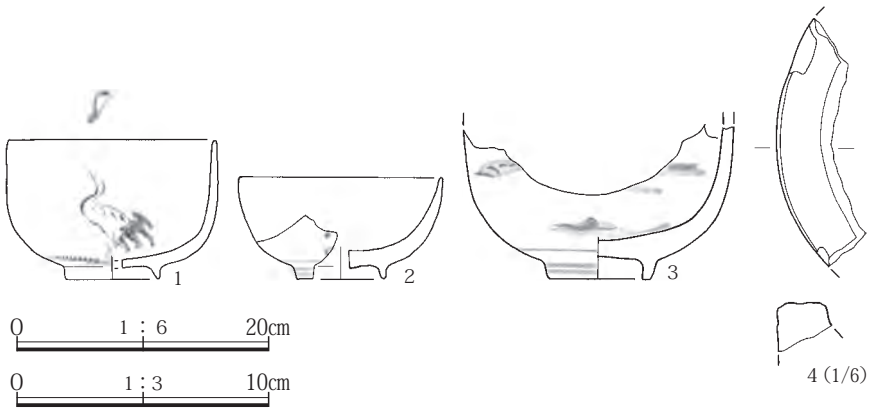
第452図　Ⅷ区33号建物出土遺物（１）



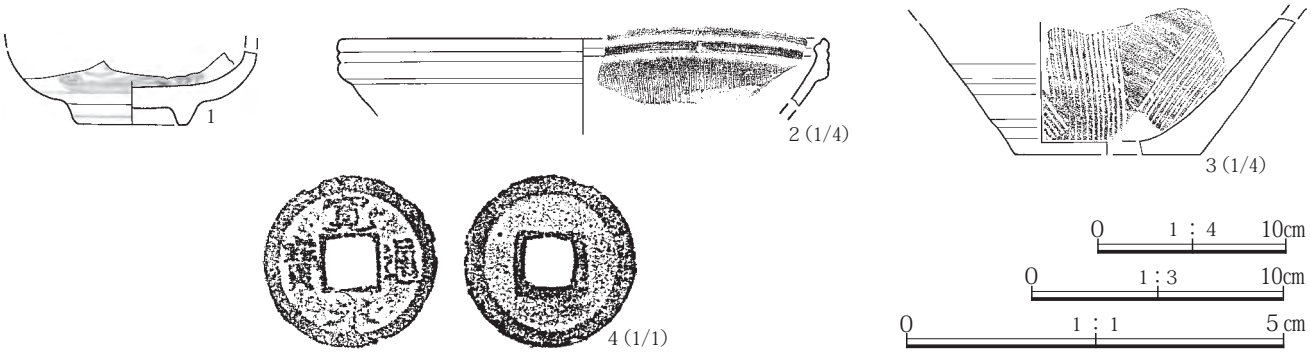
第453図　Ⅷ区33号建物出土遺物（２）



第454図　Ⅷ区34号建物出土遺物



第455図　Ⅷ区36号建物出土遺物



第456図　Ⅷ区37号建物出土遺物

（２）切石石組み遺構

１号切石石組み遺構（第457図、PL.245）

位置　42区Ｇ－15・16。45号畑の北西端に位置する。

重複　無し。

主軸方位　Ｎ－47°－Ｗ。

規模　長軸0.75m、短軸0.73m、高さ0.35m。

遺物　無し。

所見　ほぼ方形に細長い切石を丁寧に組んでいる。切石は上面と側面部分は丁寧に削られ、平らに成形されている、内側部分については未成形である。方形に組まれた

切石内部の形は中央部が膨らんだ十字形を呈し、礫を多く含んだ砂礫土が詰まる。

手前側の切石下部には、礫が基礎固めとして据えられていた。何かしらの構造物の基礎と思われるが詳細は不明である。畑の端に位置、北西側を除き直近まで畝が作られている。

（3）道

１号道（第457図、PL.242）

位置　42区M－７グリッド。

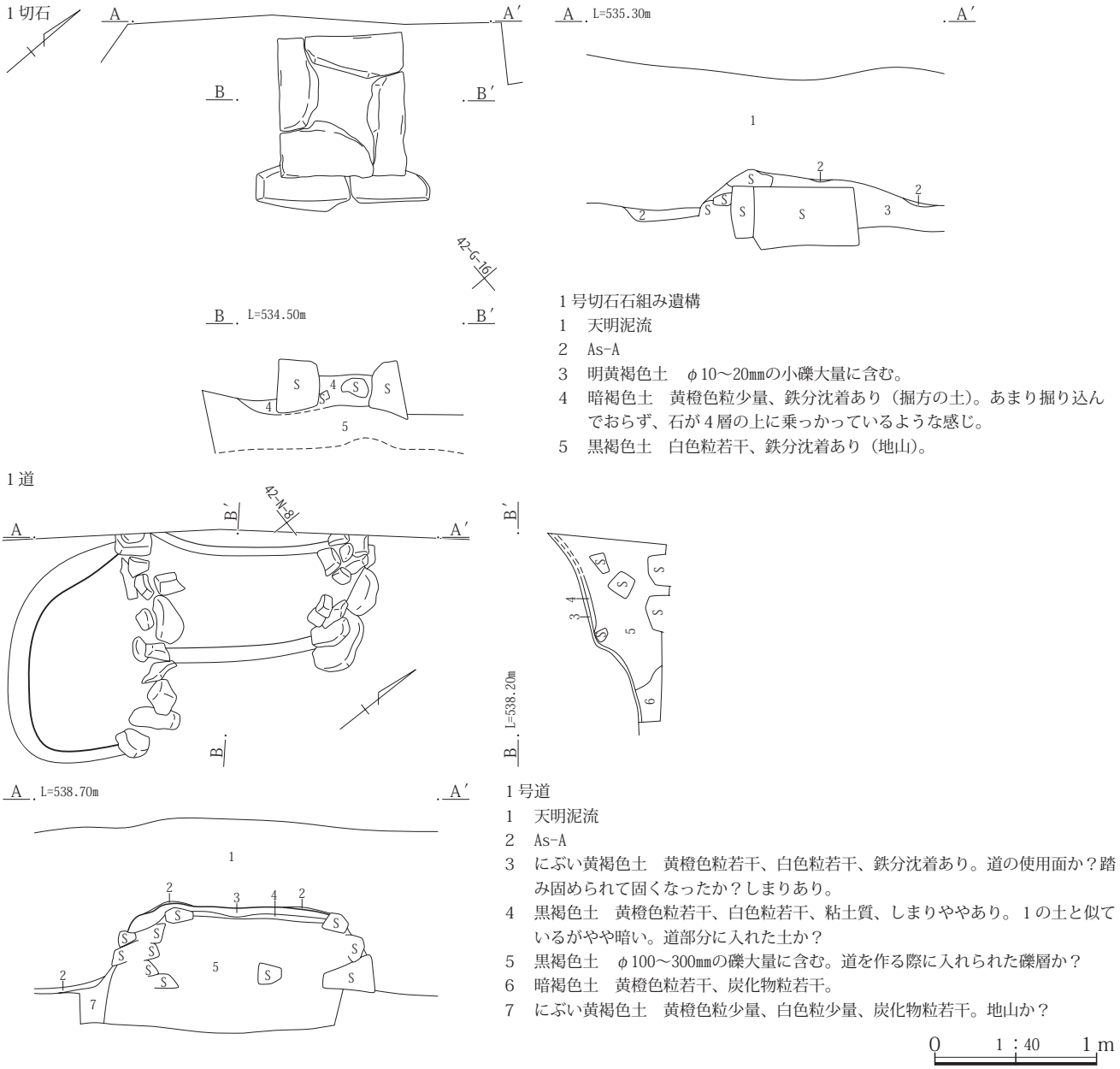
重複　無し。

主軸方位　―。

規模　長さ1.2m、幅1.5m、高さ0.8m。

遺物　無し。

所見　１号建物の北西側約２m離れて検出された、北西に向かう階段状の斜面両側に、礫を積み上げて構築している。表面は固く踏みしめられ、鉄分の凝集が見られる。道としたが、屋敷内から、直ぐ上にある本道へ上がる施設と考えられる。



1 号切石石組み遺構
1　天明泥流
2　As-A
3　明黄褐色土　φ10～20㎜の小礫大量に含む。
4　暗褐色土　黄橙色粒少量、鉄分沈着あり（掘方の土）。あまり掘り込んでおらず、石が４層の上に乗っかっているような感じ。
5　黒褐色土　白色粒若干、鉄分沈着あり（地山）。

1 号道
1　天明泥流
2　As-A
3　にぶい黄褐色土　黄橙色粒若干、白色粒若干、鉄分沈着あり。道の使用面か？踏み固められて固くなったか？しまりあり。
4　黒褐色土　黄橙色粒若干、白色粒若干、粘土質、しまりややあり。１の土と似ているがやや暗い。道部分に入れた土か？
5　黒褐色土　φ100～300㎜の礫大量に含む。道を作る際に入れられた礫層か？
6　暗褐色土　黄橙色粒若干、炭化物粒若干。
7　にぶい黄褐色土　黄橙色粒少量、白色粒少量、炭化物粒若干。地山か？

0　1：40　1m

第457図　Ⅷ区１号切石石組遺構・１号道

（４）石垣

35号石垣（第458・463図、PL.245・252）

位置　51区Ｓ－10、Ｔ－８～10グリッド。

重複　無し

主軸方位　Ｎ－22°－Ｅ。

規模　長さ8.9m、高さ0.8m。

遺物　陶器碗。

所見　53号畑の東端に築かれ、畑を区切っている。乱石積みで、下部にやや大きな石を据え、部分的に壊れた状況である。

36号石垣（第459・463図、PL.245・252）

位置　42区Ｉ－６・７、Ｊ－７、８グリッド。

重複　無し

主軸方位　Ｎ－55°－Ｗ。

規模　長さ（16）m、高さ1.0～1.8m。

遺物　陶器碗。

所見　１号建物の屋敷端に築かれる、北東側の畑との境に在り、段差を形成。川原石を乱積みにしており、下部にやや大きな石を置き、上部は小振りの石で構築されている、上部は部分的に崩れた状況を呈す。傾斜する南東方向へ向かって高さを増す。

37号石垣（第460図）

位置　42区Ｊ－６・７、Ｋ－５・６、Ｌ－３・４グリッド。

重複　無し

主軸方位　Ｎ－34°－Ｅ。

規模　長さ17.2m、高さ0.5～0.6m。

遺物　無し。

所見　１号建物南東に位置する、基礎の石以外は崩れたものが多い。屋敷周りを画す石垣で、南東側には、泥流埋没後の復旧坑が近接する。

38号石垣（第460図）

位置　42区Ｇ－13、Ｈ－10～13、Ｉ－９・10、Ｊ－９グリッド。

重複　無し。

主軸方位　Ｎ－28°－Ｅ。

規模　長さ22.0m、高さ0.4m。

遺物　無し。

所見　４号建物の南東に作られる、畑の境に作られる。２から３段積みで、基礎石はかなり大きな石を据えている。南西に方向にやや曲がりながら延びている。作りは３号に似る。南東側には、泥流埋没後の復旧坑が近接する。

39号石垣（第461～463図、PL.245・246・252）

位置　42区Ａ－18～21、Ｂ－17・18、Ｃ－17グリッド。

重複　無し。

主軸方位　Ｎ－26°－Ｅ、Ｎ－14°－Ｗ。

規模　長さ24.6m、高さ1.5m。

遺物　煙管吸い口。

所見　６号建物の南西部に築かれる、検出時は建物の敷地を区切るように、上端面部分が直線的に折れを有す石列として見え、泥流埋没時には、石垣の南東部に丸く張り出した盛土に、下部の殆どが埋められた状況であった。

この盛土を除去したところ、埋まっていた石垣の全容が明らかになった。埋められていた石積み側面はしっかりしており、歪みや崩れもなく、構築後程なくして埋められたものと推察できる。

裏込めは下部に多量の小角礫を入れ、さらにやや大振りな礫、黄褐色土混土の角礫含む土で埋めている。
埋められた理由ははっきりせず、盛られた土山上、斜面部は泥流埋没時には、畑として利用されていた状況が窺える。

40号石垣（第438図）

位置　42区Ａ－18～21、Ｂ－17・18、Ｃ－17グリッド。

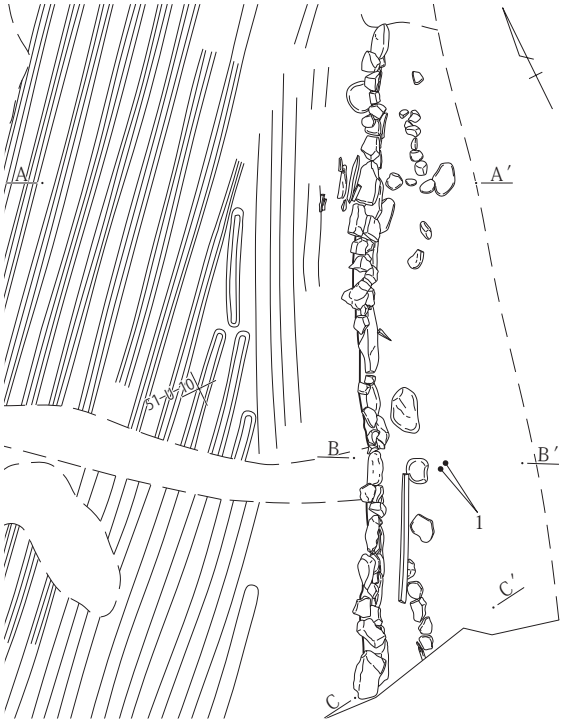
重複　無し。

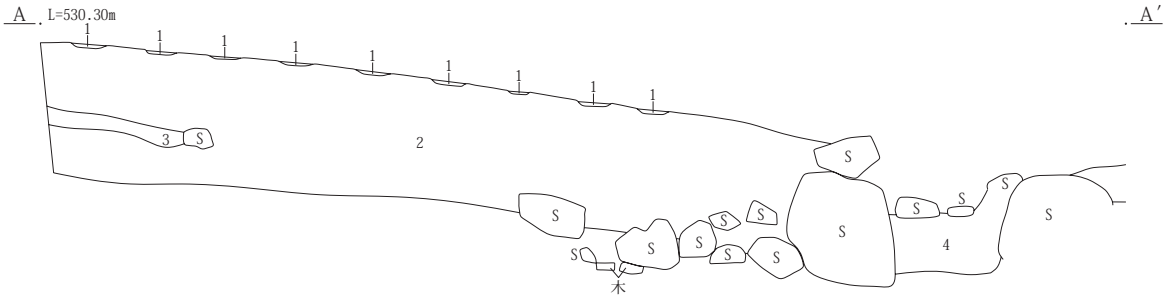
主軸方位　Ｎ－32°－Ｅ。

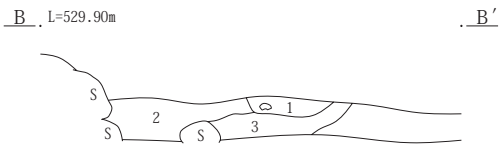
規模　長さ10.1m、高さ０．６m。

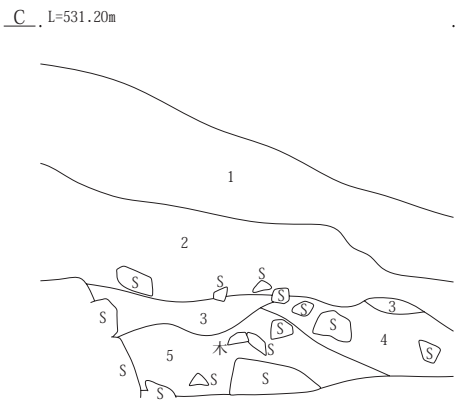
遺物　無し。

所見　１号屋敷内の38号建物の東側、道との境に作られている。道に沿って緩やかに曲がる。比較的大振りな角礫を３段程積み上げ、長さ10.1m高さ約0.60mである。









35号石垣Ａ－Ａ′
1　茶褐色土　As-A軽石。
2　黒色土　若干の小礫含み粘性あり。
3　暗茶褐色土　小角礫を含む砂粒土。
4　黒色土　２と近似するが、粘性強い。

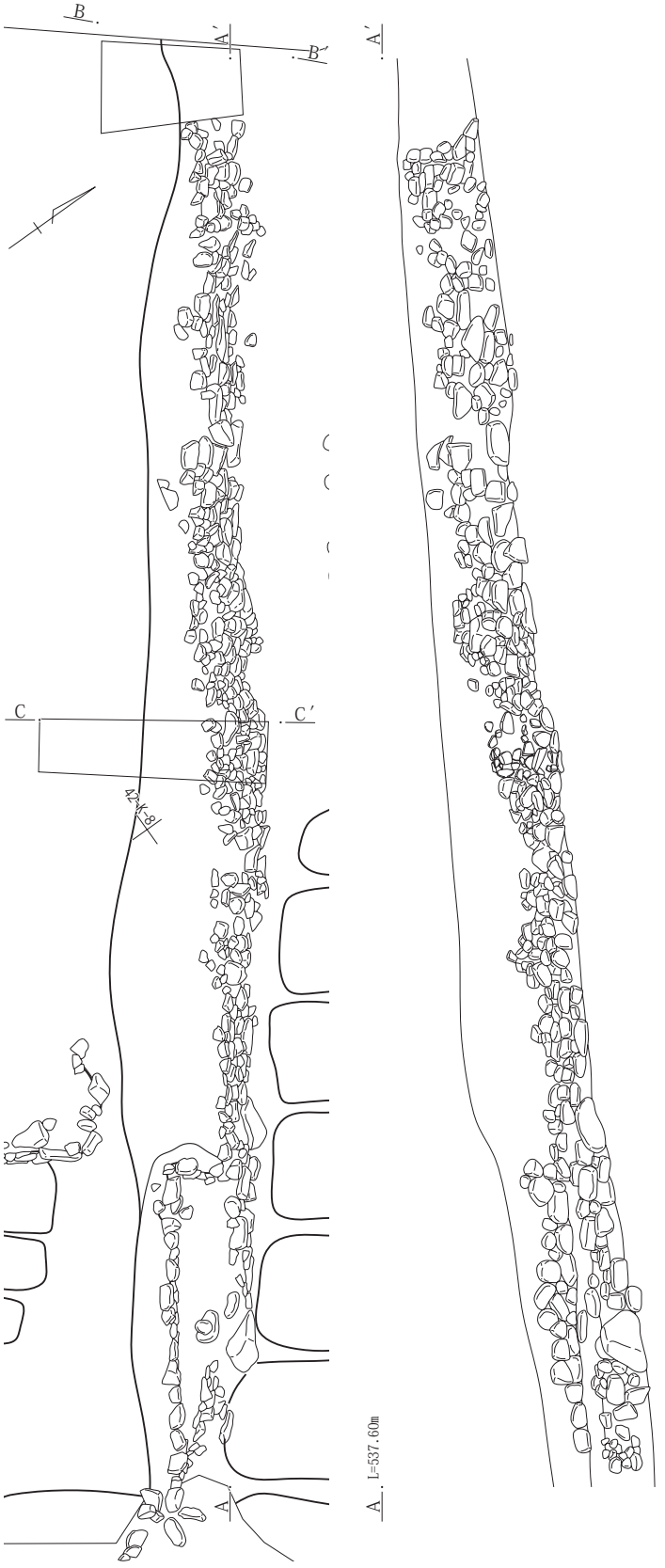
35号石垣Ｂ－Ｂ′
1　茶褐色土　小礫含む。
2　黒色土　砂礫層。
3　黒色土　細粒砂若干含みやや粘性あり。

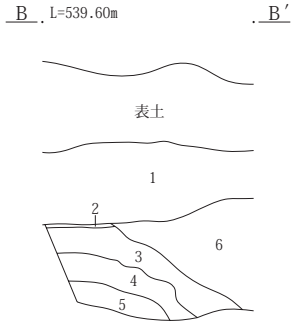
35号石垣Ｃ－Ｃ′
1　黒褐色土　表土、上層部分礫の混入多い。
2　暗黒褐色土　As-A泥流、しまりあり、下層に部分的にAs-A軽石みられる。
3　茶褐色土　砂礫層、鉄分凝集顕著。
4　暗茶褐色土　砂利層、角礫多く含み攪拌している。
5　灰黒色土　砂利層、角礫多く含む？ A粘性土ブロック混入する。

0　1：40　1m

0　1：100　5m

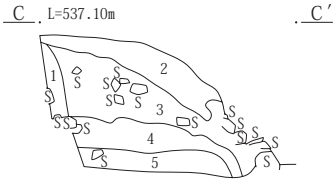
第458図　Ⅷ区35号石垣





36号石垣Ｂ－Ｂ′

1　表土
2　天明泥流
3　暗褐色土　φ３～15㎜の礫大量に含む。石垣の裏込め部分か？黄橙色粒少量。炭化物粒若干。植物痕が所々混じる。
4　黒褐色土　黄橙色粒少量。φ２～５㎜の礫若干。１面目の地山部分か？
5　褐色土　黄橙色粒少々。黒色ブロック土若干含む。

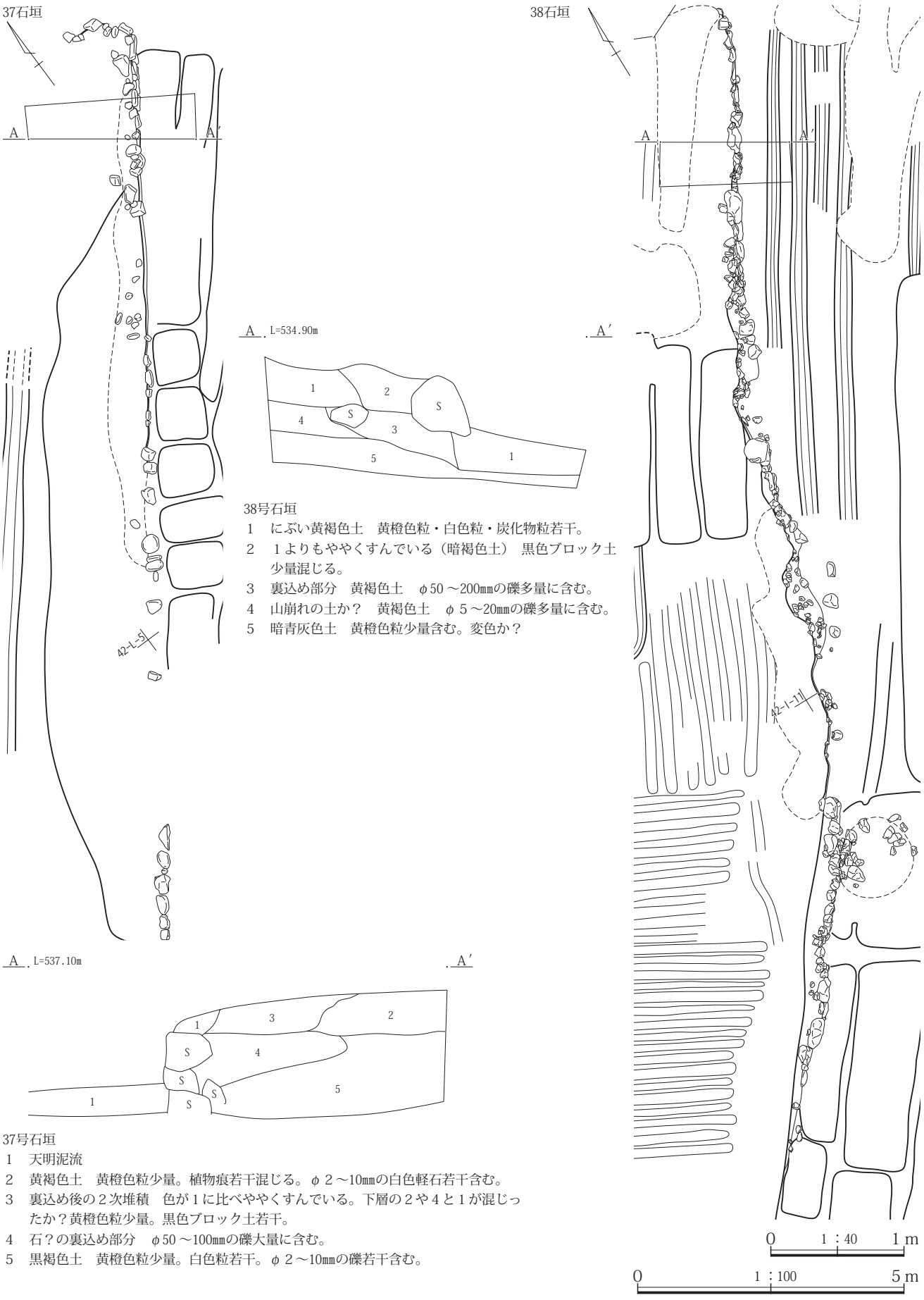


36号石垣Ｃ－Ｃ′

1　にぶい黄褐色　黄橙色粒少量、炭化物粒少量含む。石垣の地山部分。
2　にぶい黄褐色　黄橙色粒少量、黒色ブロック土若干含む。裏込め後の地山の土の２次堆積か？
3　黒褐色土　φ20～100㎜の礫多量に含む。石垣の裏込め部分。
4　黒褐色土　φ20～50㎜の礫若干、黄橙色粒若干含む。
5　黄褐色土　黄橙色粒少量、白色粒少量、φ20～50㎜の礫若干、黒色ブロック土若干含む。

0　1：80　2m

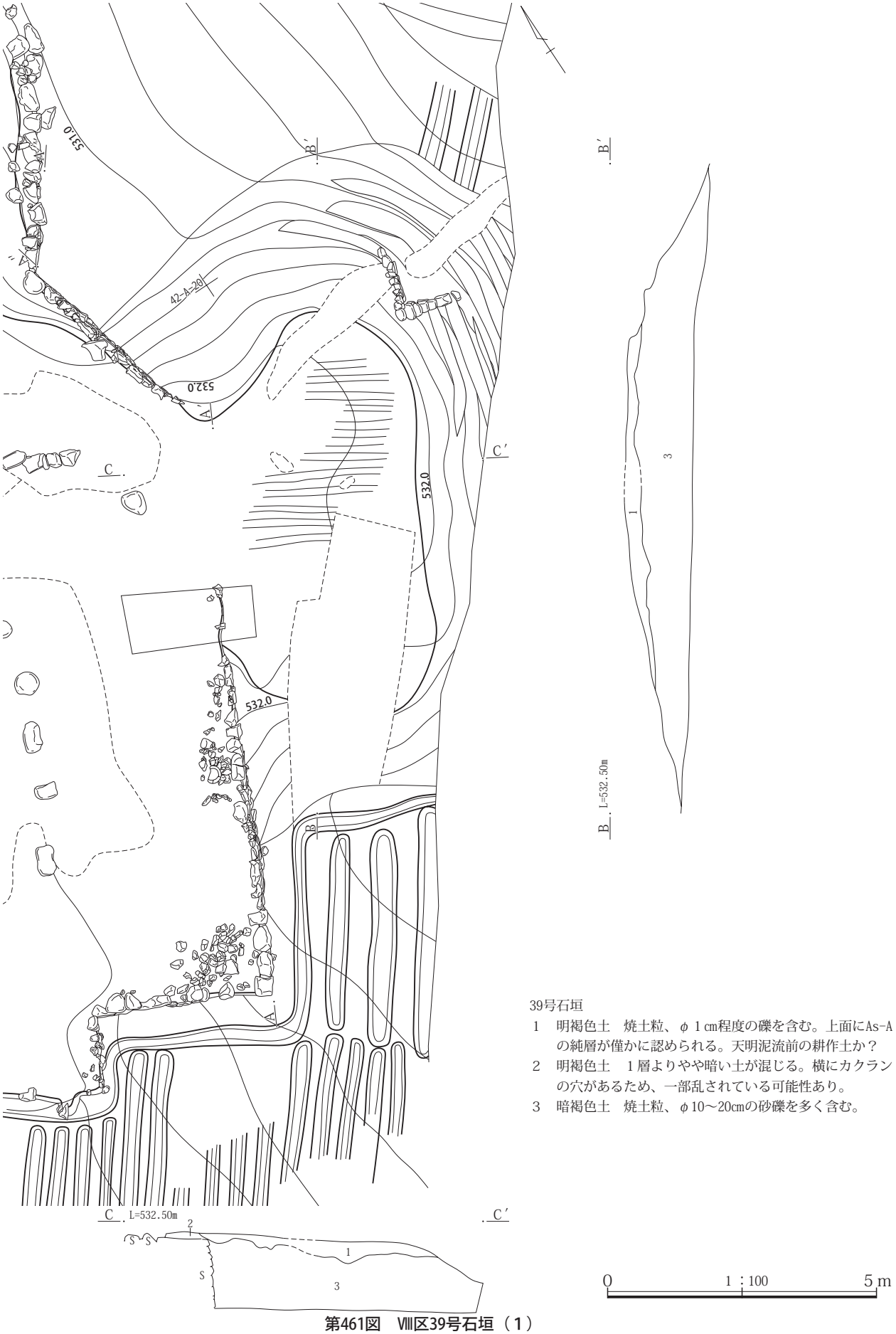
第459図　Ⅷ区36号石垣



38号石垣
1　にぶい黄褐色土　黄橙色粒・白色粒・炭化物粒若干。
2　１よりもややくすんでいる（暗褐色土）　黒色ブロック土少量混じる。
3　裏込め部分　黄褐色土　φ50～200㎜の礫多量に含む。
4　山崩れの土か？　黄褐色土　φ５～20㎜の礫多量に含む。
5　暗青灰色土　黄橙色粒少量含む。変色か？

37号石垣
1　天明泥流
2　黄褐色土　黄橙色粒少量。植物痕若干混じる。φ２～10㎜の白色軽石若干含む。
3　裏込め後の２次堆積　色が１に比べややくすんでいる。下層の２や４と１が混じったか？黄橙色粒少量。黒色ブロック土若干。
4　石？の裏込め部分　φ50～100㎜の礫大量に含む。
5　黒褐色土　黄橙色粒少量。白色粒若干。φ２～10㎜の礫若干含む。

第460図　Ⅷ区37・38号石垣



39号石垣

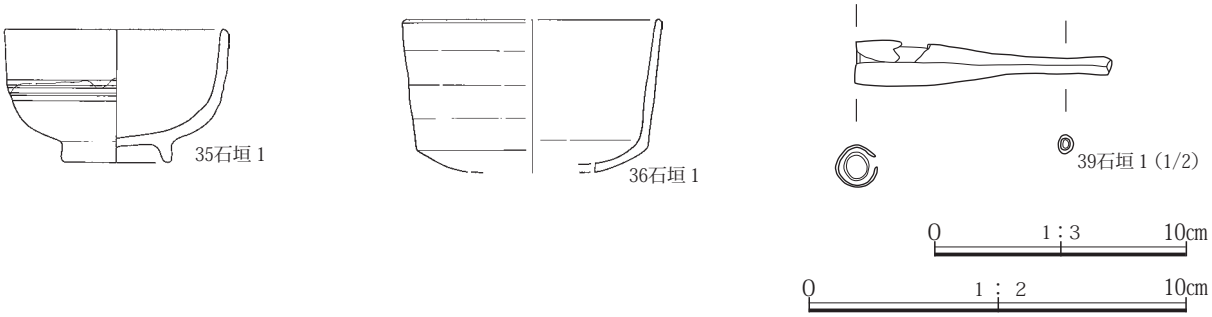
1　明褐色土　焼土粒、φ１㎝程度の礫を含む。上面にAs-Aの純層が僅かに認められる。天明泥流前の耕作土か？

2　明褐色土　１層よりやや暗い土が混じる。横にカクランの穴があるため、一部乱されている可能性あり。

3　暗褐色土　焼土粒、φ10～20㎝の砂礫を多く含む。

第461図　Ⅷ区39号石垣（１）

第462図　Ⅷ区39号石垣（２）



第463図　Ⅷ区石垣出土遺物

（５）畑・復旧坑

調査区内において、建物を含む屋敷が確認され、左右前後に畑が作られていた。一部復旧坑も確認した。屋敷と屋敷の間に作られた畑は比較的広く、整然としているが、屋敷内の畑は比較的矮小で、畝の長さ、方向、幅にばらつきが見られる。

42号畑（第438図、PL.247）

位置　42区Ｌ～Ｑ－１～６グリッド。

重複　無し。

主軸方位（畝方向）　Ｎ－35°－Ｅ。

規模　縦17m、横16m。畝サク間0.25～0.3m。

遺物　無し。

所見　１号建物の南西側に広がる、緩やかに南東方向に傾斜を有し、中央やや南西に径180×150㎝の円形平坦面が確認されている。この平坦面から上にサク替えが見られる。中央に径1.1mの円形平坦面。

43号畑ａ．ｂ．ｃ（第438図）

位置　42区Ｉ～Ｌ－８～11グリッド。

重複　無し。

規模および主軸方位（畝方向）

43号畑ａ　縦1.5m、横3.5m。Ｎ－33°－Ｅ。

43畑ｂ　　縦4.5m、横8.3m。Ｎ－62°－Ｗ。

43畑ｃ　縦6.5m、横1.0m。Ｎ－29°－Ｅ。

遺物　無し。

所見　34号建物の南東に近接して位置、南東部は38号石垣により区切られる。長さ４～4.5mの南東に走る畝畑を中央に、南西側には、畝の長さ1.5mと短い畑が作られ、北西側には43号建物との狭い範囲に、細長い畝が作られている。

44号畑（第438図）

位置　42区Ｉ～Ｋ－10～13グリッド。

重複　無し。

主軸方位（畝方向）　Ｎ－29°－Ｅ。

規模　縦8.0m、横11.0m。畝サク間0.5～0.6m。

遺物　無し。

所見　34号と35号建物の間に作られる。畝は北東方向に切られているが、残りは悪く、一部に復旧坑が見られる。畝幅がやや広く作られている。南東側は38号石垣により区切られている。

45号畑（第438図）

位置　42区Ａ～Ｈ－12～19グリッド。

重複　無し。

主軸方位（畝方向）　Ｎ－42°－Ｅ。

規模　縦（20.0）m、横（19.0）m。畝サク間0.4～0.5m。

遺物　無し。

所見　２号建物の南西側に広がる、南東方向に緩く傾斜し、比較的状態は良好であった。畝幅が比較的狭い、北西隅に、１号切石石組み遺構が畑に一部入り込んだ形で作られる。

46号畑（第438図）

位置　41区Ｗ～Ｙ―16～18、42区Ａ～Ｃ－15～19グリッド。

重複　無し。

主軸方位（畝方向）　Ｎ－40°－Ｅ。

規模　縦（8.0）m、横18.0m。畝サク間0.8～0.9m。

遺物　無し。

所見　39号石垣を埋めている土山の南東側、下前面を囲うよう作られている、１号溝の南西側に位置する。やや

畝幅広く５－３号畑と同一か。

47号畑（第438図、PL.247）

６号畑

位置　41区Y―18・19、42区A－17グリッド。

重複　無し。

主軸方位（畝方向）　N－55°－W。

規模　縦2.0m、横3.5m。畝サク間0.25～0.3m。

遺物　無し。

所見　６号建物の南東部に僅かに検出された、畝は南棟方向で長さは３m程であるが、残存状態は悪い。

48号畑（第438図、PL.247）

７号畑

位置　41区X・Y－18・19グリッド。

重複　無し。

主軸方位（畝方向）　N－５°－W。

規模　縦5.5m、横2.4m。畝サク間0.4～0.6m。

遺物　無し。

所見　39号石垣を埋めていた張り出し部、東側斜面部分に、僅かに弧状の畝が検出されたことから畑としたが、実際に機能していた可能性は低い。

49号畑（第438図）

８号畑

位置　41区U～X－19～23グリッド。

重複　無し。

主軸方位（畝方向）　N－46°－E。

規模　縦7.0m、横15.0m。畝サク間0.5～0.6m。

遺物　無し。

所見　36号建物南東側に極めて近接して作られる。建物境に細い溝が掘られ、溝は畑南西側にも廻っている。畝幅はやや広い。

50号畑（第438図）

位置　41区S～V－23～25グリッド。

重複　無し。

主軸方位（畝方向）　N－39°－W。

規模　縦（8.0）m、横（9.5）m。畝サク間0.3～0.4m。

遺物　無し。

所見　49号畑の北東に検出された、畝は南東に走る、遺存状況は悪く、畝は断片的に確認された。

51号畑（第438図）

位置　41区R～V－17～21グリッド。49号畑の南都に作られている

重複　無し。

主軸方位（畝方向）　N－42°－W。

規模　縦（12.5）m、幅25.0m。畝サク間0.3～0.4m。

遺物　無し。

所見　５区１号溝の北東側に在り、畝の残りは極めて悪く、北西から南東方向に走る、畑の規模は大きいものの、畝は部分的に検出したのみである。

52号畑（第438図）

位置　41区M～T－22～25、51区M～U―１～３グリッド。

重複　無し。

主軸方位（畝方向）　N－47°－E。

規模　縦（20.5）m、横（24.0）m。畝サク間0.35～0.4m。

遺物　無し。

所見　50、51号畑の北東側に検出、境は畝が直線的に切れており、直行して走る。北側の15号溝とは間がやや空いていることから、通路が確保されていたものと考えられる。

53号畑（第438図、PL.247）

位置　51区S～X－８～13グリッド。

重複　無し。

主軸方位（畝方向）　N－41°－E。

規模　縦（16.5）m、横（18.5）m。畝サク間0.35～0.4m。

遺物　無し。

所見　南は35号石垣で区切られる、、やや南東に傾斜を持ち、北東方向に畝が切られている。中央部は大きく攪乱を受けている。

54号畑（第438図、PL.247）

位置　51区Q～S－13～15グリッド。

重複　無し。
主軸方位（畝方向）　Ｎ－47°－Ｅ。
規模　縦（2.0）m、横（12.0）m。畝サク間0.3～0.4m。
遺物　無し。
所見　53号畑の北東に在り、検出範囲は極めて狭く、攪乱も顕著、畝方向は35号と同方向である。

●復旧坑

１号復旧溝群（第438図、PL.247）
位置　42区Ｉ～Ｌ－３～６グリッド。
重複　無し。
主軸方位　Ｎ－42°－Ｗ。
規模（群）　長軸５～10m、短軸1.0m。長軸1.0m、短軸0.8m。
遺物
所見　１号建物の南東側、３号石垣を挟んで位置する。二種類の形が見られる、石垣に接して１辺約１ｍのほぼ方形の掘り込みが並ぶものと、やや軸がずれる、幅約１ｍ、長さ約５～10mの溝状を呈すものが近接して掘られている。深さは最大0.4mである。５区において検出されている復旧坑と一連であろう。

２号復旧溝群（(第438図、PL.247）
位置　42区Ｇ～Ｊ－７～９グリッド。４号石垣の南東側に、石垣に接して幅約１ｍ、長さ２～11mの溝状を呈すものが密接して掘られている。
重複　無し。
主軸方位　Ｎ－40°－Ｗ。
規模（群）　長軸11.5m、短軸1.3m、深さ0.2m。
遺物　無し。
所見　38号石垣の直近から南東に向かって、横並びに幅約１ｍの復旧坑が確認された。溝状を呈し、連続して掘り込まれている。

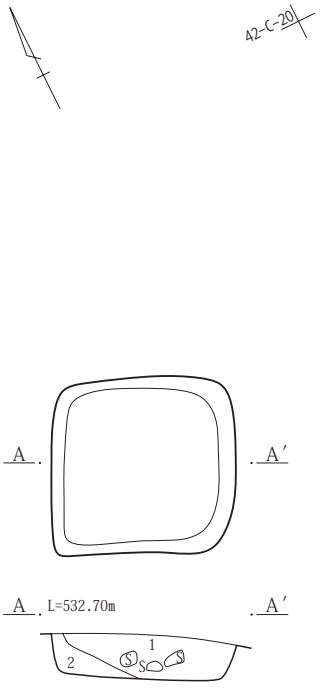
３号復旧溝群（第438図、PL.247）
位置　42区Ｄ～Ｉ－８～13グリッド。
重複　無し。
主軸方位　Ｎ－25°－Ｗ。
規模（群）　長軸16.0m、短軸1.0m。
遺物　無し。
所見　４号石垣の南東側、２号に続くように掘り込まれている、形状は２号と同じであるが、長さには10m、16mの２種類が見られる。

（６）土坑

１号土坑（第464図）
位置　42Ｃ－19グリッド。
重複　無し。
平面形状　方形。
主軸方位　Ｎ－65°－Ｗ。
規模　１辺100㎝、深さ25㎝。
埋没土層　泥流および礫含む黒色粗粒土。
遺物　無し。
所見　１号建物南東側に近接、礫を混入し、泥流で埋まっていた、若干の木片出土、建物と関連するものと考えられる。

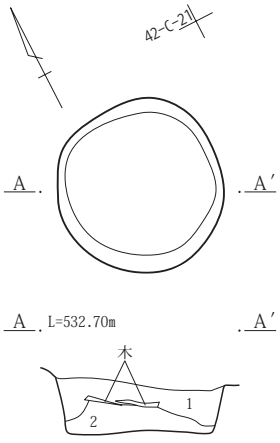
２号土坑（第464図）
位置　42Ｃ－20グリッド。
重複　無し。
平面形状　円形。
主軸方位　－。
規模　径90㎝、深さ30㎝。
埋没土層　黒色土、粗粒で有機物多く含む。
遺物　瓶の口縁部片。
所見　礫、木片出土、時期は新しくなるものと考えられる。

１坑

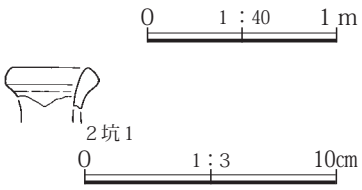


１号土坑
1　天明泥流　黒褐色土　浅間石を含むφ10～100㎜の礫を多量に含む。
2　黒褐色土　白色粒少量含む。
　底面に青灰色の土あり。

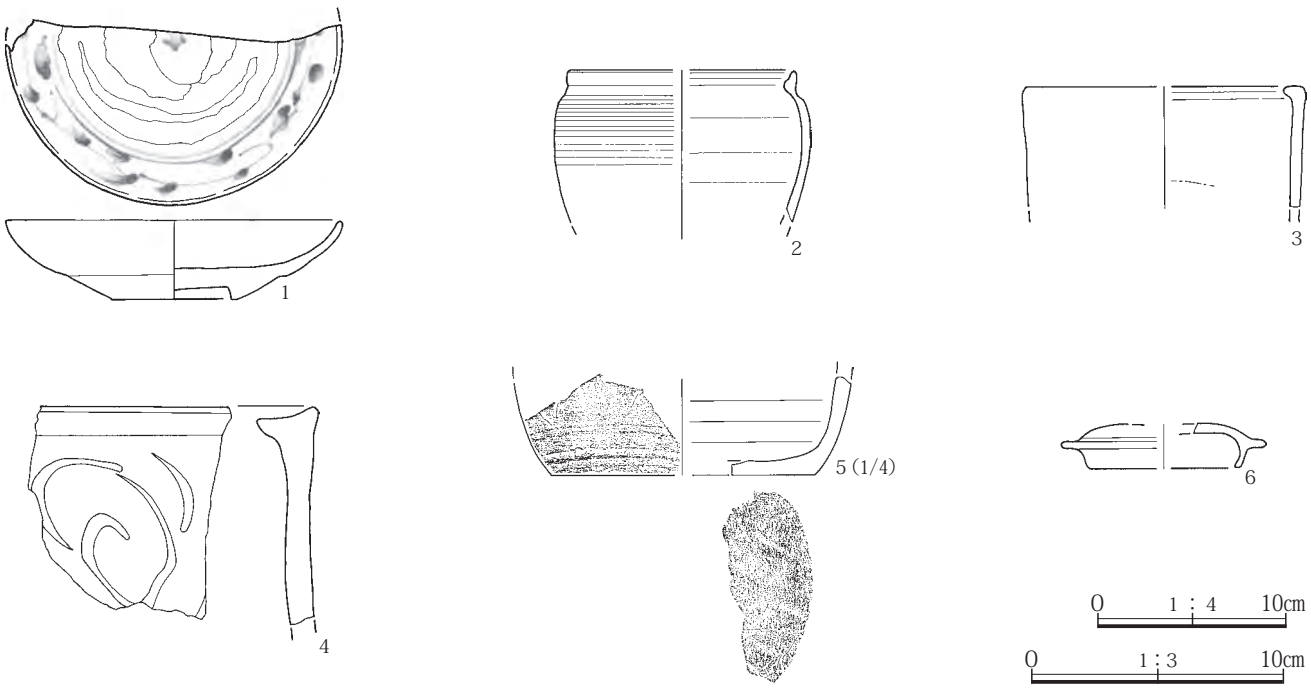
２坑



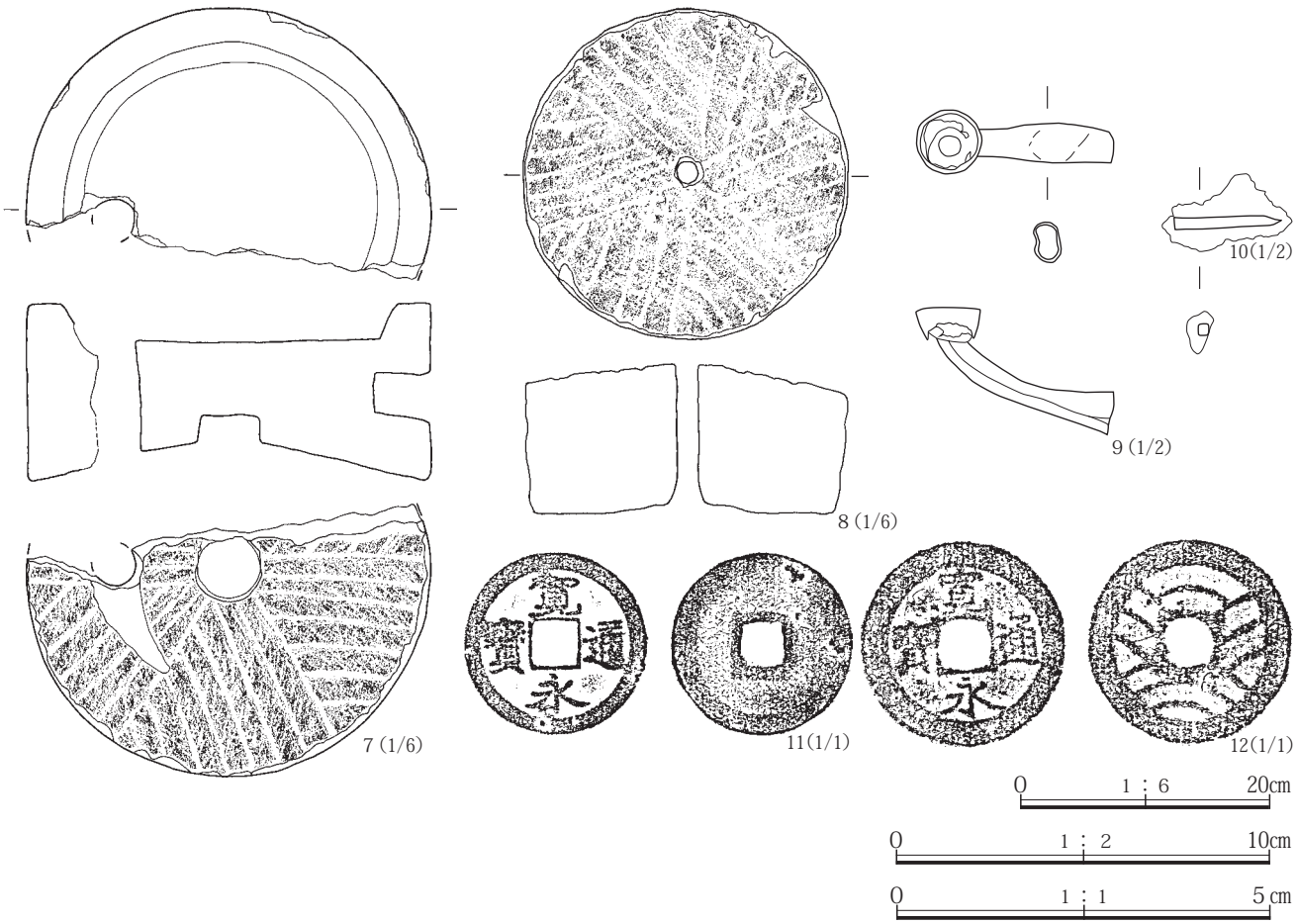
２号土坑
1　自然堆積の天明泥流　黒褐色土　φ５～10㎜の礫を少量含む。
2　暗青灰色土　白色粒若干含む。鉄分沈着あり。しまりなし、粘性やや あり。



第464図　Ⅷ区土坑・出土遺物



第465図　Ⅷ区遺構外出土遺物（１）



第466図　Ⅷ区遺構外出土遺物（２）

第13表　第１面　Ⅷ区　遺物観察表

32号建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第449図 PL.250	1	陶器 鎧碗	口縁～底部	口器	8.0 5.7	底	4.0		外面回転施文具による連続刺突文、内面から口縁部に鉄釉。	瀬戸・美濃陶器
第449図 PL.250	2	陶器 鎧碗	床上 口縁～底部	口器	(8.0) 6.0	底	(4.2)		外面回転施文具による連続刺突文、内面から口縁部に鉄釉。	瀬戸・美濃陶器
第449図 PL.250	3	陶器 碗	竈 口縁～底部	口器	11.8 7.3	底	6.0		内面から外面体部下部まで灰釉。	瀬戸・美濃陶器
第449図 PL.250	4	陶器 碗	掘方 口縁～底部	口器	(10.4) 7.0	底	4.6		内面から体部外面下部飴釉、釉厚にムラあり。	瀬戸・美濃陶器
第449図 PL.250	5	陶器 碗	口縁～底部	口器	9.8 6.5	底	5.0		内面から体部外面下部飴釉。	瀬戸・美濃陶器
第449図 PL.250	6	陶器 碗	口縁～底部	口器	(9.6) 5.2	底	3.4		内面から外面体部下部まで灰釉。	瀬戸・美濃陶器
第449図 PL.250	7	陶器 小碗	床上 口縁～底部	口器	6.9 4.3	底	3.0		外面下部回転篦削り、内面から外面体部下部まで灰釉。	瀬戸・美濃陶器
第449図 PL.250	8	陶器 水注	竈 完形	口器	3.8 7.7	底	5.2		やや小振りで肩部から口縁部ややしまる、内外面鉄釉。	瀬戸・美濃陶器
第449図 PL.250	9	磁器 仏飯器脚	脚部片	口器	- (2.4)	底	4.0		短脚で大きく開く、外面施釉、底部円形の凹みのみ施釉、脚上部に染め付け横線。	肥前磁器
第449図 PL.250	10	陶器 すり鉢	口縁～底部	口器	27.6 10.15	底	10.8		内面15本１単位のスリ目、口縁外面から体部外面中位以下回転篦削り成形、底部回転糸切り後なで調整、内外面錆釉。	瀬戸陶器
第449図 PL.250	11	土製品 土製円板	完形	長幅	3.5 3.7	厚	0.35		薄手の円形土製円板、裏面に回転糸切り痕か。	
第449図 PL.250	12	砥石	完形	長幅	15.9 4.9	厚重	1.3 184	珪質粘板岩	使用により薄くすり減り中央が僅かにへこむ、裏面凹凸見られ、荒割時の剥離痕、櫛歯鑿痕残る。表面鉄分の沈着有り。	
第449図 PL.250	13	砥石	欠損	長幅	(12.7) 2.7	厚重	2.6 (140)	砥沢石	使用により薄くすり減り中央が僅かにへこむ、裏面凹凸見られ、荒割時の剥離痕、櫛歯鑿痕残る。表面鉄分の沈着有り。	
第449図 PL.250	14	砥石	床上 欠損	長幅	(8.4) 2.4	厚重	1.3 (42)	砥沢石	主使用面中央が高まり、裏面も使用。両側面に櫛歯状鑿痕。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第450図 PL.250	15	石臼 上臼	完形	径 幅	33.5 －	厚 重	15.0 21500	粗粒輝石安山岩	縁は低いがしっかりとした作り、供給口は1辺約4cmの方形に穿たれる。引き手差し込み穴はやや丸みを持った方形で1辺約3.5cm、軸受け穴は径2.3cm、深さ約3.0cmである。物配りの溝は三日月状で、歯挽き目については比較的良く残っている。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				特徴等	備考
第450図 PL.250	16	銅製品 キセル(雁首)	欠損	長 幅	6.2 1.7	径 重	0.9 4.6	やや細身、ラオ部の木質一部残。	
第450図 PL.250	17	銅製品 キセル(雁首)	床 欠損	長 幅	3.8 1.5	厚 重	0.7 3.0	火皿部分欠損。	
第450図 PL.250	18	銅製品 キセル(吸い口)	欠損	長 幅	3.7 2.0	厚 重	0.8 4.8	折れ曲がり、押しつぶされた状況。	
第450図 PL.250	19	銅製品 キセル(火皿)	欠損	径 0	1.6 0	厚 重	1.0 2.2	雁首の火皿部分。	
第450図 PL.250	20	銅製品 キセル(吸い口か)	床 欠損	長 幅	2.2 1.0	厚 重	0.9 2.8	吸い口部分の破片か。	
第450図 PL.250	21	鉄製品 鉈	ほぼ完形	長 幅	30.7 8.5	厚 重	3.1 461.2	柄の木部、口金、目釘残る、片刃直刃で棟部は厚みあり、石突きは長い。柄3.8、刃5.2、厚さ1.7cm。	
第450図 PL.250	22	鉄製品 鎌	ほぼ完形	長 幅	17.5 9.2	厚 重	2.5 145.9	柄2.3、刃3.0、厚さ0.4cm。	
第450図 PL.250	23	鉄製品 刀子？	竈内 欠損	長 幅	7.1 1.1	厚 重	0.2 5.2	刀子の茎部分か。	
第450図 PL.250	24	鉄製品 釘か	ほぼ完形	長 幅	5.2 1.4	厚 重	1.0 40.7	錆化顕著	
第451図 PL.250	25	銭貨	囲炉裏内 完形	径	2.25	厚 重	0.1 2.5	寛永通宝。	
第451図 PL.250	26	銭貨	完形	径	2.3	厚 重	0.1 4.8	寛永通宝。	
第451図 PL.250	27	銭貨	完形	径	2.3	厚 重	0.1 2.3	寛永通宝。背面「元」。	
第451図 PL.251	28	銭貨	欠損	径	2.4	厚 重	0.2 1.7	寛永通宝。	
第451図 PL.251	29	銭貨	一部欠	長 幅	2.5 2.52	厚 重	0.15 2.4	寛永通宝。背面「文」。	
第451図 PL.251	30	銭貨	欠損	径	2.8	厚 重	0.1 2.7	寛永通宝。錆化顕著。	
第451図 PL.251	31	銭貨	床 欠損	径	2.8	厚 重	0.1 2.4	寛永通宝。波銭。	
第451図 PL.251	32	鉄製品 鉄銭か	欠損	径	2.8	厚 重	0.5 3.6	錆化顕著。	

33号建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第452図 PL.251	1	磁器 碗	口縁～底部	口 器	9.4 5.0	底	3.9		外面雪輪梅樹。高台内不明銘。	肥前磁器・波佐見系
第452図 PL.251	2	磁器 碗	口縁～底部	口 器	8.0 5.9	底	3.5		外面草花文、口縁部内面2重圏線、底部内面1重圏線内に五弁花文。	肥前磁器
第452図 PL.251	3	青磁 青磁皿	掘方 口縁部	口 器	－ －	底	－		大形皿の口縁部か。	龍泉窯系
第452図 PL.251	4	陶器 すり鉢	掘方 底部	口 器	－ －	底	(18.0)		外面篦削り。底部外面板状厚痕。見込みすり目は使用によりすり減る。	堺・明石陶器
第452図 PL.251	5	石鉢	掘方 欠損	高 底径	(11.6) (16.0)	外径 重	(26.0) (1225)	粗粒輝石安山岩	肉厚で、口縁部やや丸みを有し、底は平らに仕上げている。煤の付着は見られず。	ヒデ鉢か
第452図 PL.251	6	石臼 上臼	欠損	径 幅	32.5 －	厚 重	15.7 (20100)	粗粒輝石安山岩	縁の作りはしっかりしている。供給穴は楕円形で長径約4.0cm、側面に引き手差し込み穴の下部のみ残る。ほぼ長方形で、残存部の大きさは3.5×3.0cm程である。下面、物配り溝の痕跡残る。歯挽き目摩耗顕著。軸受け穴は円形で、径約2.7cm、深さ2.5cm程である。完形であるが、厚みは均一でない。	
第453図 PL.251	7	石臼 上臼	掘方 欠損	径 幅	(34.0) －	厚 重	13.2 (8800)	粗粒輝石安山岩	縁は低く、中央部がややくぼむ、供給穴は楕円形で長径約4.0cm、物配り溝の痕跡残る。歯挽き目摩耗顕著。軸受け穴は径約3.5cm、深さ4.5cm。	
第453図 PL.251	8	石臼 上臼	掘方 欠損	径 幅	－ －	厚 重	(14.0) (15100)	粗粒輝石安山岩	半分に割れており、縁の部分は人為的に欠かれる、側面に引き手差し込み穴、物配り穴見られるが、欠損している。軸受け穴も欠損、径約5cm、深さ4.7cm。下面に歯挽き目見られるが、摩耗顕著。	

34号建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				特徴等	備考
第454図 PL.251	1	鉄製品 鉄滓	掘方 完形	長 幅	10.7 8.3	厚 重	3.3 286.3	椀型滓。	

36号建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第455図 PL.251	1	陶器 碗	口縁～底部	口器	(8.4) 5.5	底	(3.8)		外面に鶴、内面不明名。	瀬戸・美濃陶器
第455図 PL.251	2	磁器 小碗	口縁～底部	口器	(8.0) 4.0	底	3.5		外面文様不明、体部下部に圏線。	肥前磁器
第455図 PL.251	3	磁器 碗	胴～底部	口器	－ －	底	4.0		外面山水文、体部下部および高台部に圏線。	肥前磁器
第455図 PL.251	4	石臼 上臼	欠損	長幅	(19.7) (4.4)	厚重	(3.9) (610)	粗粒輝石安山岩	上臼縁の一部、上面ほぼ平らで外側は垂直、内側は傾斜。	

37号建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第456図 PL.252	1	陶器 碗	底部	口器	－ －	底	4.0		主文様は欠損、体下部および高台部に一重圏線。	肥前陶器・胴胎染付
第456図 PL.252	2	陶器 すり鉢	口縁部	口器	(26.0) －	底	－		口縁端部内面の突帯は明瞭。見込みすり目は使用によりすり減る。	堺・明石陶器
第456図 PL.252	3	陶器 すり鉢	底部	口器	－ －	底	10.0		仕様による摩耗見られる。錆釉。	瀬戸・美濃陶器

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				特徴等	備考
第456図 PL.252	4	銭貨	掘方 ほぼ完形	長幅	2.3 2.3	厚重	0.11 1.9	寛永通宝。	

石垣

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第463図 PL.252	35石垣 1	陶器 碗	口縁～底部	口器	(8.6) 4.4	底	4.0		口縁部外面に３条の凹線、内面から口演部外面貫入の入る灰釉、凹線部から高台内鉄釉。	瀬戸・美濃陶器 腰錆碗
第463図 PL.252	36石垣 1	陶器 碗	口縁～底部	口器	(10.0) －	底	－		いわゆる筒型碗、内外面錆釉、白濁した釉の垂れが見られる。	瀬戸・美濃陶器

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				特徴等	備考
第463図 PL.252	39石垣 1	銅製品 キセル(吸い口)	裏込め ほぼ完形	長幅	6.8 1.2 0.4	厚重	1.1 8.6	吸い口部細く、ラオが一部残る。	

土坑

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第464図	２坑 1	瓶	口縁部	口器	2.8 －	底	－		緑色の自然釉、表面にざらつき有り。	在地系

遺構外

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第465図 PL.252	1	磁器 皿	42-F-12 口縁～底部	口器	13.2 3.1	底	5.0		見込み蛇の目釉剥ぎ。見込みコンニャク判による五弁花。体部内面二重圏線と唐草文。	肥前磁器
第465図 PL.252	2	陶器 広口壺	42-E-12 口縁部	口器	(9.0) －	底	－		口縁部短く直立し、肩は丸く張る、肩部に掻き目文、内外面鉄泥釉。	瀬戸・美濃陶器
第465図 PL.252	3	磁器 青磁香炉	42-J-13 口縁部	口器	(11.0) －	底	－		外面から内面にかけて青磁釉を施す。	肥前磁器
第465図 PL.252	4	陶器 半胴甕	42-K-9 口縁部	口器	－ －	底	－		内外面灰釉、外面に花草文を描く。	瀬戸・美濃陶器
第465図 PL.252	5	在地系土器 内耳鍋	42畑 底部	口器	－ －	底	(14.0)		体部下部篦削り成形、内面なで。内外面黒色。	在地系、中世
第465図 PL.252	6	陶器 蓋	42-D-14 口縁部	径器	(8.0) －	底	－		全面に錆釉を化粧程度に掛ける。つまみ部欠く。	瀬戸・美濃陶器
第466図 PL.252	7	石臼 上臼	Ⅷ区 欠損	径幅	(32.8) －	厚重	14.3 (12400)	粗粒輝石安山岩	縁は高く断面台形、内部は平らで径約3cmの供給口見られるが、欠損している、側面には縦4cm、横約3.5cmの引き手差し込み穴が認められる。軸受け穴は径約5cm、深さは2cmとやや浅い。下面には物配りの溝が深く掘られている。歯挽き目よく残る。	
第466図 PL.252	8	石臼 下臼	Ⅷ区 完形	径幅	26.2 －	厚重	12.2 (11800)	粗粒輝石安山岩	上面に歯挽き目残る、軸受け穴は2.1cmと小さく、下面は方形に穿たれている。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				特徴等	備考
第466図 PL.252	9	銅製品 キセル(雁首)	42-J-10 欠損	長幅	5.6 3.1	厚重	1.1 8.3	火皿から強く曲がる。	
第466図 PL.252	10	鉄製品 釘か	42-M-4 欠損	長幅	3.1 0.5	厚重	0.6 4.4	錆化顕著。	
第466図 PL.252	11	銭貨	42-Q- 5 完形	径	2.4	厚重	0.1 2.9	寛永通宝。	
第466図 PL.252	12	銭貨	Ⅷ区 完形	径	2.75	厚重	0.17 4.4	寛永通宝。波銭。	

３．Ⅸ区から発見された遺構と遺物

Ⅸ区は過年度に調査を行ったⅡ区とⅢ区の間の工事用道路両脇部分で、北側は斜面地、南側は傾斜が終わる僅かな平坦部分と、さらに東側の谷部分が多くを占めている。調査は僅かに残る平坦部分を中心に10カ所のトレンチを設定して行った。

調査の結果、南側平坦部では天明泥流下の畑が確認され、道路を挟んだ北側にも僅かに畑を確認した。
道路南側の畑は、平成20年度に調査を行ったⅢ区で確認されている、畑の続きであると考えられる。

４号および７号トレンチで確認した畑については、畝方向はほぼ東西で、湧水が多く、残りはあまり良好ではない。７号トレンチにおいても畑を検出したが、残りは余り良くなかった。さらに５～９号トレンチにおいても泥流下の畑が確認されたことから、ここ東宮遺跡では、かなりの斜面地も耕作地として利用されていたことが明らかとなった。

（１）畑

１号トレンチ（第468図）
位置　51区Ｎ・Ｏ－17・18グリッド。
遺物　無し。
所見　表土とその下層にある泥流混土を含め、かなりの攪乱を受けていたために、一次堆積による泥流、およびAs－Ａは確認できず、明瞭な畑については確認できなかった。

２号トレンチ（第468図、PL.248）
位置　60区Ｘ・Ｙ－20・21グリッド。
遺物　無し。
所見　有機質土で未分解の植物を多く含む軟弱な土質であった。湧水が著しく天明泥流､畑は確認できなかった。

３号トレンチ（第468図、PL.248）
位置　60区Ｖ・Ｗ－21・22グリッド。
遺物　無し。
所見　２号トレンチ同様、有機質土で未分解の植物を多く含む軟弱土質であった。湧水も著しく泥流、畑は確認できなかった。

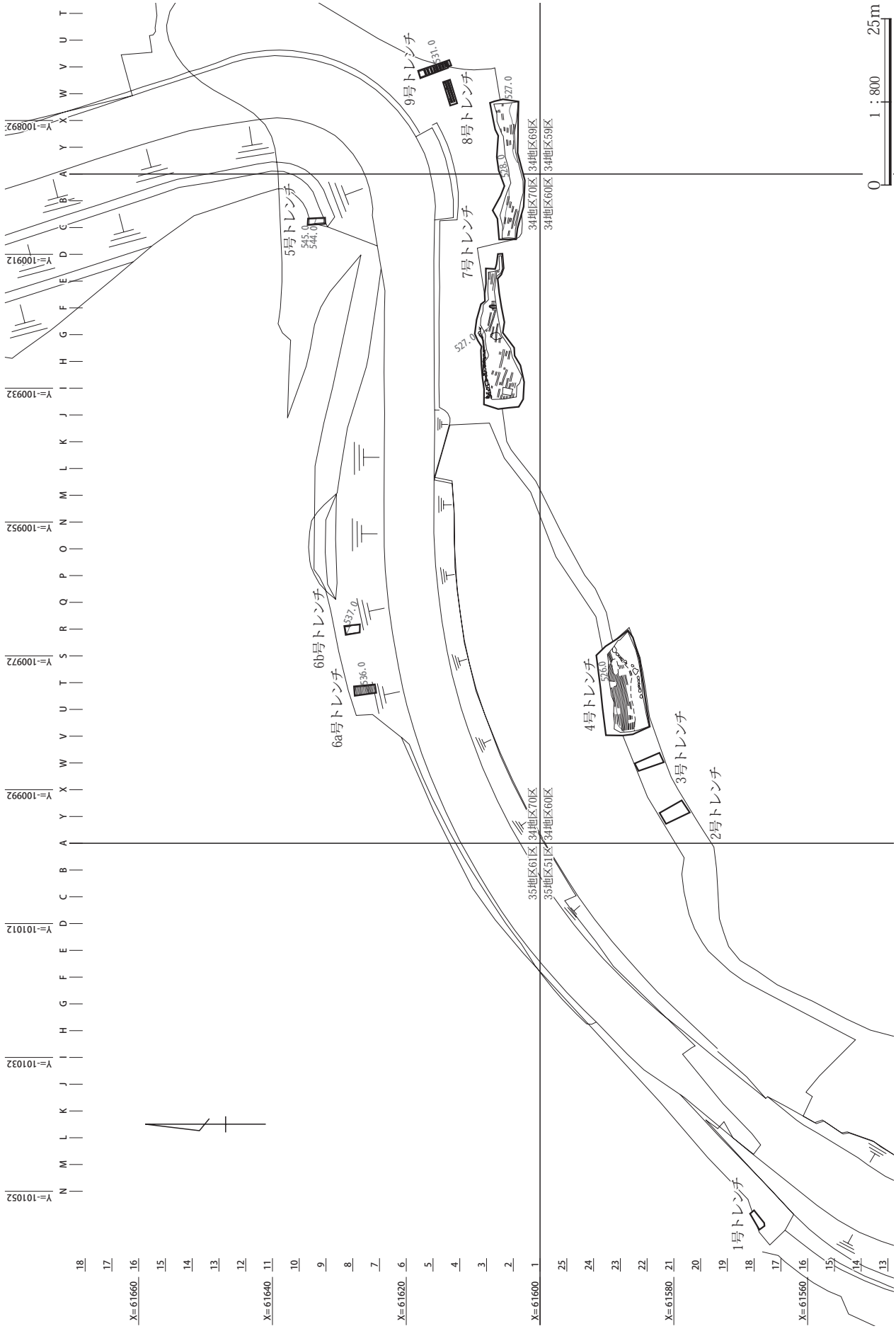
４号トレンチ（第468図、PL.248）
位置　60区Ｒ～Ｕ－22・23グリッド。
主軸方位（畝方向）Ｎ－100°－Ｗ。
遺物　無し。
所見　２、３号同様、湧水が多かったが、段差を有す場所の下段部に天明泥流を確認、部分的にAs－Ａに覆われた畑を検出、やや南に傾斜を持ち、畝は僅かに弧状を呈す。南端部に崩れた石列が認められ、畑境に構築された石積みの区画境であろう。

５号トレンチ（第469図、PL.248）
位置　70区Ｂ－９グリッド。
遺物　無し。
所見　傾斜地内の比較的緩やかな場所に設定、天明泥流は認められず、比較的浅い場所で礫混じりの基盤層に達する。遺構は認められない。

６ａ号トレンチ（第468図、PL.248）
位置　70区Ｔ－７グリッド。
重複　無し。
主軸方位（畝方向）Ｎ－103°－Ｗ。
遺物　無し。
所見　進入路工事により掘削された斜面の、上段際に設定、表土は浅かったが、下位に天明泥流、As－Ａが残る畑を検出。畝はほぼ東西方向に作られ、残りは比較的良好であった。

６ｂ号トレンチ（第468図）
位置　70区Ｑ・Ｒ－７・８グリッド。
主軸方位（畝方向）　－。
遺物　無し。
所見　６ａトレンチの東側、約８ｍの場所に設定、部分的に残る泥流は、残りが悪く攪乱を受けており、As－Ａが僅かに確認され、かろうじて、東西方向の畝の痕跡が認められた。

７号トレンチ（第469・470図、PL.248）
位置　69区Ｗ～Ｙ・70区Ａ～Ｉ－１・２グリッド。
主軸方位（畝方向）　Ｎ－80°－Ｗ。
遺物　燈明皿。


0
1：800
25m
9号トレンチ
8号トレンチ
7号トレンチ
5号トレンチ
6b号トレンチ
6a号トレンチ
4号トレンチ
3号トレンチ
2号トレンチ
1号トレンチ
34地区69区
34地区59区
34地区70区
34地区60区
35地区61区
35地区51区
X=61660
X=61640
X=61620
X=61600
X=61580
X=61560

第467図　Ⅸ区全体図

所見　傾斜が終わった平坦部に設定、東西に２か所を設定、両トレンチにおいて畑が確認されたため、いずれも拡張調査を実施した。泥流は比較的残ってはいたが、検出した畑については、畝の状況はあまり良好ではなかった。

畑が途切れる山際には、石垣が見られた。検出した東西方向の畝はかなり荒れた状態で、所々が途切れている状況であった。

８号トレンチ（第469・470図、PL.248）

位置　69区Ⅴ・W－４グリッド。

主軸方位（畝方向）　N－110°－W。

遺物　無し。

所見　７号トレンチの北東部一段高くなった場所に設定、南東側は谷となっており、狭い僅かな平坦部である。

表土は角礫を含む崩落土で、近代の水路が検出された。その下部に泥流およびAS－Ａに覆われた畑を確認した。畝はトレンチと同方向に走り、かなり良好な状態で残っていた。

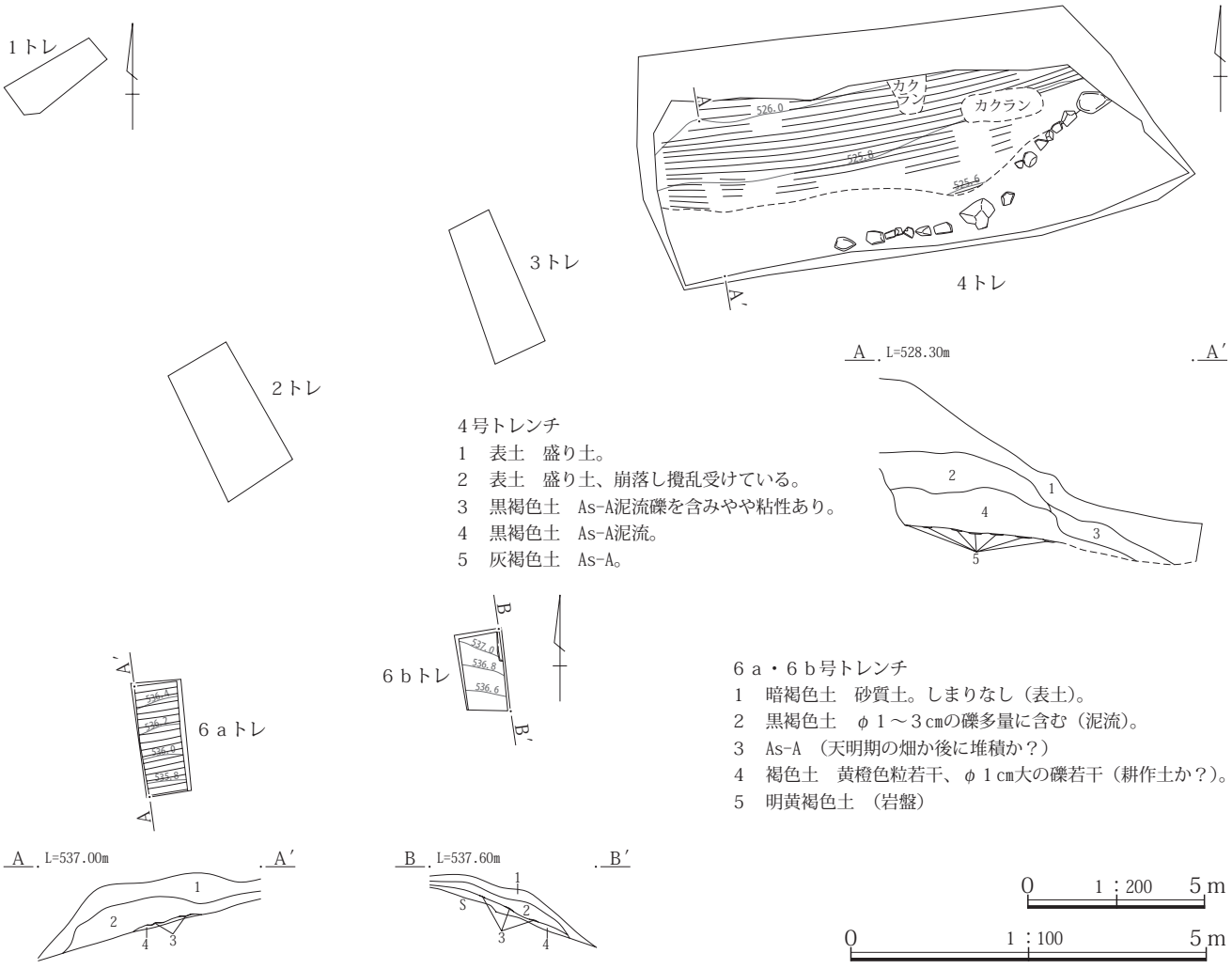
９号トレンチ（第469・470図、PL.248）

位置　69区Ｕ・Ⅴ－４・５グリッド。

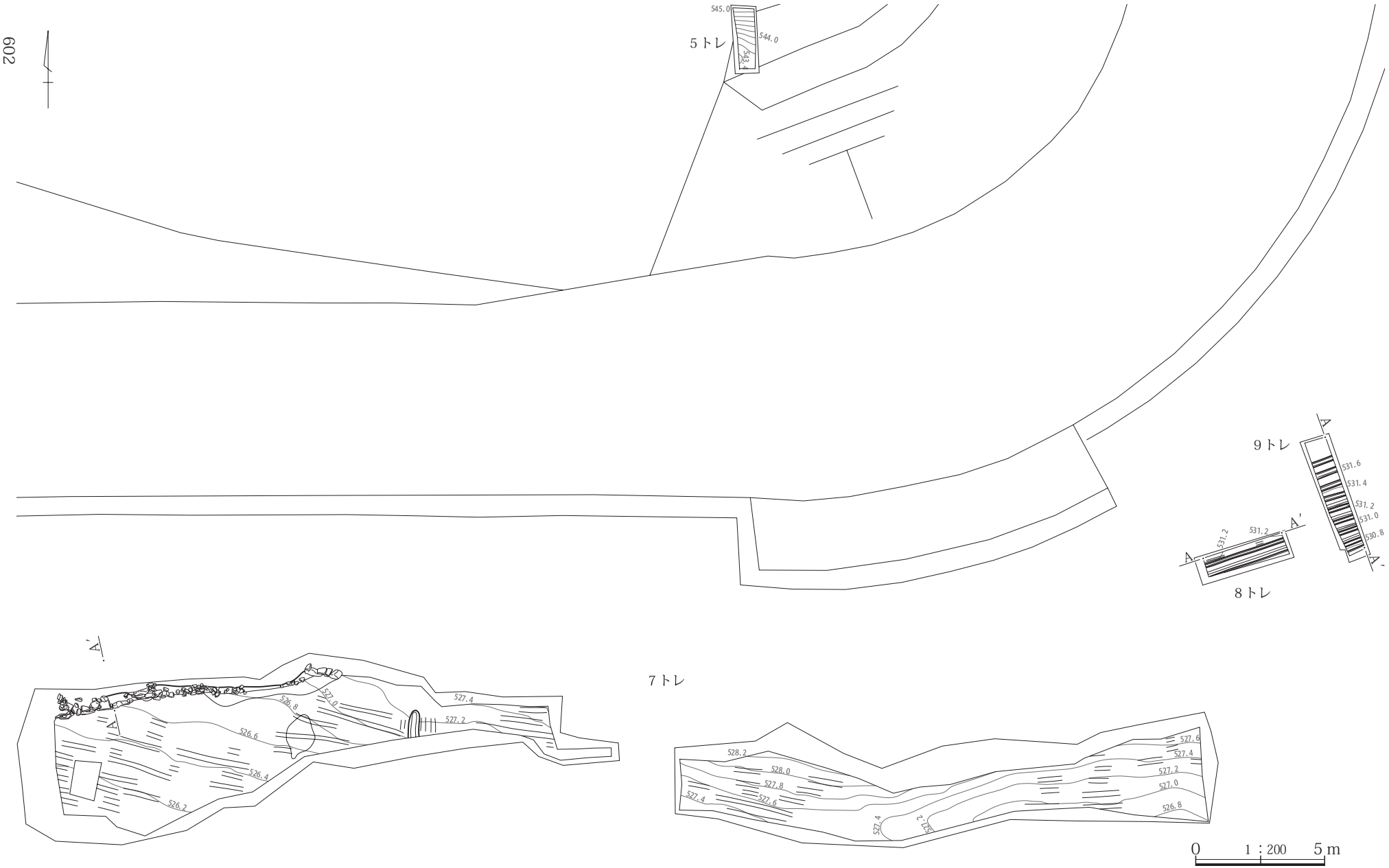
主軸方位（畝方向）Ｎ－110°－W。

遺物　無し。

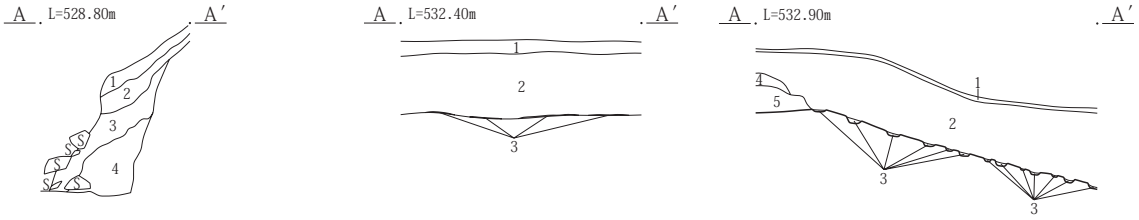
所見　８号トレンチの東２ｍの位置に、直交方向に設定した。表土以下、埋没状況は８号と同様で、良好な状態の畑を検出、畝方向は８号とほぼ同じで、形状も似ていることから、同一の畑とみられる。



第468図　Ⅸ区トレンチ（１）



第469図　IX区トレンチ（２）

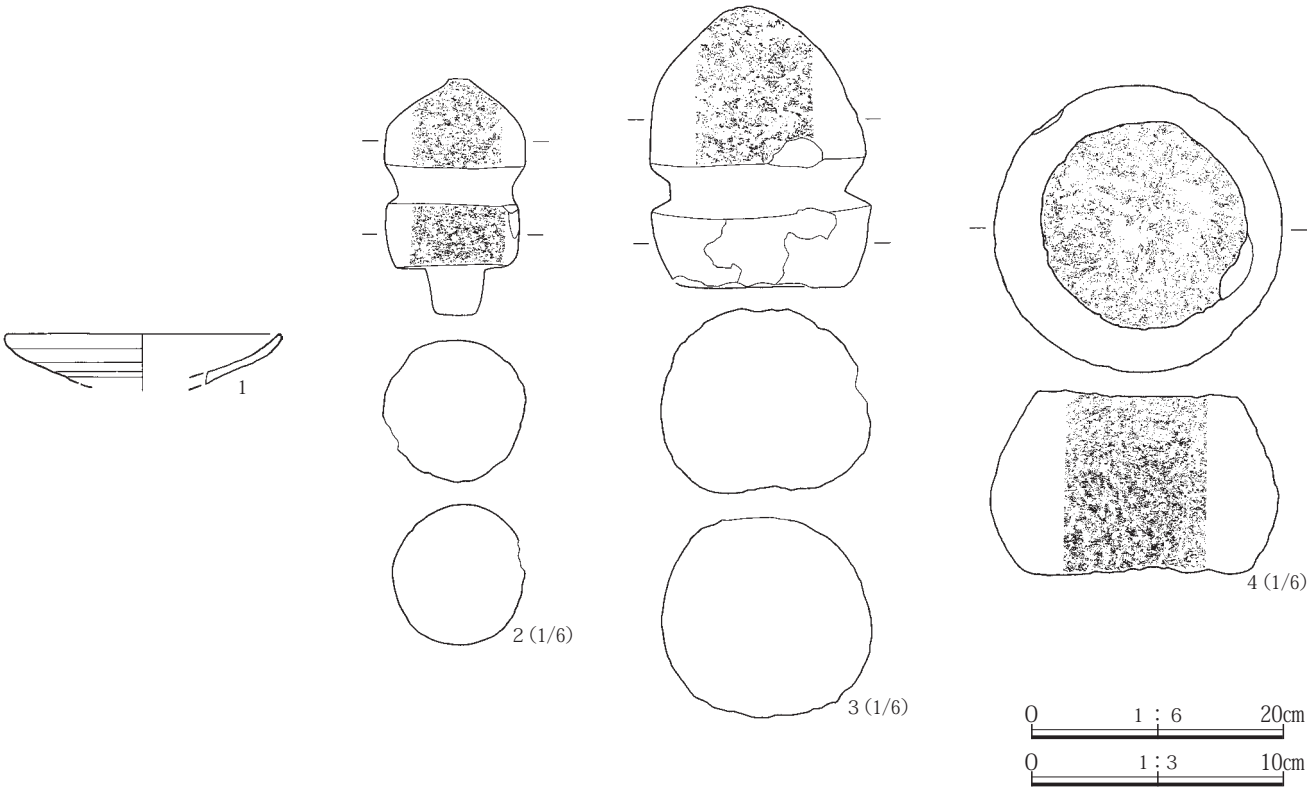


7号トレンチ
1　褐色土　（表土）
2　黒褐色土　浅間石を含む礫多量に含む（泥流）。
3　暗褐色土　φ５～10㎝の礫多量、黄橙色粒少量含む。
4　黒褐色土　φ３～10㎝の礫多量、黄橙色粒多量、しまりあり。

8・9号トレンチ
1　表土
2　暗褐色土　φ５～20㎝の礫少量、浅間石も含む（泥流）。
3　As-A
4　褐色土　砂質土　φ１～３㎝の礫少量含む（耕作土か？）。
5　黒褐色土　φ１～10㎝の礫多量に含む。

0　1：100　5m

第470図　Ⅸ区トレンチ（３）



第471図　Ⅸ区遺構外出土遺物

第14表　第１面　Ⅸ区　遺物観察表

遺構外

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第471図 PL.252	1	陶器 灯明皿	7トレ 底部	口器	(10.8) －	底	－		錆釉施釉。	瀬戸・美濃陶器
第471図 PL.252	2	五輪塔 空風輪	表土 完形	長径	19.0 11.3	厚重	－ 2460	粗粒輝石安山岩	中央にくびれ溝、宝珠部分外周削り有り、ホゾは円柱状で端部はやや丸みあり。	
第471図 PL.252	3	五輪塔 空風輪	表土 完形	長径	22.5 16.4	厚重	－ 6800	溶結凝灰岩	宝珠部分先端部尖る、一部に不定型な凹みあり。溝は広く深い、風輪部は下部がやや小さく作られ、底部は平らで、ホゾは無い。梵字見られず。	
第471図 PL.252	4	五輪塔 水輪	表土 完形	長径	14.9 22.9	厚重	－ 10900	粗粒輝石安山岩	上下面は平らに成形、上面部の径がやや小さく作られる、中央やや下で最大径を示す。文字等は見られず。	

第４章　調査成果とまとめ

平成27(2015)年度以降の東宮遺跡Ⅴ～Ⅸ区における発掘調査では、それぞれの調査区から、第１面(近世、天明泥流下)の遺構が、Ⅴ・Ⅵ・Ⅷ区から第２面(中近世)、Ⅴ・Ⅷ区から第３面(縄文時代後期)と第４面(縄文時代中期)の遺構と遺物が確認された。このうち、Ⅴ～Ⅷ区第１面とⅤ・Ⅵ区第２面については、『東宮遺跡(４)』2018にて報告済みである。

よって、本書においてはⅧ・Ⅸ区第１面、Ⅷ区第２面、Ⅴ・Ⅷ区第３面および第４面について、平成28～30年度(一部31年度調査分を含む)調査成果およびまとめを行うこととする。

第１節　江戸時代の調査成果とまとめ

１　第１面の調査成果とまとめ

Ⅴ区の１面については、一部未調査地として残っていた電柱敷部分の調査を行い、平成28年度に調査した遺構の一部である畑と溝を検出した。

Ⅷ区ではかなり起伏の見られる地形に、過年度に調査が行われた建物の続きである、32～38号までの７棟の建物を確認したが、33号については、かなりの削平を受けており、建物と確認することはできなかった。

これらの建物の他、畑、石垣、切石石組遺構、復旧坑等を検出した。

建物(屋敷)は旧町道に沿うように、作られていた。町道下の調査では、当時の道と側面石組の溝が確認された。

検出された道は、現在の道をトレースする形で作られていることが確認できた。

検出された建物の内訳は、主屋と考えられるものが、32号建物、36号建物、倉と考えられるのが、35号建物、33号建物で、他は付属屋ないしは作業小屋と考えられる。

32号建物は単独の屋敷として考えられる要素を持っているが、36号建物は道を挟んで位置する１号屋敷(東宮遺跡(２)2012)の付属屋と考えられる。この１号屋敷に付帯する建物としては、38号建物の他、同じく道を挟んではいるが、33号建物(倉)および37号建物も作業小屋の可能性が高い。

35号建物は小規模ながら、切り石を持った構造、内部の集石などから倉と考えられる。32号建物とは位置的に関連は薄く、むしろ、道を挟んで平成26年度に調査が行われた、４号屋敷に関連する倉と考えるのが妥当であろう。

畑

検出された道に沿って建てられた主屋や倉の周辺に検出された畑は小区画で、Ⅰ・Ⅳ区の建物周辺の畑に似る。自家消費用の作物用と考えられ、東側の吾妻川までの範囲については比較的大きな畑が広がっている。

今回の調査で確認された建物群は、東宮遺跡における東端の居住部を確認できたといえる。

また、36号建物の北東端については、溝、畑が確認されたものの、建物類については、検出されず、やや傾斜を持って低くなっていることから、居住域からは外れた場所と考えられる

石垣

各建物の東側は畑境に石垣を設けている、また、32号建物の北東部に作られた石垣は、やや雑な作りで、使用されている石も地山礫が多く、一部崩落が見られたが、かなりの高さを有し、東に行くほど高く作られていた。

泥流埋没後に掘られた復旧坑は、これら石垣の際まで確認されている。

石垣に関しては、39号石垣が注目される、当初泥流除去直後には、石垣の両端部分のみ確認された状況が見られ、37号建物の東側にあり、建物の敷地を画するように、部分的に屈曲が見られ、中央部分が途切れているように観察された。さらにこの途切れた部分から東側に膨らむように張り出した部分が見られ、高さ1.4m程のマウンド状を呈していた。

マウンド上面の北東部分にＬ字の小規模な石垣が確認されている、この石垣を通る東西方向のわずかに窪む道状の遺構も確認されている。マウンド上および斜面部にも部分的に畝サクが見られたことから、泥流直前には狭いながらも耕作地として利用されていたことが窺える。

このマウンドと石垣との関連を調べるために、立ち割

を行なったところ、途切れていると思われた部分に、高さ1.6mもの石垣が構築されていることが判明した。

石垣はマウンド部分でほぼ完全に埋められていたのである。堆積土の観察では、上層部には若干の焼土を含む耕土と見られる土が見られ、下層部のほとんどは攪乱された土で一気に埋められた状況が看取されている。

検出した石垣はほぼ垂直に積まれ、裏込めもしっかりとなされており、積まれた石に風化や崩れなどが全く見られないことから、構築後まもなく埋められたものと考えられる。

埋められた理由については、現在のところ明らかではない。

１号切石石組遺構は45号畑の北西端、道寄りに作られている、1.2×1.5m、高さ0.35mの切り石をほぼ方形に組んだ遺構である、基礎には手前側に２石を置き、上面を水平に保っている。切り石の外面は平らに削った面で組まれているが、内面は自然面を残し、ひし形状に穴が開いており、泥流主体の砂礫混土、小礫が入り込んでいた。

遺構は畑の端に作られているが、一部入り込んだ位置に在り、畝は直近にまで作られている。道との間には通路状の隙間が確保されていることなどから、何らかのこの地域における信仰対象物が置かれていたことが考えられる。

畑は建物近くに作られたⅧ区および他区の畑は小規模なものが多く、大区画の畑はⅢ・Ⅴ・Ⅵ区の畑とⅠ・Ⅳ区の建物からやや距離のある畑に似る。

以上の調査結果からⅧ区において検出された一連の建物は、すでに調査が行われたⅠ・Ⅳ区の集落の続きであり、東宮集落の街道沿い東端の様子が明らかになった。

２　第２面の調査成果とまとめ

Ⅴ区の２面で検出された遺構については、浅く不定形な土坑群が部分的にまとまって検出された。Ⅴ区およびⅧ区２面の遺構に関しては、連続する状況が見られる。

さらに第400図に見られるように、西から東に向かう緩傾斜地に土坑、ピット群が広がっていることが看取される。

Ⅷ区において検出された畑はⅧ区の西側と北東側の傾斜の裾野部分に見られる。

走行は南東方向である、いずれも残存の状況は悪い、畑を覆う砂質土であり、洪水による流出砂土と見られる。

土坑の多くは浅く、いずれも不定長円形を呈すものがほとんどで、部分的に集中して分布する傾向が見られる。遺物もほとんど見られない、時期は近世に帰属するものが多いとみられるが、一部に焼土を伴い、礫を伴うもの（129号土坑）もあり、中世に遡る可能性を残す。

ピットについては、東宮遺跡（４）に多くを報告しているが、本書においてもⅤ区の追加ピットを多く記載している、そのほとんどが近世に帰属するものと考えられる。時期に関しては不明なものも多い。

これらのピットに関しては、径20～25㎝で深さは、10～30㎝を超えるものと多様である。いずれも出土遺物に関しては、縄文土器片を伴出するものも見られるが、多くは混入したものと考えられる。ごく一部に、青磁片、須恵器片を伴っているものが存在しており、時期認定の参考となる。

また、これらのピットについては、その分布に規則性は無く、建物等の柱穴である可能性は低い。

さらに、重複するものもほとんど見られず、ごく短期間に掘り込まれたと考えられるが、用途、性格については不明である。

Ⅴ区では、平成28年度、一部未調査部分として残されていた電柱敷き部分の、２面において、１面の溝の下位に並行して暗渠状の溝が検出された、この溝は28年度に調査が行われた25号溝の延長部にあたる。また、この溝に合流して検出された11号溝（平成28年度調査の続き部分）は、礫を並べた上に蓋状の礫を被せた暗渠構造を示す。合流部には大きな平石が置かれていたことから、両遺構は同時に構築されたものと考えられる。

水場遺構について

Ⅷ区において検出された特異な遺構としては、水場遺構があげられる。１面調査後下面の調査時に確認した。検出された場所は、緩やかな舌状に北東へ張り出した場所の南側基部に位置する。傾斜自体は東に下がっている場所であるが、遺構の軸は北東に向けて作られていた。

１号暗渠の北東部に、板を方形に組んだ桝状のものが大小２つ並ぶように作られている。

暗渠からの水を一時的に溜め、利用していたことが考えられる。時期は江戸時代である。

この場所は伏流水が多く、調査時にも湧き出す水に悩まされた場所でもあり、当時の人も湧水の処理には様々な工夫が要求されていたものと考えられる。
事実、暗渠と見られる礫を多く含む溝状遺構が、北東方向に複数検出されている。東側に続くＶ区においても多くの暗渠構造の溝が確認されている。

同面の調査では、Ⅷ区においては、複数の焼土遺構が検出されているが、ほとんどは時期、用途不明なものが多い。その中で、１号焼土については、長円形の掘り込みに焼土と炭化物、礫が確認された。出土遺物は土師器甕の破片が出土している。平安期の竪穴建物の竈の可能性も指摘しておきたい。

第２節　縄文時代の調査成果とまとめ

１　縄文時代の遺構検出の経緯

東宮遺跡における最初の調査は、平成８年度に進入路の建設に伴う調査が行われ、小範囲部分ではあったが、天明泥流に埋没した江戸時代の畑が確認された。

この結果から、東宮遺跡においては、広く天明泥流下の遺構の存在が予想されていた。

その後、平成19～21年度に比較的広範囲にわたる調査が行われ、天明泥流によって埋まった当時の建物を始め道、水路、畑等が検出され、遺構に伴って多くの生活具なども発見されたことから、大きな話題となった。

さらに平成26年度には、村の中央を走る道に沿って広がる畑が広く調査され、当時の村の様子を知る貴重な発見となった。こうした発見から、東宮遺跡に関しては、天明泥流に埋没した江戸時代の集落遺跡という、認識が強く持たれていた。

平成27年度に、今回報告する、Ｖ区東側の一部で国道拡幅に伴う調査が行われ、やはり天明泥流下の畑を検出、さらに下面の調査を行ったが、明らかな遺構に関しては確認されなかったものの、縄文土器の出土を確認している。

今回の報告対象である、Ｖ区は江戸時代の村落、建物がまとまって確認された当時の村落中心部からはやや外れた、東に向かいやや低くなった、吾妻川寄りの河岸段丘上に位置する。

平成28年度に調査が開始され、調査区ほぼ全面において、天明泥流に埋まった江戸時代の畑、および復旧坑が検出された。

さらに下面の調査では、やはり江戸時代に行われた、造成工事の痕跡、建物、ピット、墓坑、溝などが検出された。その後、さらに下面の調査を進めた時点で、調査区の西寄り部分において、縄文時代の列石の一部である、礫の並びや土器の集中部の確認、さらには竪穴建物、配石等が検出され、縄文時代の遺構の存在が明らかになった。

調査期間もないことから、翌年度の調査に向けた確認調査を１月の冬場に実施し、東側に複数の列石の存在や新たな配石を確認した。

平成29年度になり、３面および４面の縄文時代の調査を本格的に開始した。

調査区での主要な遺構である列石は、大規模なもの３列を確認し、それぞれに関連する、竪穴建物や配石が付帯して確認された。

調査を進める中で、列石、配石を構築する以前の竪穴建物も多く存在していることも明らかになってきた。列石を作る際に壊されたものも含め、竪穴建物が複数確認されている。

２　列石

Ｖ区においては、規模の大きな主要列石は、比高を有し３列が確認された。

それぞれの列石が作られた地形は、東に向かい緩やかに傾斜を有し、列石は等高線に載る状況でおおむね、同心円状に構築されている。それぞれの列石の上段と下段部の比高は約１～0.6mで、上段側程高低差を有す。列石間は、ほぼ平坦な空間が作り出される形となっている。それぞれの列石と列石の距離は、３号と５号は約８m、５号と６号の間は約16mを測る。

各列石は一見すると、同じような構造、形状に見えるが、詳細に観察してみると、個々の礫の積み方、大きさ走行、形状が個別部分によって違いが認められる。

列石の主軸方向については、比較的直線に近く作られている部分は、ほぼ北に向いており、弧状部分は北から約30°東に向いている。

３号列石については、付帯する竪穴建物の構造に取り込まれている部分と、列石本体の部分の区別が難しい部分が多く、特に北側については、竪穴建物が列石とつながる場所の構造は判別しがたいといえる。この部分に関し

ては、列石の幅が広く下段部には複数の配石が作られており、明らかに列石構築時に作られたと思われるものが多く存在する。

写真１

また、列石の構築法に関し、３号については、竪穴建物に関連すると思われる礫および列石を構成する上部の礫を取り除くと、基部の構造が明らかになった。

この構造から、列石を作るにあたって、最初の作業工程として観察される。

列石を構築する時点では、かつて作られていた、中期の遺構については、度重なる山崩れによる砂礫層により、埋没していたと考えられ、東に緩やかな傾斜を持つ地形が広がっていたものと想像される。

列石を作る最初の工程は、まず列石の位置を決めたものと思われ、当然付帯する竪穴建物との位置関係も決めていったものと考えられる。

次に列石の基礎部分の作り方であるが、検出された部分の状況から、まず、地山をほぼ垂直に切り土し、比較的大きな礫、複数面に平らな面を持つ、座りの良いものを選び、直線的に横に配列し、それぞれの石の上にやや小ぶりの礫を敷きならべ、ある程度上面を平坦にするという意識があったものと考えられる、石垣状の基礎構造としている。（写真１）

これら基礎部分の列石は基本的には直線を連続した様子が見られる。

これらの上にのせられた礫については、付帯して作られた竪穴建物や配石遺構等を構築する際に、用いられた礫が、繰り返して積まれた結果、最終的な列石構造が作られたものと考えられる。

こうした視点で、列石の構造を見ると、図に見られる様に、部分部分で形状に違いがある、直線的な部分や弧状を呈す部分、幅に関しても広狭が見られる。

こうしたことからも列石、特に３号列石に関しては、基礎部分はほぼ同時に作られたが、その後に徐々に作り足されたものと考えられる。

列石を含めた遺構の残存状況を見ると、調査区の南西半分は、東および南東部に比し標高にして１～２m以上高くなっており、28年度の調査においても縄文の遺構検出は少ない、列石部分は残りも悪く、礫も点在して確認された状況である。列石を覆う土に関しても、北東側と比して、１m近い厚さの違いが認められる。

次に５号列石についてその構造を考えて見たい。

３号列石の東側に作られたもので、ほぼ平行に構築されている、列石間の間隔は北側がやや広く、約８mで、南側は約５mである。

この５号列石の形状に関しては全体には僅かな弧状を呈す北半分と、比較的直線的な南側とに分かれる。さらに特徴的な構造として、南側に作られた鈎状の構造が注目

写真２

される。（写真２）直線的な作りの端にひときわ大型のやや平坦な角礫が置かれ、この南側が西に張り出した鈎状になっており、礫の積み方も異なっていた。

この鈎状構造の南側に延びる列石は直線的な作りで、検出された礫は一段積みで、３号列石の基部構造に近似する。

この列石は鈎状構造から６m程で終わっていた。

削平されたことも考えられるが、構築当初もここで終わっていた可能性が高い。

さて、前述した鈎状構造について考えてみたい、明らかに何らかの意図をもって作られたものであることは明らかであろうが、精査を行う中で結論は得られなかった。下部にも明確な土坑や遺物は見られなかった。

西側の３号列石にはこうした構造は見られない、９号、10号配石がやや離れて位置しているが、関連性は不明である。３号列石の西に１号竪穴建物がほぼ軸線を同じくして検出されているが、詳細は不明である。

写真３

鈎状構造右側に据えられた大型の礫（写真３）は重さが350kgを超えていたが、この礫の下には平坦な礫が置かれ

写真４

た状態で出土しており、石の上面は磨り面として使用された痕跡があり極めて平滑な面が認められている。（写真４）

本文中でも述べたが、この大型礫に関しては、写真にも見られるように、列石上に斜めに覆うように検出、下部は一部が地面に入り込む状況を示していることなどから、列石の上下間を行き来するための通路として機能していた可能性を指摘しておきたい。

さらに、５号列石の構造を概観してみると、全体的にはかなり崩れた部分もあり、判然としない部分も見られる。３号との違いは付帯する竪穴建物が少なく、配石も極めて少ない点が指摘できる。

列石の北端部に風倒木が重複しており、かなり壊されている。列石の北端は３号とほぼ同一位置で終わっていることも注目される。

また、端には平石が並んだ19号配石が存在する。

列石構造については、列石を構成している上部の礫を取り除いたところ、下部にほぼ等間隔に置かれた、やや長

写真５

さのある大型礫が確認された。（写真５）

これらの礫は、川原石ではなく、地山中より掘り出された礫と見られる。

何れも列石の掘方下段部に中心方向に向かって横倒しの状態で出土している。

それぞれの礫の間隔はおよそ５～６ｍで、列石構築時の起点としての用をなしていた可能性がある。

最も東側に検出された６号列石は、５号列石からは東に約17～20m離れて作られている。緩く弧状を呈し礫は不規則に並び幅広の構造であるが、北側は礫が少なくなっており、ほとんど礫のない部分があり、さらに北側には竪穴建物に伴う列石が伸びている、その先については未調査のため不明である。

列石間の平坦部はかなり広く取られ、平坦に整地された様子も窺え、配石等の遺構もないことから広場的な空間として意識されていた可能性が高いと思われる。

６号列石の東側については、調査範囲内において列石は確認されなかったが、複数の配石遺構が点在していた。これらの配石は３号列石などに見られた列石に付帯するものとは位置、構造が異なっている。列石からは離れており、比較的規模が大きく作られている。特に29号配石は複数の川原石を平に敷き西側に立石を持つ構造で、列石の弧状中心部線に軸方向が沿っている点が注目される。

列石に用いられた礫について、地山中の礫も多く使われているが、川原石も少なからず使われている、こうした川原石は東を流れる吾妻川から運ばれたことは想像に難

くない。
これらの列石に使われた礫について、確認された５号と６号列石の石について重量を計測した結果について述べておく。

それぞれに使われていた石の総点数、総重量は５号が609個、総重量14264.8kg(14.265t)、６号が922個、総重量9340.9kg(9.341t)であった。

計測した石については明らかに列石の構築材と考えられるもので、およそ0.5kg以下のものについては除外した。

また、一部調査途中で除去されてしまったものもあり、必ずしも構築時の状況でないことを了解願いたい。
使用された石の平均重量は、５号が23.42kg、６号は10.13kgと２倍以上の差が認められた。

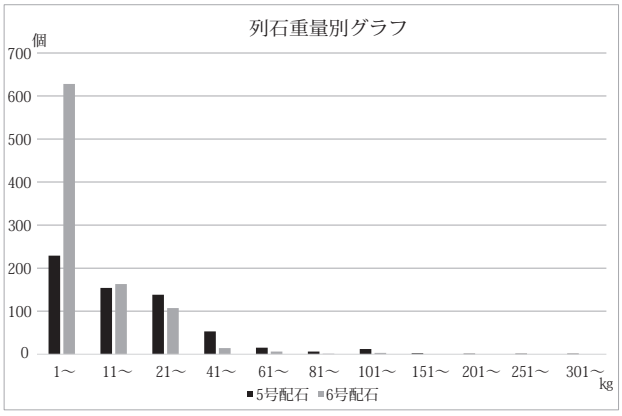
重さ100kgを超える石の数を見ると、５号列石が18個であるのに対し、６号では３個と少ない。６号列石に使用された最も重い石は、列石の東に近接する24号配石に用いられたものである。

また、５号列石中において最も重い石は、本文中でも触れているが、鉤状張り出し構造の右に置かれていた角礫で352kgを測る。

さらに、100kg超えの礫は、列石中に在って、配石(立石)としたものや、列石下部にほぼ等間隔に置かれていた石などである。

列石の規模、形状も異なっており一概に比較は難しいが、礫の選別は、列石の構築目的や構造の違いが表れているとみられる。

以下に５号・６号列石の重量分布グラフを示す。明らかに６号に使われた石数は多いものの、小振りなものが多く使われていることが窺われる。



最後にこれらの列石の作られた時期についてであるが、列石中の土器や覆っていた土層の観察から、６号→５号→３号の順が考えられる。６号列石の東側にはいくつかの配石遺構の存在が確認されているが、その東側は調査区外となっており、状況は不明であるが、西側の列石の在り方から想像するに、６号と同時期あるいは一段階古い列石の存在も考えられる。

それぞれの列石に付帯する竪穴建物の時期もほぼ合致している。

３号列石の上位には複数の竪穴建物が並んでいたものと思われる。さらに下段部にも５号列石との間に竪穴建物が存在していたのであろう。列石及び竪穴建物は５号と３号はほぼ同時期あるいは、わずかな時間差で構築されたものと考えられる。

３　配石

東宮遺跡における配石については、先述した列石との相互関係が窺われ、これらの列石に伴う配石についても初出は同時と考えられる。竪穴建物に関しては複数回の建て替えや拡張あるいは縮小などが確認されていることから、継続的に部分的な作り替えや、付け足しが考えられ、配石なども新たに作り足されたものが存在すると考えられる。配石遺構は31基を確認したが、このうち２基(12号、30号配石)は竪穴建物の関連部分として欠番とした。

これら配石については、個々の前後関係については明らかにし得ないものの、列石下部に礫を共有する形で作られたものに関しては古く位置付けられよう。

配石の分布を概観してみると、３号列石に付帯するものが多く見られ、丸石、立石を伴うものが複数作られている。配石の総数30基のうち、19基が列石中、あるいは列石下辺部に接して構築されており、数基がやや離れて位置する。このように多くが３号列石に伴っており、なおかつ列石北半分に集中して作られている。

５号列石については、先述した鉤状遺構と、北端部に19号配石が見られ、列石中に立石と思われるもの２基が検出されたに過ぎない。

６号列石の東側には複数の礫を円形、方形、不定形に配した配石が点在し、３号・５号列石に付帯して確認された配石とは、形態も異なっている。

これらの配石は６号列石と有機的な関連を持っていたものと考えられる。列石は時間的には３号・５号に先行して作られたものと考えられる。列石中には配石と思われるものは見られず、唯一24号配石とした、大型礫とこれを囲う礫を持つ遺構があるが、列石を挟んで西側に位置する18号竪穴建物との関連が強く考えられる。

６号列石の作られた場所は、度重なる山崩れによる砂礫土により埋没が進み、新たな列石をより高い西側に構築していったものと考えられる。

このことから、列石の東側に位置する、27・28・29・31号配石は６号列石とともに古く位置づけられる。

配石の構造は大きく次のように分類できる。

１類. 比較的大きな丸石を中心に置き周囲に礫を多重に巡らす。

２類. 立石の基部に礫をめぐらす、手前に平石を置くものもあり。

３類. 礫を方形あるいは規則的に配置するもの

４類. 礫を一部直線的に配すもの

５類. 礫を不定形に配すもの。

６類. 大きな礫を置き周囲に礫を巡らすもの。

配石１類、２類は圧倒的に３号列石下縁部に並ぶように作られたものが多く、他の列石にほとんど見られない。２類とした立石を持つものは、根元を礫で方形に囲い、手前に平らな石を据えるものがある。

３類としたものは９・10号等である、列石とはやや離れており、川原石を方形または並列に配す。４類は19号配石が相当する、立石などは見られず、やや扁平な川原石を直線的に並べる。

５類. ４類との判別はしがたいものの、礫の並びは整然とはしていないものの、明らかに矩形を意識した配列を有す、立石と思われる礫も見られ、埋甕が近接して確認されている。列石とは離れた位置に在る。

６類は６号列石から東側に単独に作られたものが多い。

このことから、明らかにそれぞれの列石と配石の関連性に違いが見られる。これが時期的なものであることは想像されるが、列石の持つ意味にも違いがあるのかもしれない。

列石中の配石として認定したものについては、立石と考えられるものも多く存在する、特に５号列石中の22号・23号配石など比較的大型礫の立石である。その他にも、遺構とは認定しなかったものの、立石と思われる礫が点在しており、列石の構築時には多くの立石が存在していたと思われる。

写真６

配石下に土坑が確認されたものは僅かであった。しかも明らかなものとしては、２号配石（写真６）下に検出された土坑で、１号配石土坑（写真７）とした。

写真７

長方形に掘り込まれた土坑の壁に平石を立てた構造で、奥には蓋石と思われる平たい石が載せられていた。特に２号配石とその下部において検出された１号配石土坑は列石と同時期と見てよいであろう。

また、４号竪穴建物内に検出された11号配石も壁に平石が配された配石土坑の可能性が高い。検出時上部に小礫が集中して見られた。底部に部分的にではあるが平石が敷かれる。

４　竪穴建物

竪穴建物については、列石に付帯して作られたと思われるものに、３号列石上段（３号・11号・５号・６号・７号等）があげられる。これらの竪穴建物については複数回の建て替えや、配石、列石の重複などにより、構築時の様子を把握するには至らず、規模や、形状については不明な点も多い。また、11号の上に確認された４号に関しても形状等は明確にできなかった。本址は３面調査開始後、最も早い時点で確認されたものであるが、２号・３号列石とした周礫との関係なども、不明な点が多い。また、西側に重複する11号配石は配石土坑の可能性が高い。

南に離れて位置する１号竪穴建物については、３号列石とやや離れ、むしろさらに東に確認された８号列石との関連を想起させる。これらの竪穴建物の時期を見ると、列石上段部に構築された建物が比較的新しいとみられ、最上部の４号はさらに新しい可能性がある。

いずれの竪穴建物も列石との関連が想定され、東側の張り出し部が列石に繋がる構造と考えられる。

竪穴建物前の列石の構造は左右に延びる石列と、石を階段状に積む構造が見られ、さらには両側に立石を立てていたと思われる状況が看取された。

竪穴建物の変遷

東宮遺跡では３面で確認された、列石、配石が注目され、調査が行われたが、最終的にはこうした列石、配石の下部にも多くの中期の遺構が確認調査されている。

竪穴建物は後期の遺構により壊されたものも多く、現状をつかめないものも存在するが、比較的残りの良かったものもあり、集落の様子を窺い知ることができる。

Ｖ区において検出された竪穴建物は、中期後半期に出現し、終末期から後期初頭においては遺構数が減じたものの、後期前半期に再び集落の拡大が見られ、列石や配石なども多く構築された。竪穴建物の棟数は、この両拡大期のものが、ほぼ同数確認されている。

当初調査区の主に西側部分において確認された列石、および竪穴建物は後期のものが主体であった、中期の竪穴建物が確認されたのは、調査区の南側のやや高くなった部分において、トレンチによる下部の確認調査を実施したところ、30～50㎝下位において土器片がまとまって確認されたことにより、中期の遺構が存在する可能性が高まり、さらにその範囲は北側にも広がっていることが明らかになったのである。

Ｖ区において検出した縄文時代の竪穴建物については、おおむね以下のⅠ～Ⅴ期に分類可能である。

１期　中期後様（加曽利Ｅ３式期）
Ⅱ期　中期末（加曽利Ｅ４式期）
Ⅲ期　後期初頭（称名寺１・２式期）
Ⅳ期　後期前葉（堀之内１・２式期）
Ⅴ期　後期中葉（加曽利ｂ１式期）

Ｖ区における中期の遺構、特に竪穴建物の分布状況を見ると、吾妻川に沿った段丘上を南北に連なるように作られていたことが明らかになっている。

今回報告を行ったＶ区の東側および西側のⅧ区においても、列石や竪穴建物などの遺構が連続しており、本遺跡が広範囲に居住空間として機能していたことが明らかとなった。

調査区内における該期の分布状況を概観すると、北側部分に多く集中して確認されていることがわかる。この部分では重複関係を有すものも多く、継続性が窺われる。

さらに、南側にも点在しており、令和元年度の調査では東側の川寄りの場所においても複数の竪穴建物が確認されていることから、吾妻川を起点とする弧状の分布範囲が想定される。分布が薄い場所については、列石構築時の整地による削平等も考えられる。

中期末になると、竪穴建物は急減している。敷石竪穴建物である27・44・83号および70・79号竪穴建物が相当する。調査区南東部に纏まりが見られるものの、数は少ない。列石との関連性は見られないことから６号列石構築以前と考えられ、比較的小規模な集団による居住が行われていたものと考えられる。

後期初頭になると、数はあまり多くはないものの、遺構分布に広がりを見せる。竪穴建物は調査区の南端部から北側にまで点在する。また18号竪穴建物は６号列石弧状部の頂点に位置し、強い関連性が認められることから、６号列石はこの時期に構築されたことが考えられよう。
同様の竪穴建物としては、６号列石に付随する、18号および北側には23号が列石の上段部に位置し、下段部には南から比較的大型の竪穴建物82号、80号、77号が位置する。いずれも列石構築時に作られたものと考えられる。さら

に、該期の竪穴建物は上段部に広く点在して構築されている。

当該期の竪穴建物の特徴として、その多くが柄鏡型の敷石竪穴建物であるという点を指摘できよう、形状は大きく主体部が隅丸方形を呈すものと、円形のものに大別される。

壁下に廻る周礫の存在も特徴としてあげられる。

また、南に検出された８号・31号竪穴建物は、標高の高い部分において確認された。埋土が厚く角礫を含む山崩れの土で埋まった状態で、周辺にも多くの摩耗した土器片が認められ、かなり急激に埋まったことが想定される。北東部に一部確認された８号列石との関連も検討する必要がある。

その後、おそらく山崩れにより集落がほぼ埋没状態となったため、一時期居住が行われなかった期間が存在したものと考えられるが、地勢が落ち着いた時点で、後期前半期に再び集落の形成が開始されたものと考えられる。まずは５号列石、続いて３号列石を構築、この際傾斜地部分を切土し、列石を構築し、竪穴建物等を作っていったものと考えられる。

ただし、３・５号列石よりも古く作られたと考えられる６号列石であるが、北端部に位置する19号竪穴建物については、出土遺物から判断するに、時期的に後期前半期に比定されるもので、張り出し部に敷かれた敷石はその作りから列石と同時期に構築されたものと考えられる。

この所見から考えるに、６号列石の弧状部と途切れている部分を境に、北端部については若干の時間差を考える必要があるかもしれない。

後期前半期の竪穴建物の多くは、５号列石から西側の高い場所に構築されており、東側にはほとんど作られていない。列石からは離れて位置する30号竪穴建物に関しては、形状、作りがやや異質である点や、隣接する26号配石との関連などを考慮すれば、通常の竪穴建物とは違う用途が想定される。

該期の竪穴建物については、２～４回の拡張または建て替えが行われているものが多く見られる。特に３号列石に付帯する建物についてはより顕著に認められた。

Ⅴ区内において、最も上位に確認された４号竪穴建物は、手前側にある３号・11号竪穴建物の中心線上に構築されており、比高を有していることから、新たに構築された竪穴建物は、より上位に移っていったことが読み取れる。

平成31年度に本区の西側および東側調査区の調査を行い、本区の続きとなる遺構を検出しており、出土遺物を見る限りでは、新しくなるようである。

また、東側の旧国道側には竪穴建物および列石や配石の広がり等が確認され、中期の遺構についても東側の吾妻川側に多く検出されており、列石構築前の集落構造がより鮮明となった。令和元年度の調査成果の詳細については、東宮遺跡（６）の報告書に記載の予定である。

第472図　Ｖ区竪穴建物時期別分布図（Ｉ期）

613

第473図　Ⅴ区竪穴建物時期別分布図（Ⅱ期）

614

第474図　Ｖ区竪穴建物時期別分布図（Ⅲ期）

第475図　Ⅴ区竪穴建物時期別分布図（Ⅳ・Ⅴ期）

第５章　三ッ堂岩陰の調査

第１節　調査の経緯

三ッ堂岩陰は、吾妻川左岸の川原畑村から、つづら折りになった町道を、三平Ⅰ遺跡へと上る途中の左側に位置する。幅38m、高さ28mの大岩の南側面下にある僅かな平坦面に、昔は三つのお堂（観音堂、阿弥陀堂、毘沙門堂）が並んで居たことから三ッ堂と呼ばれた。

その背面の岩を棚状にくりぬき、そこに70体もの石仏を並べ地元の信仰の場となっていた。

三ッ堂の百八灯と呼ばれる200年以上続く行事は、お盆の８月、観音堂においてお盆の送り火として子供が中心となって行われた。

三ッ堂脇には詣り墓と呼ばれる墓石群があって、死者を埋めた墓（埋め墓）は別に在る。これは両墓制と呼ばれ、この地域の特色でもあった。

お堂、石仏群はダム建設に伴い、代替え地に移転されている。

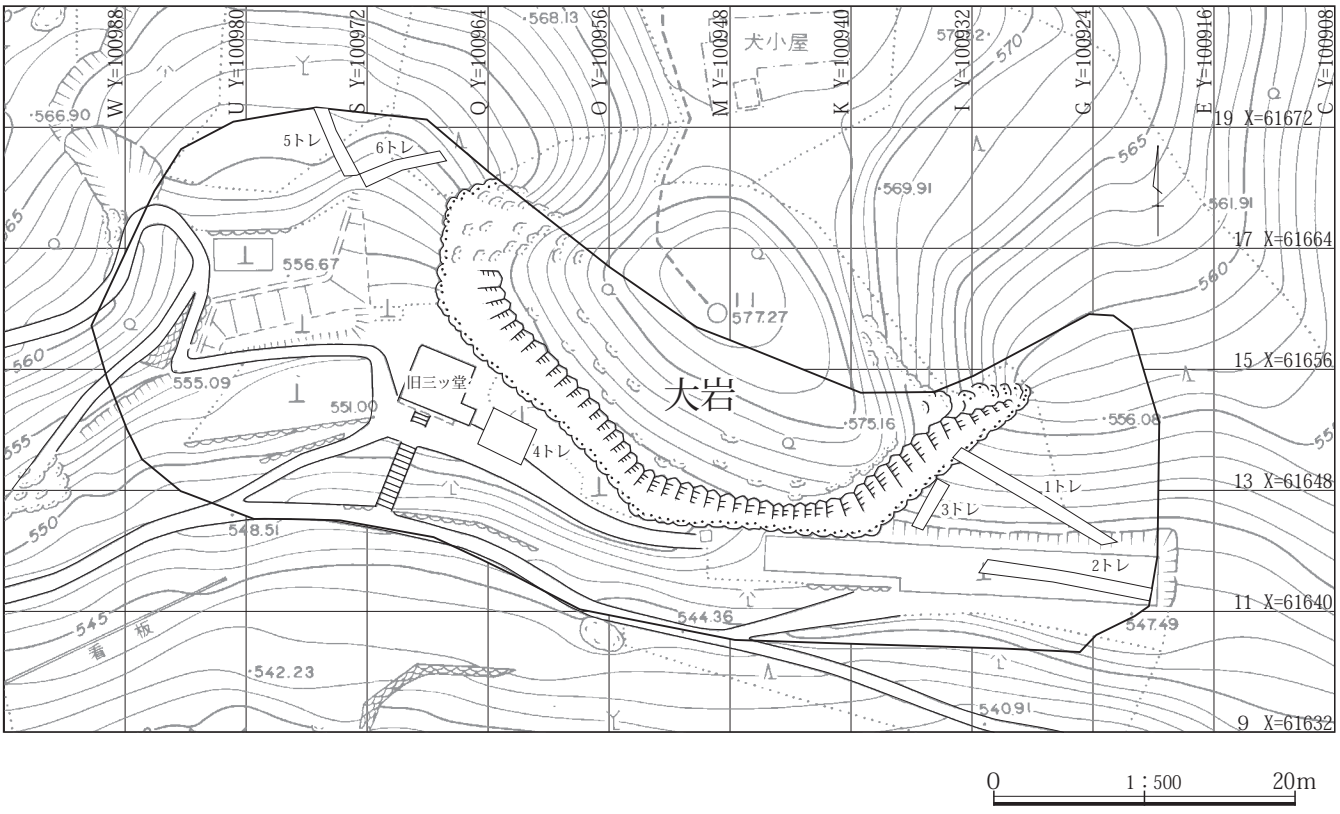
調査は、お堂のあった場所を中心に行われ、現地表面以下を掘り下げ、いわゆる岩陰遺跡の可能性も含め、調査を行った。

その結果、表土下の岩陰の奥行きはほとんど無く、比較的浅いレベル位置で岩盤が露出したことから、岩陰遺跡の可能性は無くなった。

また、遺構・遺物に関しても以下に提示する江戸時代以外の遺物は確認できなかった。

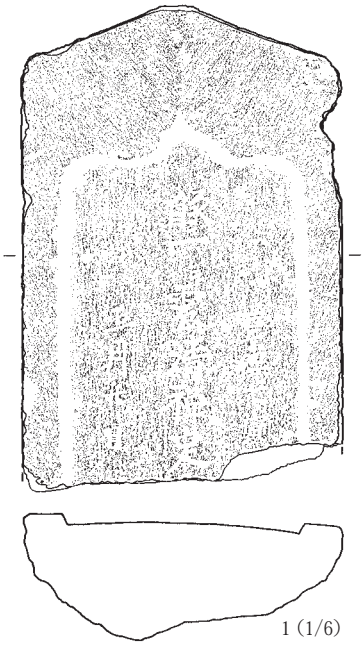
第２節　発見された遺構と遺物

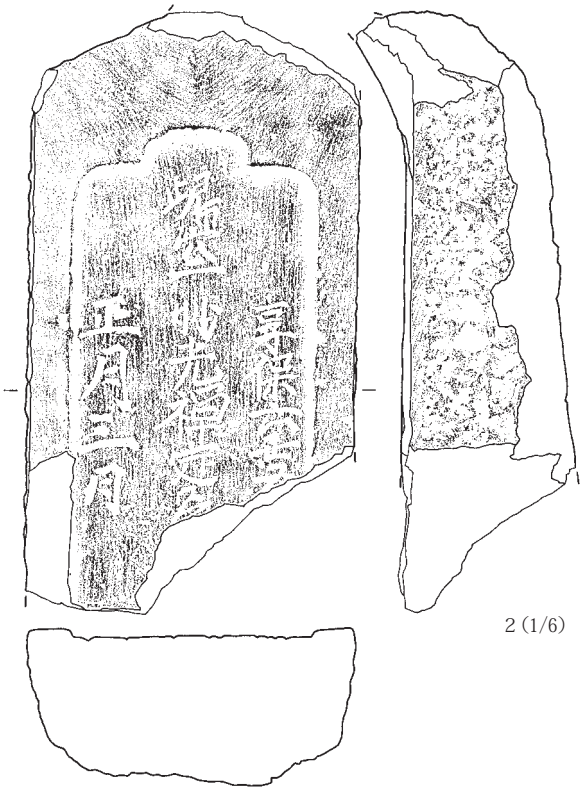
三ッ堂岩陰においては、現表土中から石造物等が出土した。出土した石造物の紀年銘から、現表土は江戸時代中期（享保７（1722）年）以降の崩落土であることが確認された。なお、現表土下は岩盤である。遺構は確認されなかった。

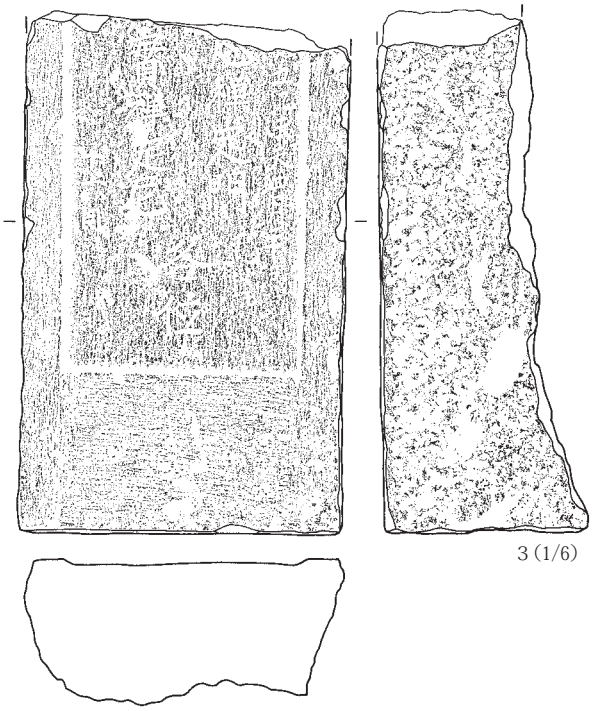


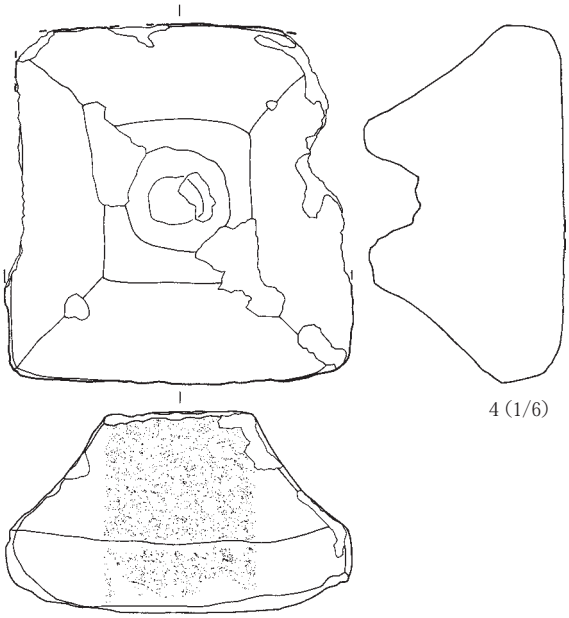
第476図　三ッ堂岩陰全体図

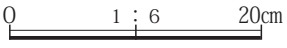
出土遺物は、墓石３点（１～３）・五輪塔火輪２点（４・５）・五輪塔水輪１点（６）・五輪塔地輪１点（７）・宝塔１点（８）・台座２点（９・10）、銭貨１点（11）を図示した。墓石３点には紀年銘が刻まれている。



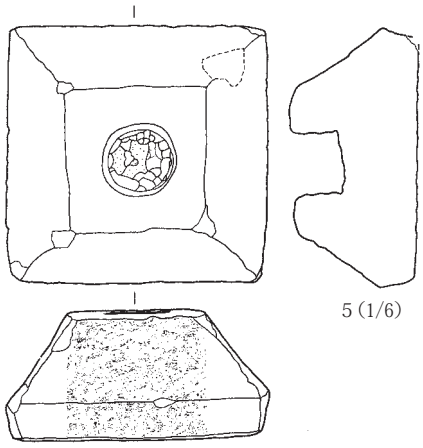




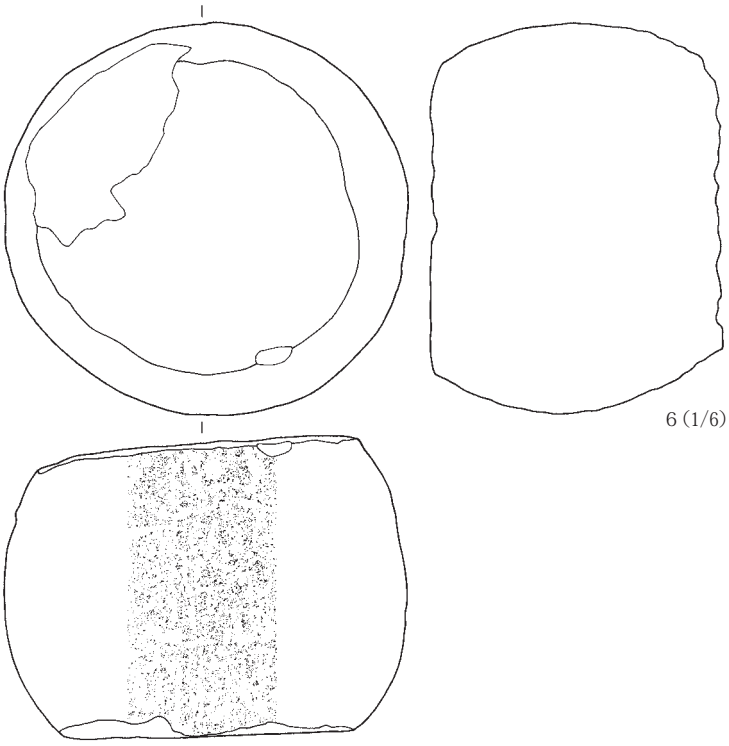




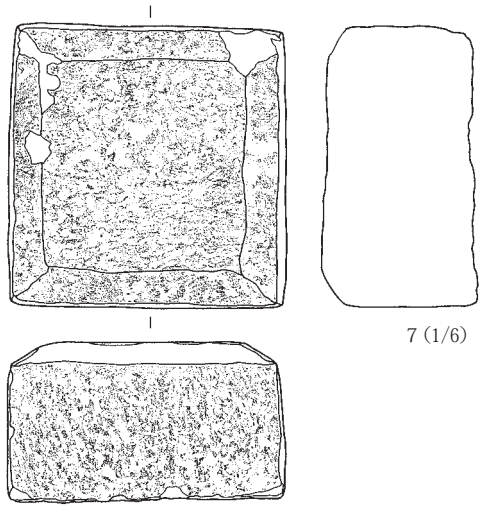
第477図　三ッ堂岩陰出土遺物（1）



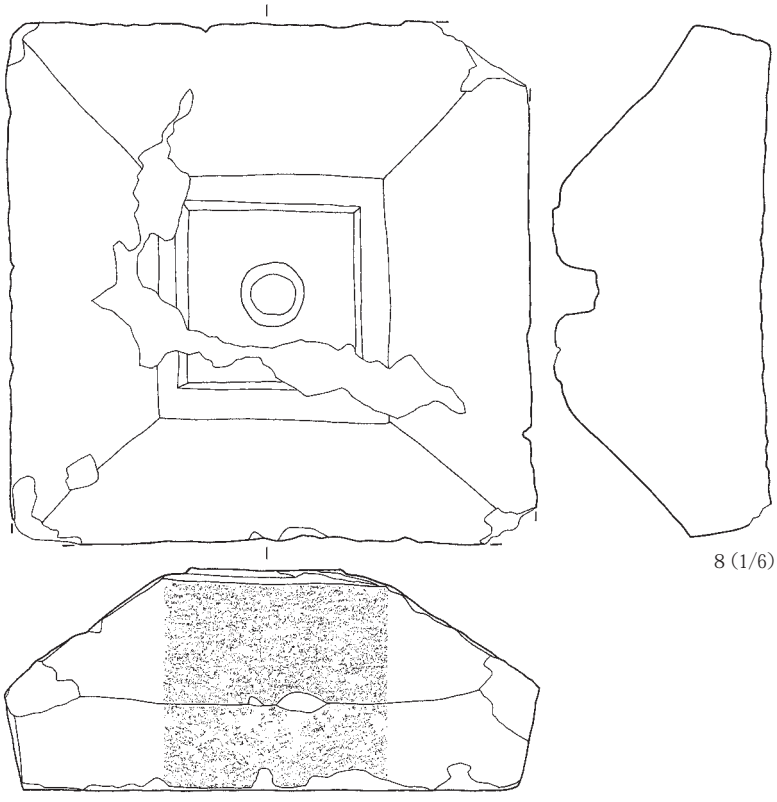
5（1/6）



6（1/6）



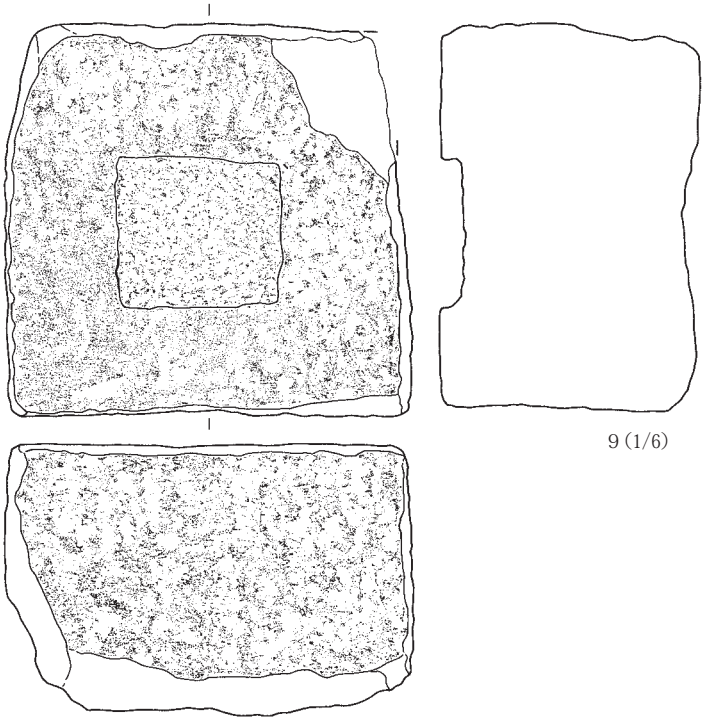
7（1/6）



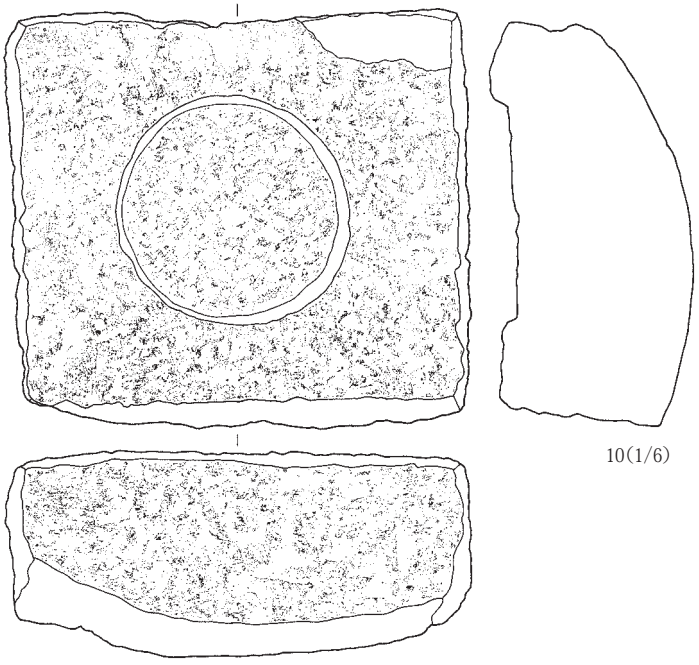
8（1/6）

0　1：6　20cm

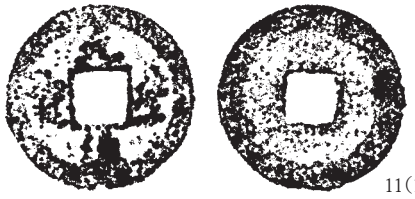
第478図　三ッ堂岩陰出土遺物（２）



9（1/6）



10(1/6)



11(1/1)

0　1：6　20cm

0　1：1　5cm

第479図　三ッ堂岩陰出土遺物（3）

第15表　三ッ堂岩陰　遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第477図 PL.３	1	石造物 墓石	表土 2/3	長 幅	(39.0) 25.7	厚 重	17.0 14000.0	粗粒輝石安山岩	表面は整形は非常に丁寧であり細かい平ノミ状あるいは棒状の工具痕が認められる。側面から裏面にかけて加工は粗く平ノミ状あるいは棒状の工具痕が明瞭に認められる。	
第477図 PL.３	2	石造物 墓石	表土 2/3	長 幅	(48.0) (26.9)	厚 重	(17.5) 21680	変質安山岩	表面の整形は非常に丁寧であり細かい平ノミ状あるいは棒状の工具痕が認められる。側面から裏面にかけて加工は粗く平ノミ状あるいは棒状の工具痕が明瞭に認められる。	
第477図 PL.３	3	石造物 墓石	表土 2/3	長 幅	(41.7) 26.5	厚 重	16.6 23080	変質安山岩	表面の整形は非常に丁寧であり細かい平ノミ状あるいは棒状の工具痕が認められる。側面から裏面にかけて及び底面の加工は粗く平ノミ状あるいは棒状の工具痕が明瞭に認められる。	
第477図 PL.３	4	石造物 火輪	表土 4/5	長 幅	28.5 (27.6)	厚 重	16.0 11350.0	溶結凝灰岩	丁寧な成整形。上面に円形の孔がある。隅棟の反りは僅かに認められ、屋だるみも僅かに認められる。軒の上辺と下辺は平行であり僅かに曲線を呈す。	
第477図 PL.３	5	石造物 火輪	表土 完形	長 幅	20.7 20.8	厚 重	10.4 5057.5	粗粒輝石安山岩	丁寧な成整形。上面に円形の孔があり内部に棒状の工具痕が認められる。隅棟の反りは認められず、屋だるみは僅かに認められる。軒の上辺と下辺は平行でありほぼ直線である。	
第478図 PL.３	6	石造物 水輪	表土 ほぼ完形	長 幅	31.2 32.1	高 重	24.0 25920.0	溶結凝灰岩	側面部の加工は比較的丁寧であり平ノミ状あるいは棒状の工具痕が僅かに認められる。上下面の加工は粗く凹凸が認められる。	
第478図 PL.３	7	石造物 地輪	表土 完形	長 幅	22.8 22.2	厚 重	12.9 11850	粗粒輝石安山岩	丁寧な成整形。下面の加工は粗く棒状の工具痕が明瞭に認められる。	
第478図 PL.３	8	石造物 宝塔	表土 ほぼ完形	長 幅	41.6 42.4	厚 重	17.4 45160.0	粗粒輝石安山岩	丁寧な成整形。上面に円形の孔があり内部に棒状の工具痕が認められる。隅棟の反りは認められず、屋だるみも認められない。軒の上辺は僅かに曲線を呈し下辺はほぼ直線である。	
第479図 PL.３	9	石造物 台座	表土 ほぼ完形	長 幅	31.5 32.7	厚 重	21.9 38120	粗粒輝石安山岩	表面の加工は比較的丁寧であるが側面及び底面の加工は粗く凹凸が認められる。	
第479図 PL.４	10	石造物 台座	表土 完形	長 幅	33.3 37.2	厚 重	16.3 33620	粗粒輝石安山岩	表面の加工は比較的丁寧であるが側面の加工は粗く凹凸が認められる。底面は曲面で構成され自然面をそのまま利用している可能性がある。	
挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				特徴等		備考
第479図 PL.４	11	銭貨	表土 完形	縦 横	2.485 2.508	厚 重	0.142 2.3	元豊通寶。面の彫はやや浅い。字が摩擦により、やや見づらい。背は彫が浅く、輪、郭が不明瞭。1078年初鋳。		

第３節　調査成果とまとめ

三ッ堂岩陰においては、遺構は確認されなかった。現表土中から墓石・五輪塔などの石造物が出土している。出土した墓石の紀年銘から、現表土は江戸時代中期（享保７（1722）年）以降の崩落土であることが確認された。現表土下は岩盤であった。

第16表に『長野原町の文化財調査報告Ⅰ』記載の旧三ッ堂石造物群および本報告書記載の三ッ堂岩陰出土石造物の紀年銘を年代順に掲げた。旧三ッ堂石造物群は元禄４(1691)～宝永８(1711)年と天明３(1783)～明治26(1893)年の２群に分けられ、この間に本報告書の崩落土中の正徳５（1715）～享保７（1722）年の一群が入り込んでいる。この崩落土中の記念銘のある一群はすべて墓石であり、旧三ッ堂に隣接する詣り墓群と同様のものと考えられ、石造仏を中心とする旧三ッ堂石造物群とは性格が異なると言える。

旧三ッ堂（観音堂、阿弥陀堂・毘沙門堂は明治以降に廃絶）内には木像仏・木製品等28体が確認されたが、その大半が十王像である。紀年銘は閻魔大王木像（明和２（1765）年）と木札（大正12（1923）年）の２点に認められる。なお、明治12（1879）年の由緒書によれば観音

第16表　三ッ堂岩陰　石造物紀年銘一覧

紀年銘	干支	像容	出典
元禄４（1691）	辛酉	庚申塔	『町文Ⅰ』調査番号125
元禄15（1702）	壬午	地蔵	『町文Ⅰ』調査番号86
宝永２（1705）	乙酉	日待塔	『町文Ⅰ』調査番号126
宝永８（1711）	辛卯	如意輪観音	『町文Ⅰ』調査番号129
正徳５（1715）	乙未	墓石	本報告書第 477 図３
享保６（1721）	辛丑	墓石	本報告書第 477 図２
享保７（1722）	壬寅	墓石	本報告書第 477 図１
天明３（1783）	癸卯	馬頭観世音	『町文Ⅰ』調査番号116
天明４（1784）	甲辰	馬頭観世音	『町文Ⅰ』調査番号87
天明５（1785）	乙巳	馬頭観世音	『町文Ⅰ』調査番号122
天明８（1788）	戊申	馬頭観世音	『町文Ⅰ』調査番号121
寛政９（1797）	丁巳	石灯籠	『町文Ⅰ』調査番号113
寛政９（1797）	丁巳	石灯籠	『町文Ⅰ』調査番号114
寛政９（1797）	丁巳	台石	『町文Ⅰ』調査番号未調査1
寛政10（1798）	戊午	馬頭観世音	『町文Ⅰ』調査番号107
寛政12（1800）	庚申	馬頭観世音	『町文Ⅰ』調査番号111
文化３（1806）	丙寅	馬頭観世音	『町文Ⅰ』調査番号105
文化12（1815）	乙亥	馬頭観世音	『町文Ⅰ』調査番号119
文政６（1823）	癸未	馬頭観世音	『町文Ⅰ』調査番号115
文政11（1828）	己丑	馬頭観世音	『町文Ⅰ』調査番号117
天保４（1833）	癸巳	馬頭観世音	『町文Ⅰ』調査番号120
天保６（1835）	乙未	馬頭観世音	『町文Ⅰ』調査番号99
天保７（1836）	丙申	馬頭観世音	『町文Ⅰ』調査番号88
天保７（1836）	丙申	馬頭観世音	『町文Ⅰ』調査番号100
弘化３（1846）	丙午	馬頭観世音	『町文Ⅰ』調査番号97
嘉永４（1851）	辛亥	馬頭観世音	『町文Ⅰ』調査番号108
嘉永７（1854）	甲寅	馬頭観世音	『町文Ⅰ』調査番号133
安政２（1855）	乙卯	馬頭観世音	『町文Ⅰ』調査番号102
安政６（1859）	己未	馬頭観世音	『町文Ⅰ』調査番号104
安政６（1859）	己未	無縫塔	『町文Ⅰ』調査番号144-1
明治３（1870）	庚午	馬頭観世音	『町文Ⅰ』調査番号118
明治14（1881）	辛巳	馬頭観世音	『町文Ⅰ』調査番号112
明治26（1893）	癸巳	馬頭観世音	『町文Ⅰ』調査番号124
※『町文Ⅰ』は『長野原町の文化財調査報告Ⅰ』の略			

堂の本尊は正観世音（聖観音）・薬師如来とあるが、昭和51（1976）年の調査時には本尊は閻魔大王であり、平成５（1993）年の調査時には観音堂ではなく閻魔堂で本尊は閻魔大王、聖観音・阿弥陀如来・毘沙門天も共に祀られている。移転後の本尊は聖観音である。

以上のことから、問題となるのは次の３点である。

①土砂崩落の時期の問題。

②約60年間の空白の問題。紀年銘のある石造物の享保７（1722）～天明３（1783）年の約60年にわたる空白の意味するものは何か。

③信仰の変化の問題。天明３（1783）年以降の馬頭観世音の優勢と明治12（1879）年以降の観音堂本尊の閻魔大王への変更の意味するものは何か。

以下､それぞれの問題について考えてみることとする。

①については､これまでに記したように享保７（1722）年以降であり、下限は不明である。

②については、前記のように崩落土中の紀年銘のある一群はすべて墓石であることから、石造仏に限ると空白期間は宝永８（1711）～天明３（1783）年の約70年間とより長くなる。しかしながら、周辺未調査地に当該時期の紀年銘のある石造物が埋没している可能性も十分に考えられるとともに、旧三ッ堂内に明和２（1765）年の閻魔王像を含む十王像が存在したことから、長きにわたる信仰の空白等を想定することは困難である。

③の馬頭観音については、長野原町の馬頭観音は宝暦（1751 ～ 1764）年間に始まり、安永（1772 ～ 1781）年間から文久（1861 ～ 1864）年間にかけて最盛期を迎え、昭和30年代（1955 ～ 1965）頃まで継続して建立されている。天明３（1783）年以降である三ッ堂岩陰の傾向はこれに合致すると言える。閻魔大王については検討する資料を欠き、詳細は不明である。

以上、出土遺物等から窺える問題点について論じた。本調査は、地域の信仰の対象であった旧三ッ堂・旧三ッ堂石造物群の移転後の発掘調査であり、その起源と変遷を明らかにすることが期待されたが、出土遺物と旧三ッ堂石造物等との比較により享保７（1722）年以降の土砂崩落と天明３（1783）年以降の馬頭観世音の優勢を指摘するに止まった。

参考文献
石坂聡2017「三ッ堂岩陰」『年報』35 （公財）群馬県埋蔵文化財調査事業団
川原畑三ツ堂建設委員会2008『川原畑三ツ堂竣工記念』
（公財）群馬県埋蔵文化財調査事業団2018『東宮遺跡（４）』
長野原町誌編纂委員会1976a『長野原町誌』上
長野原町誌編纂委員会1976b『長野原町誌』下
長野原町教育委員会1989『長野原町の文化財』
八ッ場ダム地域文化財調査会2013『長野原町の文化財調査報告Ⅰ』 長野原町

第17表　三ッ堂岩陰　石造物紀年銘集計表

象容	紀年銘あり			紀年銘なし			合計	紀年銘比率
	『町文Ⅰ』	本報告書	合計	『町文Ⅰ』	本報告書	合計		
弥勒如来	0	0	0	1	0	1	1	0.000
阿弥陀如来	0	0	0	1	0	1	1	0.000
大日如来	0	0	0	1	0	1	1	0.000
薬師如来	0	0	0	1	0	1	1	0.000
馬頭観世音	22	0	22	7	0	7	29	0.759
聖観音	0	0	0	2	0	2	2	0.000
如意輪観音	1	0	1	0	0	0	1	1.000
観音	0	0	0	1	0	1	1	0.000
地蔵	1	0	1	10	0	10	11	0.091
菩薩	0	0	0	1	0	1	1	0.000
不動明王	0	0	0	1	0	1	1	0.000
奪衣婆	0	0	0	1	0	1	1	0.000
道祖神	0	0	0	1	0	1	1	0.000
五輪塔	0	0	0	13	4	17	17	0.000
庚申塔	1	0	1	3	0	3	4	0.250
無縫塔	1	0	1	0	0	0	1	1.000
日待塔	1	0	1	0	0	0	1	1.000
順礼供養塔	0	0	0	1	0	1	1	0.000
宝塔	0	0	0	0	1	1	1	0.000
台石	1	0	1	0	2	2	3	0.333
石灯籠	2	0	2	0	0	0	2	1.000
墓石	0	3	3	0	0	0	3	1.000
合計	30	3	33	45	7	52	85	0.388
※『町文Ⅰ』は『長野原町の文化財調査報告Ⅰ』の略								

写 真 図 版

東 宮 遺 跡

1　遺跡遠景（東上空より）

2　遺跡遠景（東より）

PL.2

1　遺跡遠景（南東上空より）

2　遺跡遠景（西上空より）

1　遺跡全景（上空より）

2　遺跡全景（東上空より）

PL.4

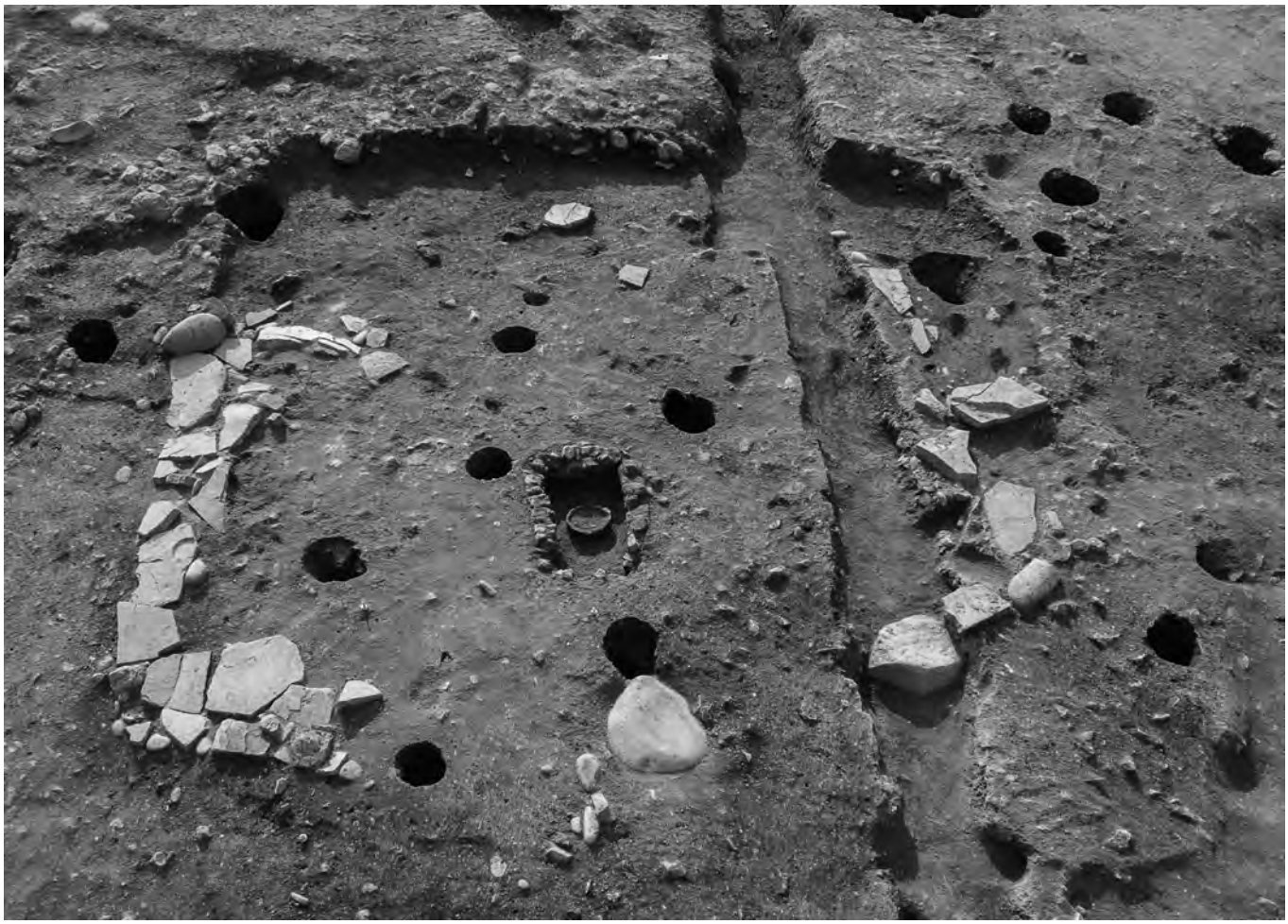
1　遺跡全景（上空より）

2　遺跡全景（東より）

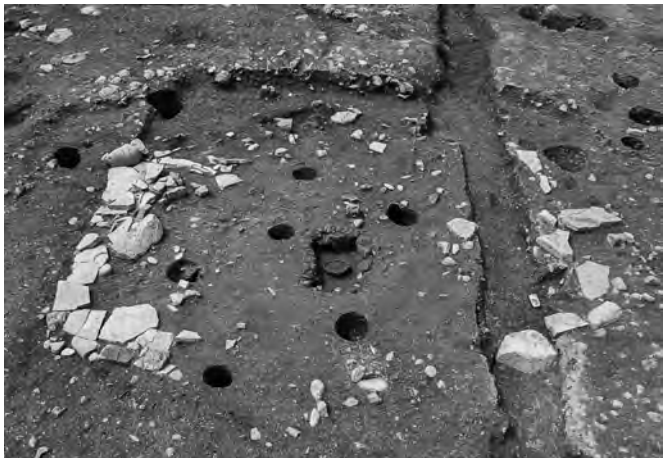
3　遺跡全景（東より）

4　遺跡全景（北東より）

5　遺跡全景（南東より）



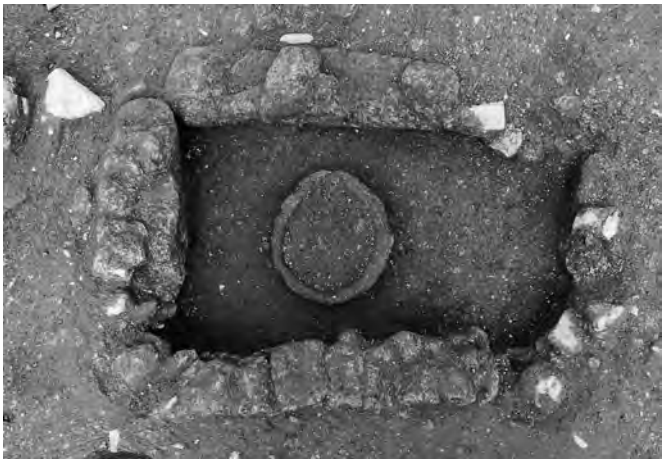
1　V区1号竪穴建物全景(東より)



2　V区1号竪穴建物全景(東より)

3　V区1号竪穴建物炉セクション(東より)

4　V区1号竪穴建物炉全景(東より)



5　V区1号竪穴建物炉炉体土器(南より)

PL.6

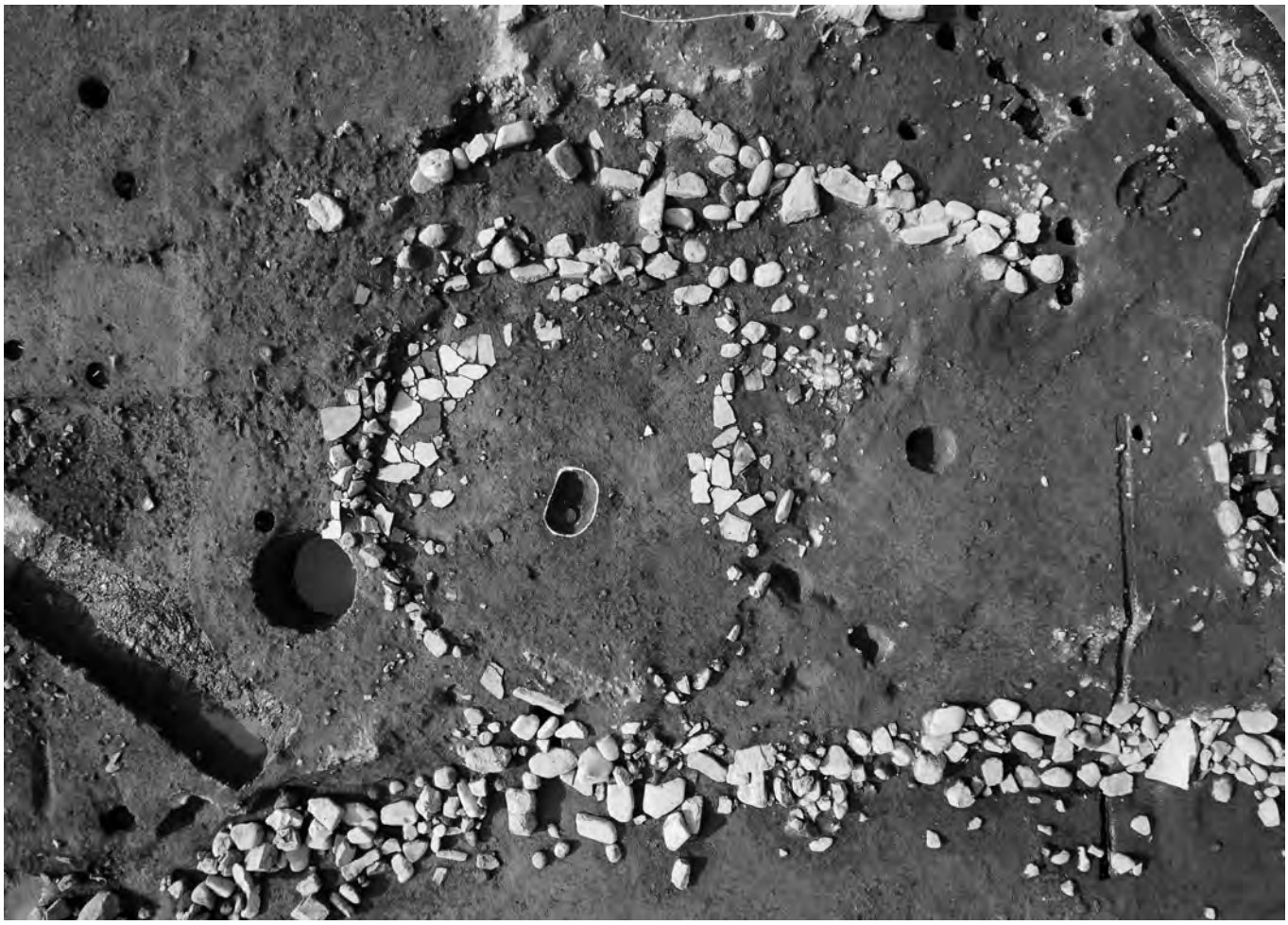
1　V区２号竪穴建物全景(南東より)

2　V区２号竪穴建物遺物出土状態(南東より)

3　V区２号竪穴建物遺物出土状態(南東より)

4　V区２号竪穴建物炉全景(南東より)

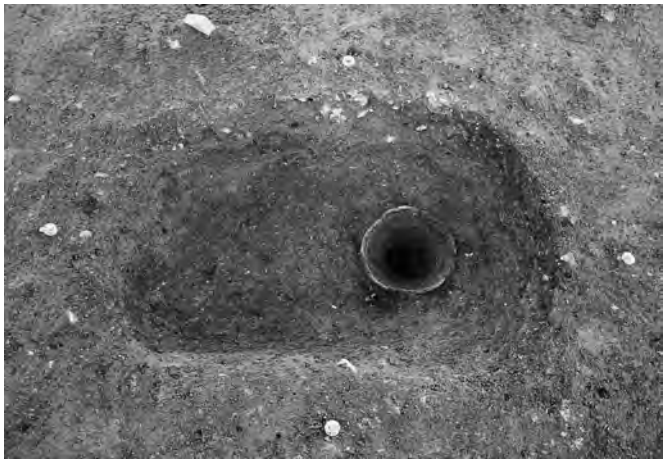
5　V区２号竪穴建物埋甕断ち割り(南より)



1　V区３号竪穴建物全景(南東より)

2　V区３号竪穴建物全景(南東より)

3　V区３号竪穴建物遺物出土状態(南より)



4　V区３号竪穴建物炉全景(南より)

5　V区３号竪穴建物掘方全景(南東より)

1　V区４号竪穴建物全景（東より）

2　V区４号竪穴建物全景（上空より）

1　V区５号竪穴建物全景(東より)

2　V区５号竪穴建物遺物出土状態(南より)

3　V区５号竪穴建物遺物出土状態(南より)

4　V区５号竪穴建物遺物出土状態(南より)

5　V区５号竪穴建物炉全景(南より)

PL.10

1　V区６号竪穴建物全景(南東より)

2　V区６号竪穴建物炉全景(南東より)

3　V区７号竪穴建物全景(南東より)

4　V区７号竪穴建物遺物出土状態(南より)

5　V区７号竪穴建物全景(南東より)

1　V区８号竪穴建物全景(東より)

2　V区８号竪穴建物遺物出土状態(南より)

3　V区８号竪穴建物炉セクション(南より)

4　V区８号竪穴建物炉体土器検出状況(南東より)

5　V区８号竪穴建物炉体土器検出状況(南東より)

PL.12

1　Ⅴ区９号竪穴建物遺物出土状態（南より）

2　Ⅴ区10号竪穴建物炉断ち割り（南より）

3　Ⅴ区11号竪穴建物全景（南東より）

4　Ⅴ区11号竪穴建物立石検出状態（南東より）

5　Ⅴ区11号竪穴建物石棒出土状態（南東より）

1　V区11号竪穴建物炉全景(南東より)

2　V区11号竪穴建物全景(東より)

3　V区12号竪穴建物全景(東より)

4　V区12号竪穴建物炉検出状況(南より)

5　V区12号竪穴建物全景(東より)

PL.14

1　V区13号竪穴建物セクション(東より)

2　V区13号竪穴建物全景(東より)

3　V区14号竪穴建物遺物出土状態(東より)

4　V区14号竪穴建物遺物出土状態(南東より)

5　V区14号竪穴建物遺物出土状態(北より)

6　V区14号竪穴建物炉セクション(南東より)

7　V区14号竪穴建物炉体土器検出状況(東より)

8　V区14号竪穴建物炉体土器(東より)

1　V区15号竪穴建物全景（東より）

2　V区15号竪穴建物遺物出土状態（東より）

3　V区15号竪穴建物埋甕セクション（南より）

4　V区15号竪穴建物埋甕検出状況（東より）

5　V区15号竪穴建物埋甕全景（南東より）

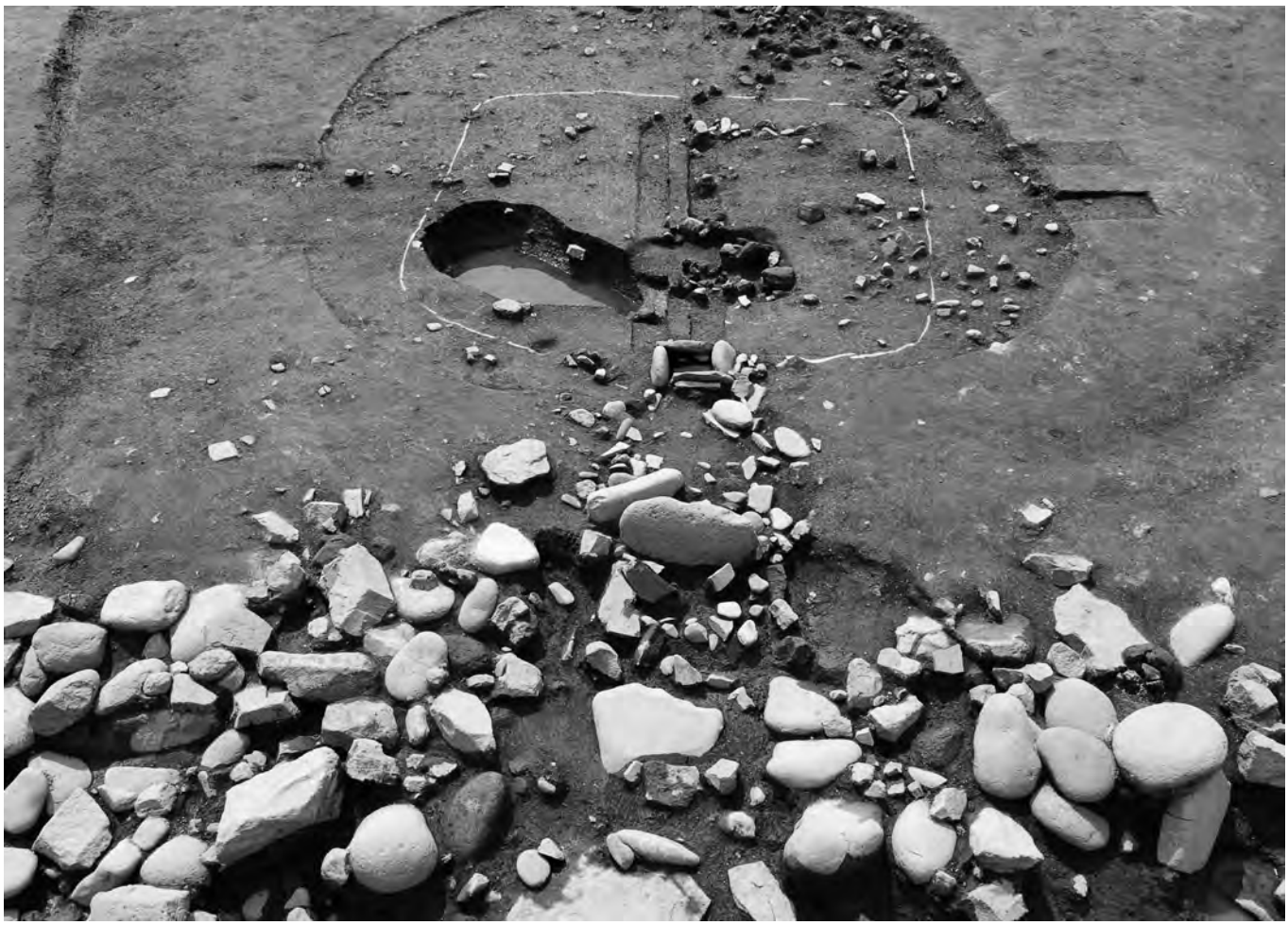
PL.16

1　V区16号竪穴建物全景（東より）

2　V区16号竪穴建物全景（東より）

3　V区17号竪穴建物遺物出土状態（東より）

4　V区17号竪穴建物遺物出土状態（東より）



5　V区18号竪穴建物遺物出土状態（東より）

1　V区18号竪穴建物全景（東より）

2　V区18号竪穴建物石囲い遺構および框石（東より）

3　V区18号竪穴建物張り出し部立石および24号配石（東より）

4　V区18号竪穴建物炉全景（東より）

5　V区18号竪穴建物石囲い遺構全景（東より）

PL.18

1　V区19号竪穴建物全景(南東より)

2　V区19号竪穴建物遺物出土状態(南東より)

3　V区19号竪穴建物全景(南東より)

4　V区19号竪穴建物遺物出土状態(南より)

5　V区19号竪穴建物炉全景(南東より)

1　V区20号竪穴建物全景（南東より）

2　V区20号竪穴建物遺物出土状態（南東より）

3　V区20号竪穴建物炉検出状況（南より）

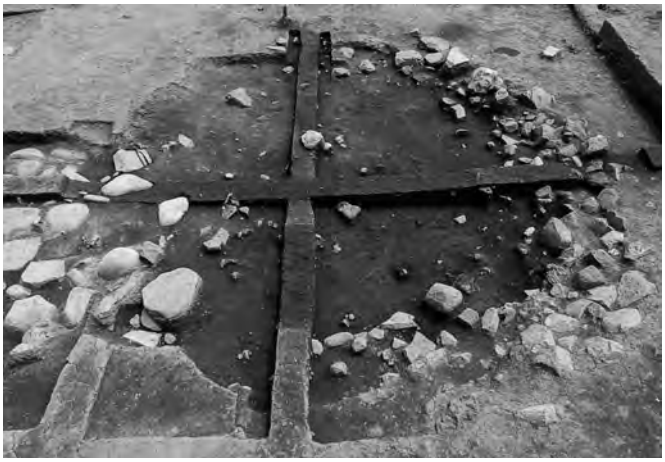
4　V区20号竪穴建物炉セクション（南より）

5　V区20号竪穴建物埋甕セクション（東より）

PL.20

1　V区21号竪穴建物全景（東より）

2　V区21号竪穴建物セクション（東より）

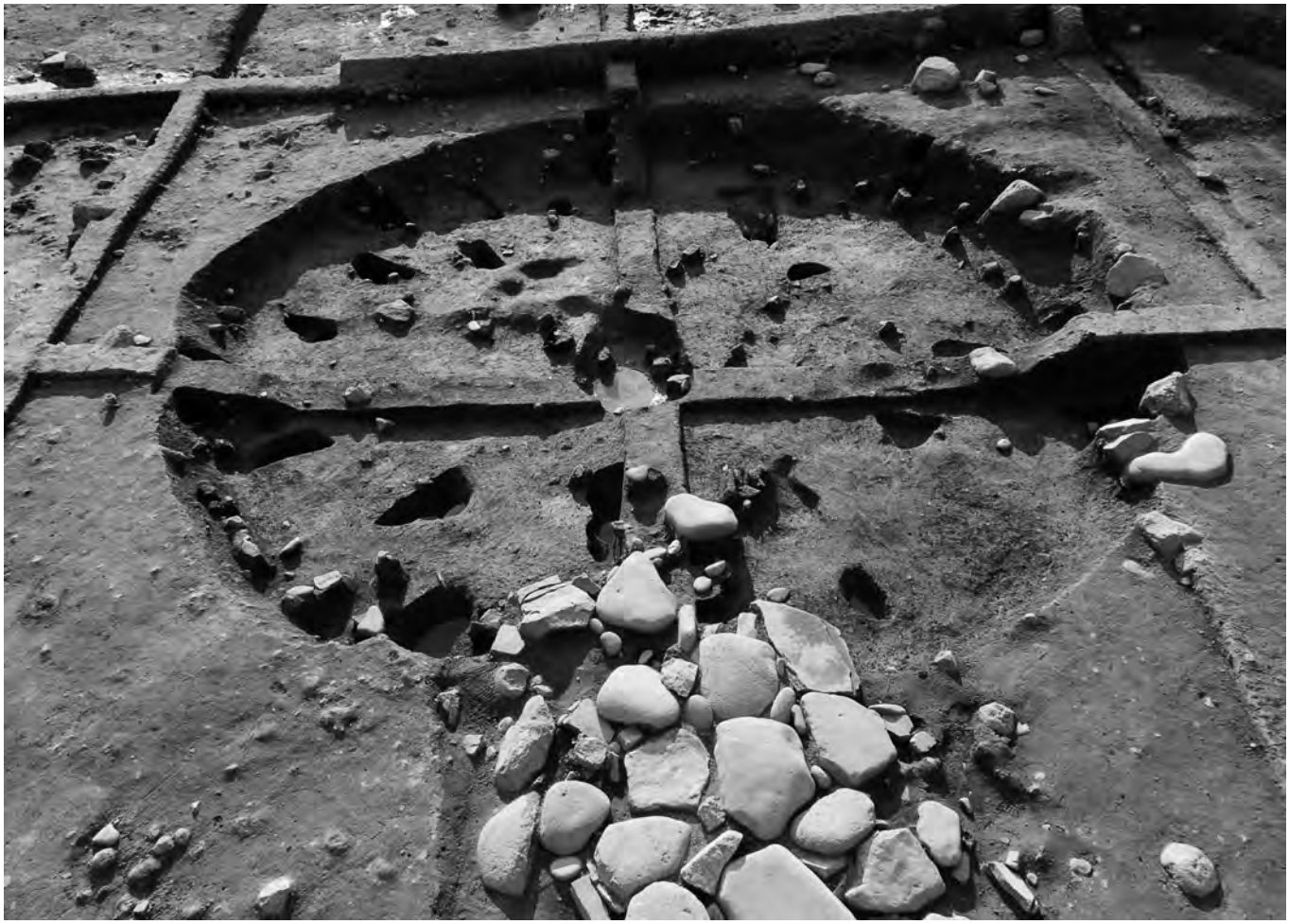


3　V区21号竪穴建物セクション（北より）

4　V区21号竪穴建物全景（東より）

5　V区21号竪穴建物主体部全景（東より）

1　V区21号竪穴建物全景（上空より）



2　V区21号竪穴建物主体部掘方（東より）

PL.22

1　V区22号竪穴建物全景(東より)

2　V区22号竪穴建物遺物出土状態(東より)

3　V区22号竪穴建物遺物出土状態(南より)

4　V区22号竪穴建物遺物出土状態(東より)

5　V区22号竪穴建物遺物出土状態(東より)

1　V区22号竪穴建物遺物出土状態(南東より)

2　V区22号竪穴建物遺物出土状態(東より)

3　V区22号竪穴建物遺物出土状態(南東より)

4　V区22号竪穴建物遺物出土状態(東より)

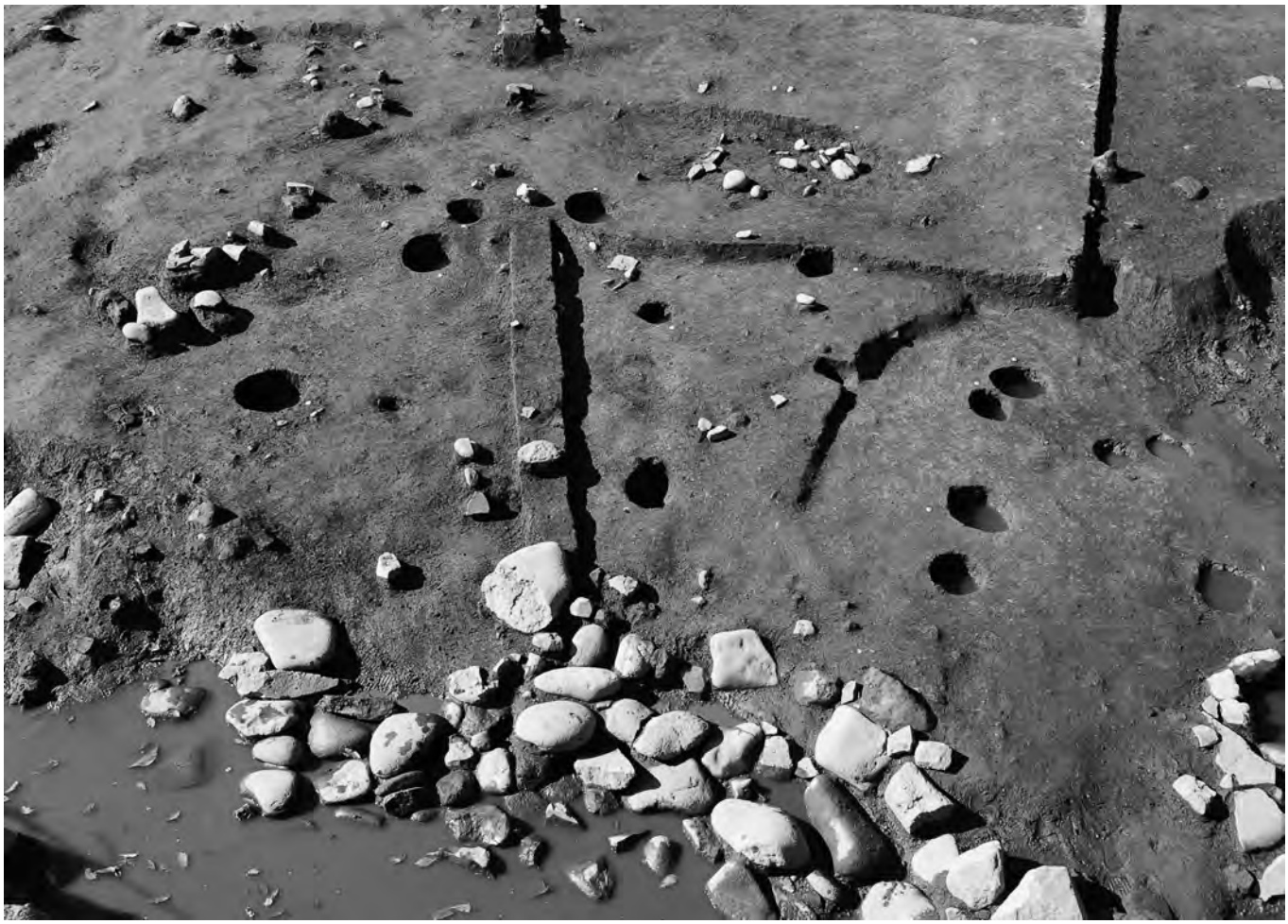
5　V区22号竪穴建物炉全景(東より)

6　V区22号竪穴建物埋甕出土状態(東より)

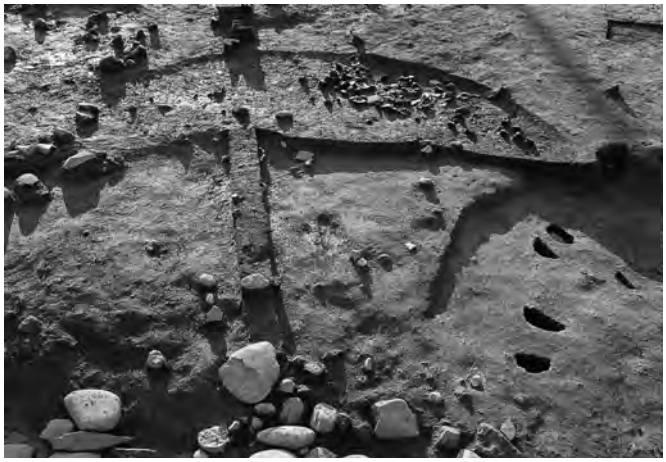
7　V区22号竪穴建物埋甕セクション(北東より)

8　V区22号竪穴建物埋甕全景(北東より)

PL.24



1　V区23号竪穴建物全景(東より)



2　V区23号竪穴建物遺物出土状態(東より)

3　V区23号竪穴建物遺物出土状態(東より)

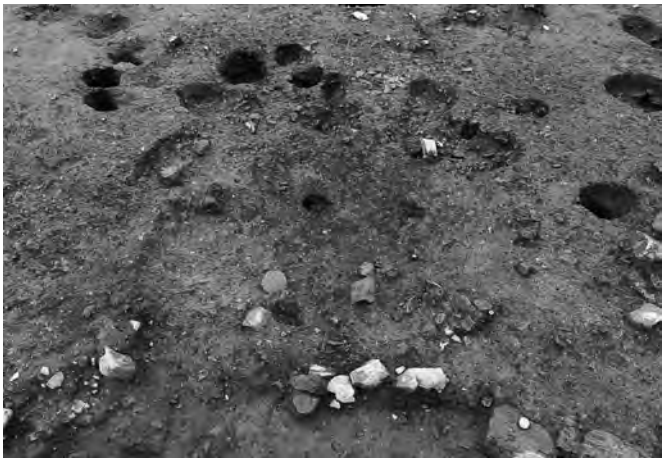
4　V区23号竪穴建物遺物出土状態(東より)

5　V区23号竪穴建物遺物出土状態(東より)

1　Ⅴ区25号竪穴建物遺物出土状態(南より)

2　Ⅴ区25号竪穴建物遺物出土状態(南より)

3　Ⅴ区26号竪穴建物遺物出土状態(東より)

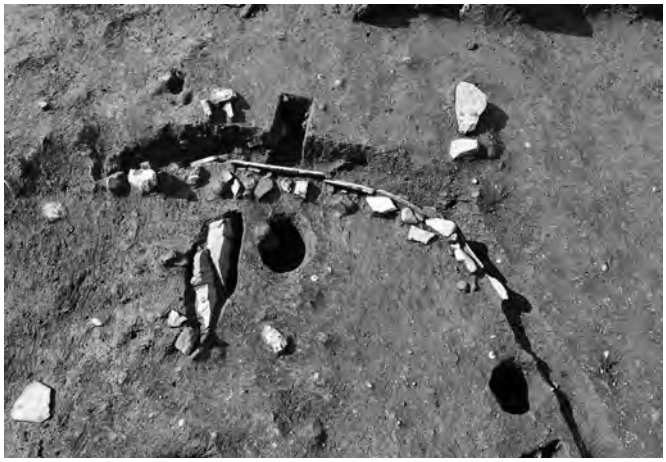


4　Ⅴ区26号竪穴建物全景(東より)

5　Ⅴ区27号竪穴建物全景(南東より)

PL.26

1　V区27号竪穴建物全景(北西より)



2　V区27号竪穴建物周礫検出状態(南東より)

3　V区27号竪穴建物周礫検出状態(北より)

4　V区27号竪穴建物炉遺物出土状態(東より)

5　V区27号竪穴建物炉全景(東より)

1　V区28号竪穴建物全景（東より）

2　V区28号竪穴建物北側全景（南より）

3　V区28号竪穴建物北側全景（北西より）

4　V区28号竪穴建物遺物出土状態（東より）

5　V区28号竪穴建物遺物出土状態（東より）

PL.28

1　V区28号竪穴建物全景（東より）

2　V区28号竪穴建物敷石検出状況（南より）

3　V区28号竪穴建物敷石検出状況（南より）

4　V区28号竪穴建物遺物出土状態（南西より）

5　V区28号竪穴建物炉全景（南より）

1　V区29号竪穴建物遺物出土状態(東より)

2　V区29号竪穴建物全景(東より)

3　V区29号竪穴建物炉セクション(南より)

4　V区29号竪穴建物炉全景(東より)

5　V区30号竪穴建物全景(東より)

PL.30

1　V区30号竪穴建物遺物出土状態(東より)

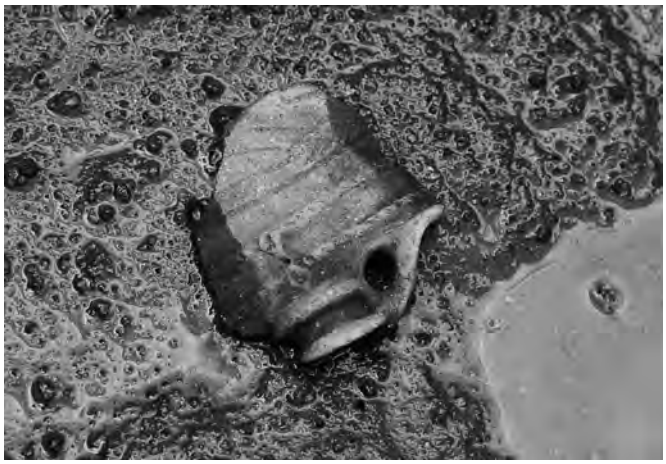
2　V区30号竪穴建物遺物出土状態(東より)

3　V区30号竪穴建物遺物出土状態(北より)

4　V区30号竪穴建物遺物炉全景(東より)

5　V区30号竪穴建物遺物出土状態(東より)

6　V区30号竪穴建物ピット11内遺物出土状態(東より)



7　V区30号竪穴建物炉遺物出土状態(東より)

8　V区30号竪穴建物炉全景(東より)

1　V区31号竪穴建物全景（東より）

2　V区31号竪穴建物全景（北東より）

PL.32

1　Ⅴ区31号竪穴建物セクション(北東より)

2　Ⅴ区31号竪穴建物遺物出土状態(東より)

3　Ⅴ区31号竪穴建物張り出し部(東より)

4　Ⅴ区31号竪穴建物張り出し部(北西より)

5　Ⅴ区31号竪穴建物石囲い遺構セクション(東より)

6　Ⅴ区31号竪穴建物炉および石囲い遺構(南西より)

7　Ⅴ区31号竪穴建物炉セクション(北より)

8　Ⅴ区31号竪穴建物炉全景(東より)

1　Ⅴ区32号竪穴建物遺物出土状態（東より）

2　Ⅴ区32号竪穴建物遺物全景（北東より）

3　Ⅴ区33号竪穴建物全景（南東より）

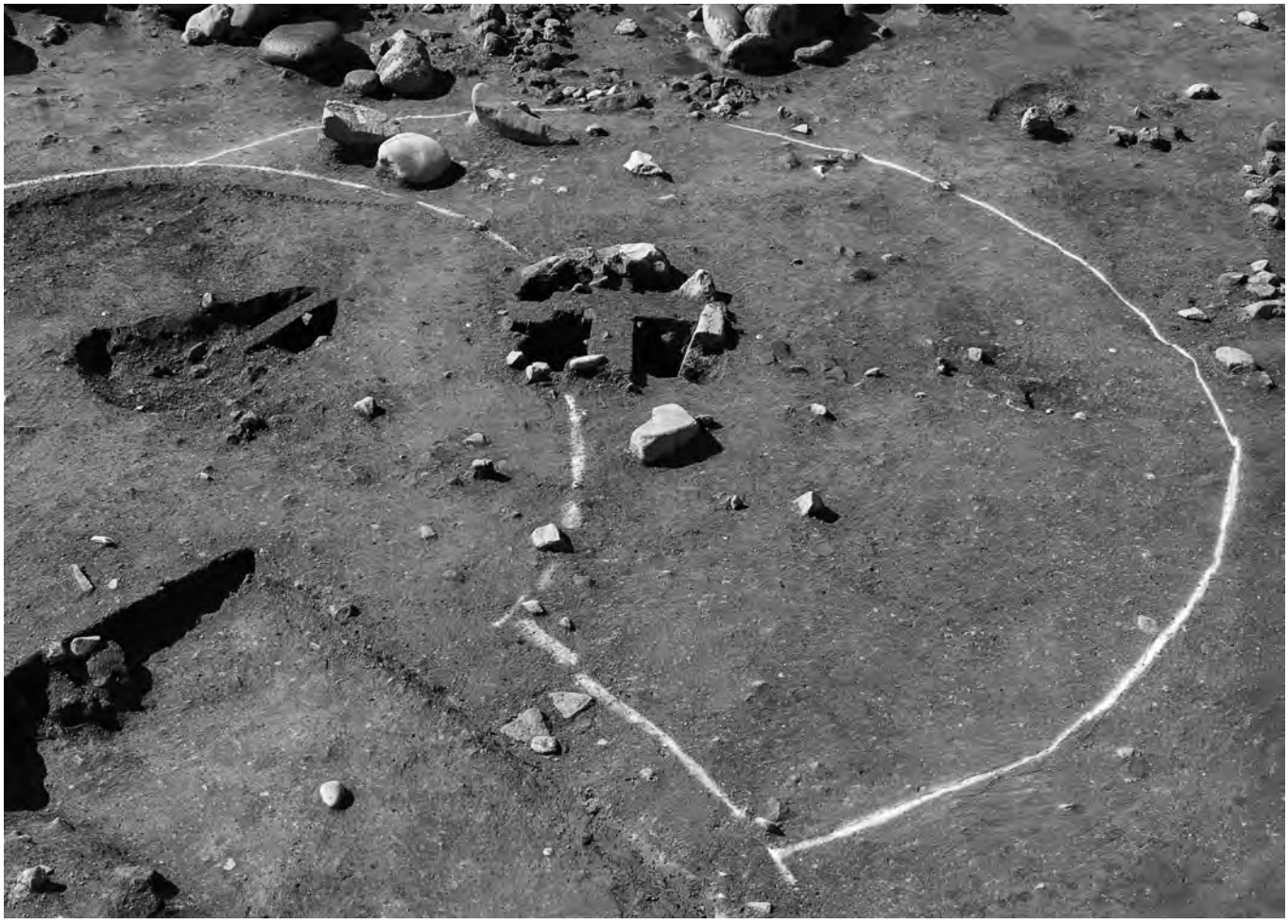
4　Ⅴ区33号竪穴建物掘方全景（南東より）

5　Ⅴ区33号竪穴建物遺物出土状態（東より）

PL.34

1　V区33号竪穴建物埋甕セクション（南東より）

2　V区33号竪穴建物埋甕セクション（東より）



3　V区34号竪穴建物全景（東より）

4　V区34号竪穴建物炉セクション（南西より）

5　V区34号竪穴建物炉全景（北より）

1　Ⅴ区35号竪穴建物全景(東より)

2　Ⅴ区35号竪穴建物遺物出土状態(東より)

3　Ⅴ区35号竪穴建物炉検出状況(東より)

4　Ⅴ区35号竪穴建物炉セクション(北より)

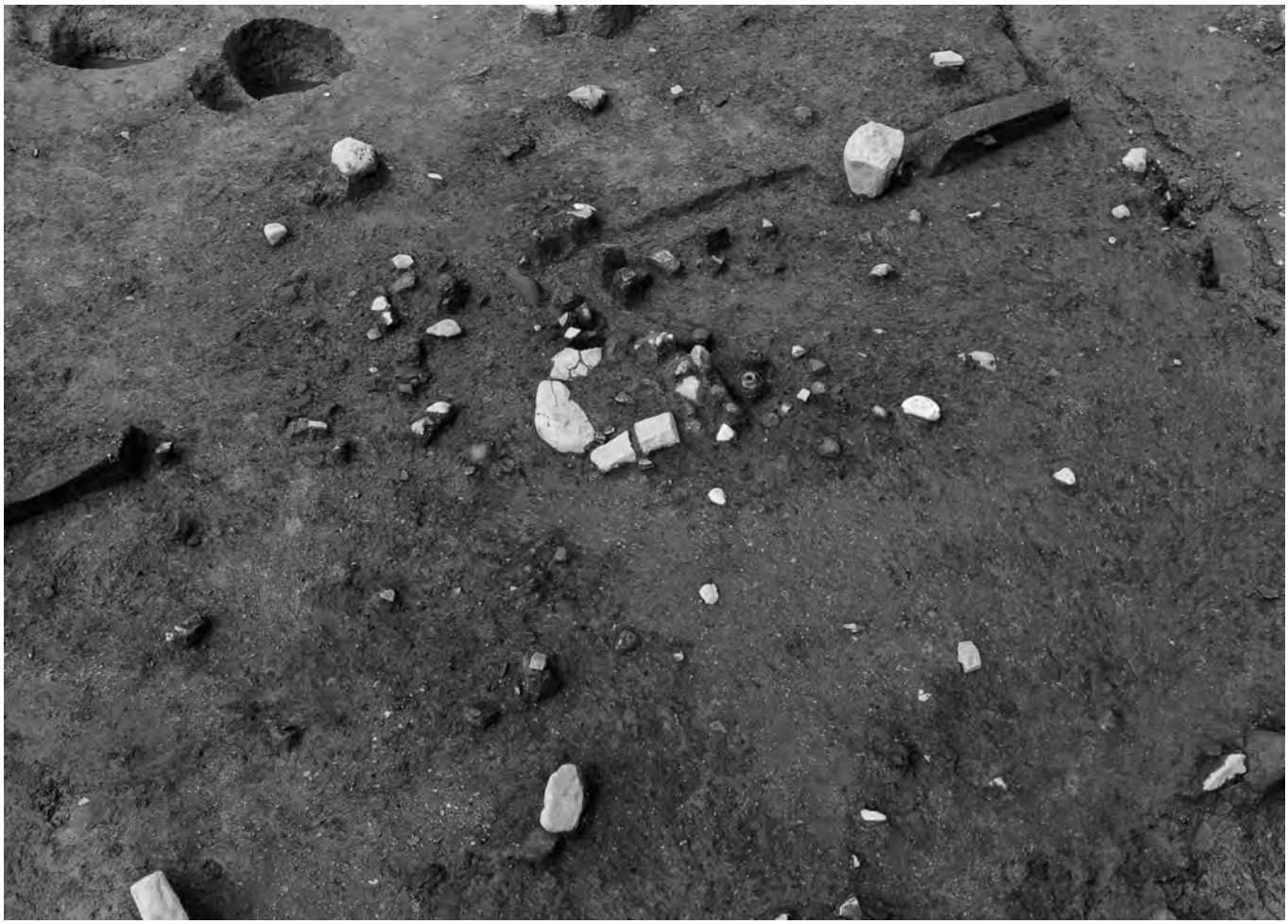
5　Ⅴ区36号竪穴建物全景(東より)

6　Ⅴ区36号竪穴建物全景(東より)

7　Ⅴ区36号竪穴建物炉セクション(南より)

8　Ⅴ区36号竪穴建物炉全景(東より)

PL.36



1　V区37号竪穴建物全景(東より)

2　V区37号竪穴建物遺物出土状態(東より)

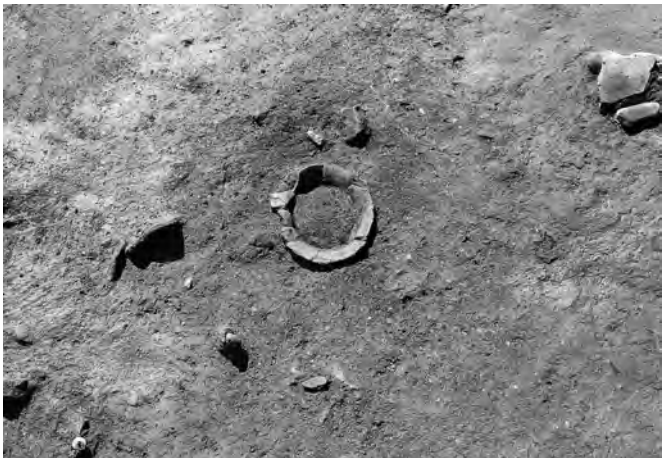
3　V区37号竪穴建物遺物出土状態(東より)

4　V区37号竪穴建物炉セクション(南より)

5　V区37号竪穴建物炉全景(北より)

1　V区38号竪穴建物全景（東より）

2　V区38号竪穴建物全景（東より）



3　V区38号竪穴建物埋甕炉全景（東より）

4　V区38号竪穴建物埋甕炉セクション（南より）

5　V区38号竪穴建物埋甕炉全景（東より）

PL.38

1　V区39号竪穴建物全景(東より)

2　V区38号竪穴建物セクション(南より)

3　V区39号竪穴建物埋甕出土状態(東より)

4　V区39号竪穴建物埋甕セクション(東より)

5　V区39号竪穴建物遺物出土状態(東より)

1　V区40号竪穴建物全景(東より)

2　V区40号竪穴建物遺物出土状態(南より)

3　V区40号竪穴建物遺物出土状態(東より)

4　V区40号竪穴建物炉全景(東より)

5　V区40号竪穴建物遺物出土状態(東より)

6　V区40号竪穴建物炉セクション(北より)

7　V区40号竪穴建物埋甕セクション(南より)

8　V区40号竪穴建物全景北側(南より)

PL.40

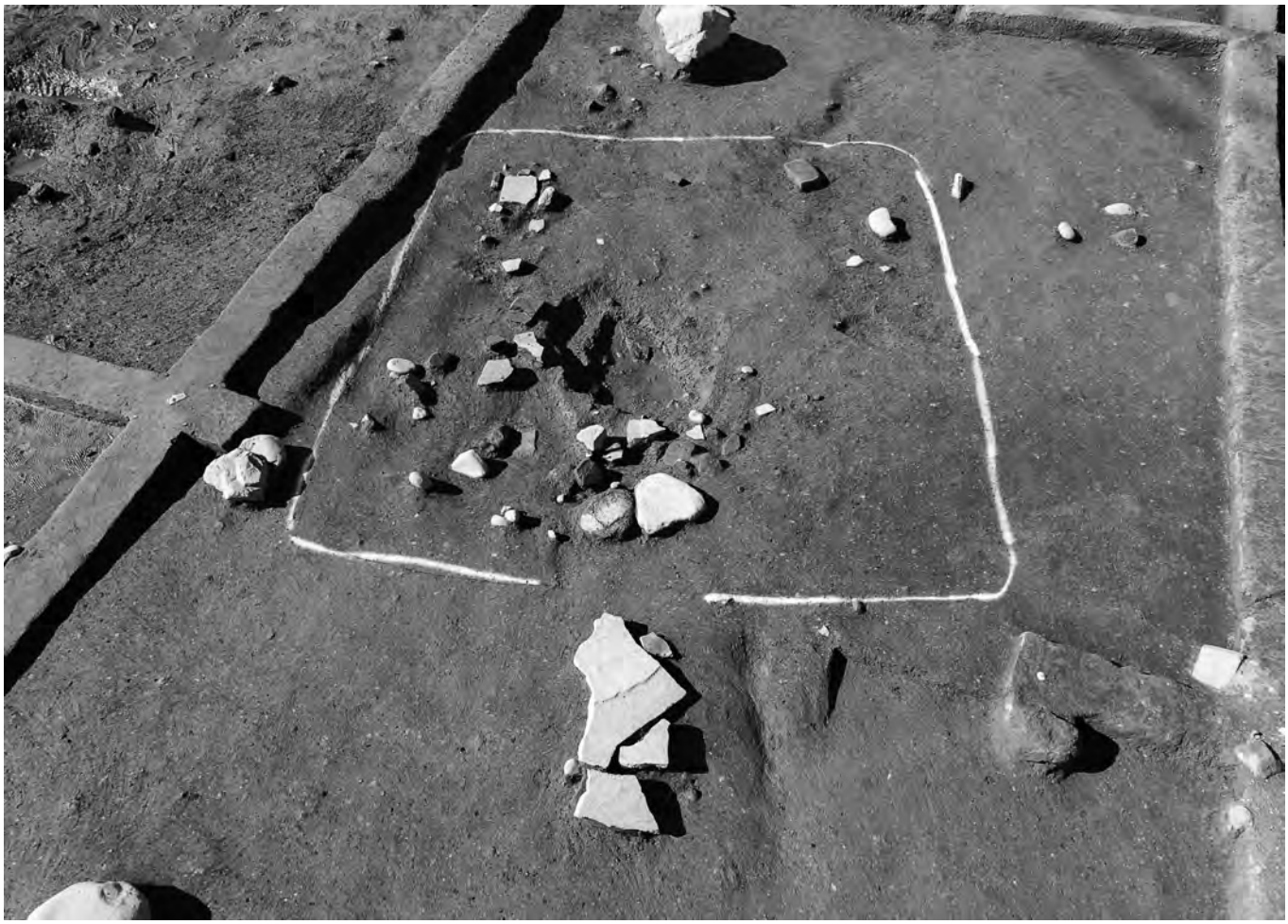
1　V区42号竪穴建物全景(東より)

2　V区42号竪穴建物全景(東より)

3　V区42号竪穴建物遺物出土状態(東より)

4　V区42号竪穴建物遺物出土状態(東より)

5　V区42号竪穴建物炉全景(東より)



1　V区44号竪穴建物全景（東より）

2　V区44号竪穴建物全景（東より）

3　V区44号竪穴建物セクション（南より）

4　V区44号竪穴建物遺物出土状態（東より）

5　V区44号竪穴建物遺物出土状態（東より）

PL.42

1　Ⅴ区45号竪穴建物遺物出土状態（東より）

2　Ⅴ区45号竪穴建物遺物出土状態（東より）

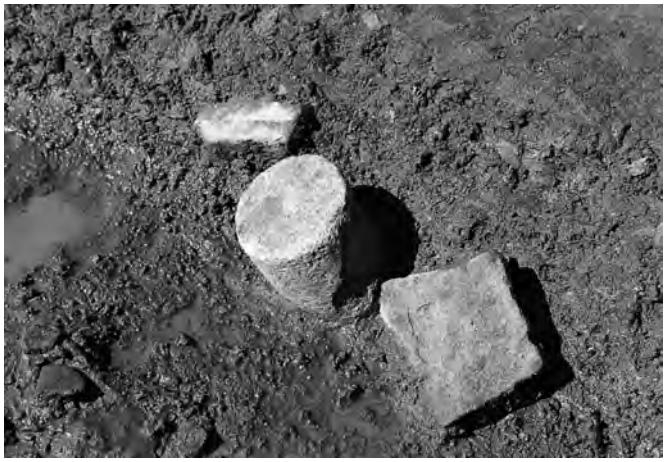
3　Ⅴ区45号竪穴建物全景（東より）

4　Ⅴ区45号竪穴建物遺物出土状態（西より）

5　Ⅴ区46号竪穴建物全景（東より）

1　V区46号竪穴建物全景(東より)

2　V区46号竪穴建物遺物出土状態(東より)



3　V区46号竪穴建物遺物出土状態(東より)

4　V区46号竪穴建物遺物出土状態(東より)

5　V区46号竪穴建物遺物出土状態(東より)

6　V区46号竪穴建物遺物出土状態(東より)

7　V区46号竪穴建物遺物出土状態(東より)

8　V区46号竪穴建物炉全景(東より)

PL.44

1　Ⅴ区47号竪穴建物遺物出土状態(東より)

2　Ⅴ区47号竪穴建物遺物出土状態(東より)

3　Ⅴ区47号竪穴建物北側遺物出土状態(南より)

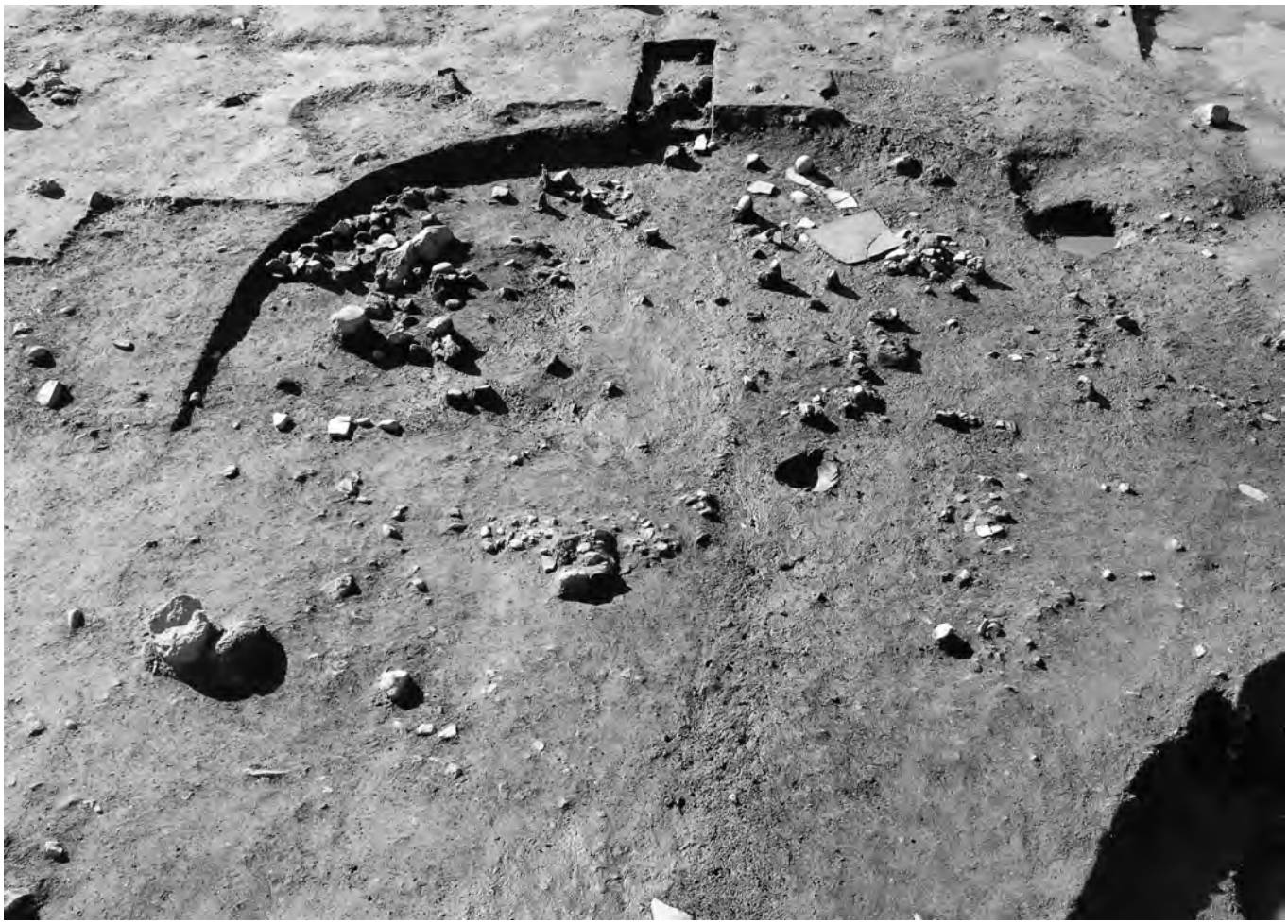
4　Ⅴ区47号竪穴建物北側遺物出土状態(西より)

5　Ⅴ区47号竪穴建物北側遺物出土状態(南より)

6　Ⅴ区47号竪穴建物北側遺物出土状態(南より)

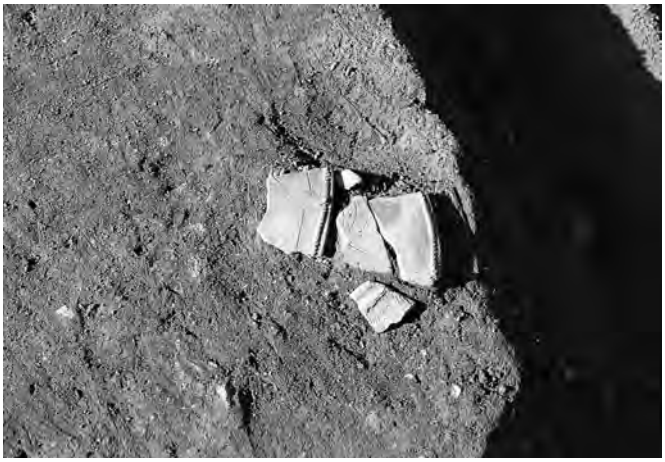
7　Ⅴ区47号竪穴建物北側遺物出土状態(西より)

8　Ⅴ区47号竪穴建物北側全景(北東より)



1　V区48号竪穴建物全景(東より)

2　V区48号竪穴建物遺物出土状態(東より)

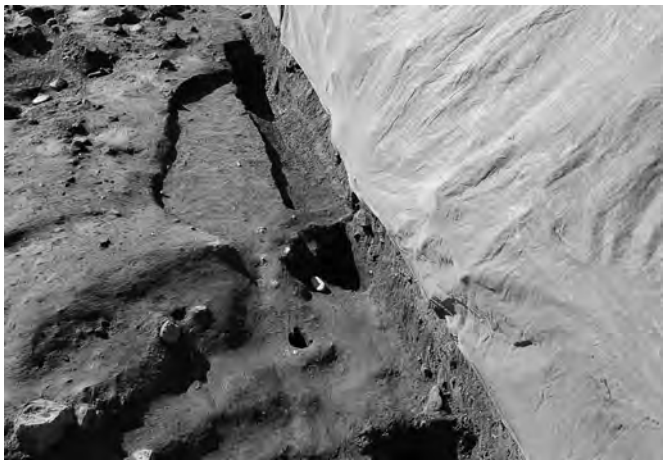


3　V区48号竪穴建物遺物出土状態(東より)

4　V区48号竪穴建物敷石検出状態(東より)

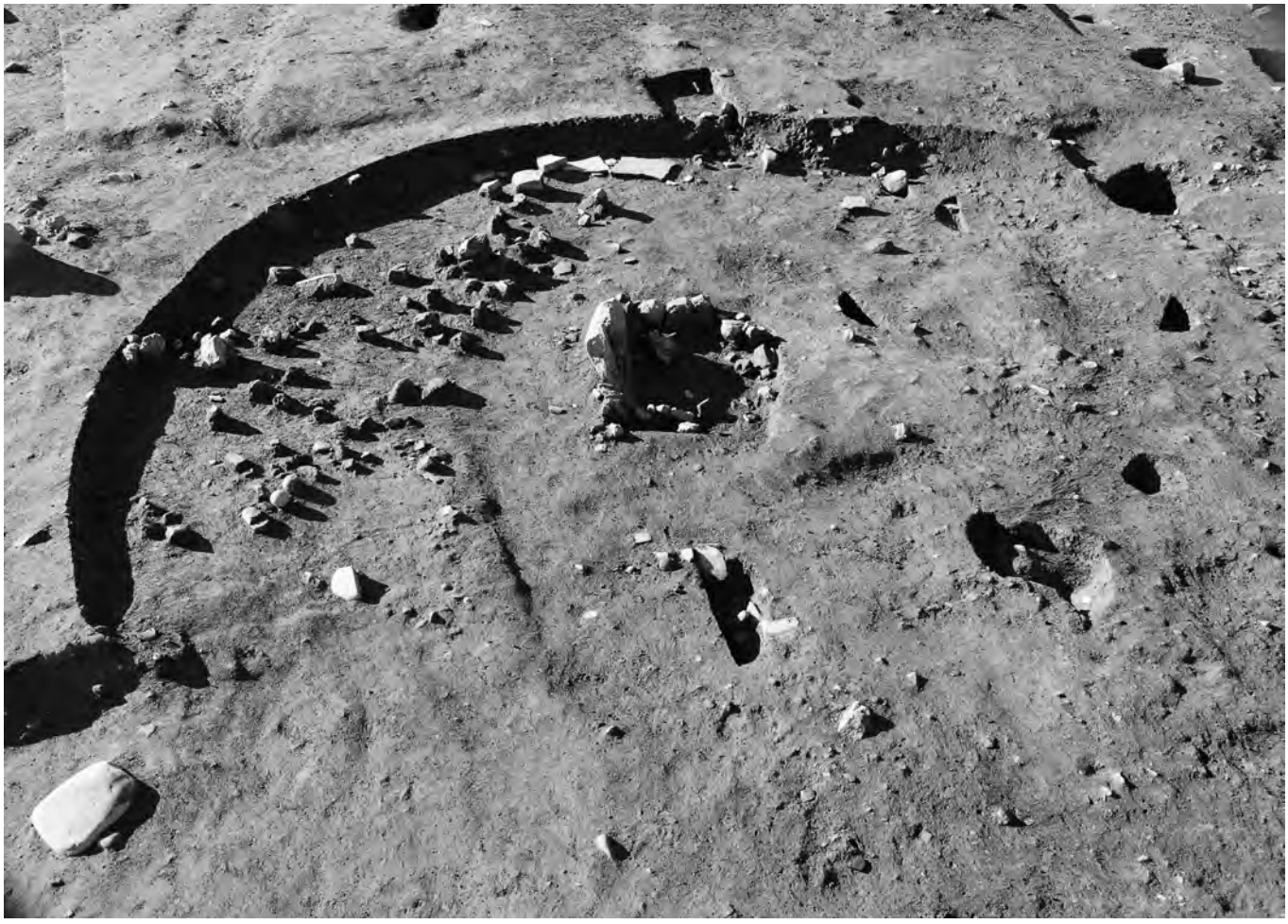
5　V区48号竪穴建物埋甕炉(東より)

PL.46



1　Ⅴ区49号竪穴建物全景(北東より)

2　Ⅴ区49号竪穴建物炉(東より)



3　Ⅴ区50号竪穴建物全景(東より)

4　Ⅴ区50号竪穴建物セクション(東より)

5　Ⅴ区50号竪穴建物敷石検出状況(東より)

1　V区50号竪穴建物全景（東より）

2　V区50号竪穴建物遺物出土状態（東より）

3　V区50号竪穴建物炉セクション（東より）

4　V区50号竪穴建物炉全景（東より）

5　V区50号竪穴建物炉掘方（北より）

PL.48

1　V区51号竪穴建物全景(東より)

2　V区51号竪穴建物セクション(南より)

3　V区51号竪穴建物炉セクション(南より)

4　V区51号竪穴建物炉炉体土器セクション(南より)

5　V区51号竪穴建物炉全景(東より)

1　V区52号竪穴建物全景(東より)

2　V区52号竪穴建物全景(東より)

3　V区52号竪穴建物遺物出土状態(東より)

4　V区52号竪穴建物炉セクション(東より)

5　V区52号竪穴建物炉全景(東より)

PL.50

1　V区53号竪穴建物全景(東より)

2　V区53号竪穴建物遺物出土状態(東より)

3　V区53号竪穴建物遺物出土状態(東より)

4　V区53号竪穴建物炉全景(東より)

5　V区53号竪穴建物埋甕(東より)

1　V区54号竪穴建物全景(東より)

2　V区54号竪穴建物遺物出土状態(東より)

3　V区54号竪穴建物遺物出土状態(東より)

4　V区54号竪穴建物遺物出土状態(東より)

5　V区54号竪穴建物炉セクション(南より)

PL.52

1　V区55号竪穴建物全景(東より)

2　V区55号竪穴建物セクション(東より)

3　V区55号竪穴建物遺物出土状態(東より)

4　V区55号竪穴建物炉全景(東より)

5　V区56号竪穴建物全景(東より)

6　V区56号竪穴建物遺物出土状態(東より)

7　V区56号竪穴建物遺物出土状態(東より)

8　V区56号竪穴建物炉セクション(南より)

1　V区57号竪穴建物全景（東より）

2　V区57号竪穴建物遺物出土状態（東より）

3　V区57号竪穴建物遺物出土状態（東より）

4　V区57号竪穴建物炉全景（東より）

5　V区57号竪穴建物炉体土器出土状態（北東より）

PL.54

1　V区58号竪穴建物全景(東より)

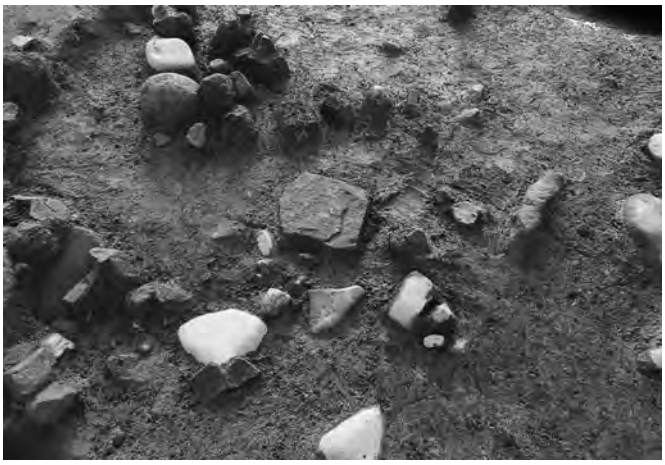
2　V区58号竪穴建物遺物出土状態(東より)

3　V区58号竪穴建物遺物出土状態(東より)

4　V区58号竪穴建物遺物出土状態(東より)

5　V区58号竪穴建物遺物出土状態(東より)

1　V区58号竪穴建物遺物出土状態(東より)



2　V区58号竪穴建物遺物出土状態(東より)

3　V区58号竪穴建物遺物出土状態(東より)

4　V区58号竪穴建物炉セクション(東より)

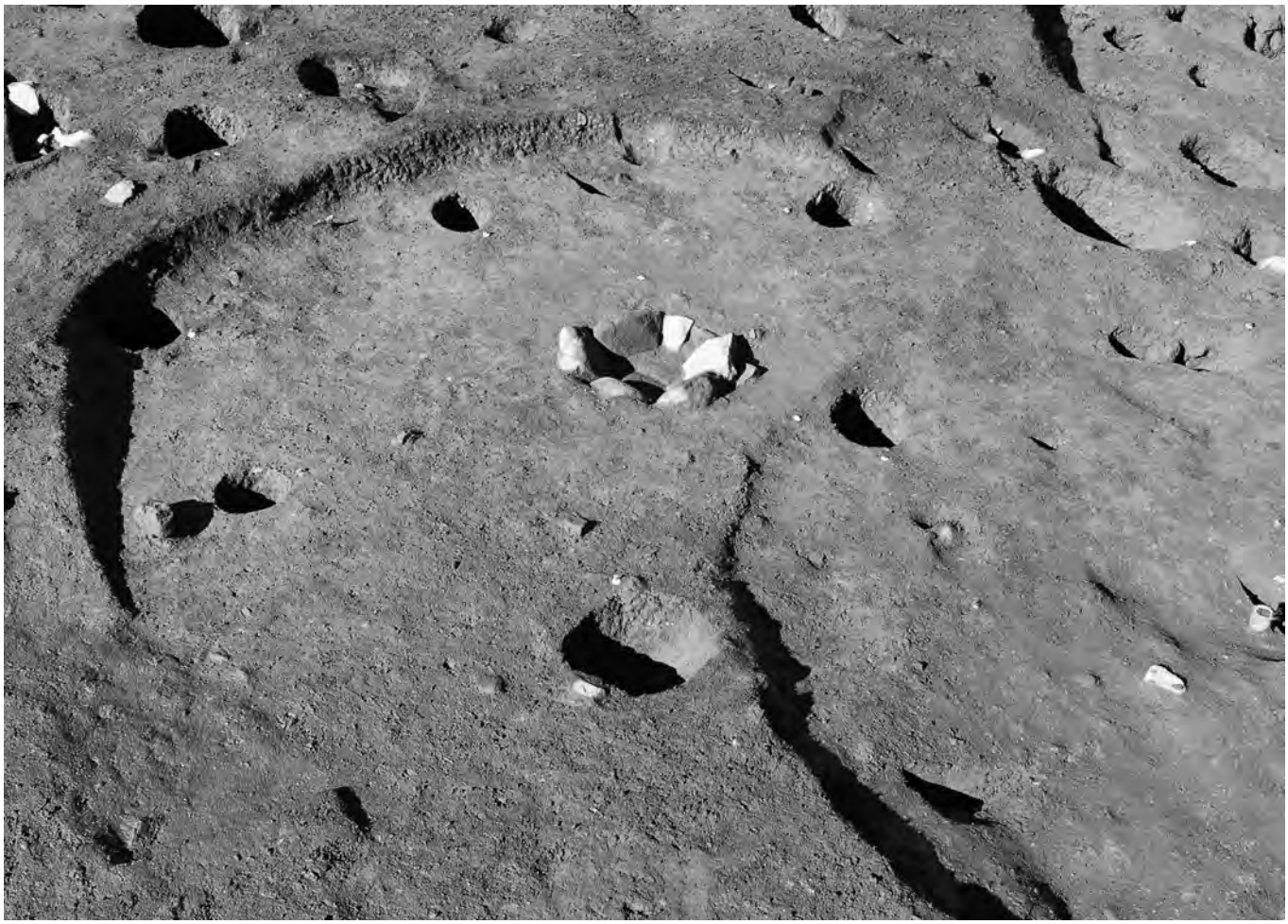
5　V区58号竪穴建物炉全景(東より)

6　V区58号竪穴建物埋甕検出状況(東より)

7　V区58号竪穴建物埋甕検出状況(東より)

8　V区58号竪穴建物埋甕セクション(南より)

PL.56



1　V区59号竪穴建物全景(東より)

2　V区59号竪穴建物遺物出土状態(東より)

3　V区59号竪穴建物炉遺物出土状態(東より)

4　V区59号竪穴建物炉遺物出土状態(東より)

5　V区59号竪穴建物炉全景(南より)

1　V区60号竪穴建物全景(東より)

2　V区60号竪穴建物遺物出土状態(東より)

3　V区60号竪穴建物セクション(南より)

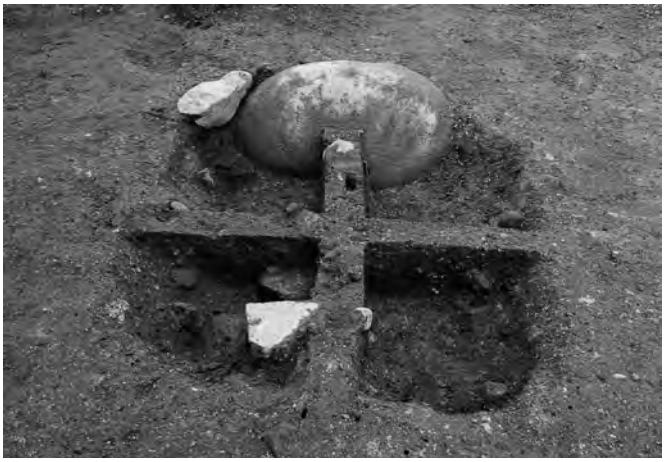
4　V区60号竪穴建物炉セクション(南より)

5　V区60号竪穴建物炉全景(南より)

PL.58

1　V区61号竪穴建物遺物出土状態(東より)

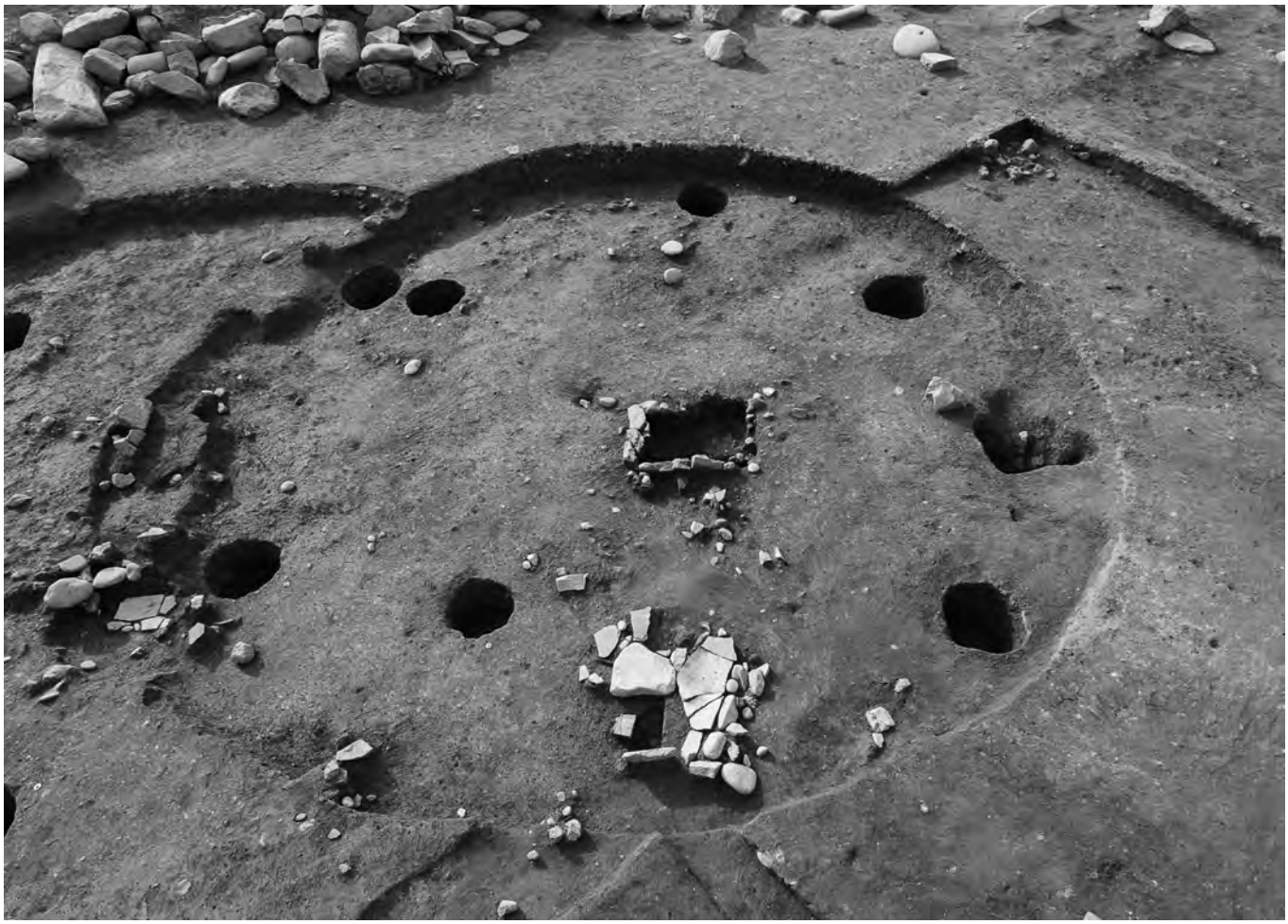
2　V区61号竪穴建物セクション(南より)



3　V区61号竪穴建物炉セクション(東より)

4　V区61号竪穴建物炉全景(西より)

5　V区61号竪穴建物炉掘方(西より)



1　V区62号竪穴建物全景(東より)

2　V区62号竪穴建物遺物出土状態(東より)

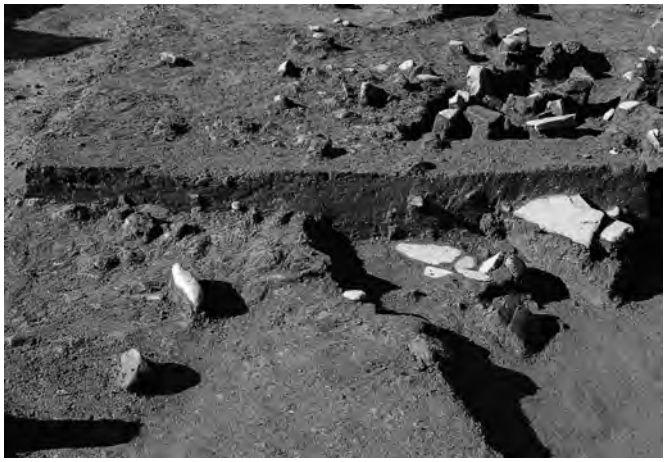
3　V区62号竪穴建物敷石(東より)

4　V区62号竪穴建物炉全景(東より)

5　V区62号竪穴建物炉体土器セクション(南東より)

PL.60

1　V区63号竪穴建物全景(東より)

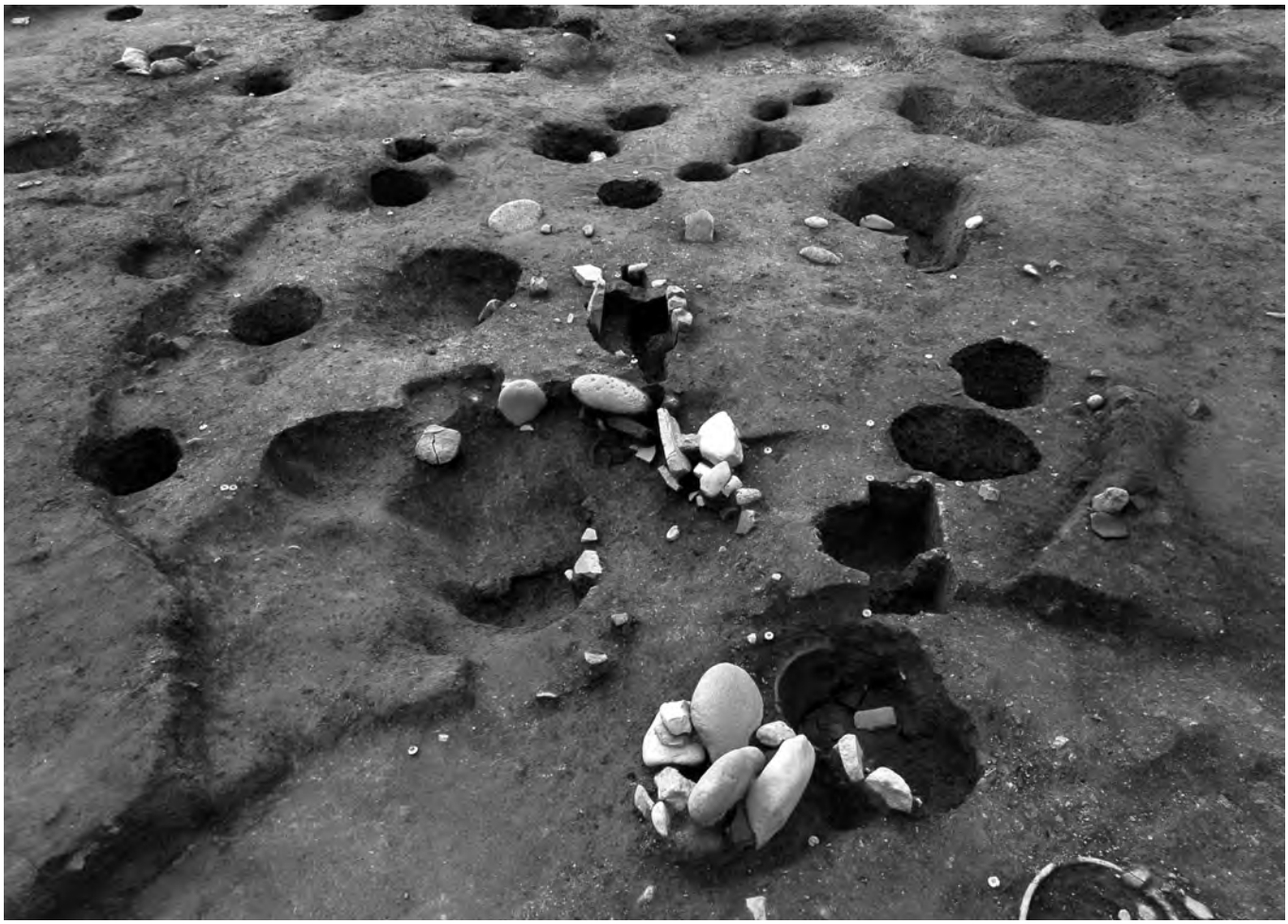


2　V区63号竪穴建物セクション(東より)

3　V区63号竪穴建物遺物出土状態(東より)

4　V区63号竪穴建物炉セクション(東より)

5　V区63号竪穴建物炉全景(東より)



1　V区64号竪穴建物全景（東より）

2　V区64号竪穴建物炉全景（東より）

3　V区64号竪穴建物炉掘方セクション（東より）

4　V区64号竪穴建物１号埋甕（東より）

5　V区64号竪穴建物２号埋甕（東より）

PL.62

1　V区66号竪穴建物全景(東より)

2　V区66号竪穴建物遺物出土状態(東より)

3　V区66号竪穴建物遺物出土状態(東より)

4　V区66号竪穴建物炉セクション(南より)

5　V区66号竪穴建物炉全景(東より)

1　V区67号竪穴建物全景（東より）

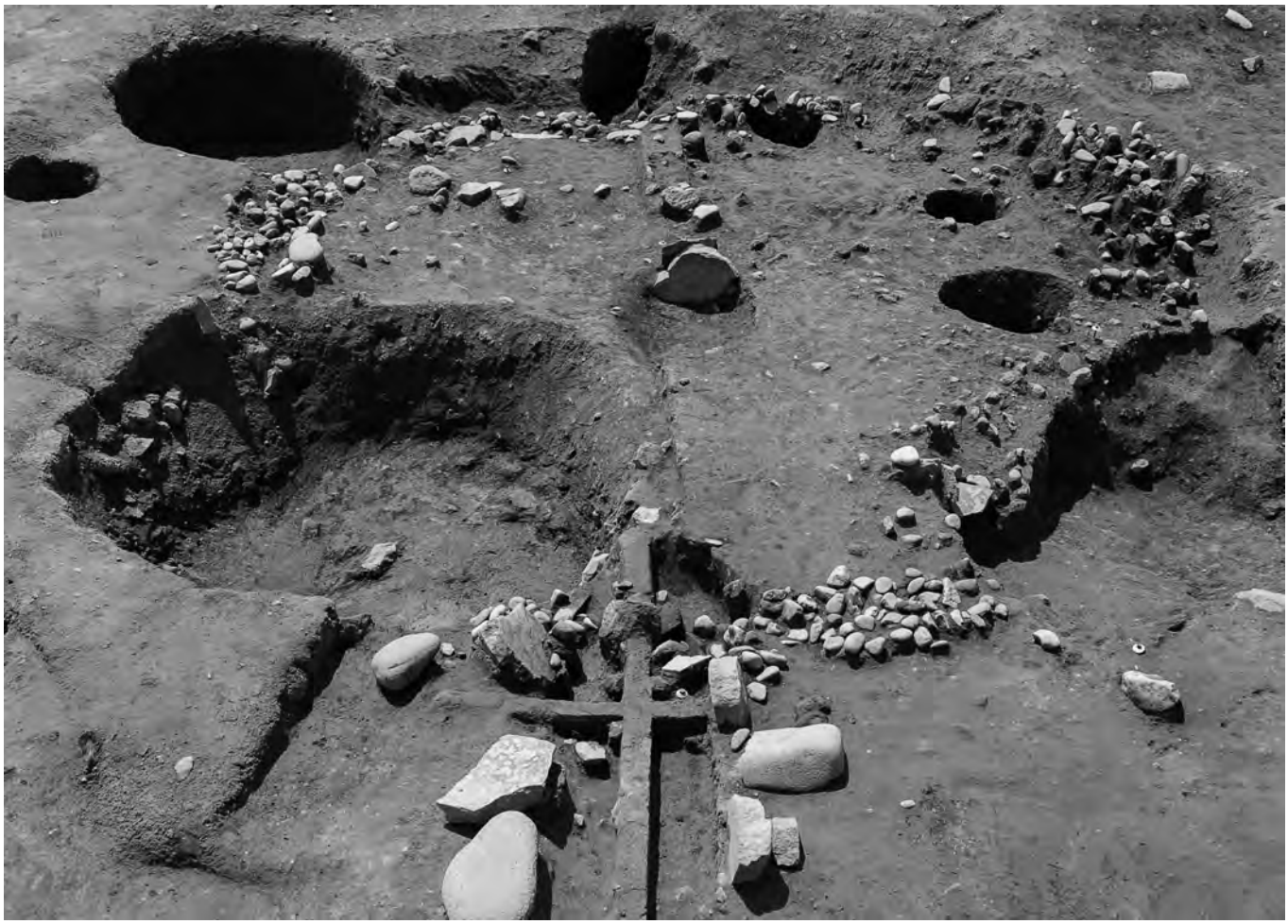
2　V区67号竪穴建物遺物出土状態（東より）

3　V区67号竪穴建物遺物出土状態（東より）

4　V区67号竪穴建物炉検出状況（東より）

5　V区67号竪穴建物炉全景（東より）

PL.64



1　V区68号竪穴建物全景(東より)

2　V区68号竪穴建物全景(南より)

3　V区68号竪穴建物主体部全景(東より)

4　V区68号竪穴建物接合部(東より)

5　V区68号竪穴建物掘方全景(東より)

1　V区69号竪穴建物全景(東より)

2　V区69号竪穴建物炉全景(東より)

3　V区70号竪穴建物全景(東より)

4　V区70号竪穴建物遺物出土状態(東より)

5　V区70号竪穴建物全景(東より)

6　V区70号竪穴建物炉検出状況(東より)

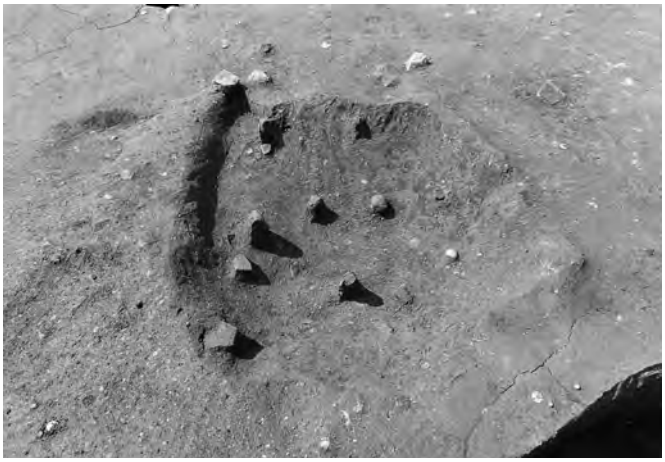
7　V区70号竪穴建物炉全景(東より)

8　V区70号竪穴建物埋甕全景(東より)

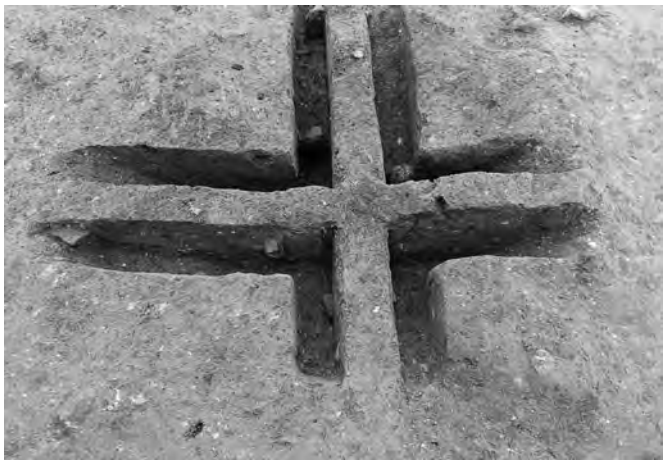
PL.66

1　V区71号竪穴建物全景(東より)

2　V区71号竪穴建物遺物出土状態(東より)



3　V区71号竪穴建物炉全景(東より)



4　V区71号竪穴建物炉掘方セクション(東より)

5　V区71号竪穴建物炉掘方セクション(南より)

1　V区71号竪穴建物炉掘方遺物出土状態(北より)

2　V区71号竪穴建物炉掘方セクション(南より)

3　V区71号竪穴建物炉掘方遺物出土状態(北より)

4　V区71号竪穴建物炉掘方全景(北より)

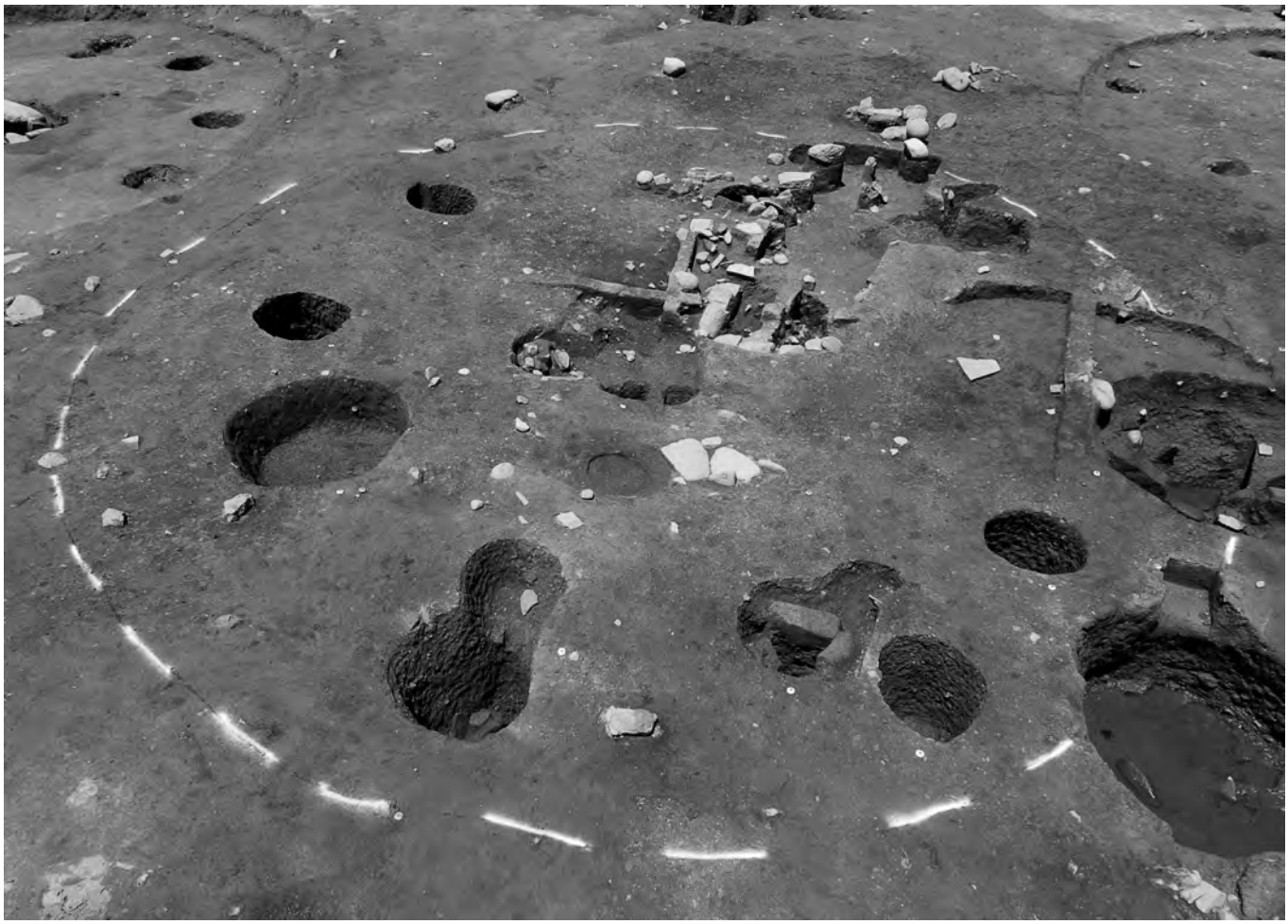
5　V区71号竪穴建物埋甕検出状況(東より)

6　V区71号竪穴建物埋甕セクション(東より)

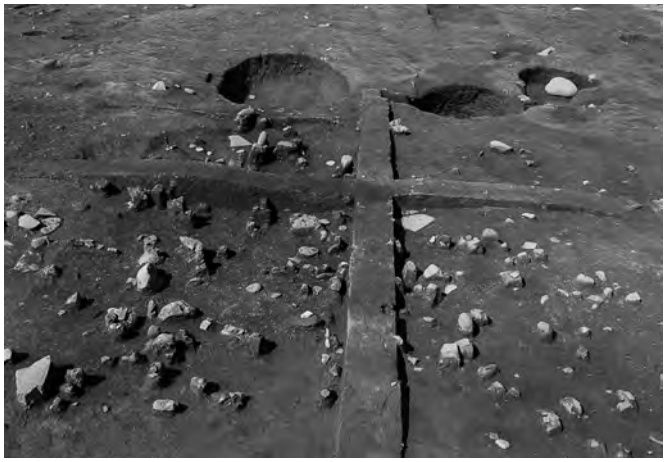
7　V区71号竪穴建物埋甕全景(東より)

8　V区71号竪穴建物埋甕全景(東より)

PL.68



1　V区73号竪穴建物全景（東より）



2　V区73号竪穴建物遺物出土状態（東より）

3　V区73号竪穴建物遺物出土状態（東より）

4　V区73号竪穴建物炉遺物出土状態（東より）

5　V区73号竪穴建物炉全景（東より）

1　V区74号竪穴建物全景(東より)

2　V区74号竪穴建物セクション(南より)

3　V区74号竪穴建物遺物出土状態(南より)

4　V区74号竪穴建物遺物出土状態(東より)

5　V区74号竪穴建物遺物出土状態(東より)

PL.70

1　V区75号竪穴建物全景(東より)

2　V区75号竪穴建物炉遺物出土状態(東より)

3　V区75号竪穴建物炉全景(北より)

4　V区75号竪穴建物埋甕セクション(東より)

5　V区75号竪穴建物埋甕(東より)

1　V区76号竪穴建物全景（東より）

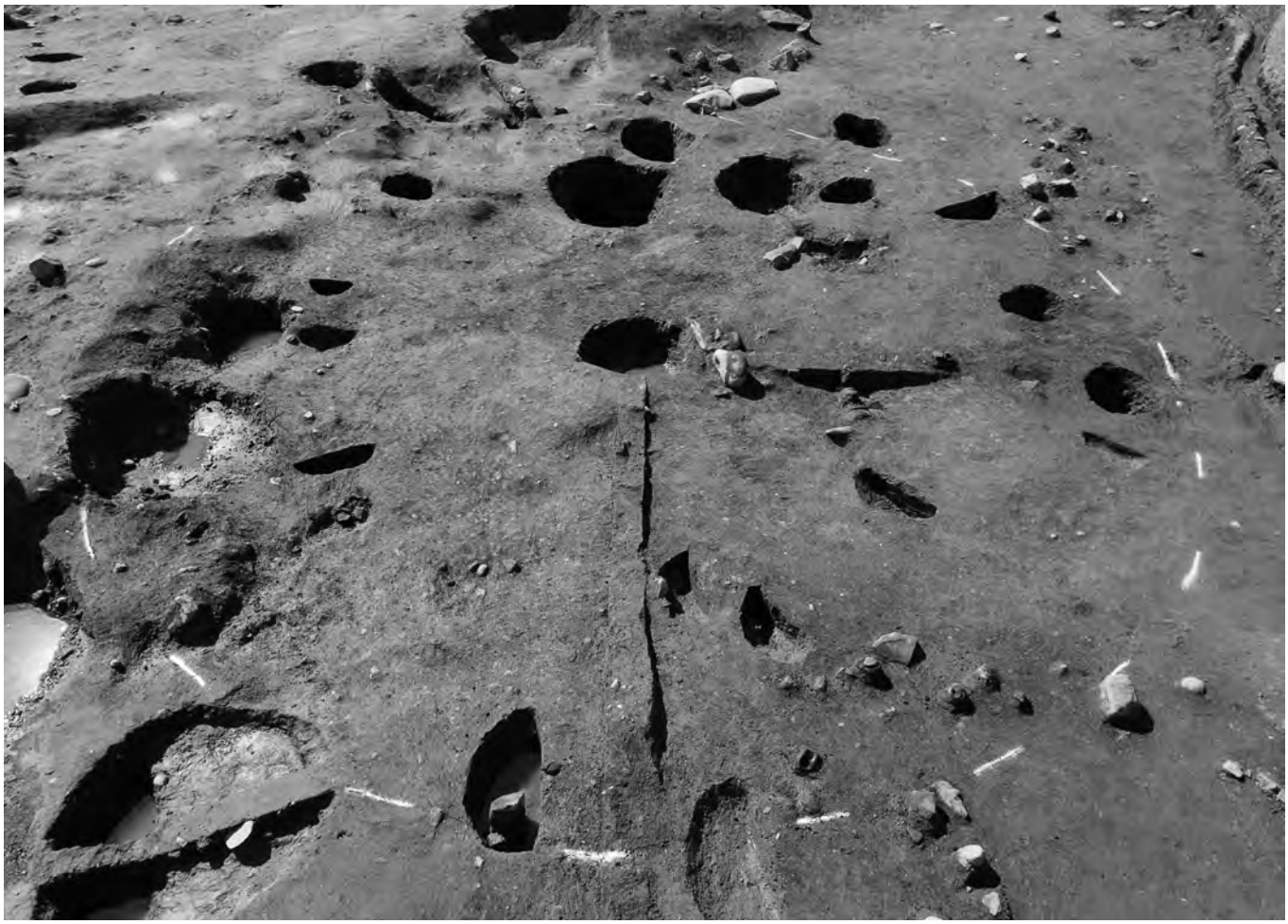
2　V区76号竪穴建物周溝セクション（南より）

3　V区76号竪穴建物炉セクション（西より）

4　V区76号竪穴建物炉（東より）

5　V区76号竪穴建物炉全景（東より）

PL.72



1　V区77号竪穴建物全景(東より)

2　V区77号竪穴建物遺物出土状態(東より)

3　V区77号竪穴建物遺物出土状態(東より)

4　V区77号竪穴建物遺物出土状態(東より)

5　V区77号竪穴建物遺物出土状態(東より)

1　Ⅴ区77号竪穴建物遺物出土状態（東より）

2　Ⅴ区77号竪穴建物炉遺物出土状態（東より）

3　Ⅴ区77号竪穴建物１号埋甕検出状況（東より）

4　Ⅴ区77号竪穴建物１・２号埋甕出土状況（北東より）

5　Ⅴ区77号竪穴建物１号埋甕セクション（北より）

6　Ⅴ区77号竪穴建物１号埋甕出土状態（東より）

7　Ⅴ区77号竪穴建物２号埋甕検出状況（東より）

8　Ⅴ区77号竪穴建物２号埋甕セクション（北東より）

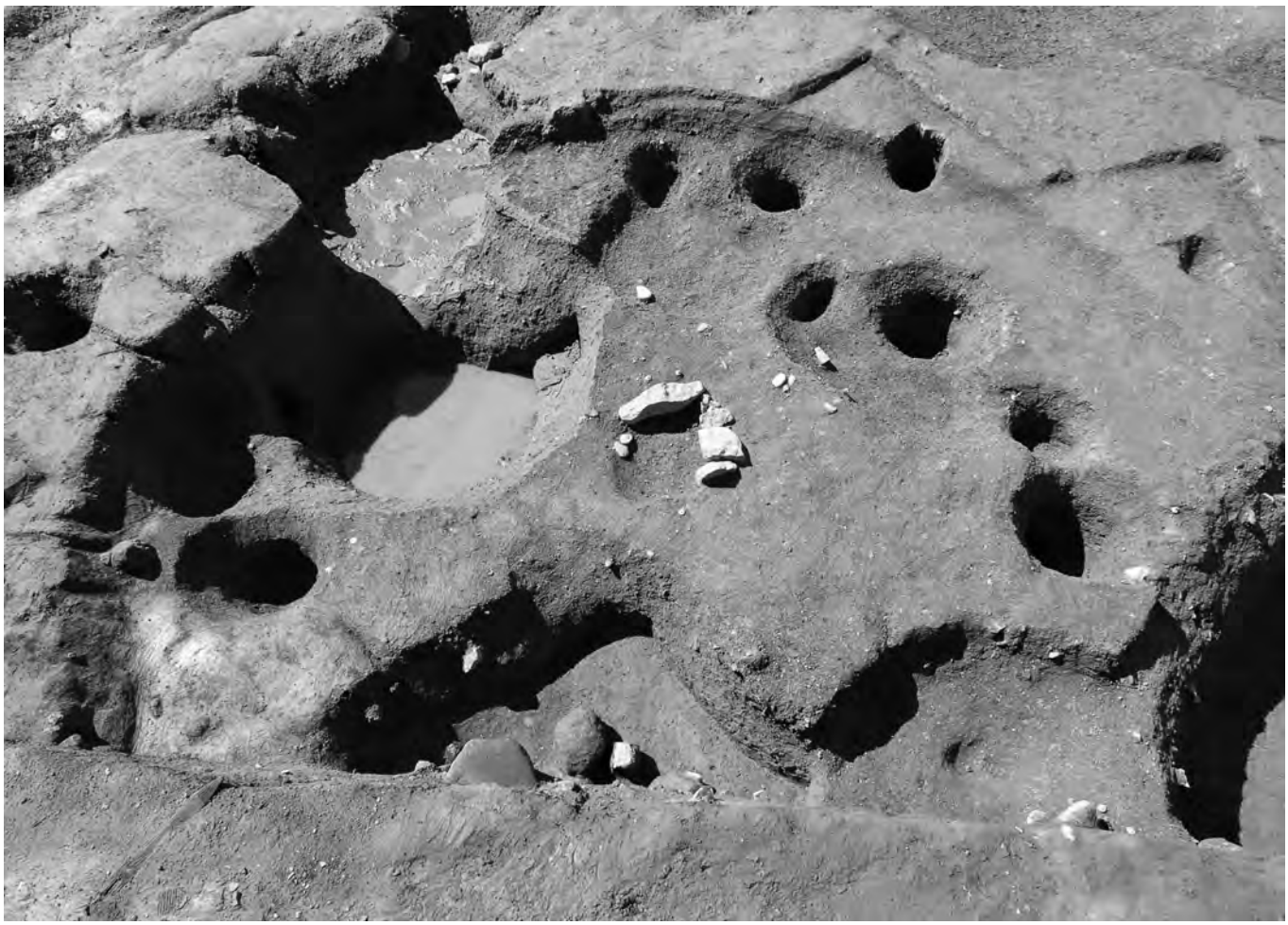
PL.74

1　Ⅴ区78号竪穴建物遺物出土状態（東より）

2　Ⅴ区78号竪穴建物遺物全景（東より）

3　Ⅴ区78号竪穴建物炉遺物出土状態（東より）

4　Ⅴ区78号竪穴建物炉全景（東より）



5　Ⅴ区79号竪穴建物全景（東より）

1　V区79号竪穴建物全景(北西より)

2　V区79号竪穴建物掘方全景(東より)

3　V区79号竪穴建物セクション(北東より)

4　V区79号竪穴建物炉セクション(北東より)

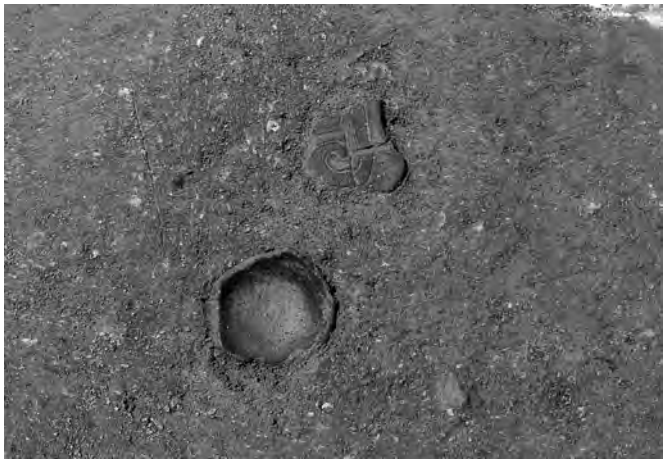
5　V区79号竪穴建物炉全景(東より)

PL.76

1　V区80号竪穴建物全景(東より)

2　V区80号竪穴建物全景(東より)

3　V区80号竪穴建物掘方全景(東より)



4　V区80号竪穴建物遺物出土状態(東より)

5　V区80号竪穴建物炉遺物出土状態(東より)

1　V区81号竪穴建物全景(北東より)

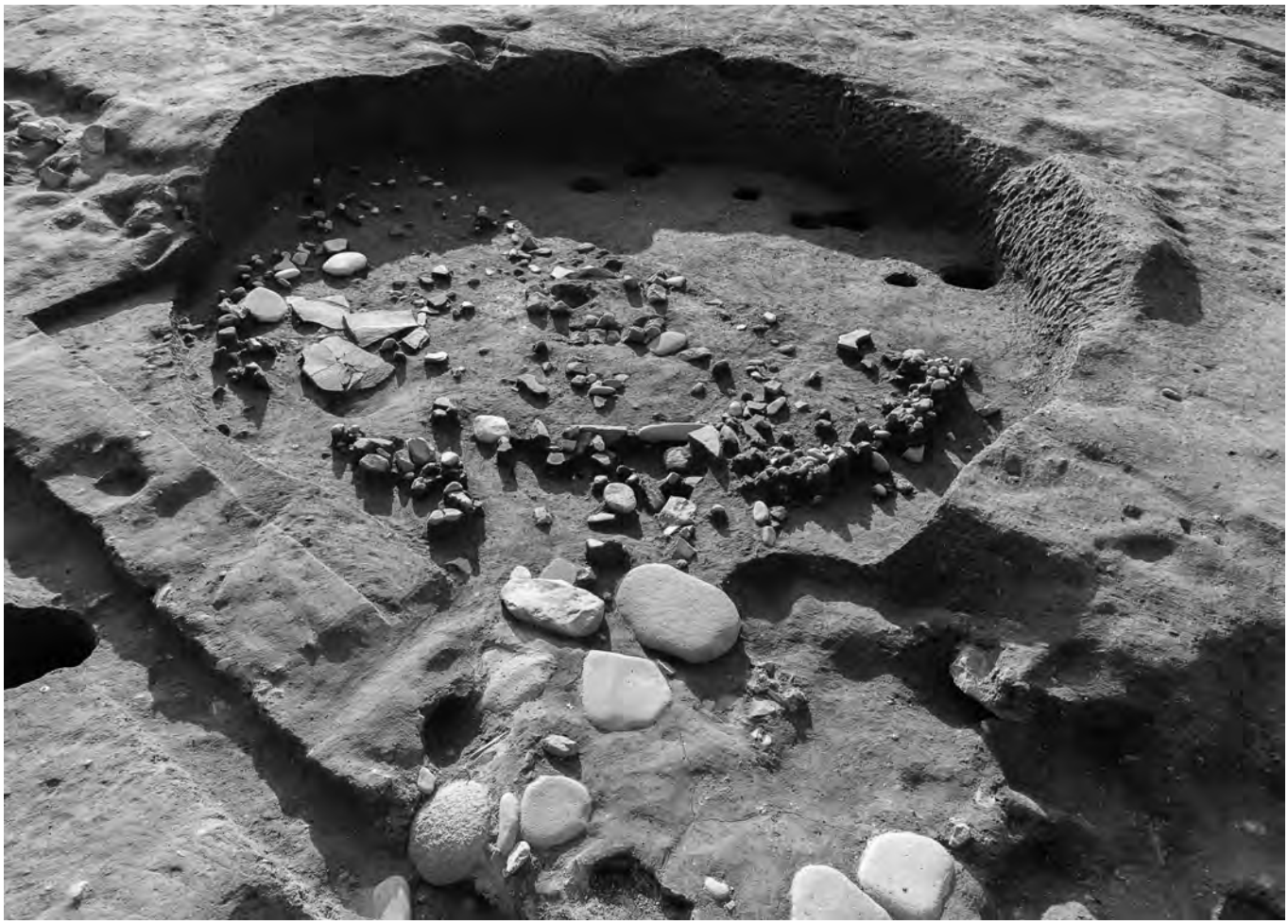
2　V区81号竪穴建物全景(南東より)

3　V区82号竪穴建物全景(北西より)

4　V区82号竪穴建物全景(北東より)

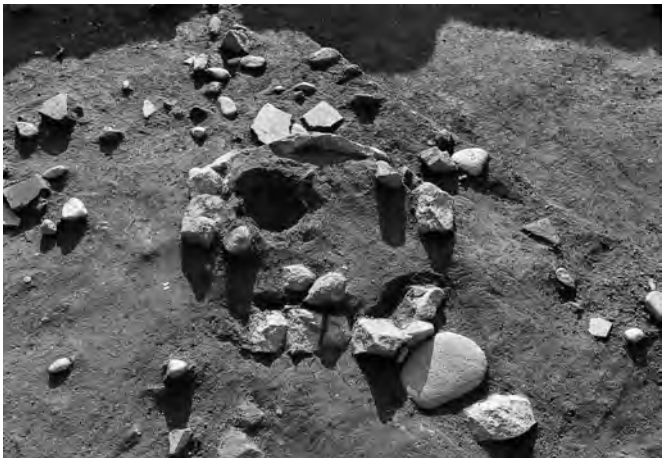
5　V区82号竪穴建物全景(南東より)

PL.78



1　V区82号竪穴建物全景(東より)

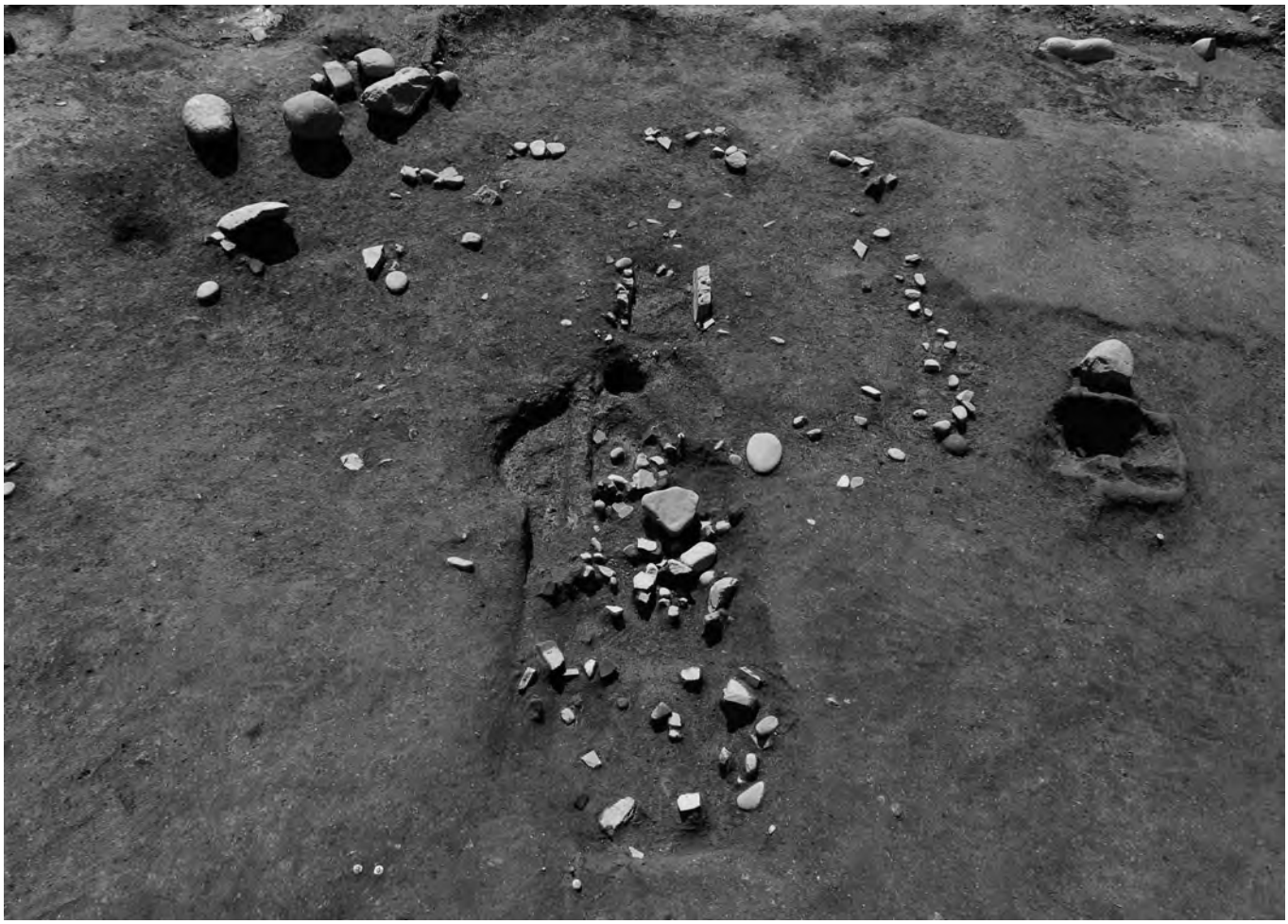
2　V区82号竪穴建物主体部全景(東より)



3　V区82号竪穴建物炉検出状況(東より)

4　V区82号竪穴建物石囲い遺構検出状況(南より)

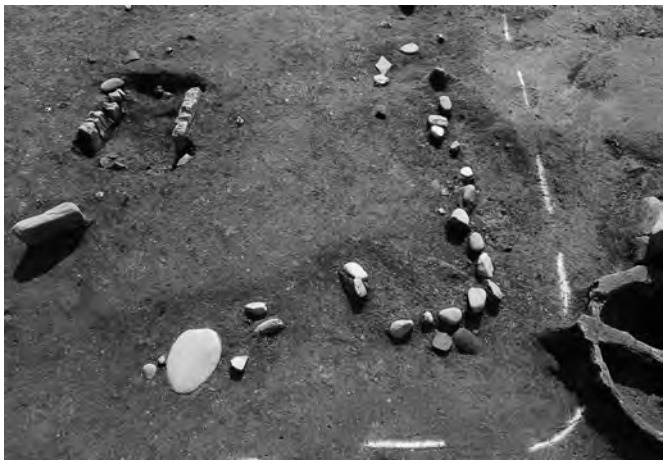
5　V区82号竪穴建物炉全景(南西より)



1　V区83号竪穴建物遺物出土状態（東より）

2　V区83号竪穴建物全景（東より）

PL.80



1　Ⅴ区83号竪穴建物遺物出土状態(東より)

2　Ⅴ区83号竪穴建物炉全景(東より)

3　Ⅴ区83号竪穴建物張り出し部(東より)

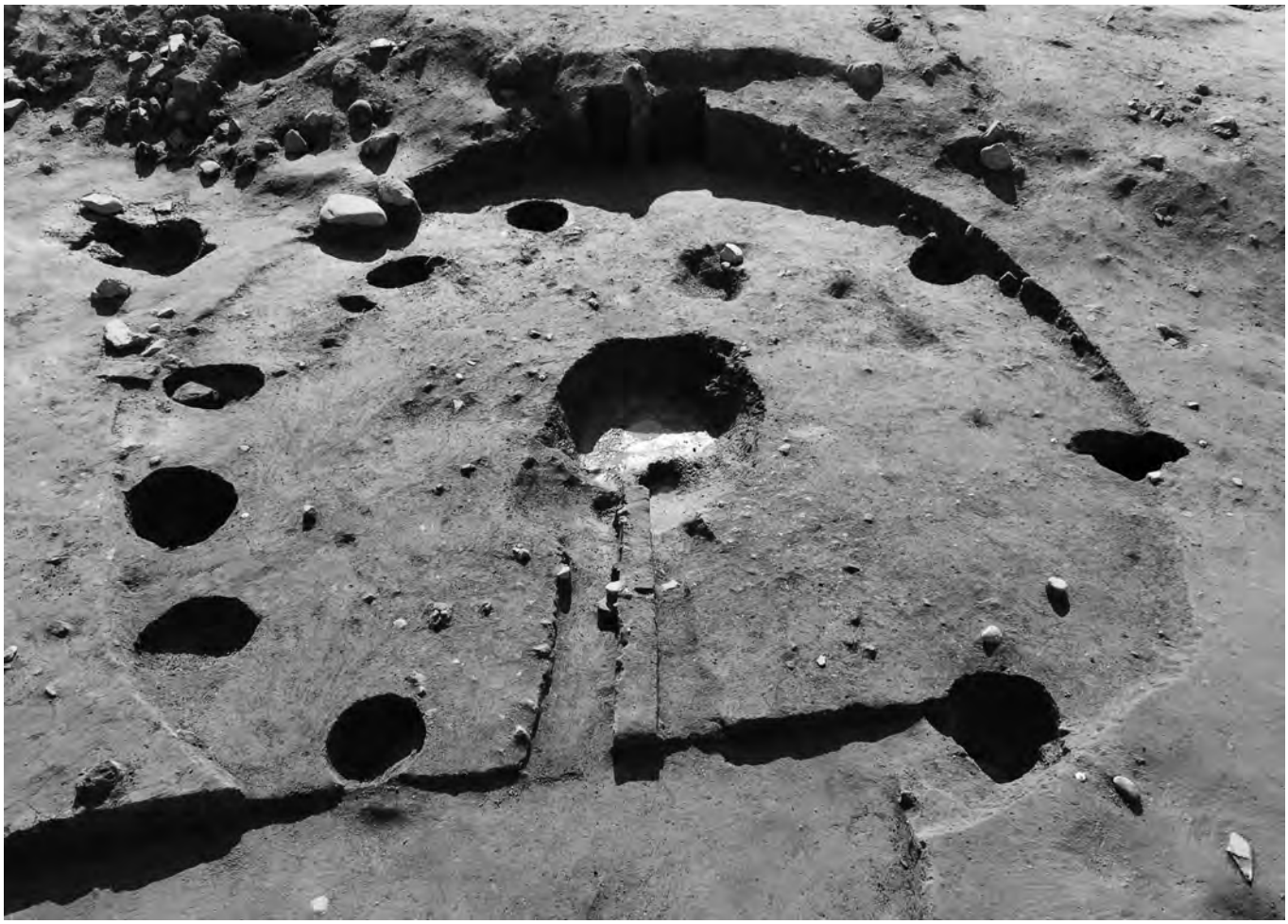
4　Ⅴ区83号竪穴建物張り出し部敷石検出状況(東より)

5　Ⅴ区83号竪穴建物張り出し部埋甕検出状況(東より)

6　Ⅴ区83号竪穴建物張り出し部埋甕出土状態(東より)

7　Ⅴ区83号竪穴建物張り出し部埋甕セクション(東より)

8　Ⅴ区83号竪穴建物掘方全景(東より)



1　V区84号竪穴建物全景(東より)

2　V区84号竪穴建物セクション(北より)

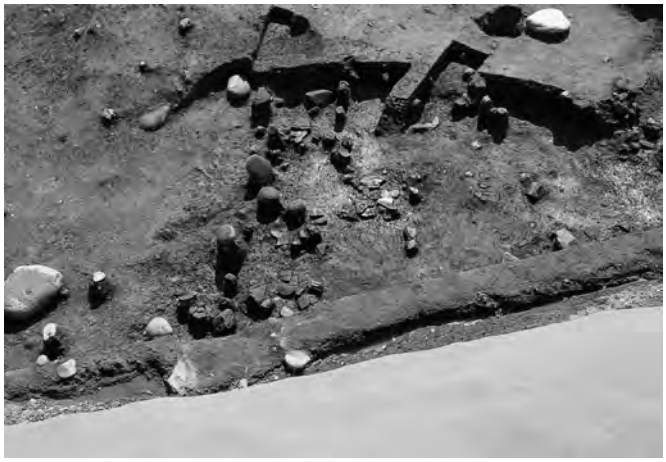
3　V区84号竪穴建物炉セクション(北より)

4　V区84号竪穴建物炉全景(東より)

5　V区84号竪穴建物掘方全景(東より)

PL.82

1　V区85号竪穴建物全景(南東より)



2　V区85号竪穴建物遺物出土状態(東より)

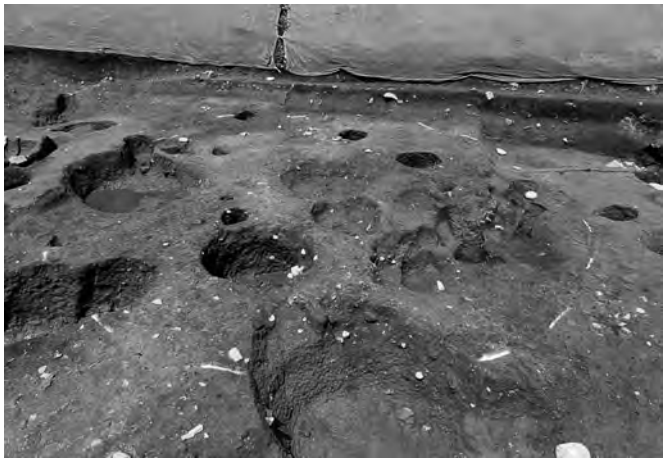
3　V区85号竪穴建物遺物出土状態(北東より)

4　V区85号竪穴建物黒曜石片出土状況(東より)

5　V区85号竪穴建物遺物出土状態(北より)

1　V区86号竪穴建物全景(南東より)

2　V区86号竪穴建物全景(北東より)



3　V区87号竪穴建物全景(東より)

4　V区87号竪穴建物ピット内遺物出土状態(東より)

5　V区88号竪穴建物遺物出土状態(東より)

6　V区88号竪穴建物全景(東より)

7　V区88号竪穴建物遺物出土状態(東より)

8　V区88号竪穴建物炉セクション(東より)

PL.84

1　V区89号竪穴建物全景(南東より)

2　V区89号竪穴建物炉全景(東より)

3　V区89号竪穴建物全景(南より)

4　V区89号竪穴建物埋甕検出状況(南東より)

5　V区89号竪穴建物埋甕全景(東より)

1　V区90号竪穴建物炉全景（東より）

2　V区91号竪穴建物全景（東より）

PL.86

1　V区92号竪穴建物全景(南東より)

2　V区92号竪穴建物遺物出土状態(南より)

3　V区92号竪穴建物遺物出土状態(東より)

4　V区92号竪穴建物遺物出土状態(西より)

5　V区92号竪穴建物遺物出土状態(南より)

1　90号土坑全景(東より)

2　92号土坑全景(東より)

3　94号土坑全景(東より)

4　121号土坑全景(東より)

5　126号土坑遺物出土状態(南より)

6　128号土坑全景(南より)

7　131号土坑遺物出土状態(東より)

8　132号土坑遺物出土状態(東より)

PL.88

1　132号土坑全景(東より)

2　133号土坑遺物出土状態(東より)

3　134号土坑セクション(東より)

4　134号土坑セクション(東より)

5　135号土坑遺物出土状態(東より)

6　135号土坑全景(東より)

7　136号土坑セクション(東より)

8　137号土坑セクション(南より)

1　138号土坑遺物出土状態(東より)

2　139号土坑全景(西より)

3　140号土坑遺物出土状態(東より)

4　141号土坑全景(南より)

5　141号土坑遺物出土状態(南より)

6　142号土坑全景(北より)

7　142号土坑遺物出土状態(北より)

8　143号土坑遺物出土状態(東より)

PL.90

1　143号土坑遺物出土状態(東より)

2　143号土坑全景(南より)

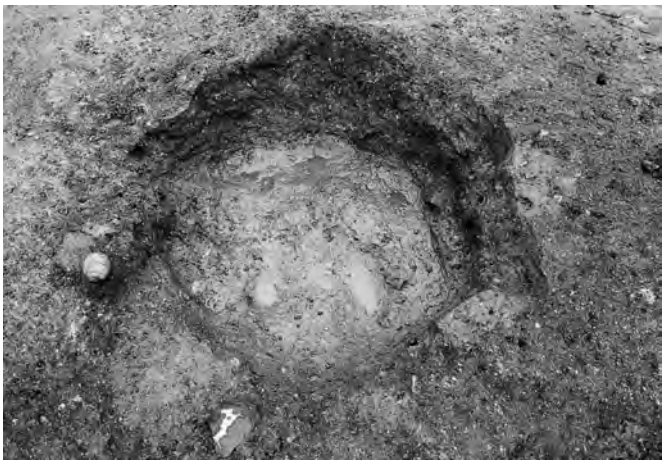
3　144号土坑遺物出土状態(南より)

4　144号土坑全景(東より)

5　145号土坑全景(東より)

6　146号土坑遺物出土状態(南より)

7　146号土坑遺物出土状態(南より)



8　146号土坑全景(南より)

1　147号土坑全景（東より）

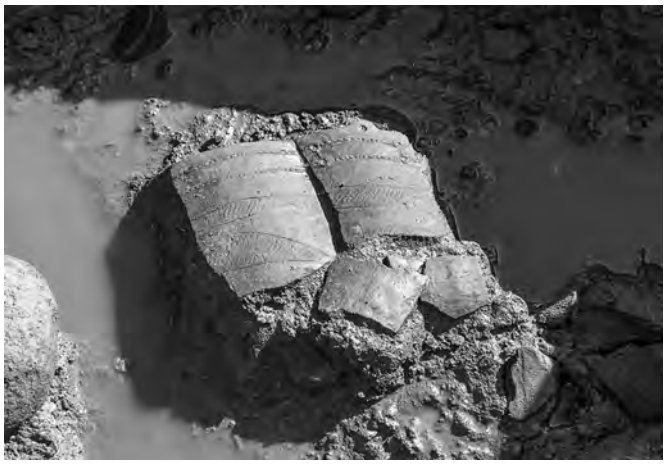
2　148号土坑全景（東より）

3　149号土坑遺物出土状態（東より）

4　150号土坑全景（南より）

5　151号土坑全景（東より）

6　151号土坑遺物出土状態（東より）

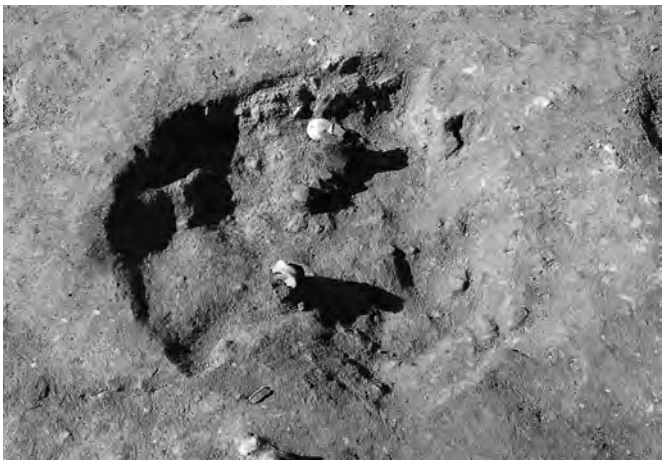


7　151号土坑遺物出土状態（東より）

8　151号土坑遺物出土状態（東より）

PL.92

1　152号土坑セクション(南より)



2　153号土坑全景(東より)

3　154号土坑遺物出土状態(南より)

4　155号土坑全景(南より)

5　156号土坑全景(東より)

6　157号土坑全景(東より)

7　158号土坑全景(東より)

8　159号土坑全景(東より)

1　160号土坑セクション（東より）

2　160号土坑全景（東より）

3　161号土坑全景（東より）

4　162号土坑全景（東より）

5　163号土坑遺物出土状態（東より）

6　164号土坑遺物出土状態（東より）

7　165号土坑セクション（東より）

8　165号土坑遺物出土状態（東より）

PL.94

1　166号土坑セクション(南より)

2　166号土坑全景(西より)

3　167号土坑遺物出土状態(南より)

4　167号土坑遺物出土状態(南より)

5　168号土坑全景(東より)

6　169号土坑遺物出土状態(北より)

7　169号土坑遺物出土状態(南より)

8　169号土坑全景(南より)

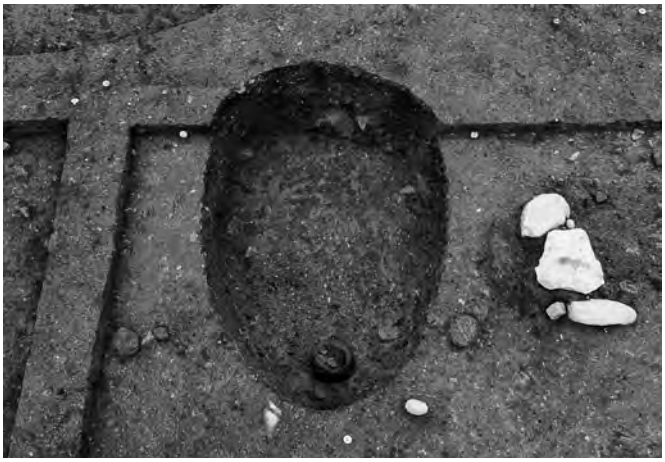
1　170号土坑遺物出土状態（東より）

2　170号土坑全景（東より）

3　171号土坑遺物出土状態（北より）

4　171号土坑遺物出土状態（北より）

5　171号土坑遺物出土状態（北より）



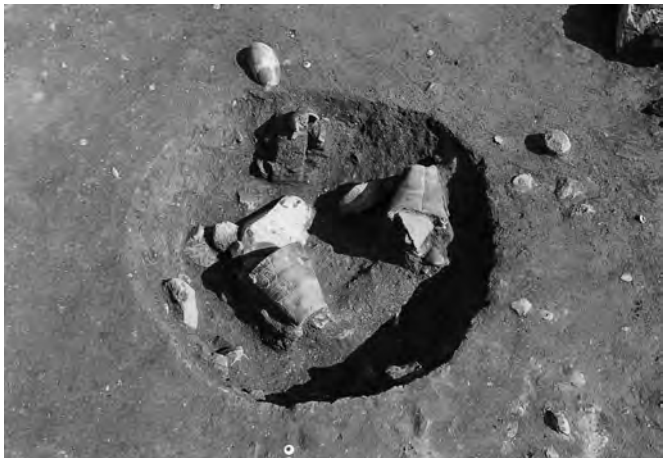
6　171号土坑全景（北より）

7　172号土坑セクション（南より）

8　172号土坑遺物出土状態（東より）

PL.96

1　173号土坑遺物出土状態（南東より）



2　173号土坑遺物出土状態（南より）

3　173号土坑遺物出土状態（南東より）

4　173号土坑遺物出土状態（南東より）

5　173号土坑遺物出土状態（南東より）

1　173号土坑遺物出土状態（南西より）

2　173号土坑全景（南西より）

3　174号土坑全景（南西より）

4　175号土坑遺物出土状態（西より）

5　176号土坑遺物出土状態（北より）

6　176号土坑全景（北より）

7　177号土坑遺物出土状態（東より）

8　177号土坑遺物出土状態（東より）

PL.98

1　178号土坑遺物出土状態（東より）

2　179号土坑遺物出土状態（南より）

3　180号土坑遺物出土状態（北より）

4　180号土坑全景（東より）

5　181号土坑遺物出土状態（東より）

6　182号土坑遺物出土状態（東より）

7　183号土坑遺物出土状態（東より）

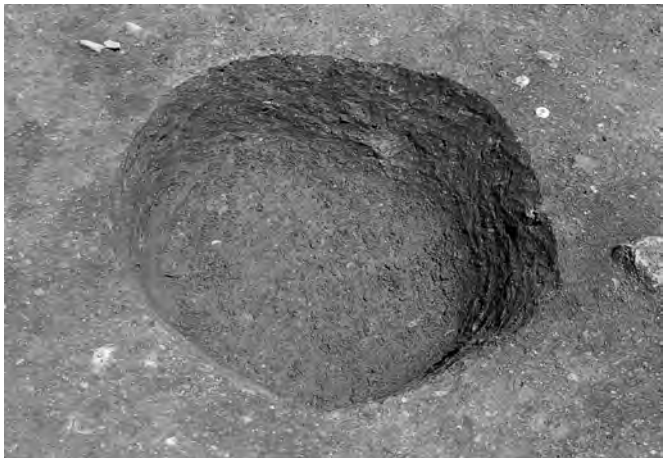
8　184号土坑全景（東より）

1　185号土坑セクション（南より）

2　186号土坑遺物出土状態（南東より）

3　186号土坑全景（東より）

4　187号土坑遺物出土状態（東より）



5　187号土坑全景（南より）

6　188号土坑セクション（南より）

7　188号土坑遺物出土状態（南より）

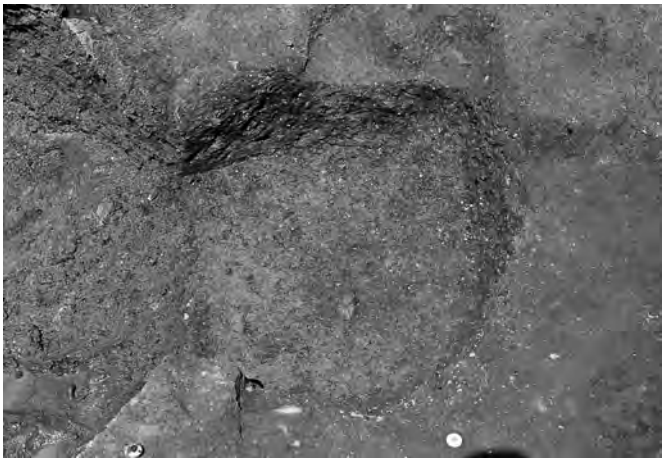
8　189号土坑遺物出土状態（東より）

PL.100

1　190号土坑全景(東より)

2　191号土坑遺物出土状態(東より)

3　192号土坑遺物出土状態(東より)



4　193号土坑全景(東より)

5　194号土坑全景(東より)

6　195号土坑遺物出土状態(東より)

7　196号土坑セクション(西より)

8　197号土坑遺物出土状態(東より)

1　198号土坑遺物出土状態（東より）

2　199号土坑遺物出土状態（東より）

3　200号土坑セクション（西より）

4　201号土坑セクション（北より）

5　201号土坑全景（東より）

6　202号土坑全景（西より）

7　202号土坑遺物出土状態（西より）

8　203号土坑全景（北東より）

PL.102

1　204号土坑全景（東より）

2　205号土坑全景（東より）

3　206号土坑遺物出土状態（南より）

4　207号土坑遺物出土状態（南より）

5　208号土坑全景（北より）

6　209号土坑全景（南より）

7　209号土坑遺物出土状態（南より）

8　209号土坑遺物出土状態（南より）

1　210号土坑全景(西より)

2　210号土坑セクション(北西より)

3　210号土坑遺物出土状態(北東より)

4　211号土坑全景(南より)

5　212号土坑全景(南より)

6　213号土坑セクション(東より)

7　214号土坑全景(南より)

8　215号土坑礫出土状態(南より)

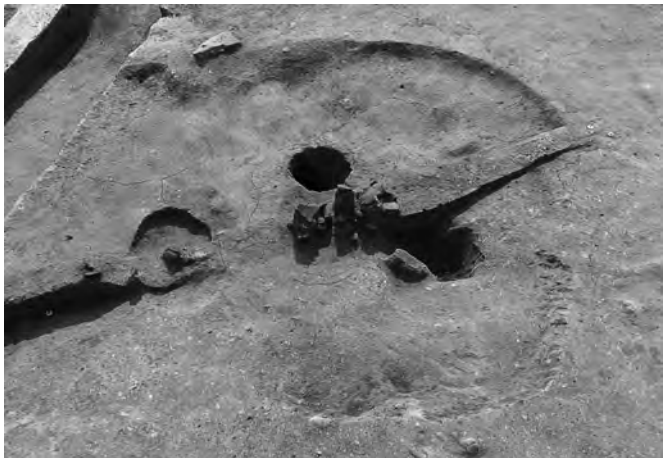
PL.104

1　216号土坑全景(南より)

2　217号土坑全景(西より)

3　218号土坑全景(東より)

4　219号土坑セクション(西より)



5　220号土坑遺物出土状態(東より)

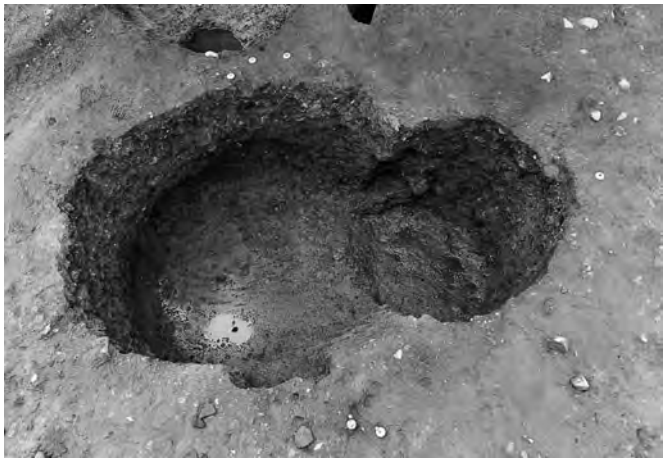
6　220号土坑全景(東より)

7　221号土坑セクション(東より)

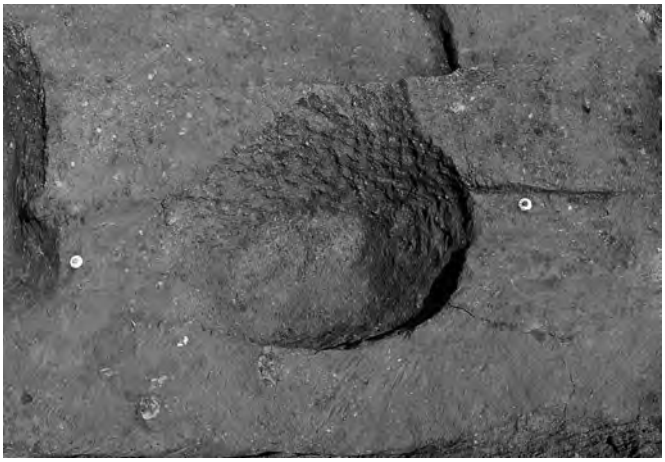
8　222号土坑遺物出土状態(南より)

1　223号土坑遺物出土状態(南より)

2　223号土坑全景(南より)



3　224号土坑全景(東より)



4　225号土坑全景(南より)

5　227号土坑遺物出土状態(西より)

6　228号土坑セクション(南西より)

7　228号土坑遺物出土状態(南西より)

8　228号土坑全景(南西より)

PL.106

1　229号土坑セクション(南より)

2　230号土坑全景(西より)

3　231号土坑全景(東より)

4　232号土坑セクション(西より)

5　233号土坑セクション(南より)

6　234号土坑セクション(南より)

7　234号土坑遺物出土状態(西より)

8　234号土坑遺物出土状態(南より)

1　235号土坑セクション（東より）

2　235号土坑全景（東より）

3　236号土坑遺物出土状態（北より）

4　237号土坑全景（南より）

5　238号土坑全景（南より）

6　239号土坑全景（北より）

7　240号土坑セクション（東より）

8　240号土坑遺物出土状態（東より）

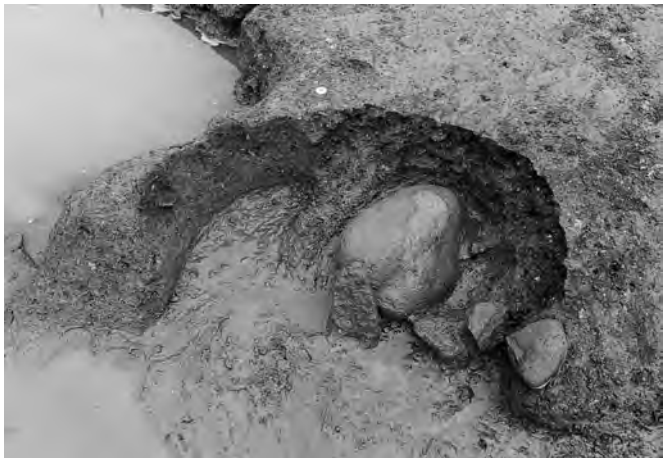
PL.108

1　241号土坑全景(東より)

2　242号土坑セクション(南より)

3　242号土坑全景(東より)

4　243号土坑全景(北より)



5　244号土坑遺物出土状態(西より)

6　244号土坑全景(西より)

7　245号土坑セクション(東より)

8　245号土坑遺物出土状態(東より)

1　245号土坑遺物出土状態(南より)

2　245号土坑遺物出土状態(南より)

3　245号土坑遺物出土状態(西より)

4　245号土坑遺物出土状態(南より)

5　245号土坑全景(南より)

6　246号土坑遺物出土状態(東より)

7　247号土坑セクション(南より)

8　247号土坑全景(南より)

PL.110

1　1号列石(東より)

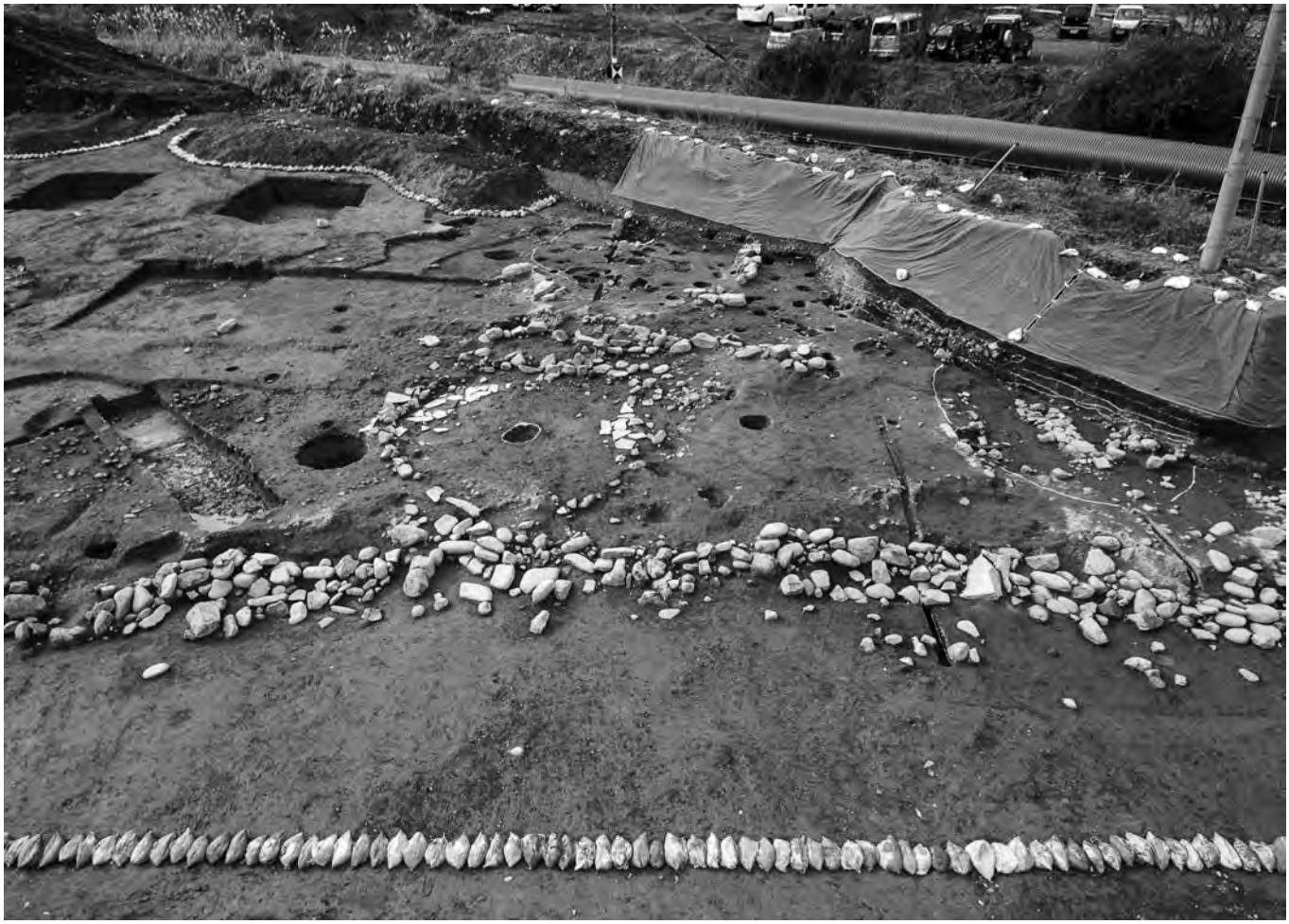
2　1号列石(東より)

3　2・3号列石、3・V区11号竪穴建物全景(上空より)

4　2号列石全景(東より)

5　3号列石全景(上空より)

1　３号列石全景（上空より）



2　３号列石全景（東より）

PL.112

1　３号列石、５号列石(北より)

2　３号列石(南より)

1　３号列石、４号列石全景(東より)

2　３号列石全景(北より)

3　３号列石、配石(東より)

4　３号列石基礎石状態(東より)

5　３号列石基礎石状態(東より)

6　３号列石基礎石状態(東より)

7　３号列石基礎石状態(東より)

8　３号列石基礎石状態(東より)

PL.114

1　３号・４号列石、配石状況(東より)

2　４号列石全景(東より)

3　５号列石全景(南より)

4　５号列石セクション(南東より)

5　５号列石張り出し部(上空より)

1　5号列石部分(南東より)

2　5号列石部分(東より)

3　5号列石張り出し部セクション(南より)

4　5号列石張り出し部(東より)

5　5号列石南端部(南より)

6　5号列石張り出し部大石状況(南東より)

7　5号列石張り出し部大石下集石出土状態(東より)

8　5号列石掘方面、大型礫配置状況(南東より)

PL.116

1　６号列石(手前)全景(東より)

2　６号列石全景(北より)

3　６号列石、29号配石全景(東より)

4　８号列石全景(東より)

5　８号列石全景(南より)

1　３号列石と配石（東より）

2　１号配石、３号列石（東より）

3　１号配石全景（東より）

4　２号配石全景（東より）

5　２号配石全景（東より）

PL.118

1　３号配石全景(東より)

2　３号配石全景(東より)

3　４号配石全景(東より)

4　４号配石全景(東より)

5　５号配石全景(東より)

6　５号配石全景(東より)

7　６号配石全景(東より)

8　６号配石全景(東より)

1　７号配石全景(東より)

2　７号配石全景(東より)

3　７号配石全景(東より)

4　７号配石セクション(南より)

5　８号配石全景(東より)

6　８号配石セクション(東より)

7　９号配石全景(南より)

8　９号配石セクション(南より)

PL.120

1　10号配石全景(南より)

2　9・10号配石全景(南より)

3　11号配石全景(南東より)

4　11号配石掘方セクション(南東より)

5　11号配石全景(南より)

6　11号配石掘方(南より)

7　13号配石全景(南東より)

8　13号配石全景(東より)

1　14号配石全景(東より)

2　14号配石全景(東より)

3　14号配石全景(東より)

4　14号配石全景(東より)

5　15号配石全景(東より)

6　15号配石全景(東より)

7　16号配石全景(東より)

8　16号配石全景(東より)

PL.122

1　17号配石全景(東より)

2　17号配石全景(南より)

3　18号配石セクション(東より)

4　18号配石セクション(南より)

5　19号配石全景(東より)

6　19号配石部分(東より)

7　20号配石全景(東より)

8　20号配石全景(東より)

1　21号配石全景(東より)

2　21号配石セクション(南より)

3　22号配石全景(南東より)

4　23号配石全景(東より)

5　24号配石全景(東より)

6　24号配石下埋甕検出状況(東より)

7　24号配石下埋甕検出状況(東より)

8　24号配石下埋甕セクション(東より)

PL.124

1　25号配石全景(東より)

2　25号配石セクション(東より)

3　26号配石全景(南東より)

4　26号配石全景(南より)

5　26号配石全景(南東より)

1　26号配石セクション(南東より)

2　26号配石全景(東より)

3　26号配石部分(東より)

4　26号配石立石１セクション(東より)

5　26号配石立石２セクション(東より)

6　26号配石埋甕検出状況(東より)

7　26号配石埋甕セクション(東より)

8　26号配石埋甕出土状態(東より)

PL.126

1　27号配石全景(東より)

2　27号配石セクション(東より)

3　27号配石全景(東より)

4　28号配石セクション(東より)

5　28号配石全景(東より)

1　29号配石全景(東より)

2　29号配石全景(南東より)

3　29号配石セクション(南より)

4　29号配石、V区80号竪穴建物張り出し部(南東より)

5　31号配石全景(南東より)

PL.128

1　1号配石土坑全景(南東より)

3　1号配石土坑全景(南東より)

2　1号配石土坑全景(南東より)

4　1号配石土坑全景(南西より)

1　２号配石土坑遺物出土状態（東より）

2　２号配石土坑全景（東より）

3　１号埋甕検出状況（東より）

4　１号埋甕セクション（東より）

5　15号焼土セクション（東より）

6　16号焼土全景（南より）

7　17号焼土全景（南より）

8　18号焼土セクション（南より）

PL.130

1　18号焼土全景(南西より)

2　19号焼土遺物出土状態(東より)

3　20号焼土遺物出土状態(東より)

4　20号焼土セクション(東より)

5　遺構外遺物出土状態(北より)

6　遺構外遺物出土状態(北より)

7　VI区トレンチ(西より)

8　VI区トレンチ礫出土状態(北西より)

V区１号竪穴建物

V区２号竪穴建物

PL.132

3

4

5

6

7

8

9

10

11

V区２号竪穴建物

12

13

14

15

16

17

18

V区２号竪穴建物

1

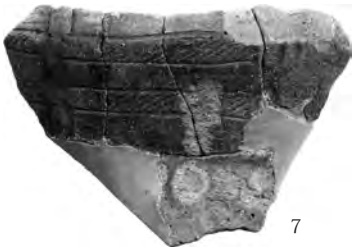
2

3

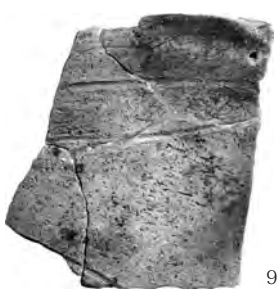
4

6

5


7

8


9

10

V区３号竪穴建物

PL.134

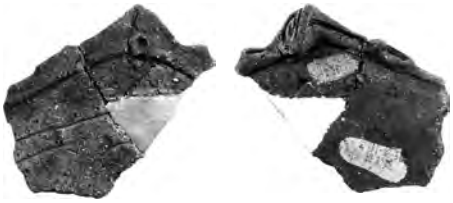
11

12

13

14

15


16

17

18

19

20

21

22

24

23

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

V区３号竪穴建物

38

39

40

41

42

43

47

44

45

46

48

49

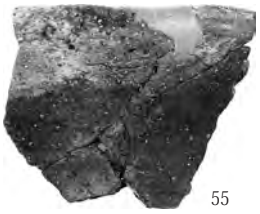
50

51

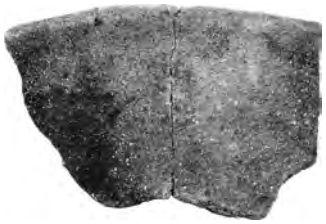
52

53

54


55

56


57

58

60

61

59

62

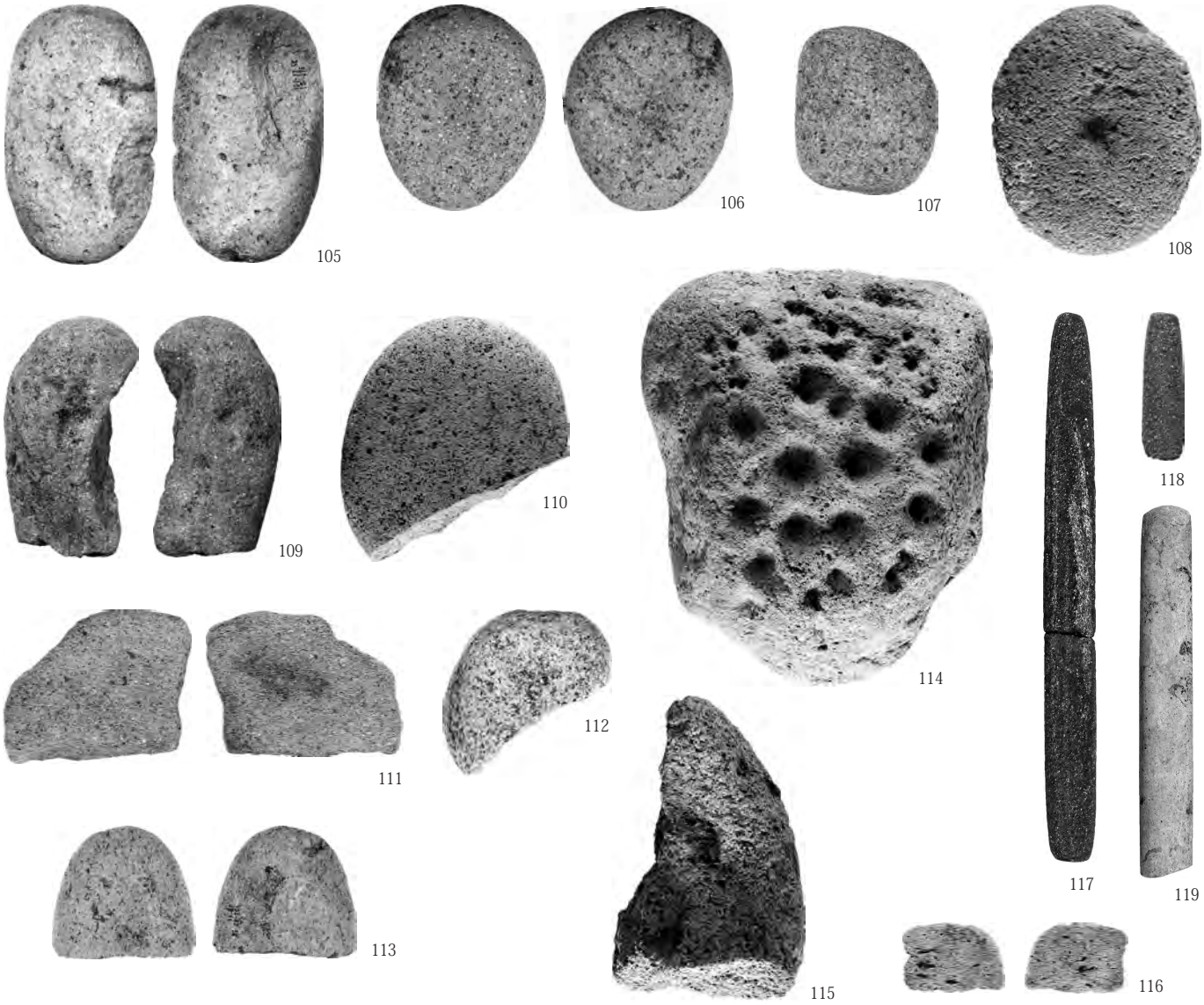
64

63

V区３号竪穴建物

PL.136

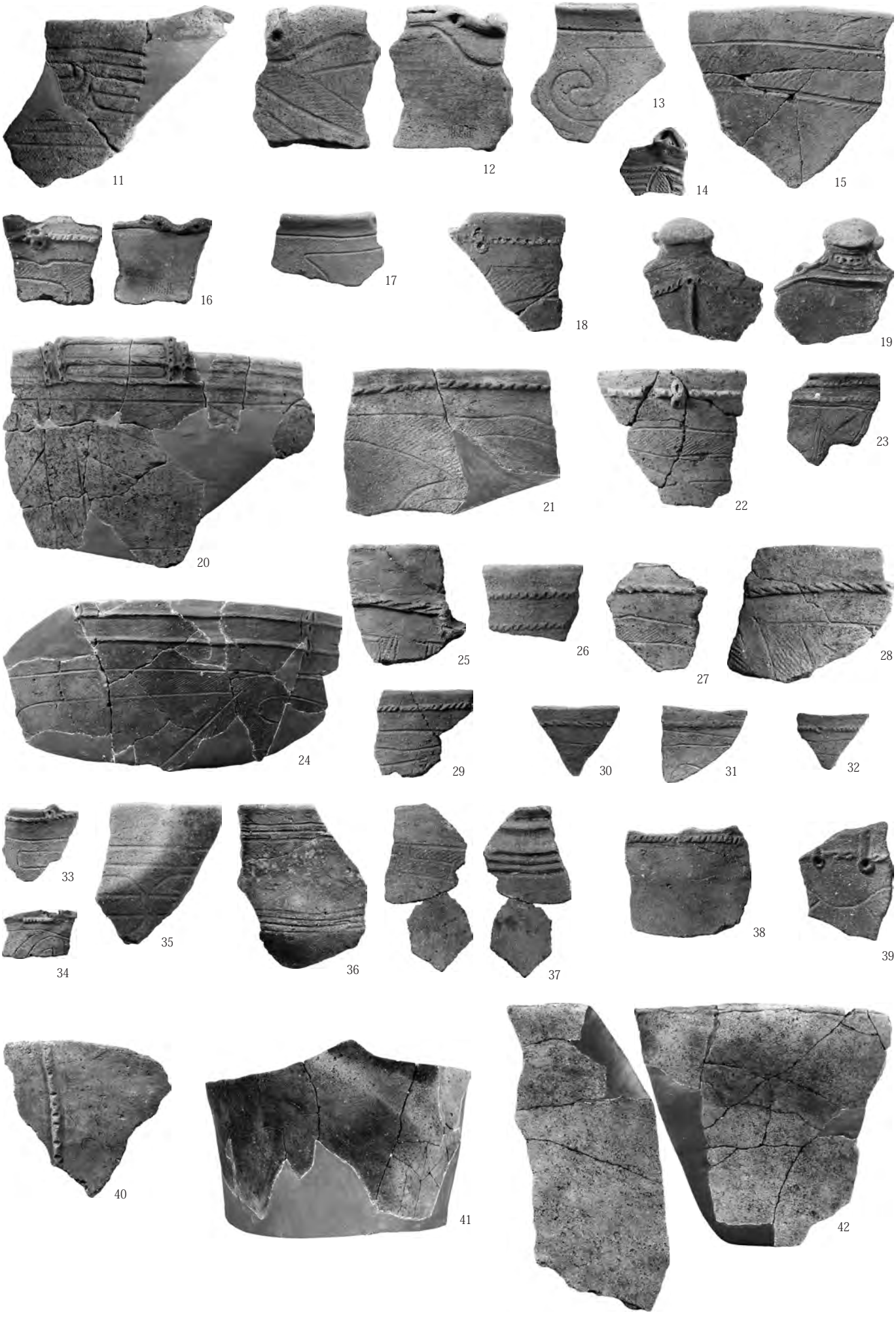
V区３号竪穴建物



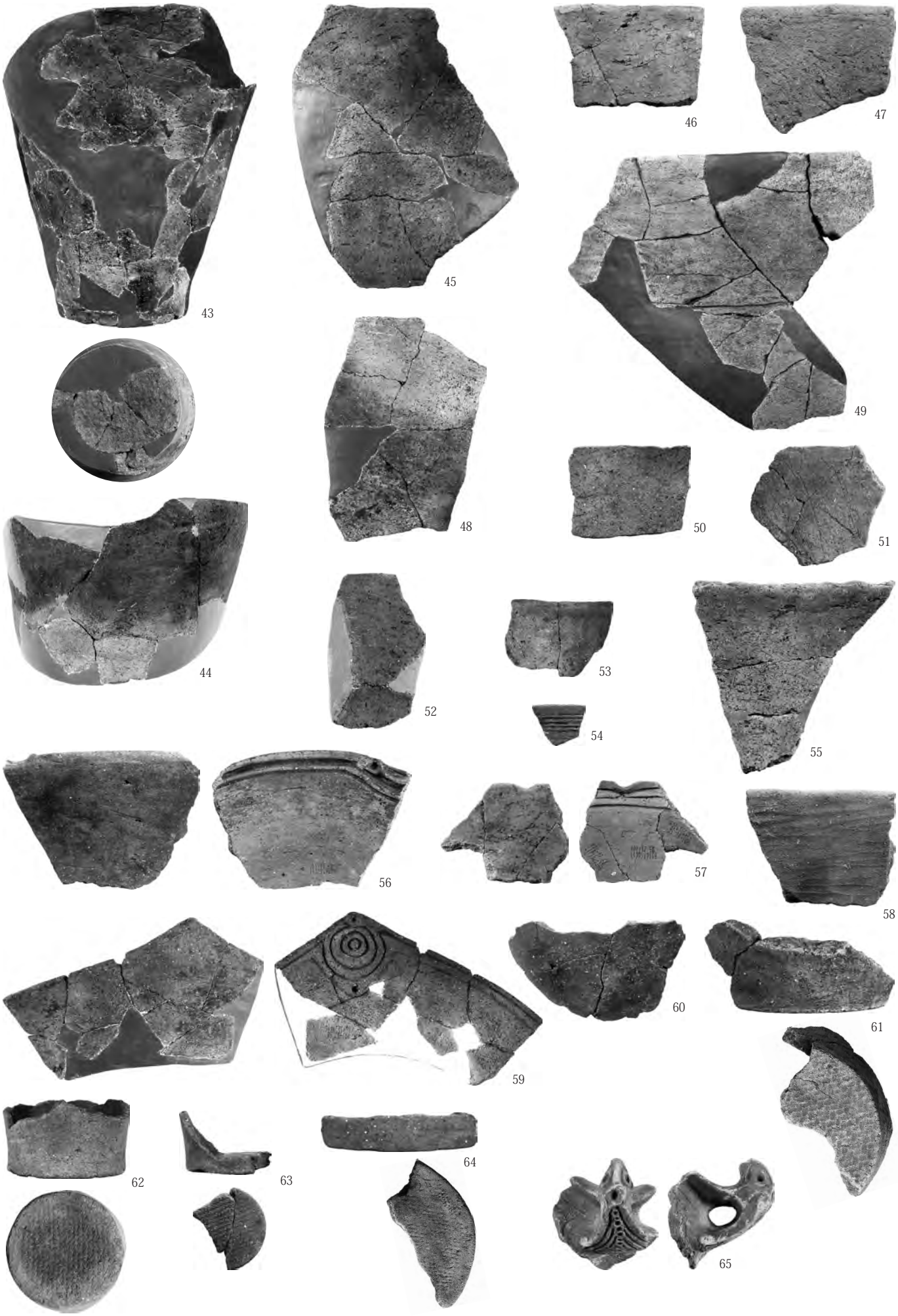
V区３号竪穴建物

V区４号竪穴建物

PL.138



V区 4 号竪穴建物

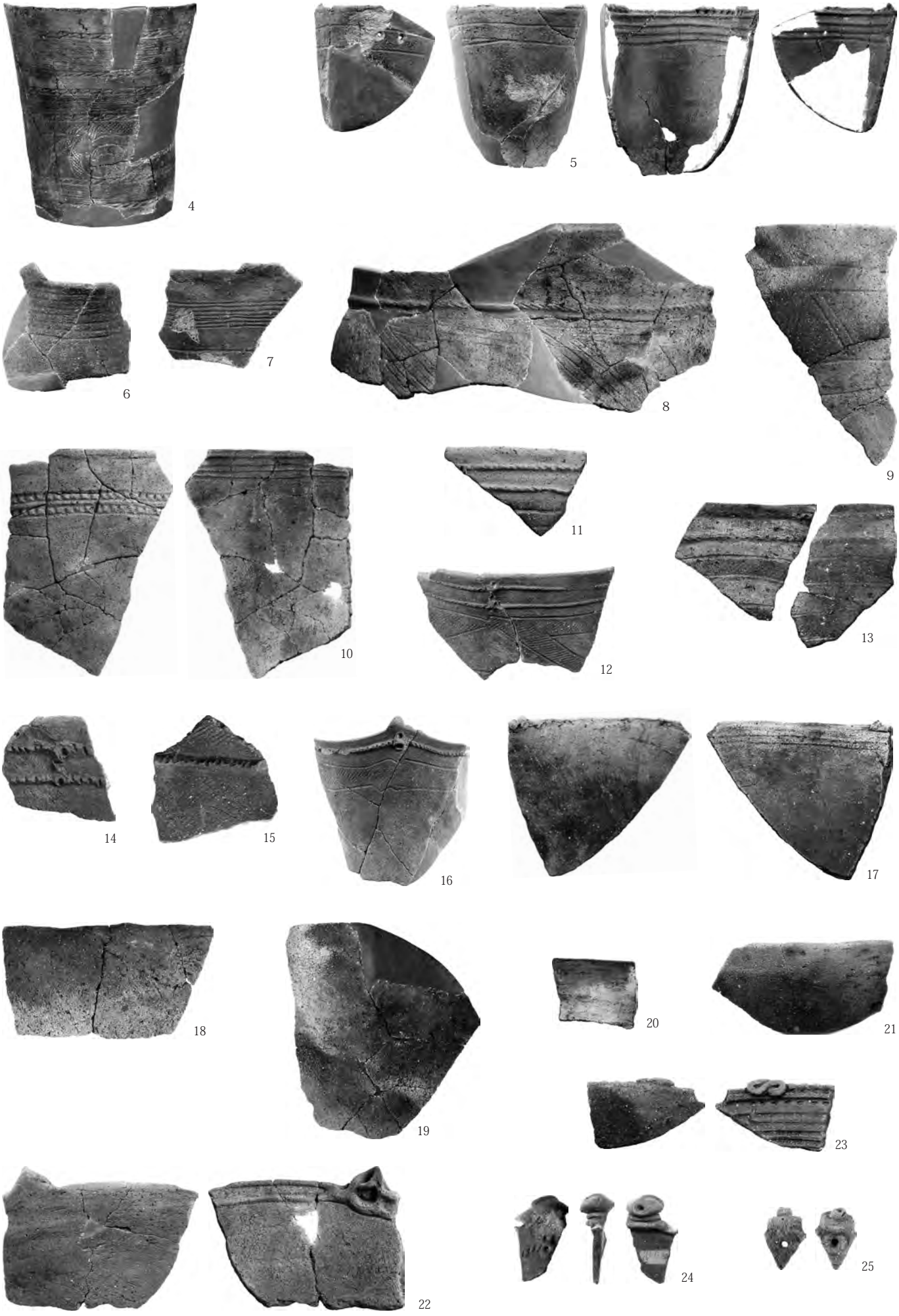


V区 4 号竪穴建物

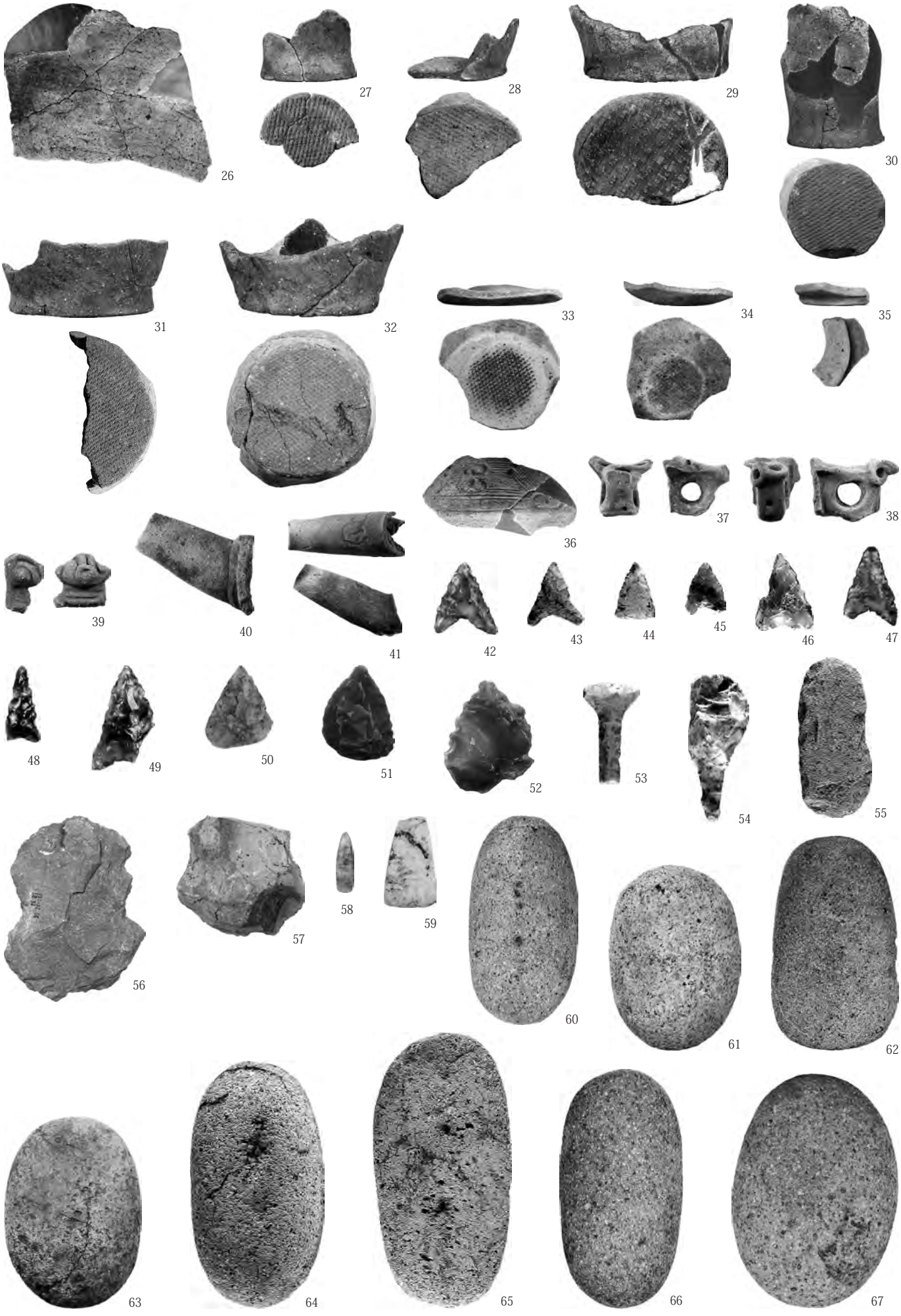
PL.140

V区 4 号竪穴建物

V区 5 号竪穴建物



V区5号竪穴建物


26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67

V区５号竪穴建物

68

69

70

71

72

73

74

75

V区５号竪穴建物

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

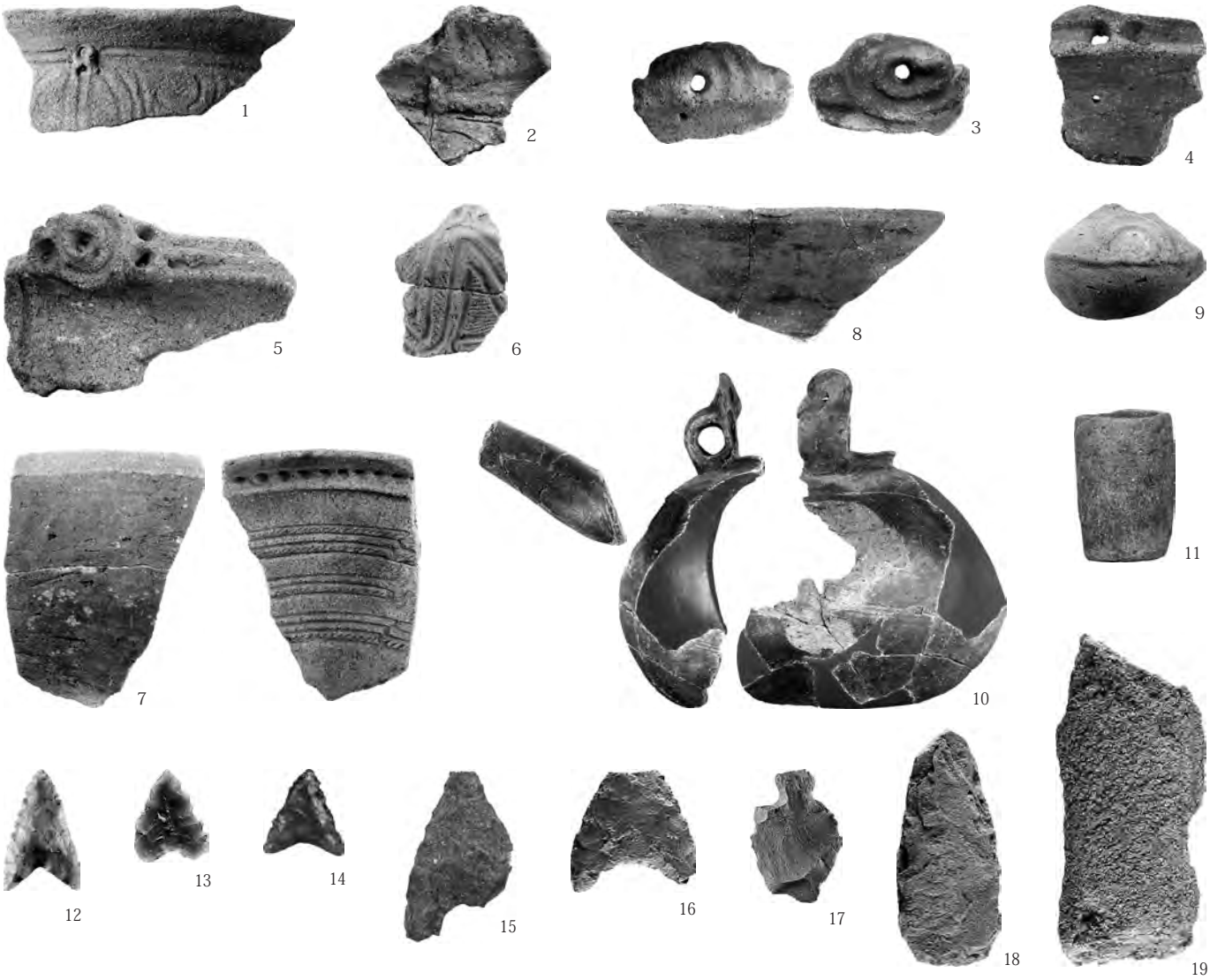
20

21

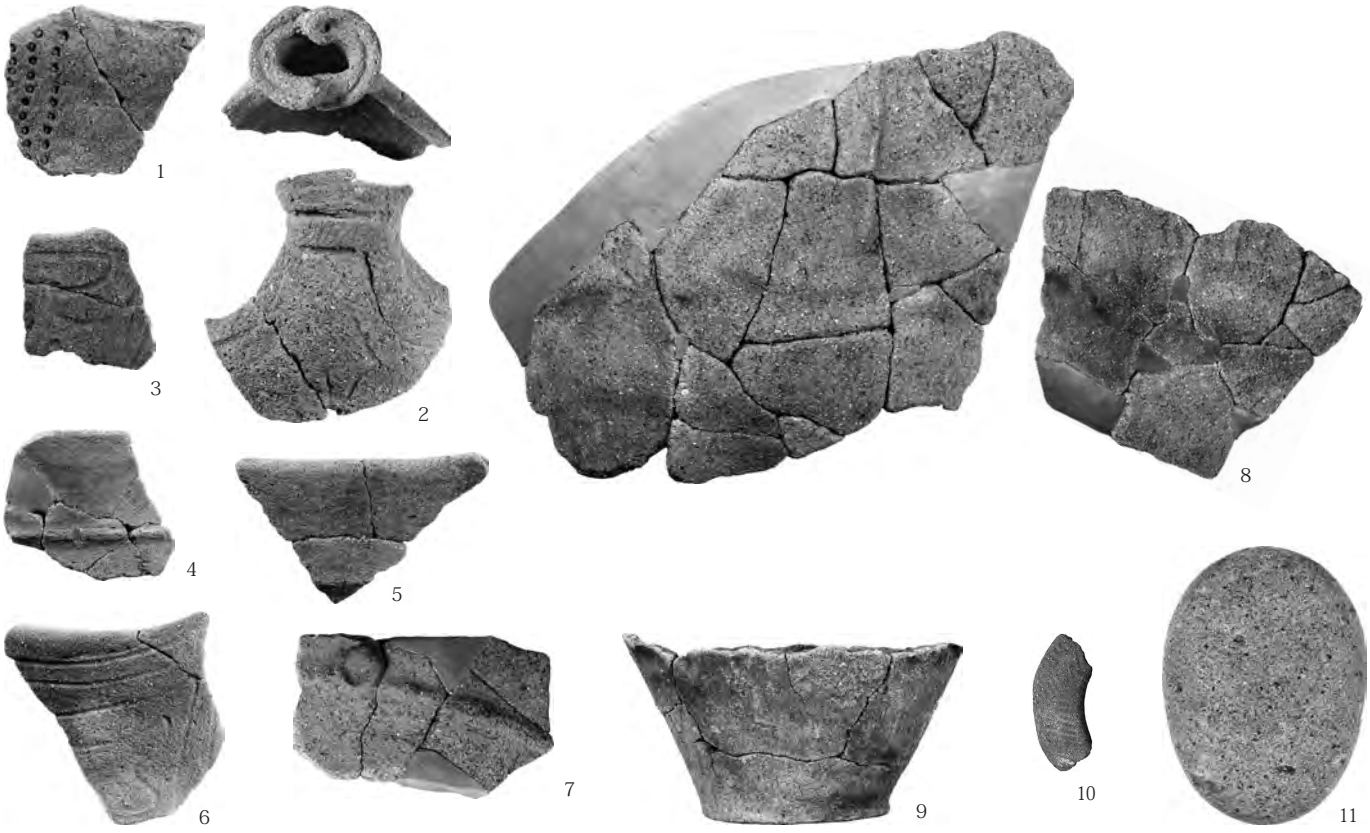
22

V区６号竪穴建物

PL.144



V区７号竪穴建物



V区８号竪穴建物

1

2

3

4

6

7

5

8

9

10

11

12

13

14

15

16

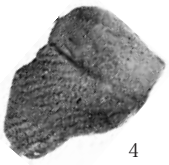
17

V区９号竪穴建物

1

2

3


4

5

6

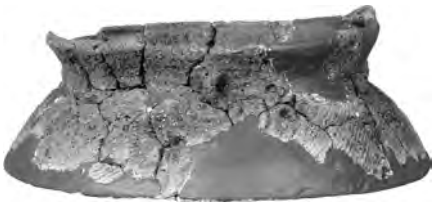
7

8

V区10号竪穴建物

PL.146

1


2

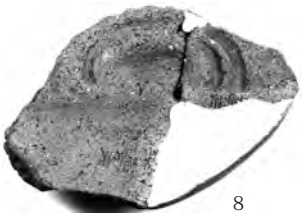
3

4

5

6

7


8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

21

V区11号竪穴建物

22

23

24

26

27

28

25

29

30

31

34

32

33

35

36

37

38

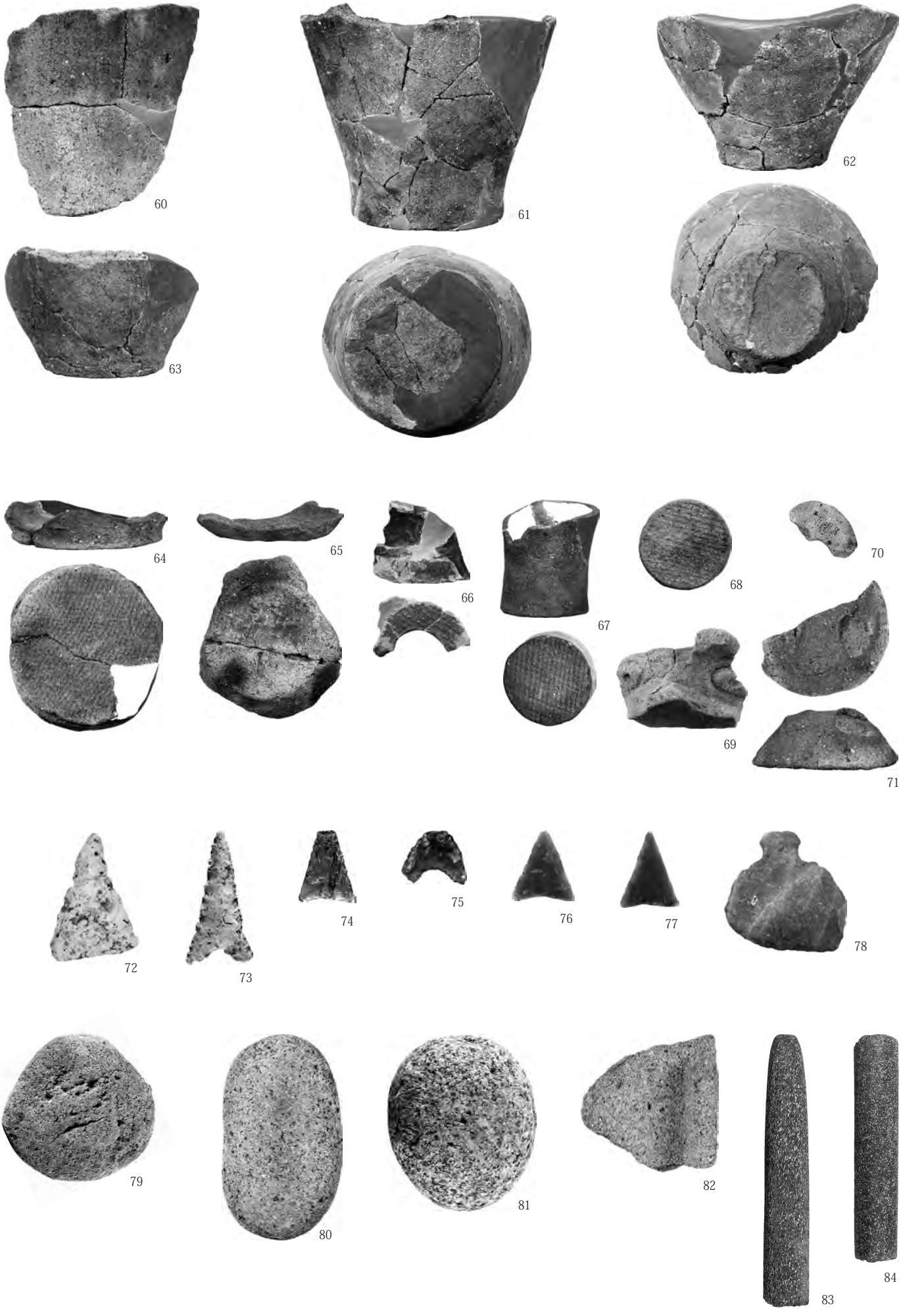
39

40

V区11号竪穴建物

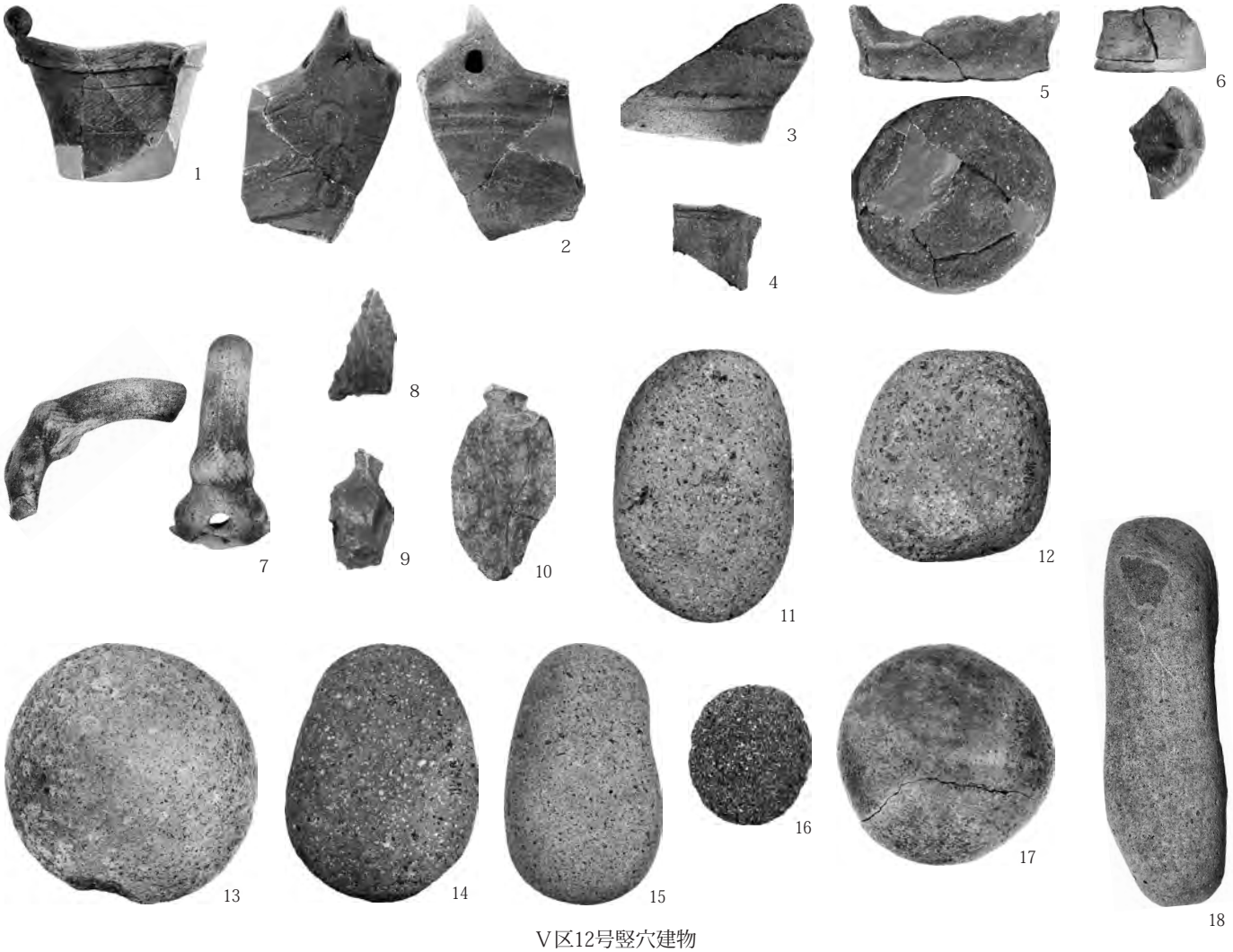
PL.148

V区11号竪穴建物


60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84

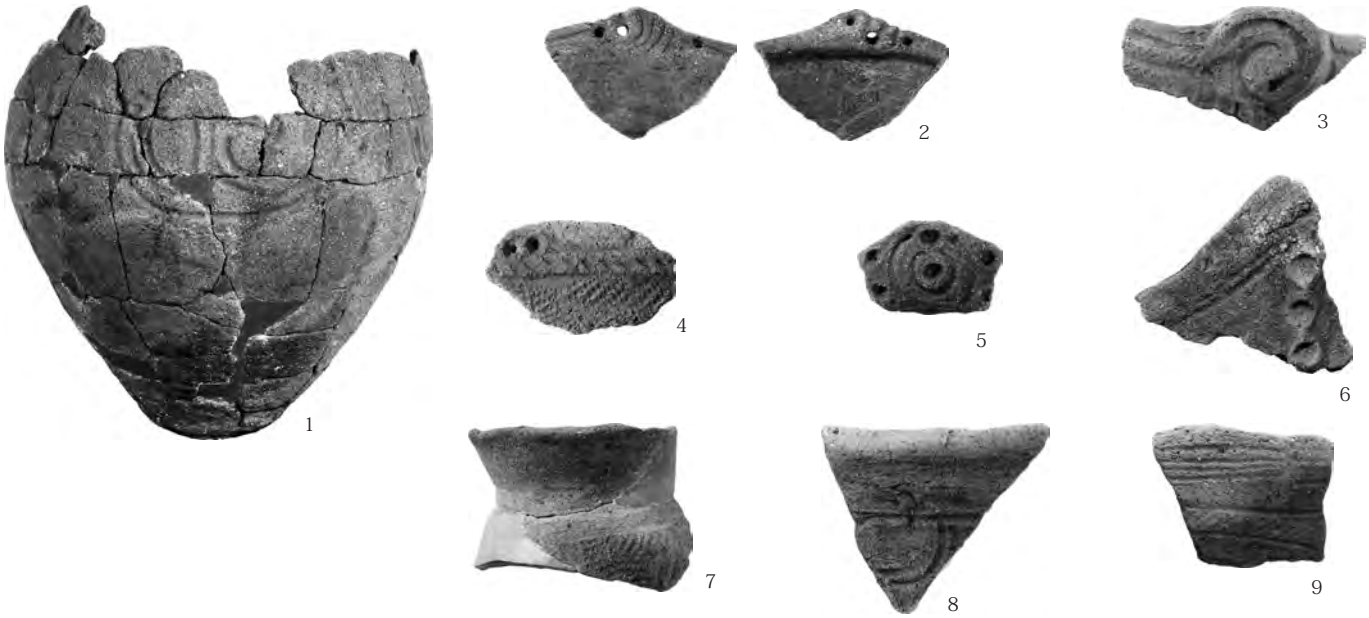
V区11号竪穴建物

PL.150



V区12号竪穴建物

V区13号竪穴建物



V区14号竪穴建物

10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40

V区14号竪穴建物

PL.152

2

3

4

5

6

7

1

8

9

10

V区15号竪穴建物

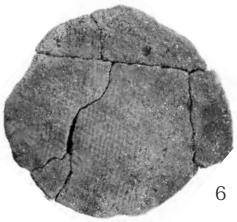
1

2

3

4

5



6

7

8

V区16号竪穴建物

1

2

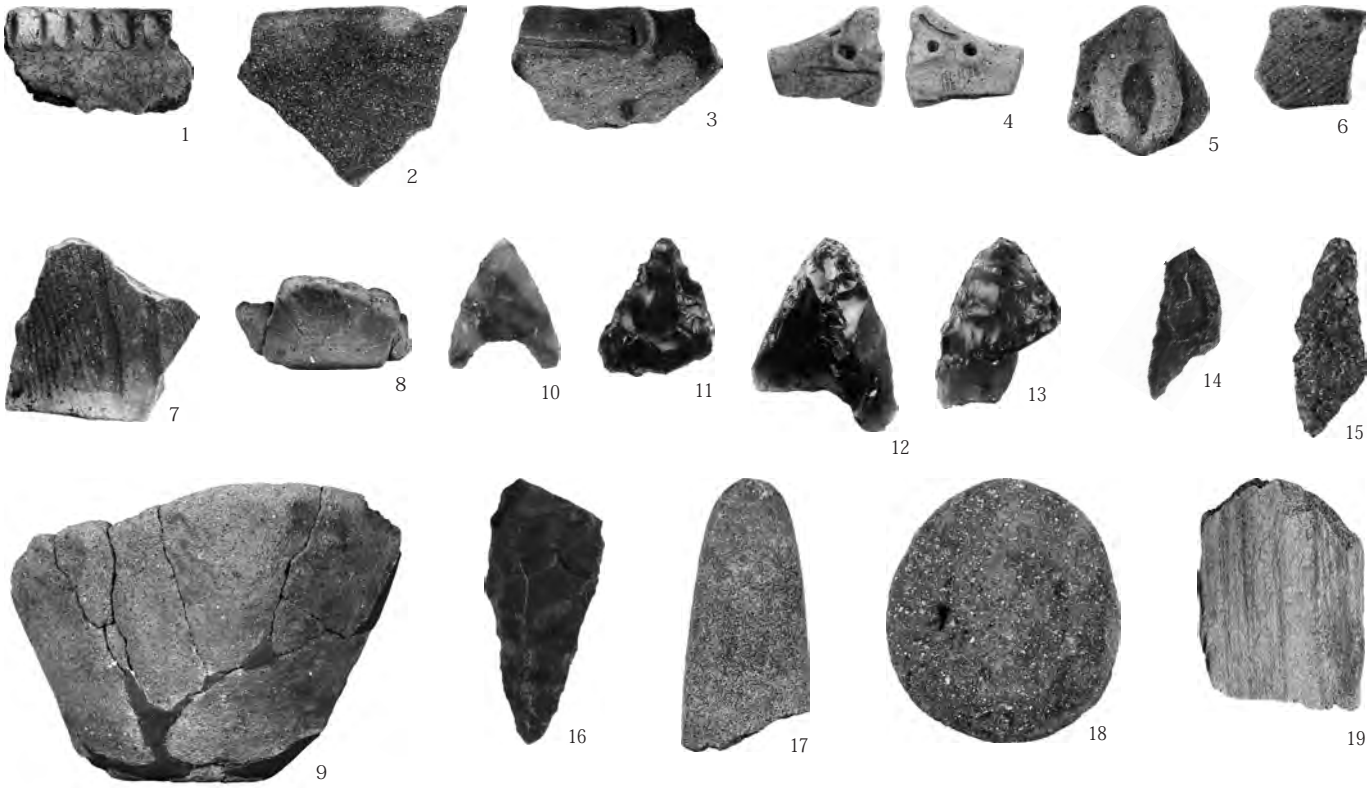
3

4

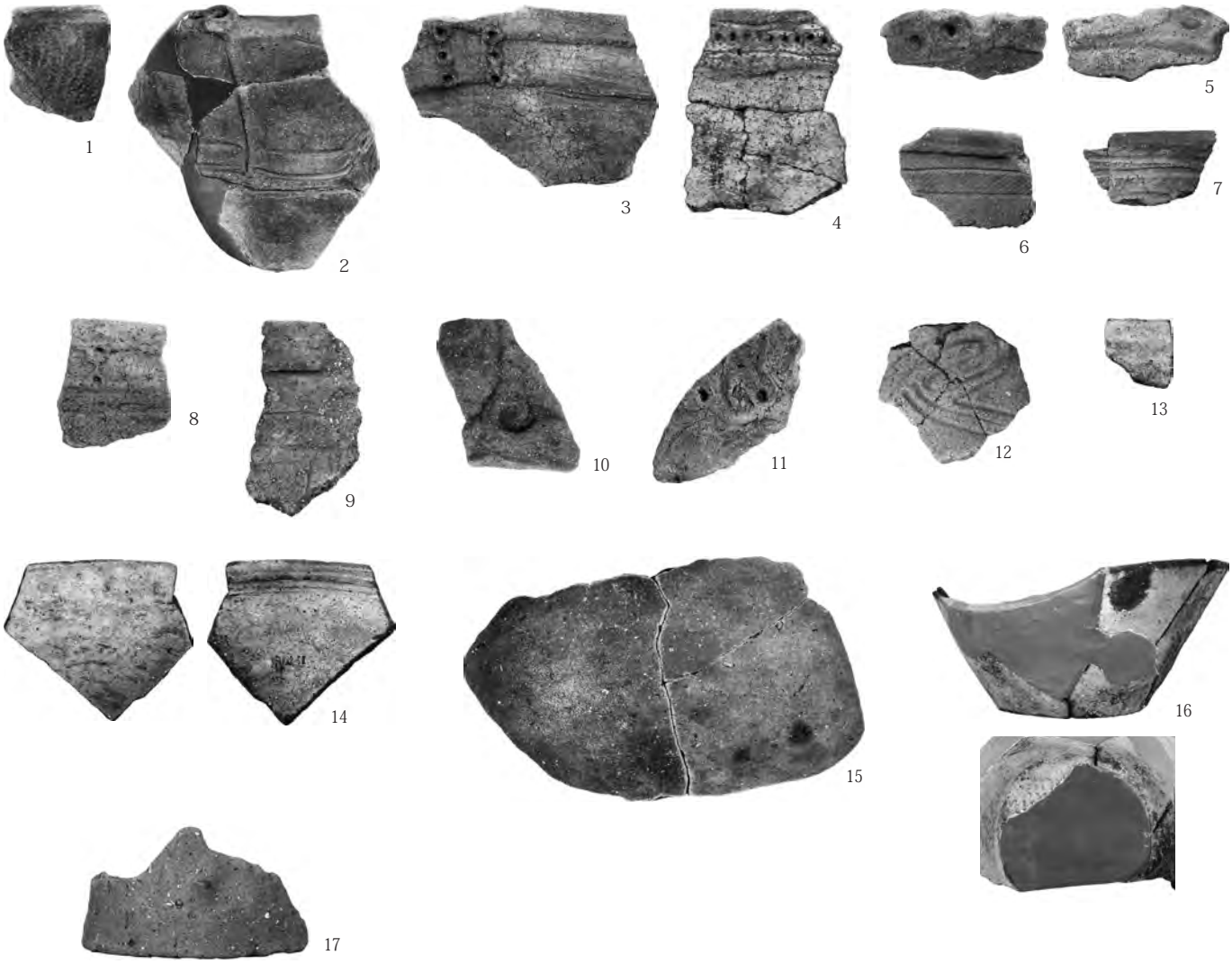
5

6

V区17号竪穴建物

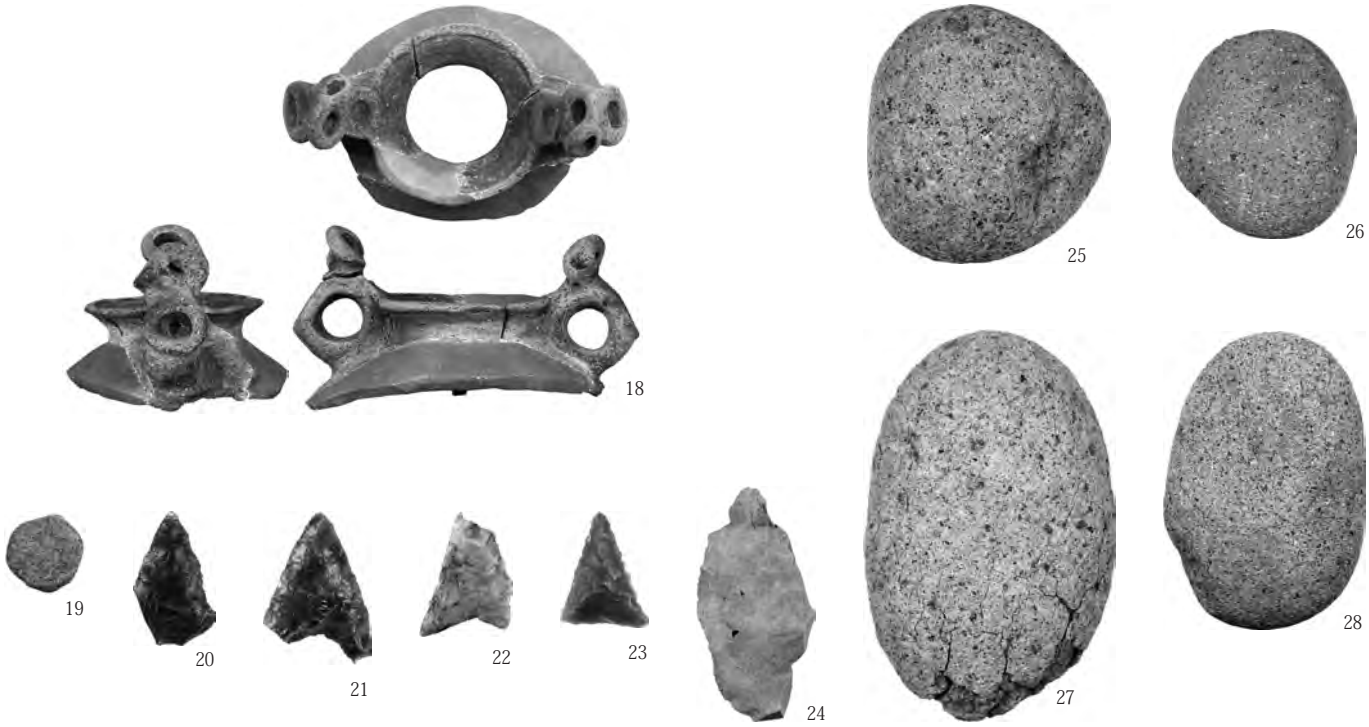


V区18号竪穴建物

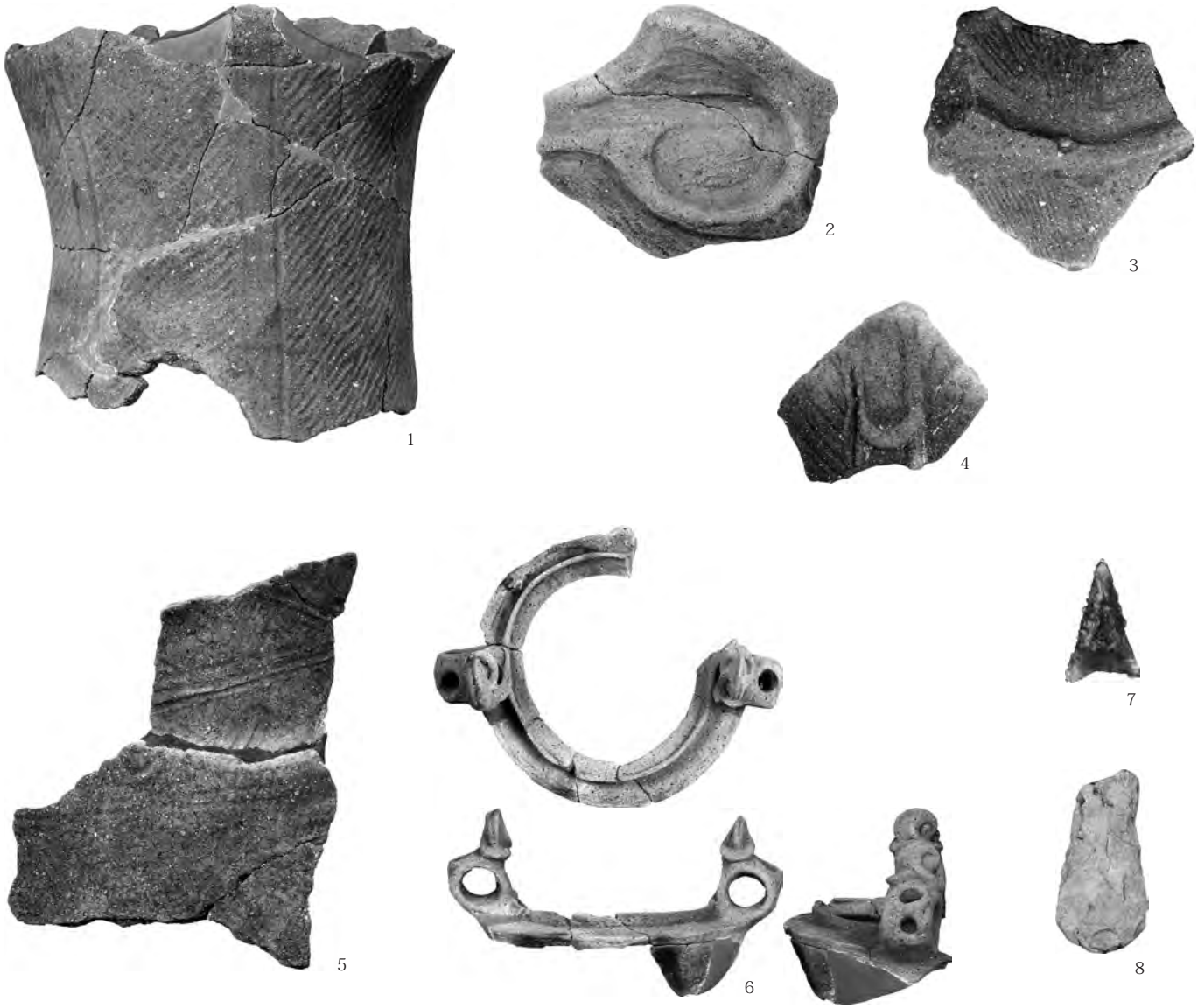


V区19号竪穴建物

PL.154



V区19号竪穴建物



V区20号竪穴建物

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

V区21号竪穴建物

PL.156

V区21号竪穴建物

1

2

Ⅴ区22号竪穴建物

PL.158

3

4

5

6

V区22号竪穴建物

7

8

10

9

11

12

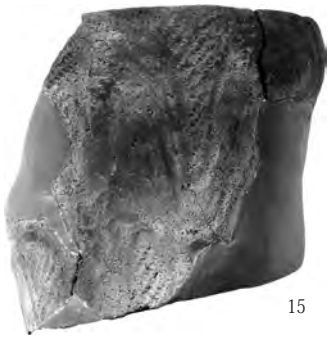
13

V区22号竪穴建物

PL.160

14

18


15

17

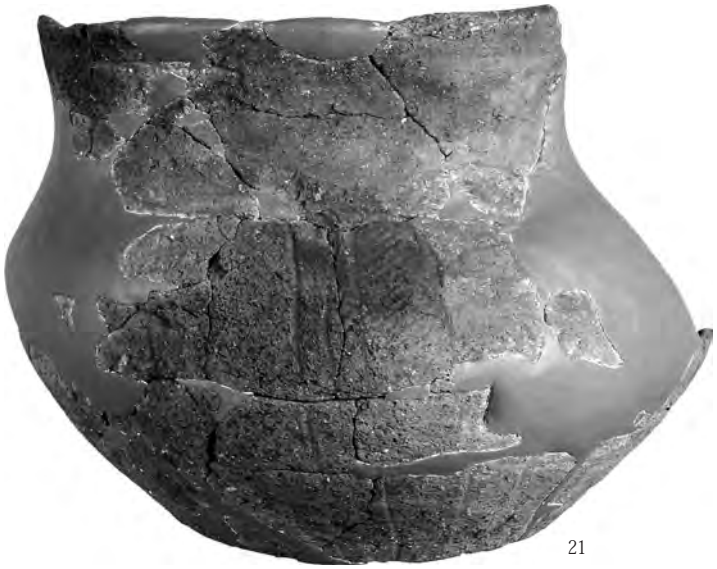
19

16

20

22

23


21

24

V区22号竪穴建物

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

V区22号竪穴建物

1

2

5

V区23号竪穴建物

PL.162

3

4

6

7

8

9

10

11

12

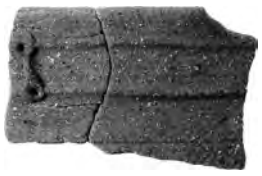
13

14

Ⅴ区23号竪穴建物

1

2


3

5

4

6

7

8

9

10

Ⅴ区25号竪穴建物

1

2

V区26号竪穴建物

1

2

3

4

5

V区27号竪穴建物

1

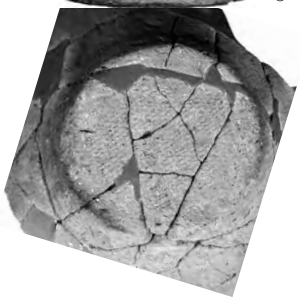
2

3

6

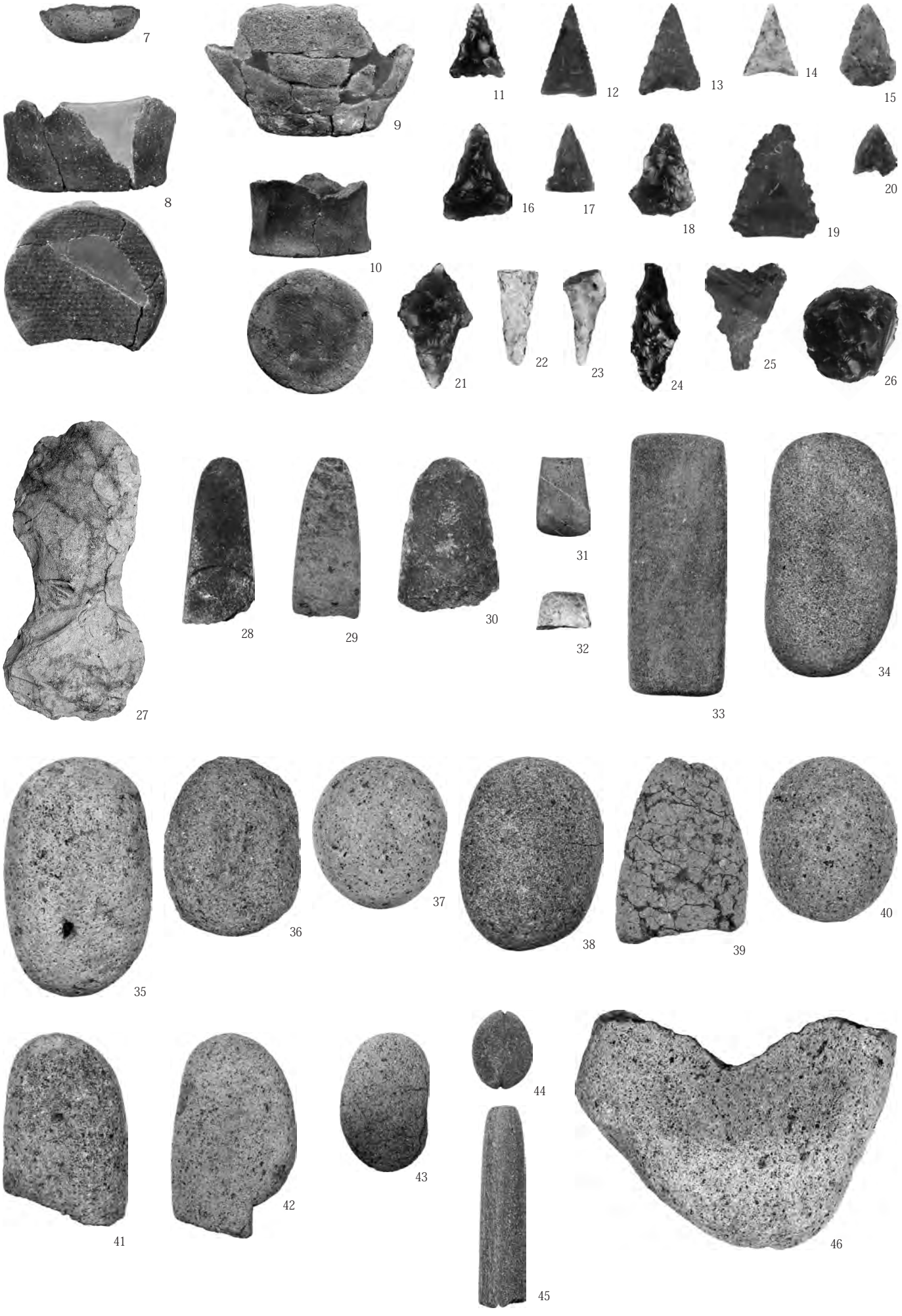
4

5



V区28号竪穴建物

PL.164



V区28号竪穴建物

1

2

V区29号竪穴建物

1

2

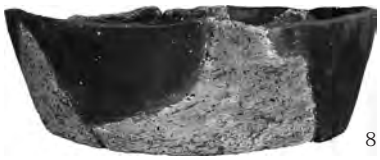
3

4

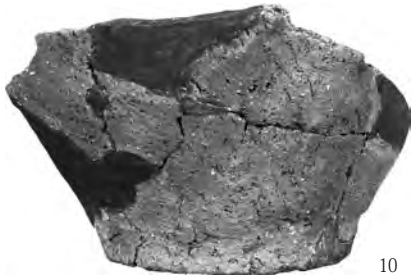
5

6

7


8

9


10

11

V区30号竪穴建物

PL.166

12

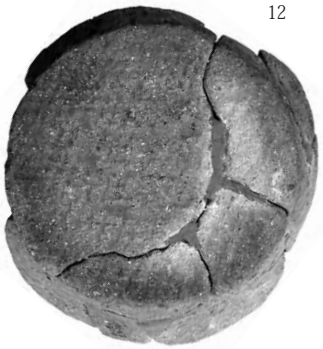
13

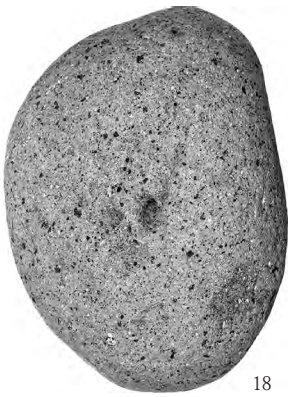
14

15

16

17




18

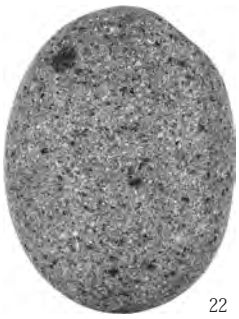
19

20

21

23

24


22

25

V区30号竪穴建物

1

2

3

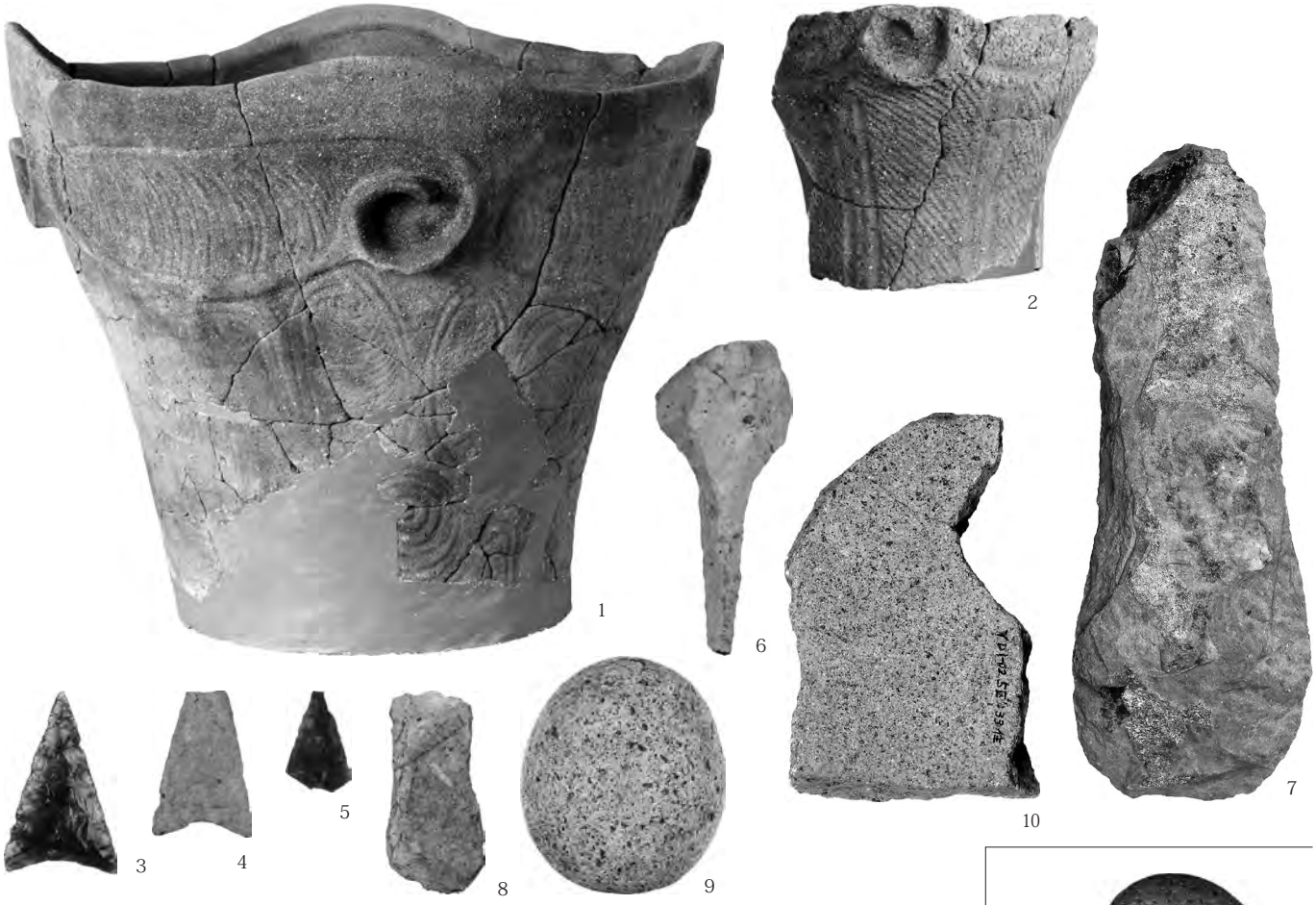
4

5

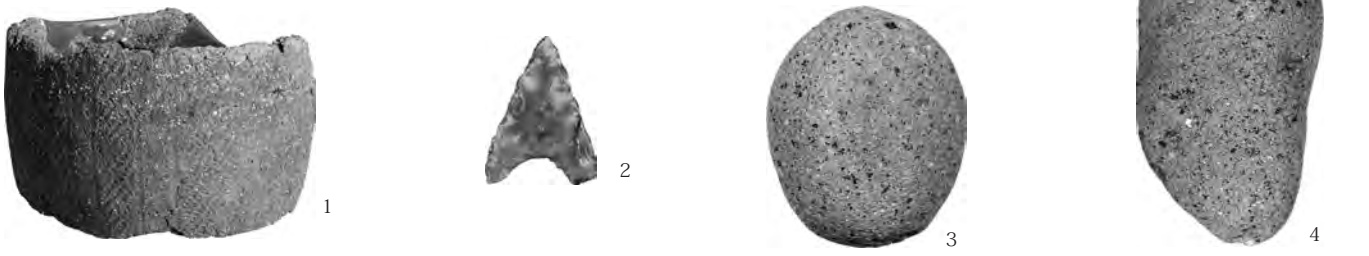
6

V区31号竪穴建物

V区32号竪穴建物



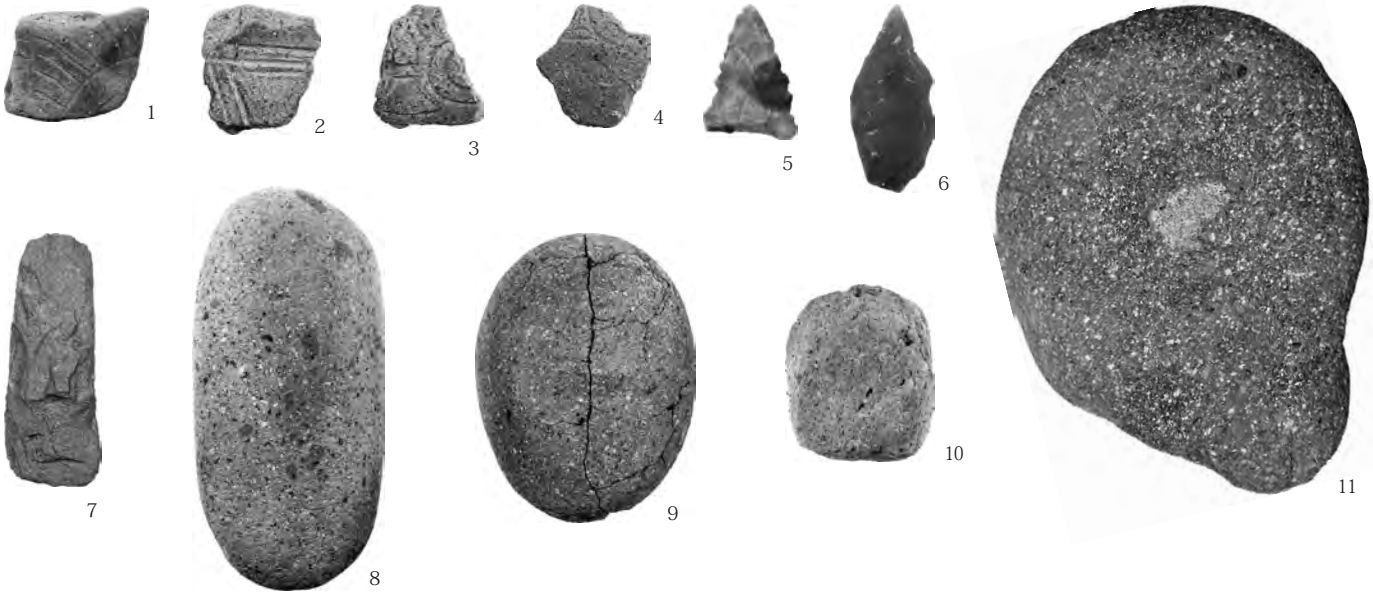
V区33号竪穴建物



V区34号竪穴建物

V区35号竪穴建物

PL.168



V区36号竪穴建物

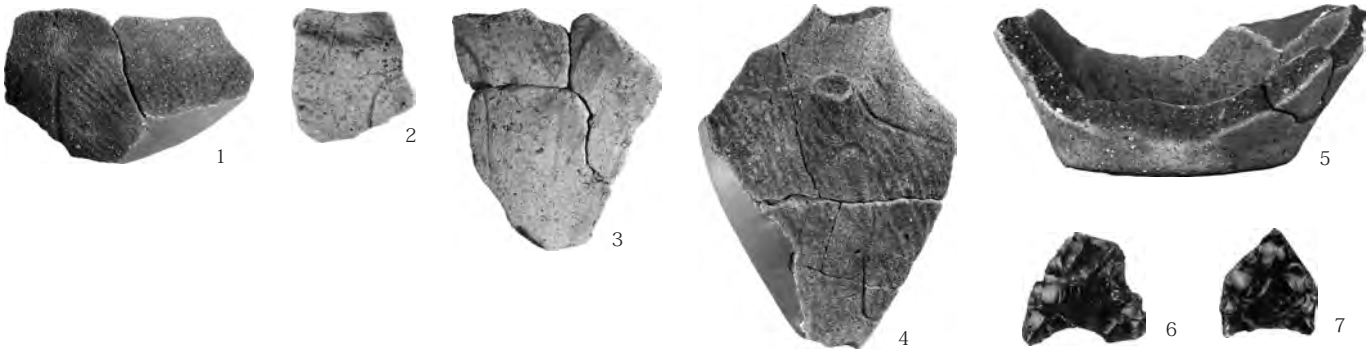
V区37号竪穴建物

V区38号竪穴建物

V区39号竪穴建物

V区40号竪穴建物

V区42号竪穴建物



V区44号竪穴建物

PL.170

8

9

10

V区44号竪穴建物

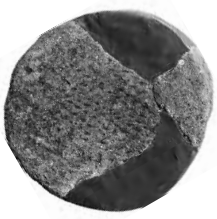
1

2

3

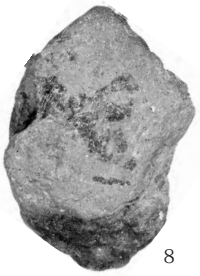
4

5

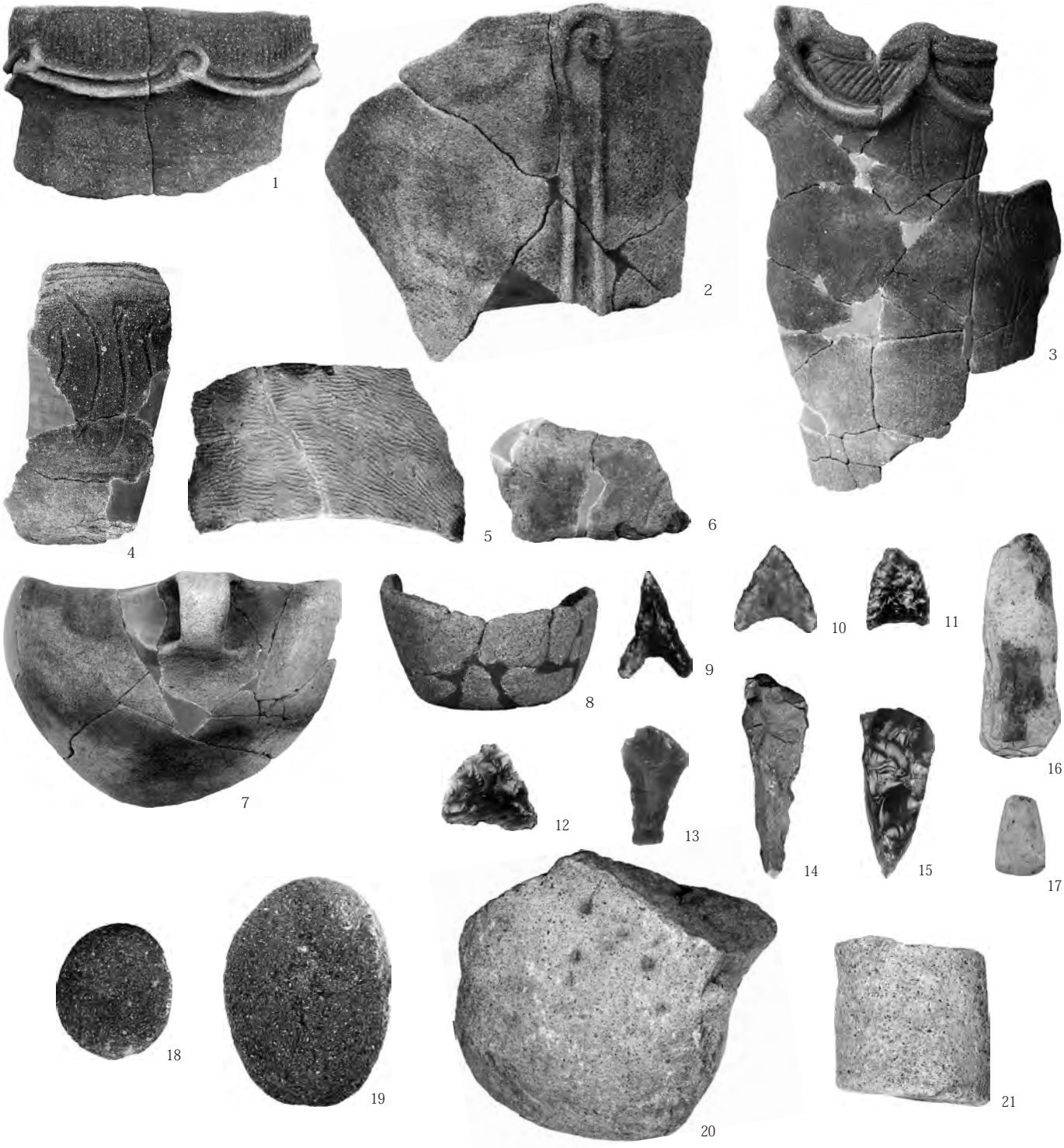


6

7


8

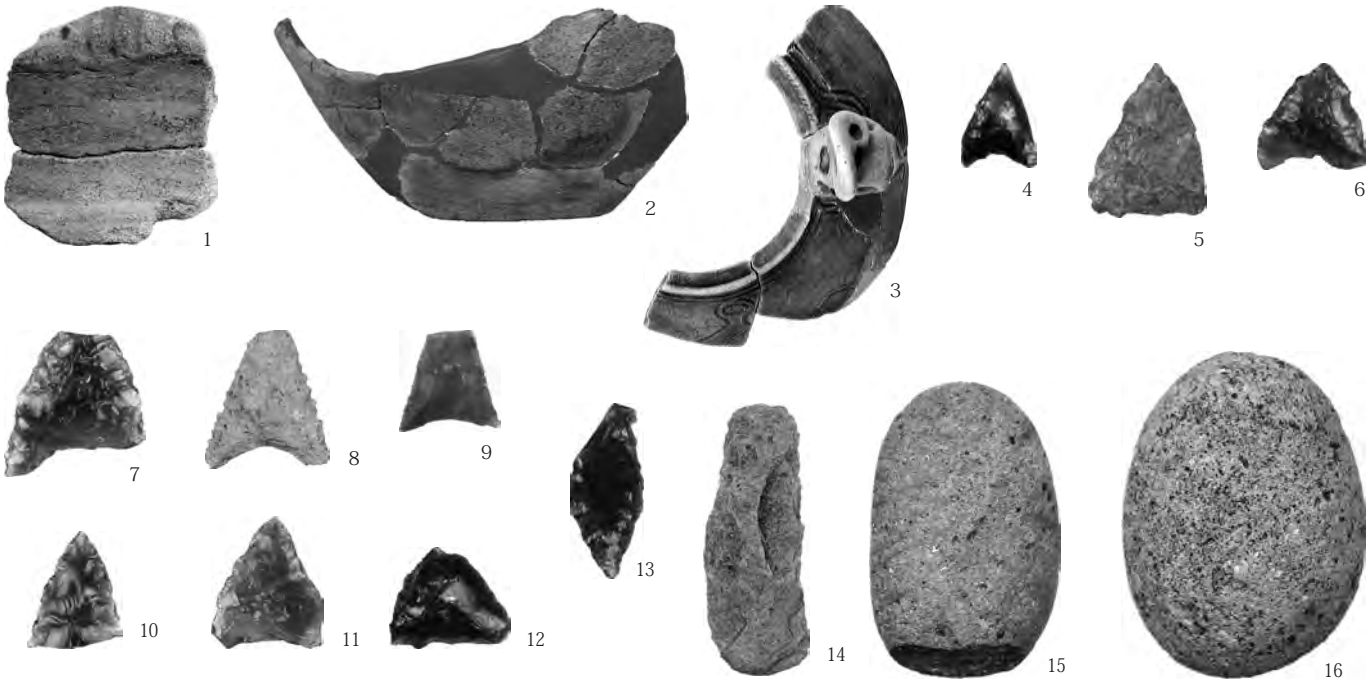
V区45号竪穴建物



V区46号竪穴建物

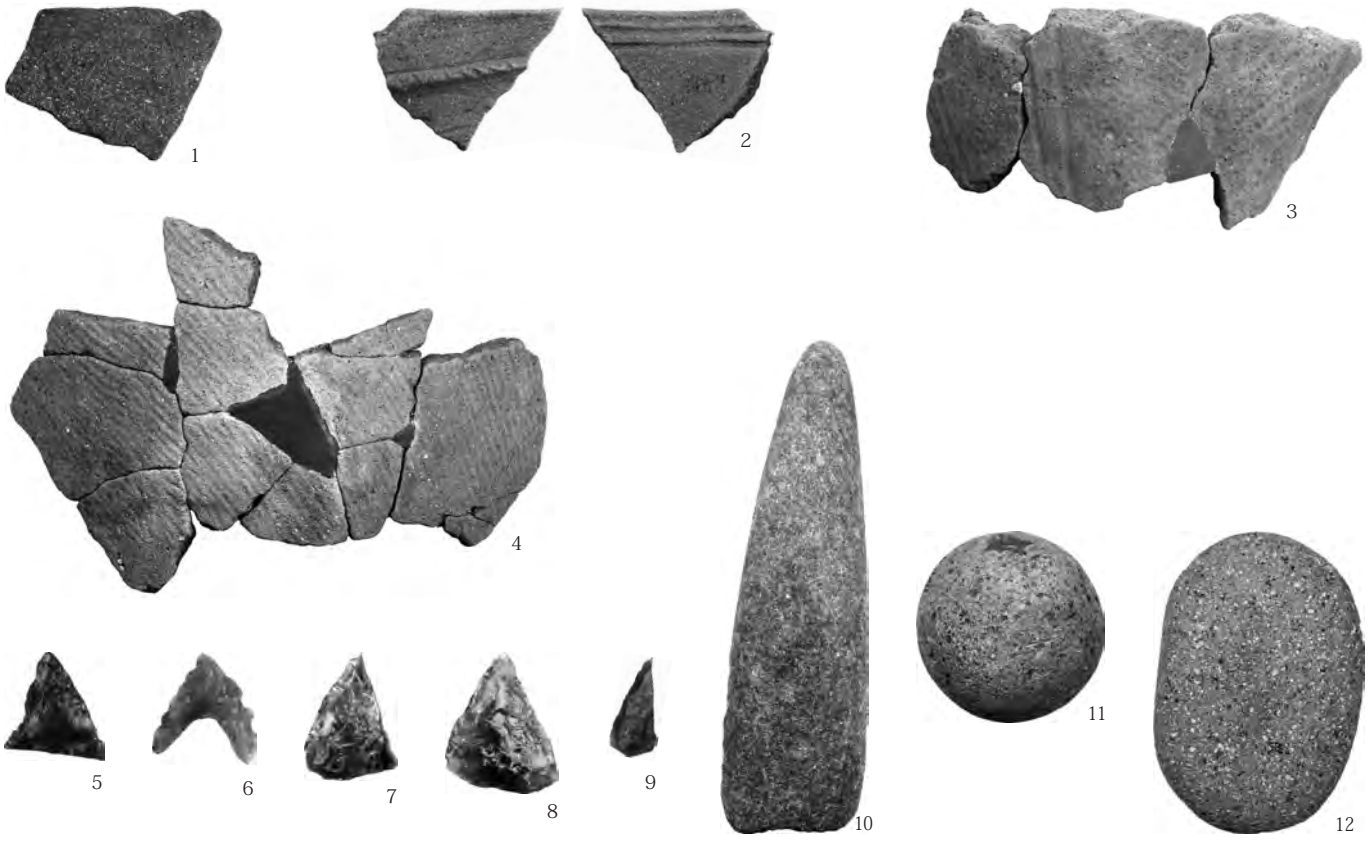
V区47号竪穴建物

PL.172



V区48号竪穴建物

V区49号竪穴建物



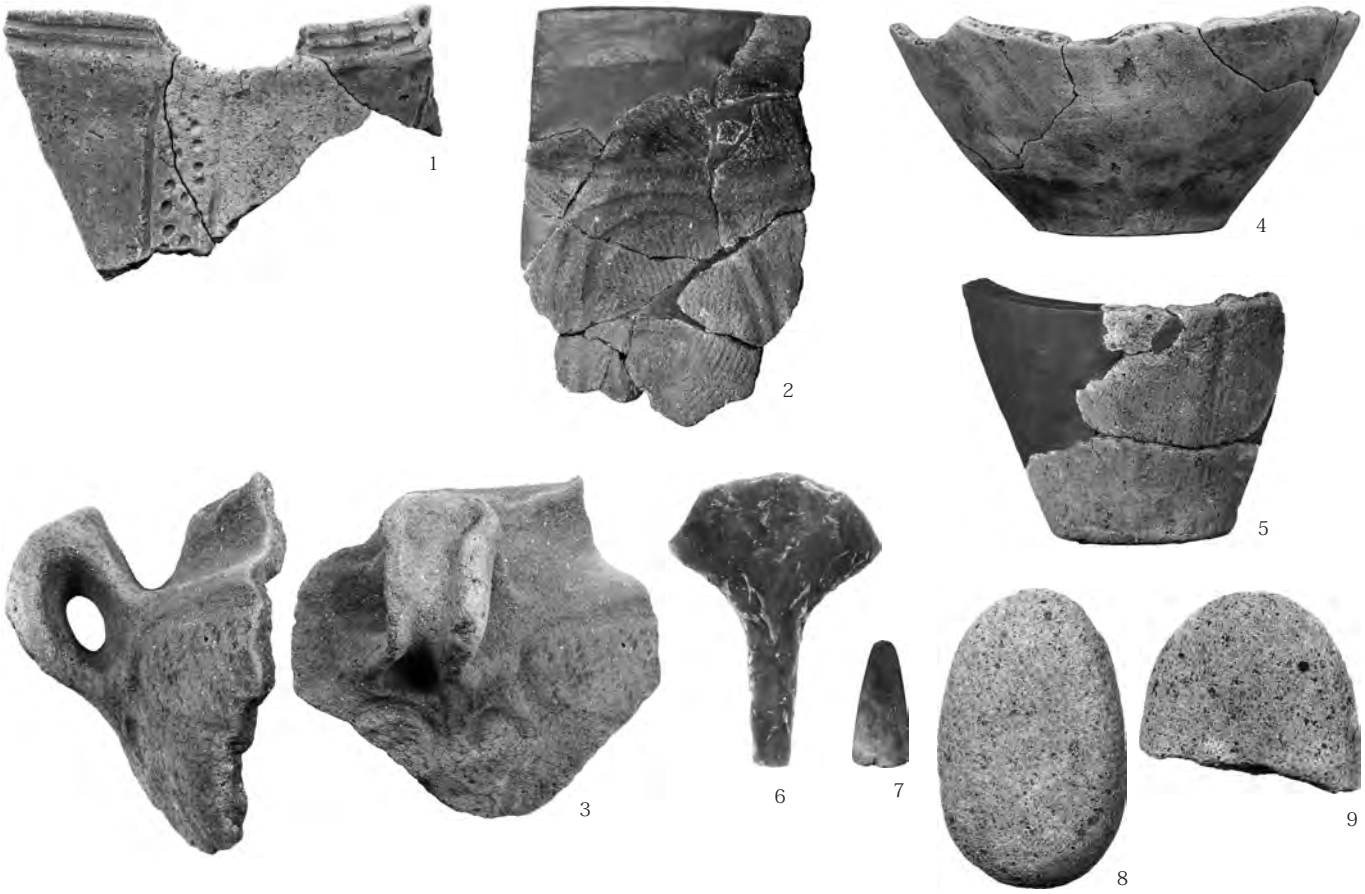
V区50号竪穴建物

V区51号竪穴建物

V区52号竪穴建物

V区53号竪穴建物

PL.174



V区54号竪穴建物

V区55号竪穴建物

V区56号竪穴建物

V区57号竪穴建物

4

5

7

6

8

9

10

11

12

13

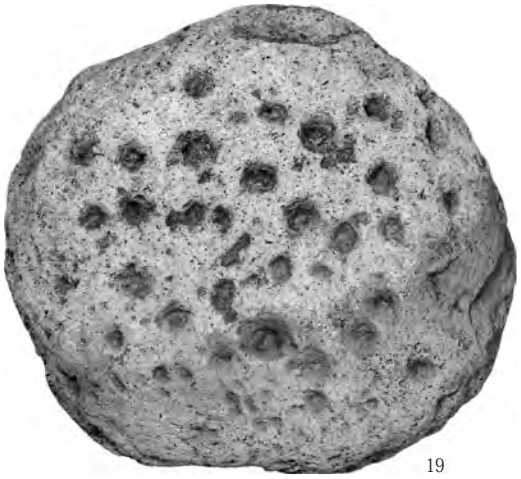
14

15

16

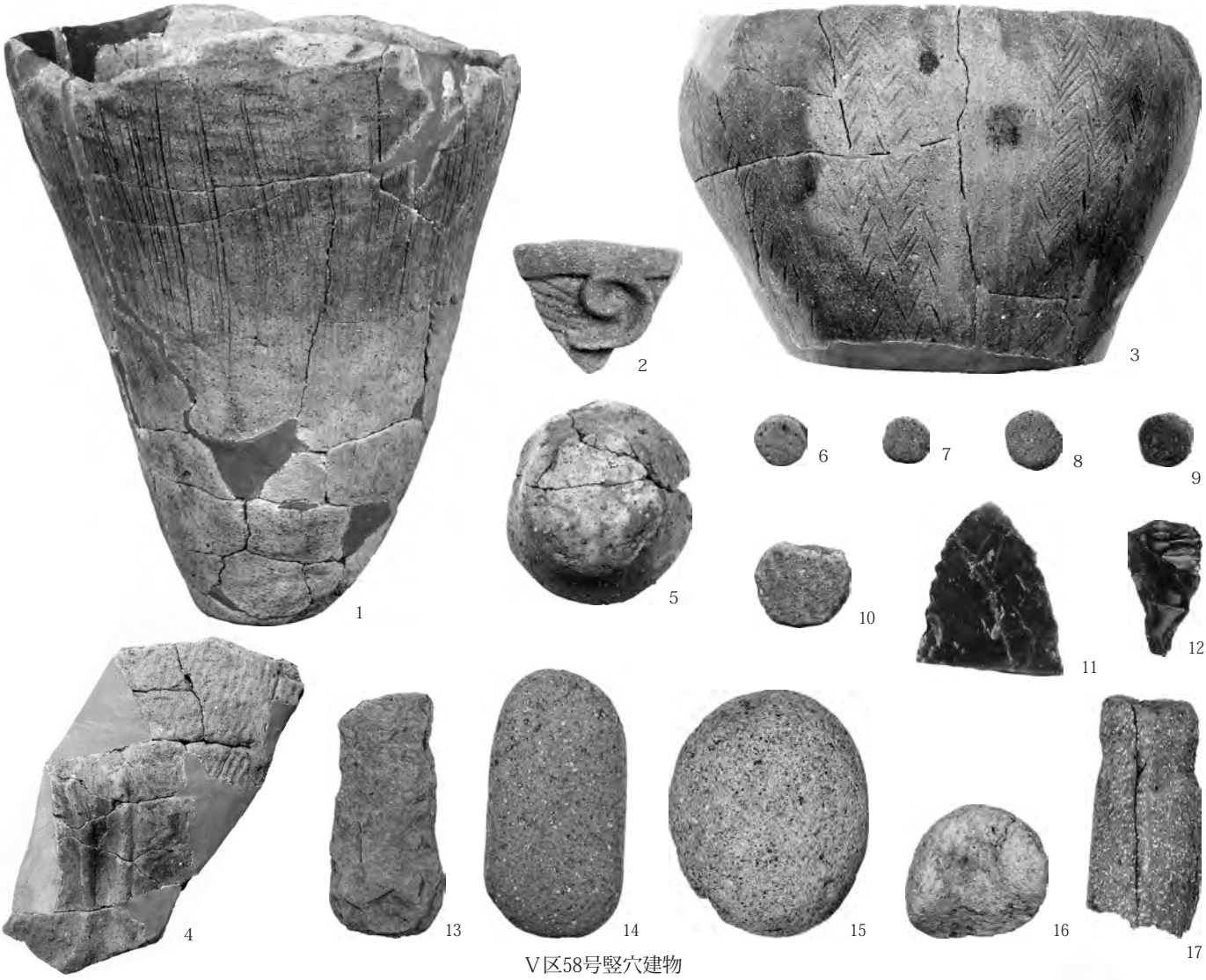
17

18

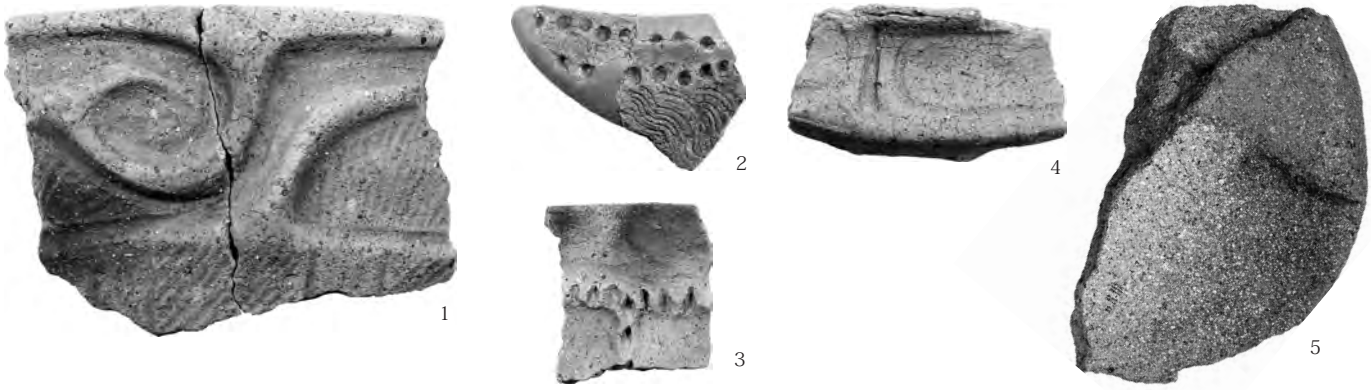

19

V区57号竪穴建物

PL.176



V区58号竪穴建物



V区59号竪穴建物

V区60号竪穴建物

1

2

3

4

6

5

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

V区61号竪穴建物

1

2

3

4

5

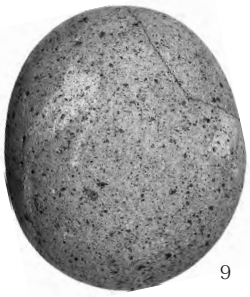
6

V区62号竪穴建物

PL.178

7

8


9

V区62号竪穴建物

1

2

3

4

V区63号竪穴建物

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

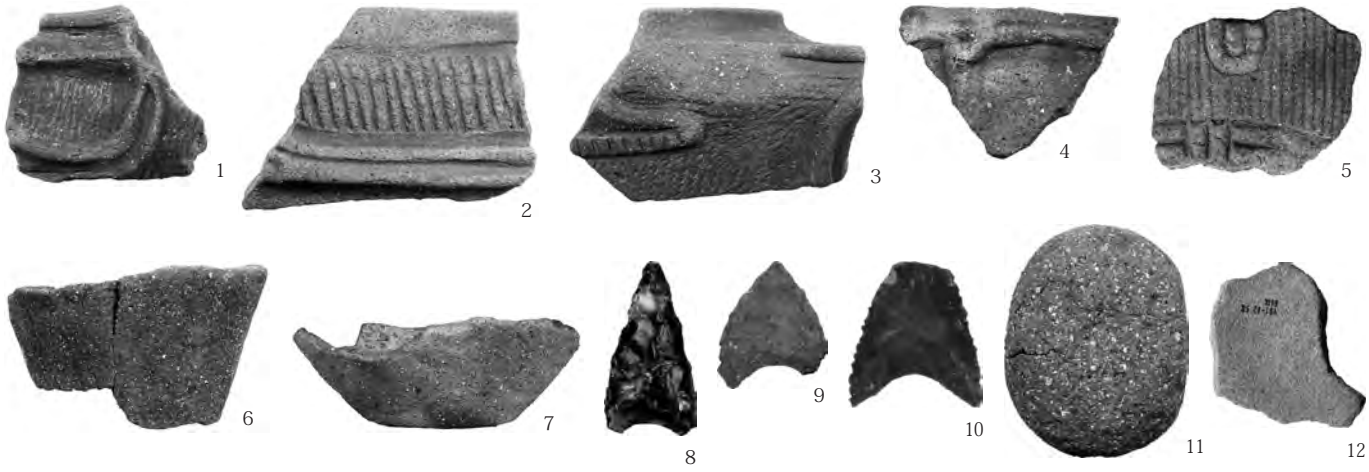
16

17

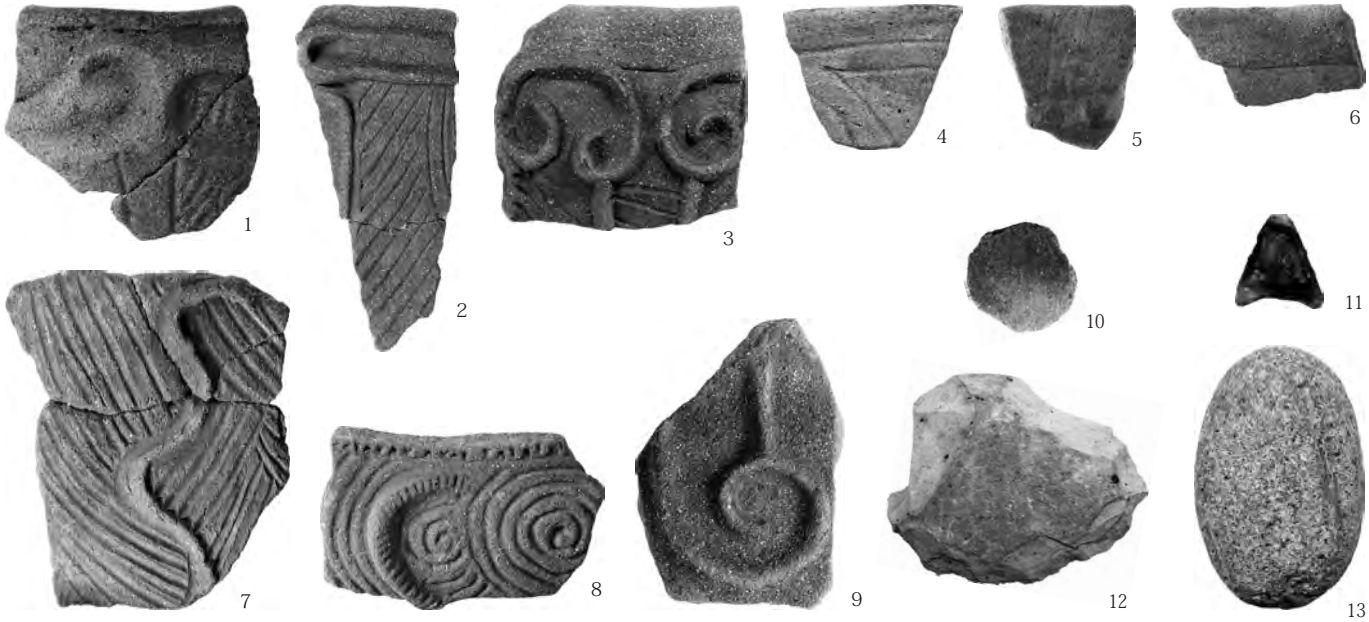
18

19

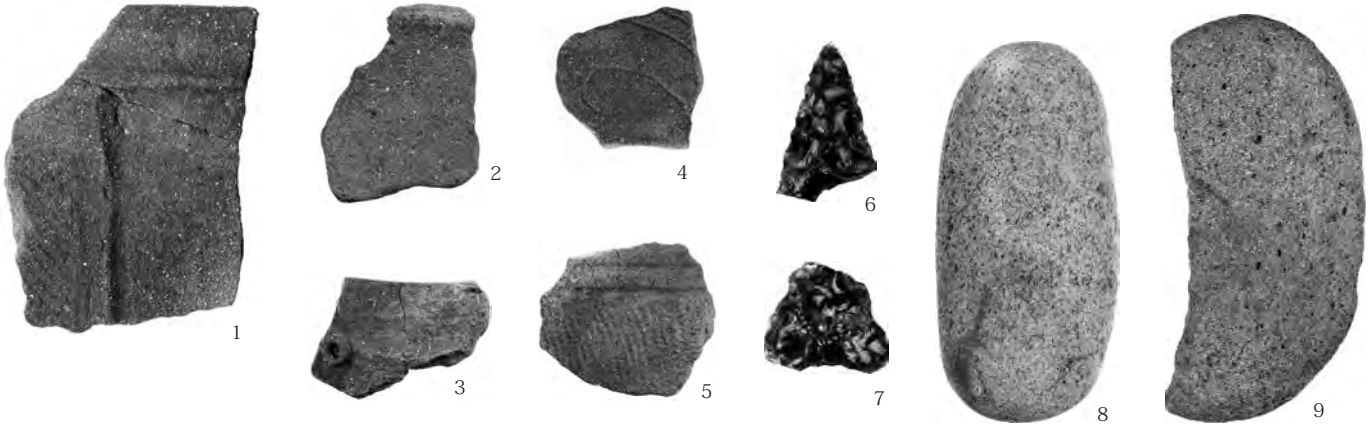
V区64号竪穴建物



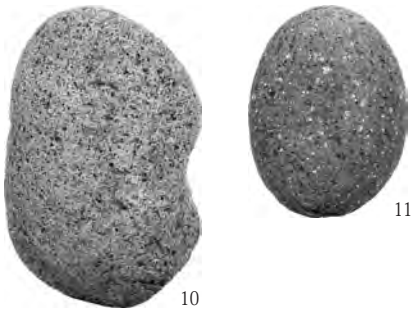
V区66号竪穴建物

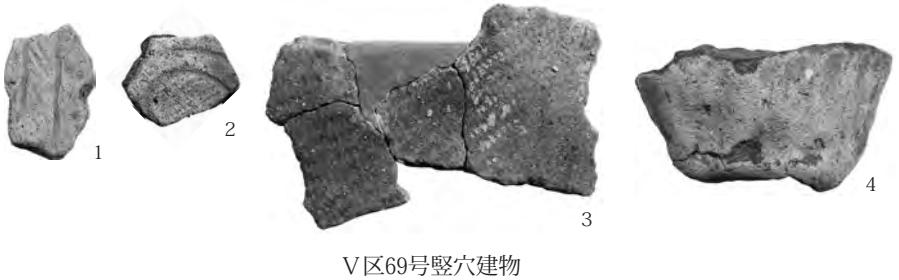


V区67号竪穴建物



V区68号竪穴建物





V区69号竪穴建物

PL.180

1

2

3

4

V区70号竪穴建物

1

V区71号竪穴建物

2

7

8

4

3

5

6

9

V区71号竪穴建物

1

2

3

4

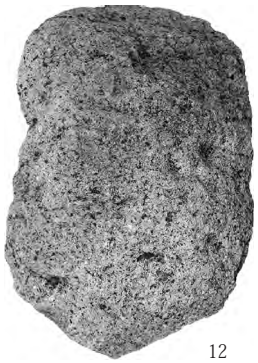
5

6

7

10

11

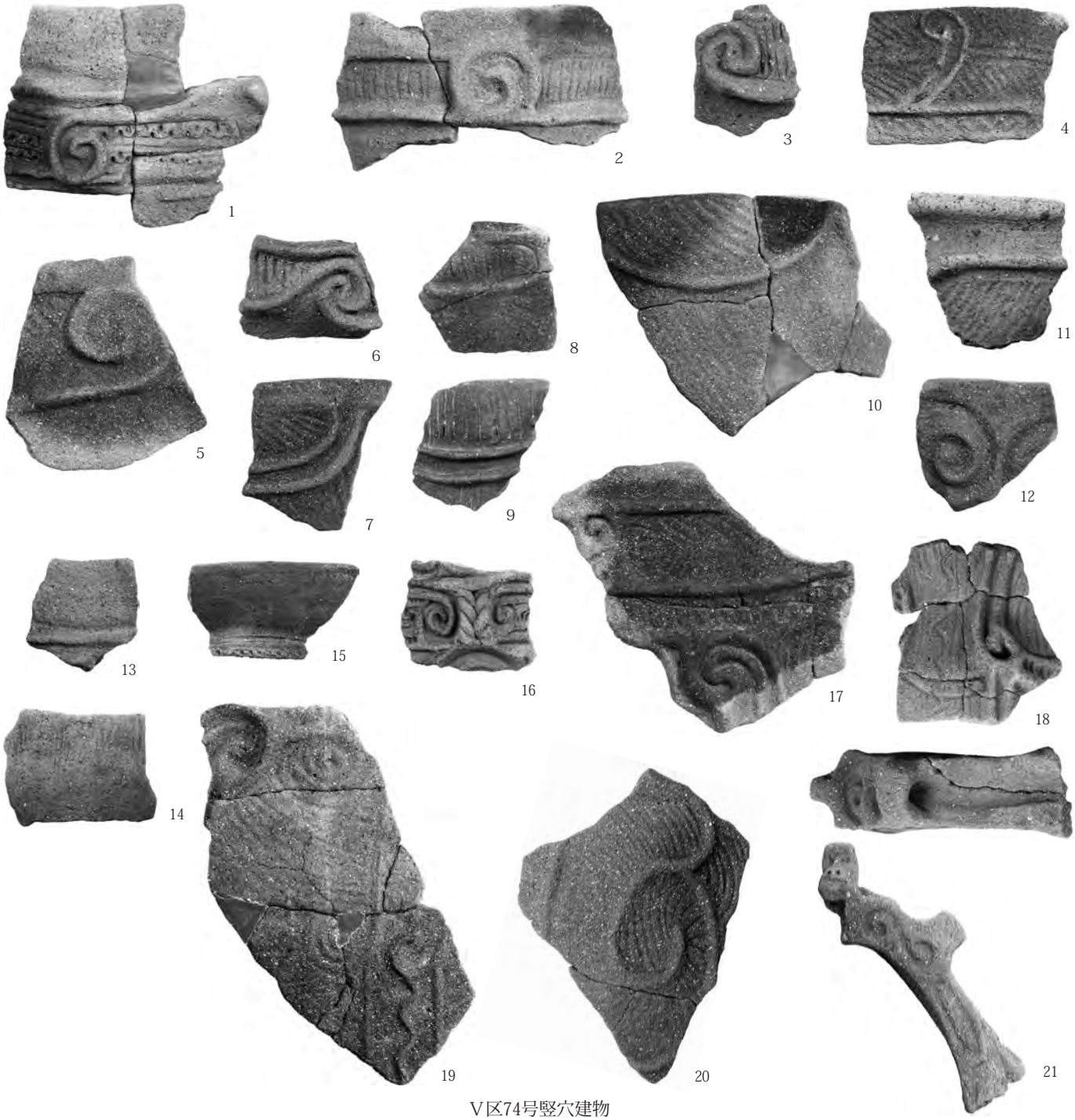

12

8

9

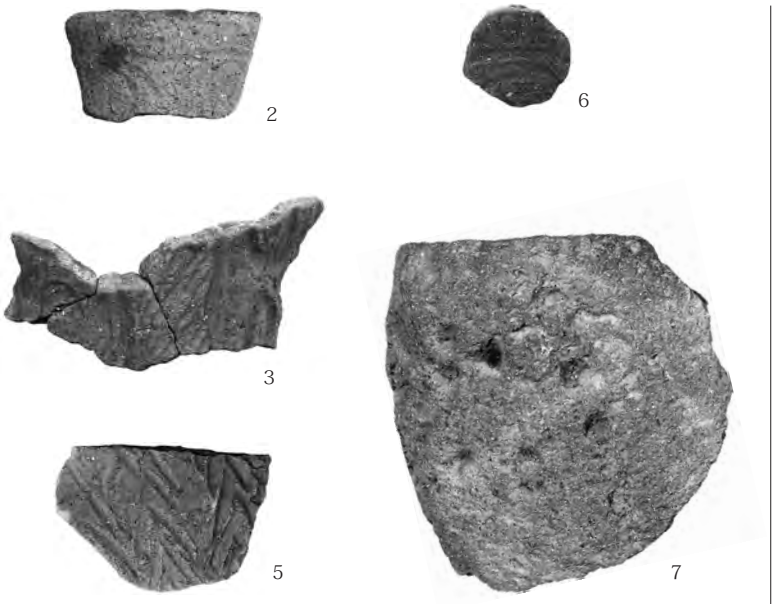
V区73号竪穴建物

PL.182

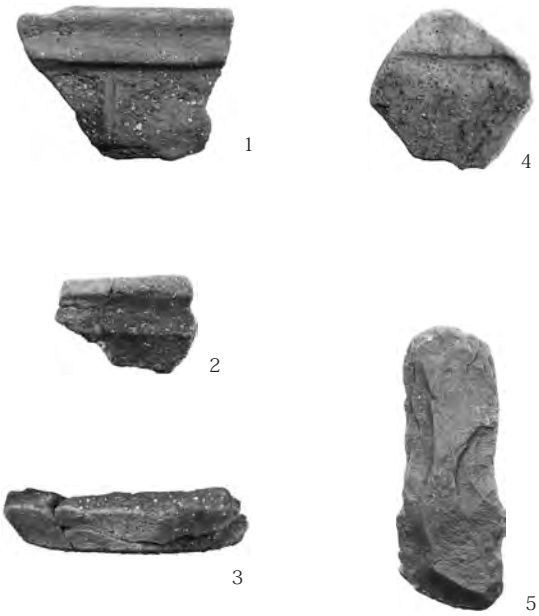


V区74号竪穴建物

V区75号竪穴建物



V区75号竪穴建物

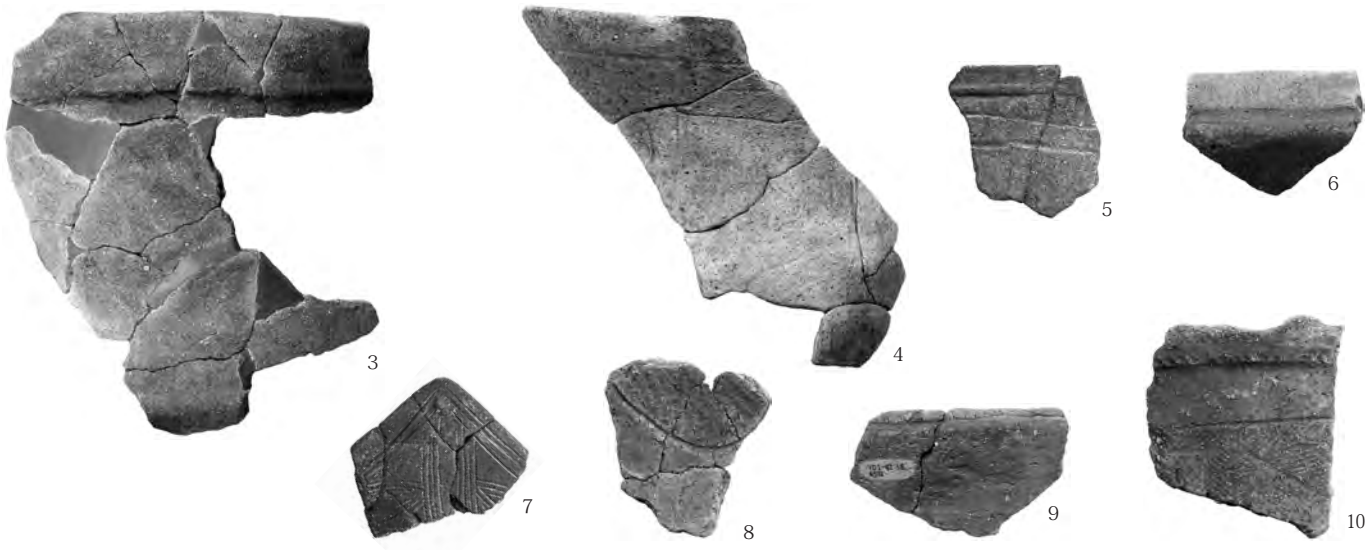


V区76号竪穴建物

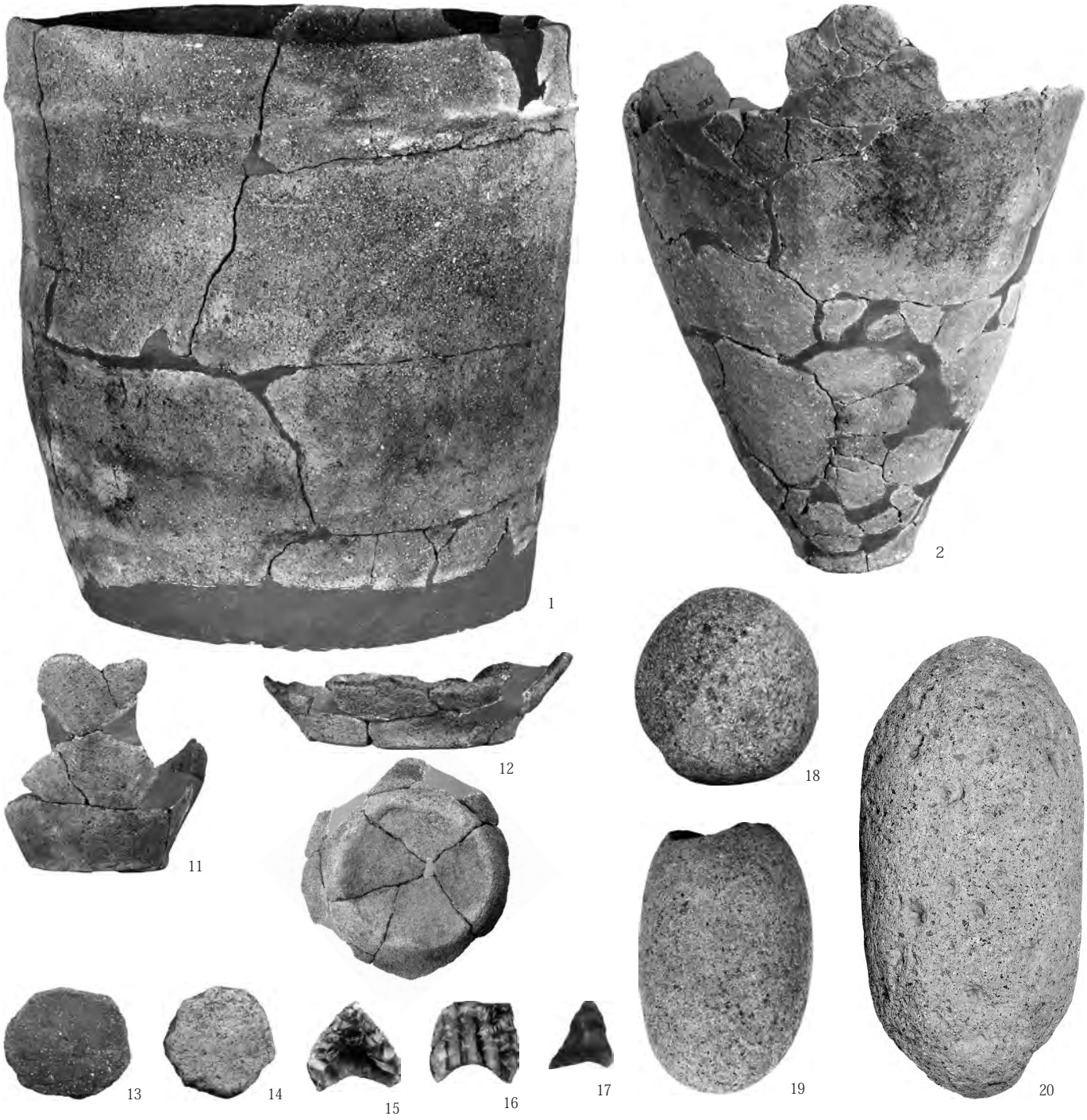
V区77号竪穴建物

PL.184

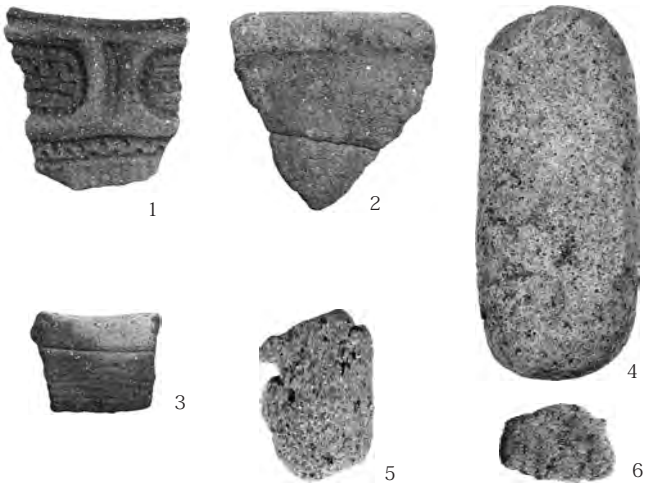
V区77号竪穴建物



V区78号竪穴建物



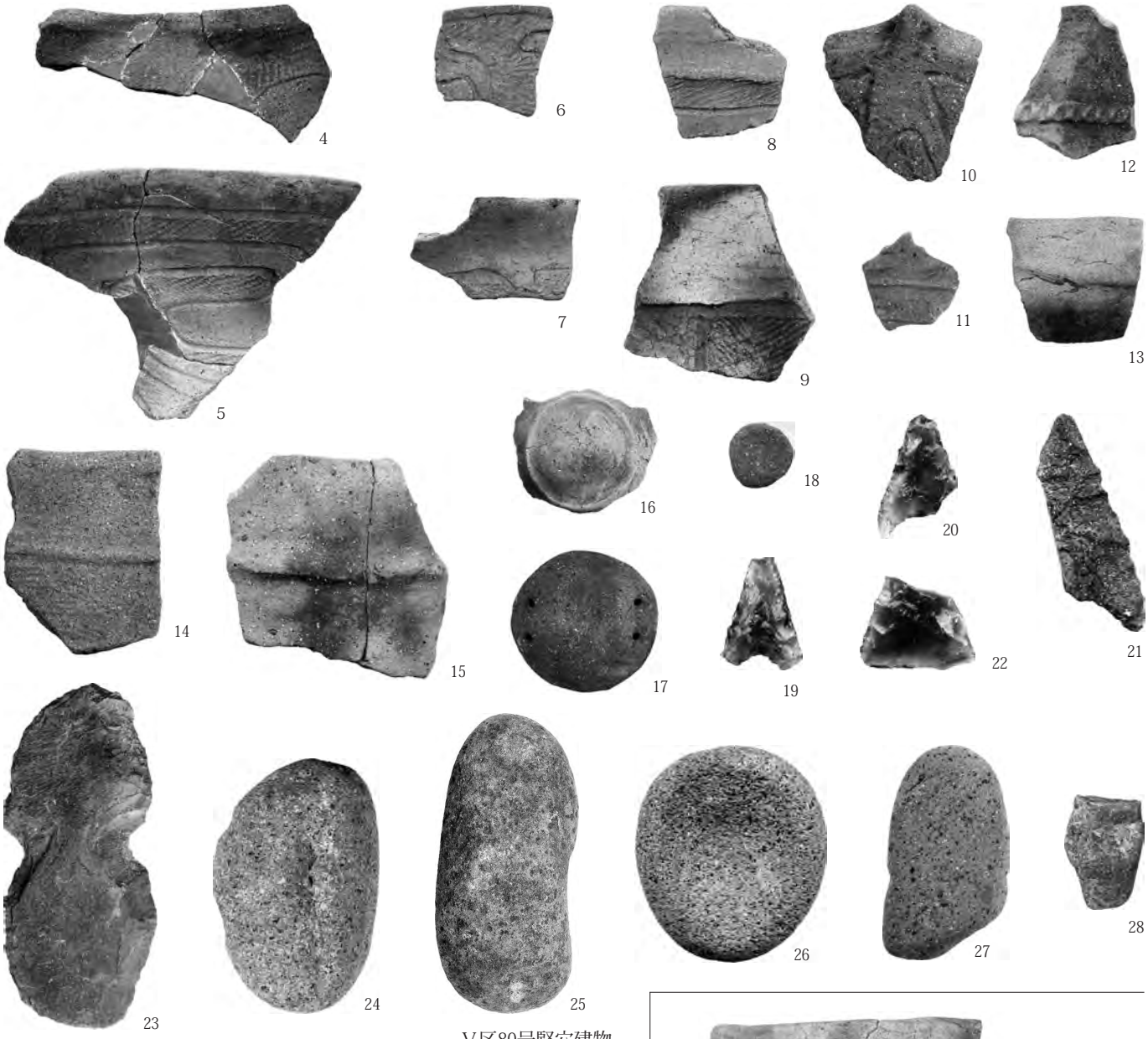
V区78号竪穴建物



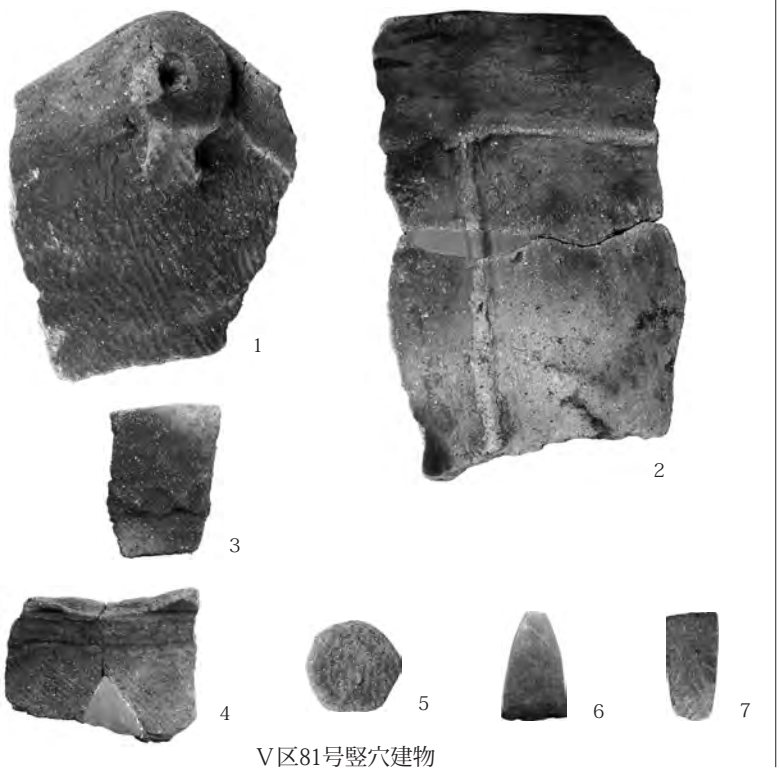
V区79号竪穴建物

V区80号竪穴建物

PL.186

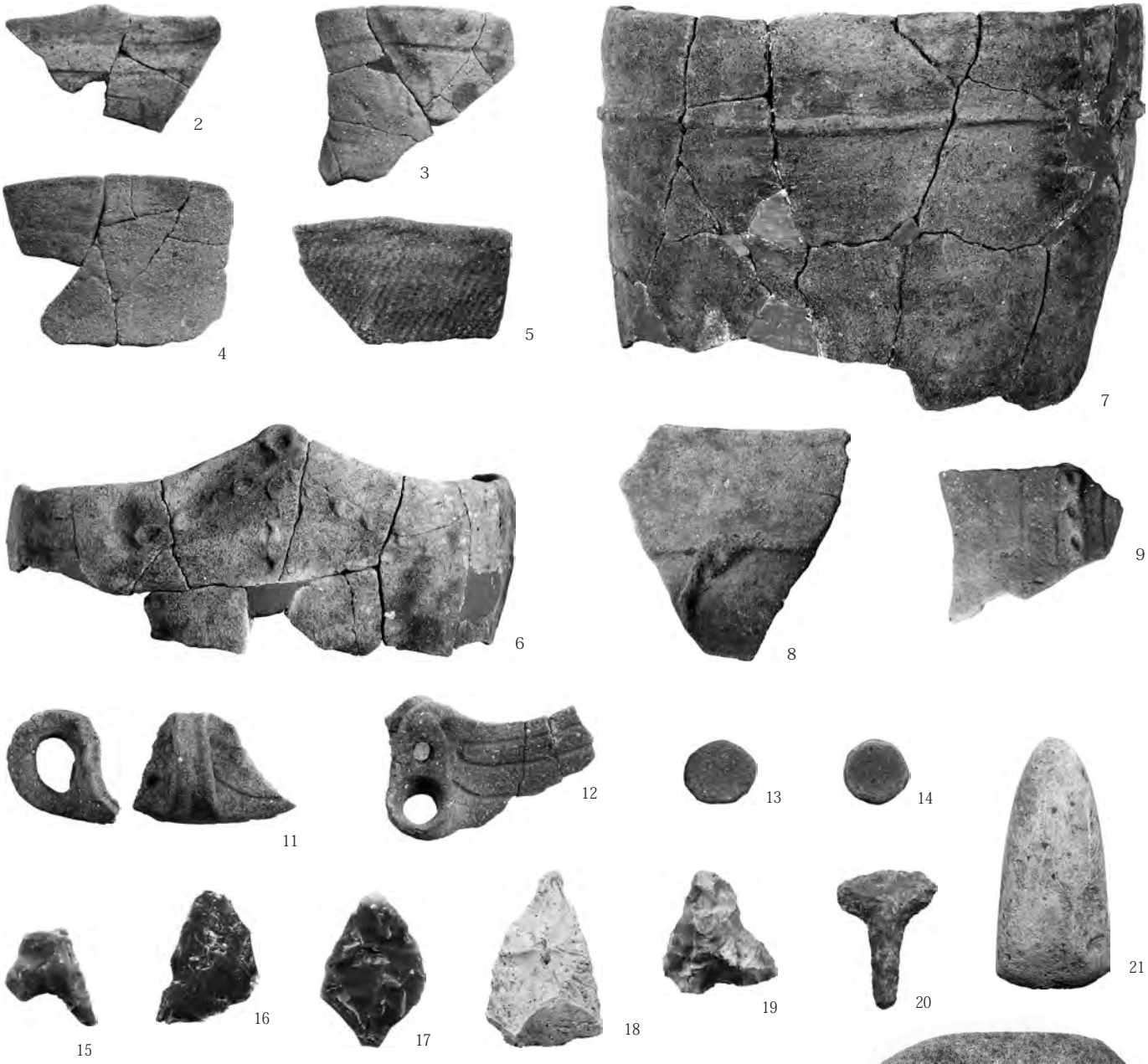


V区80号竪穴建物

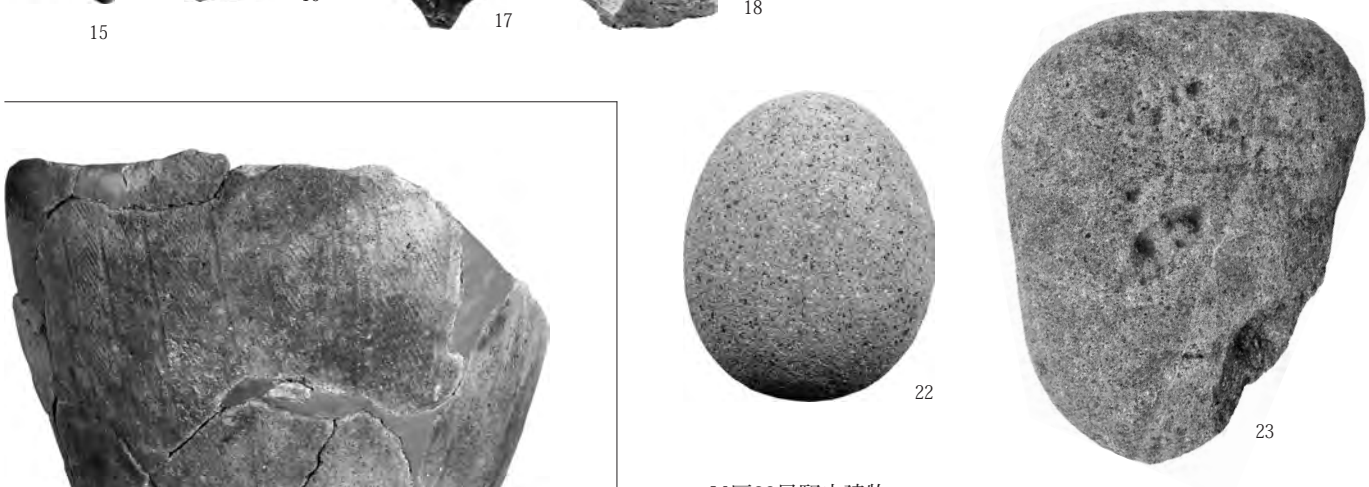


V区81号竪穴建物

V区82号竪穴建物



V区82号竪穴建物

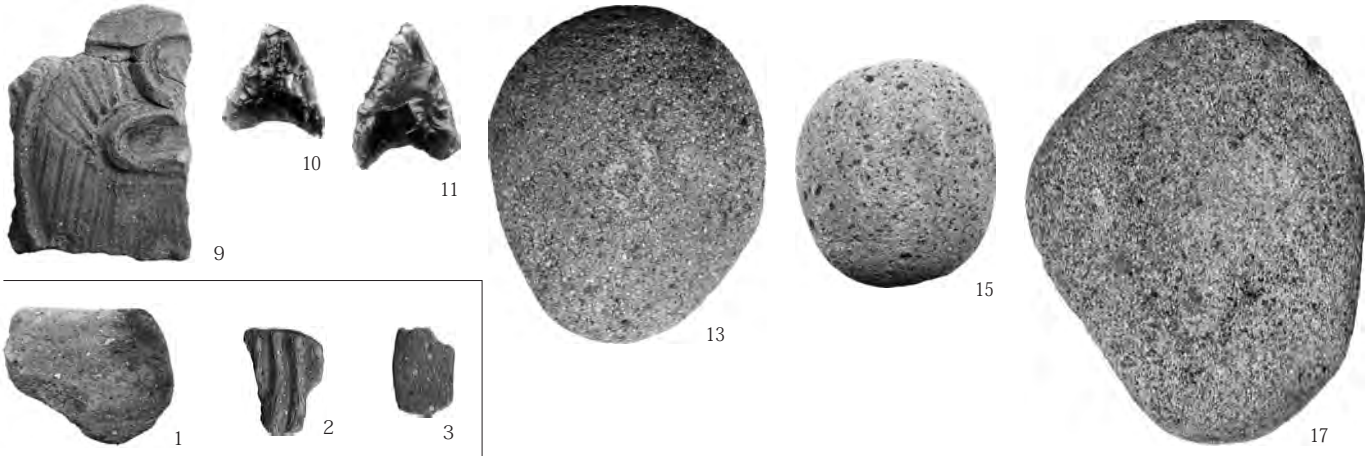


V区83号竪穴建物

PL.188

V区83号竪穴建物

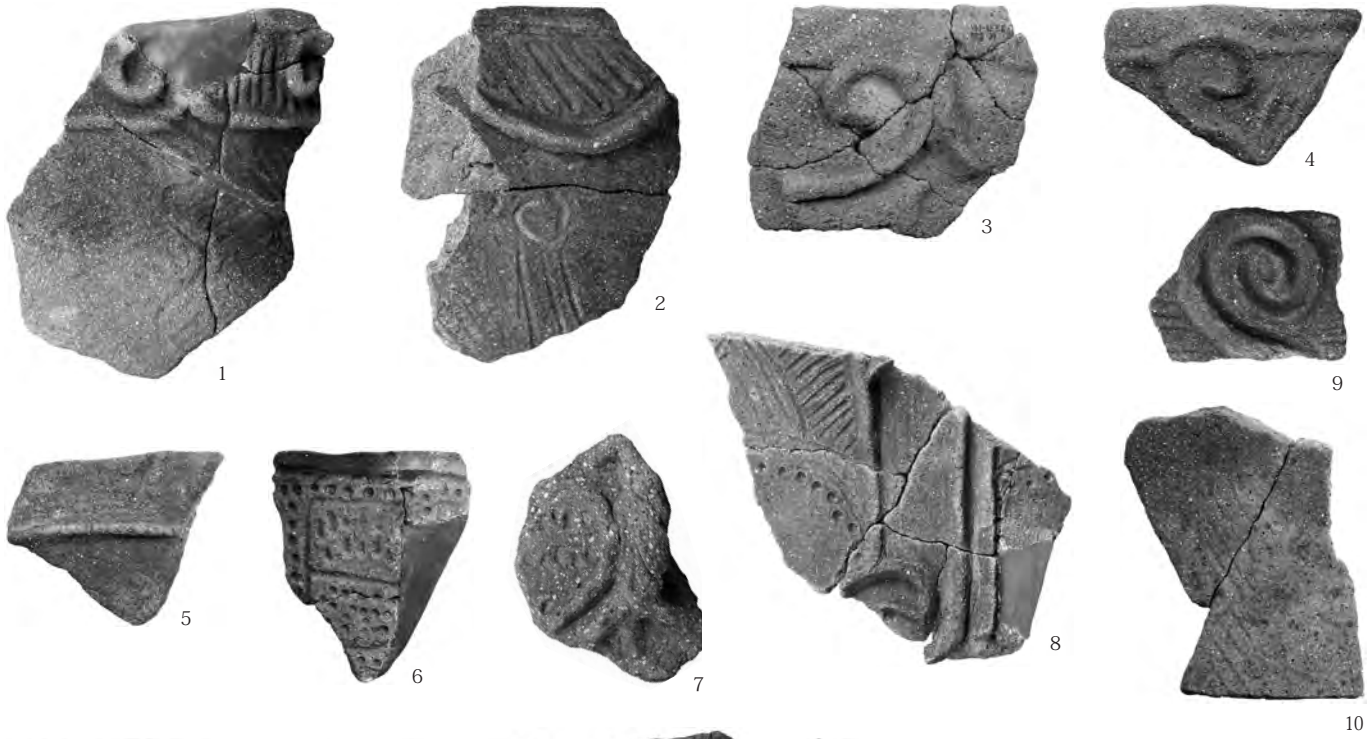
V区84号竪穴建物

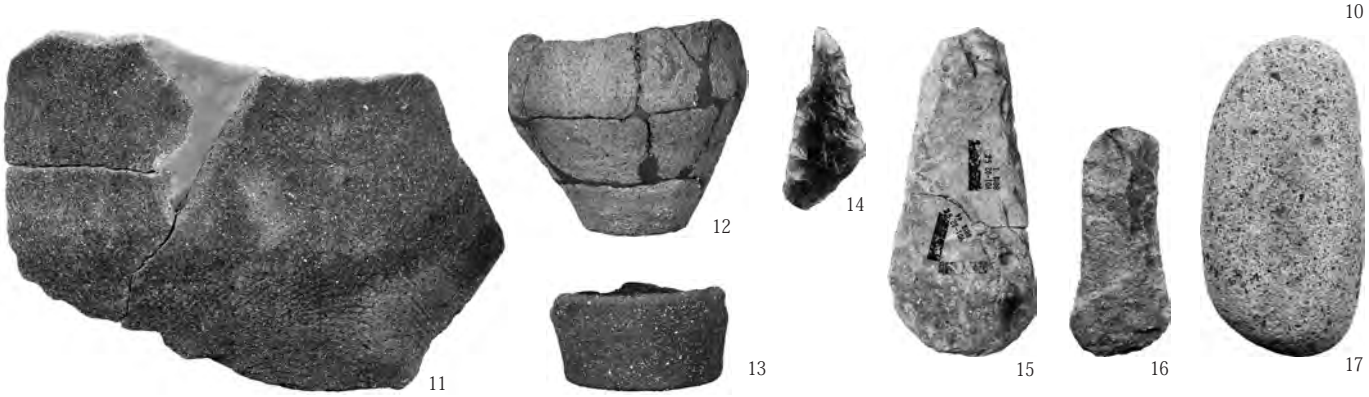


V区86号竪穴建物

V区85号竪穴建物

V区87号竪穴建物





V区88号竪穴建物

V区89号竪穴建物

PL.190

1

7

8

9

10

11

12

13

14

5

V区89号竪穴建物

1

V区90号竪穴建物

1

2

3

4

5

6

9

7

8

V区91号竪穴建物

1

2

3

4

5

6

7

V区92号竪穴建物

1

2

V区94号土坑

1

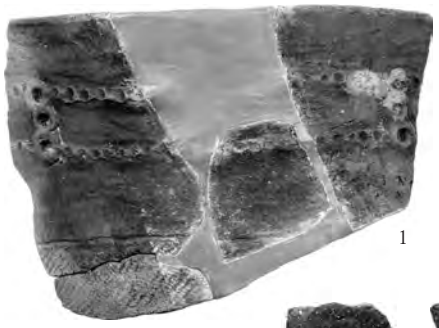
2

3

4

5

V区90号土坑


1

2

3

4

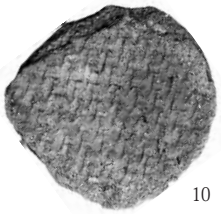
5

6

7

8

9


10

11

V区126号土坑

1

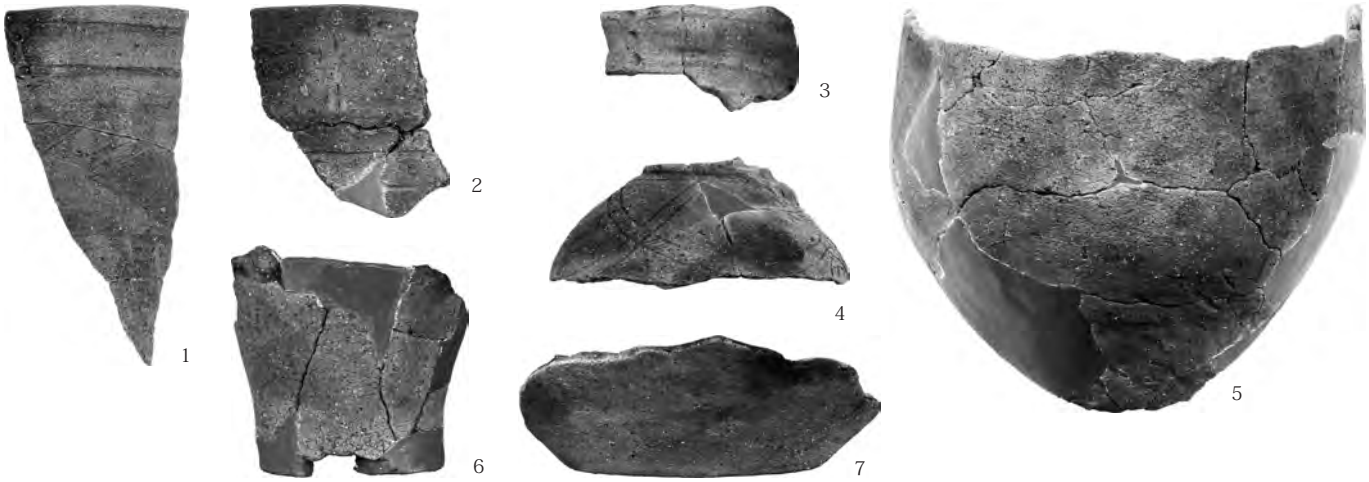
V区128号土坑

1

2

V区131号土坑

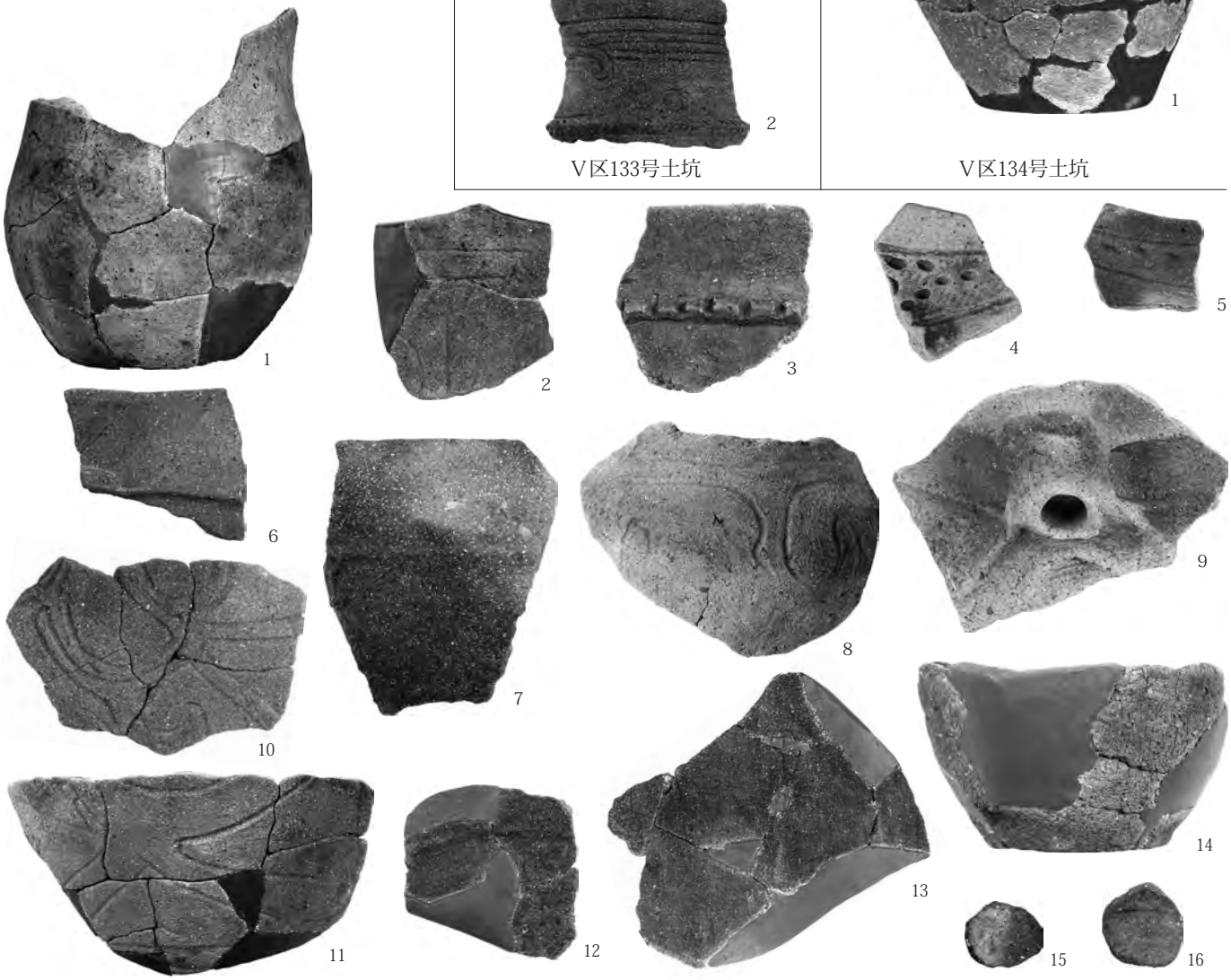
PL.192



V区132号土坑

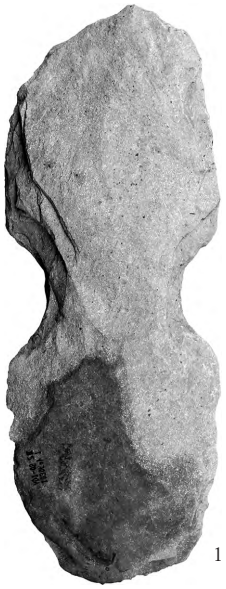
V区133号土坑

V区134号土坑

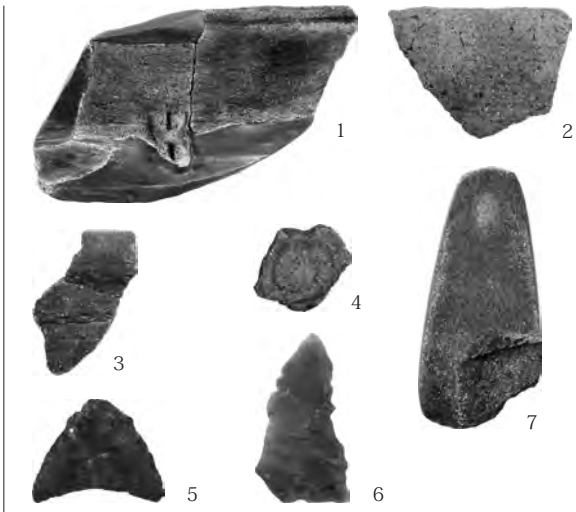


V区135号土坑

V区136号土坑



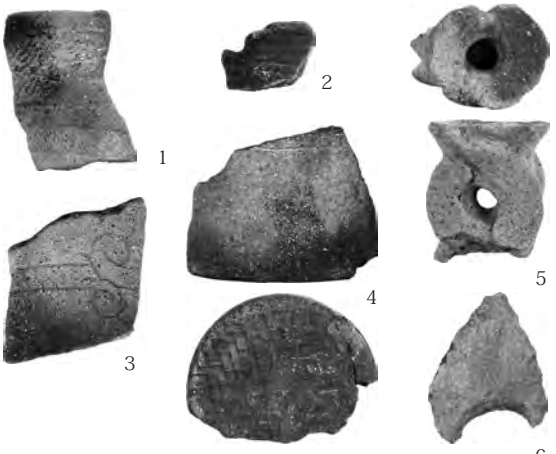
V区137号土坑



V区138号土坑

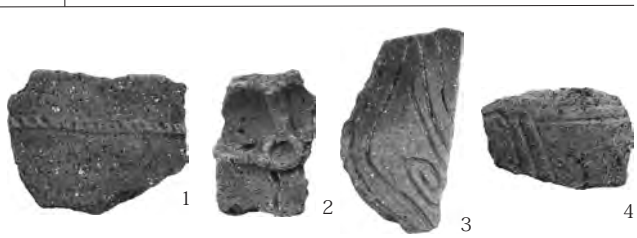
V区139号土坑

V区140号土坑



V区141号土坑

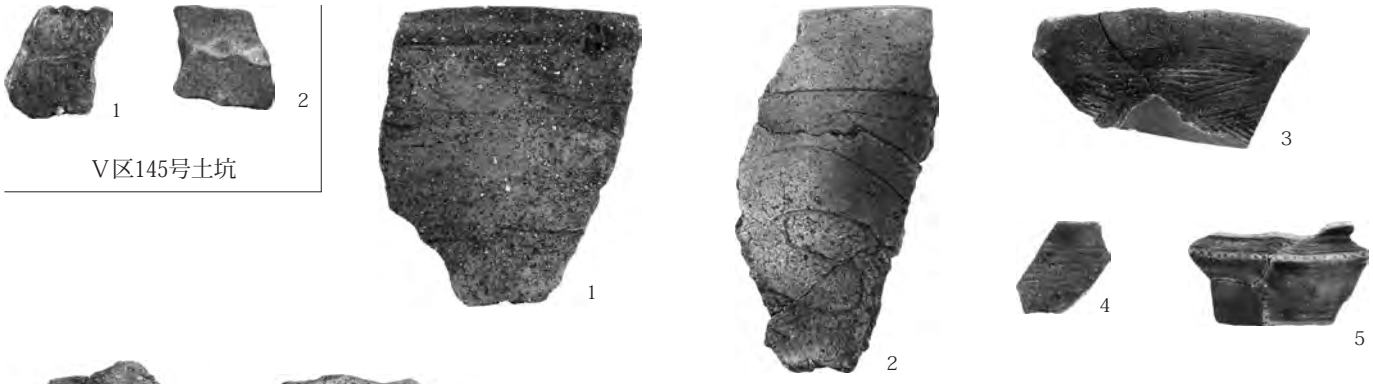
V区143号土坑



V区142号土坑

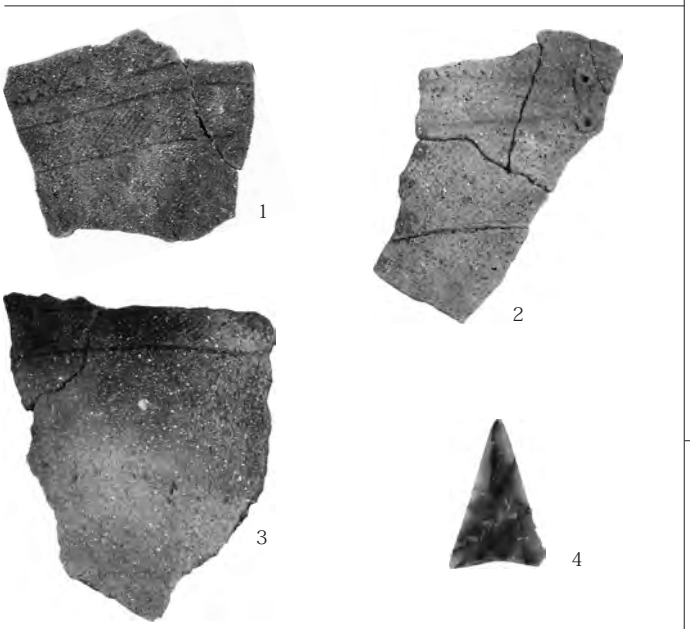
V区144号土坑

PL.194

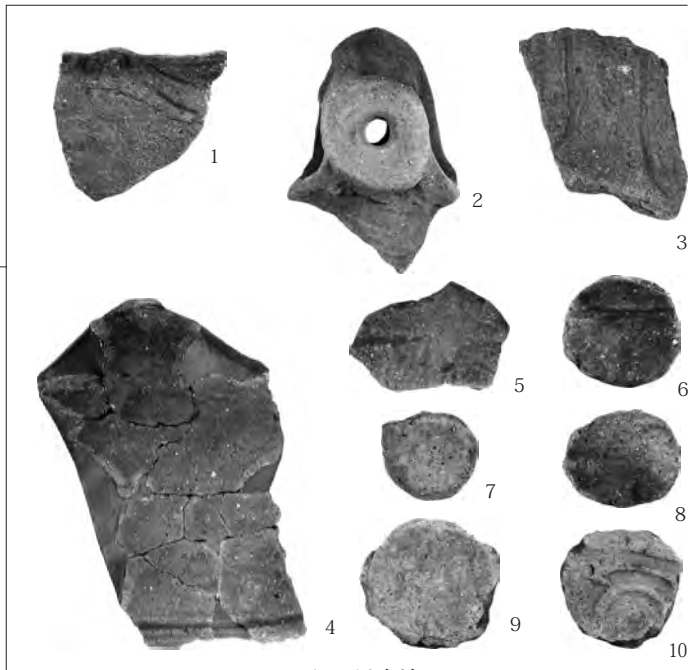


V区145号土坑

V区146号土坑

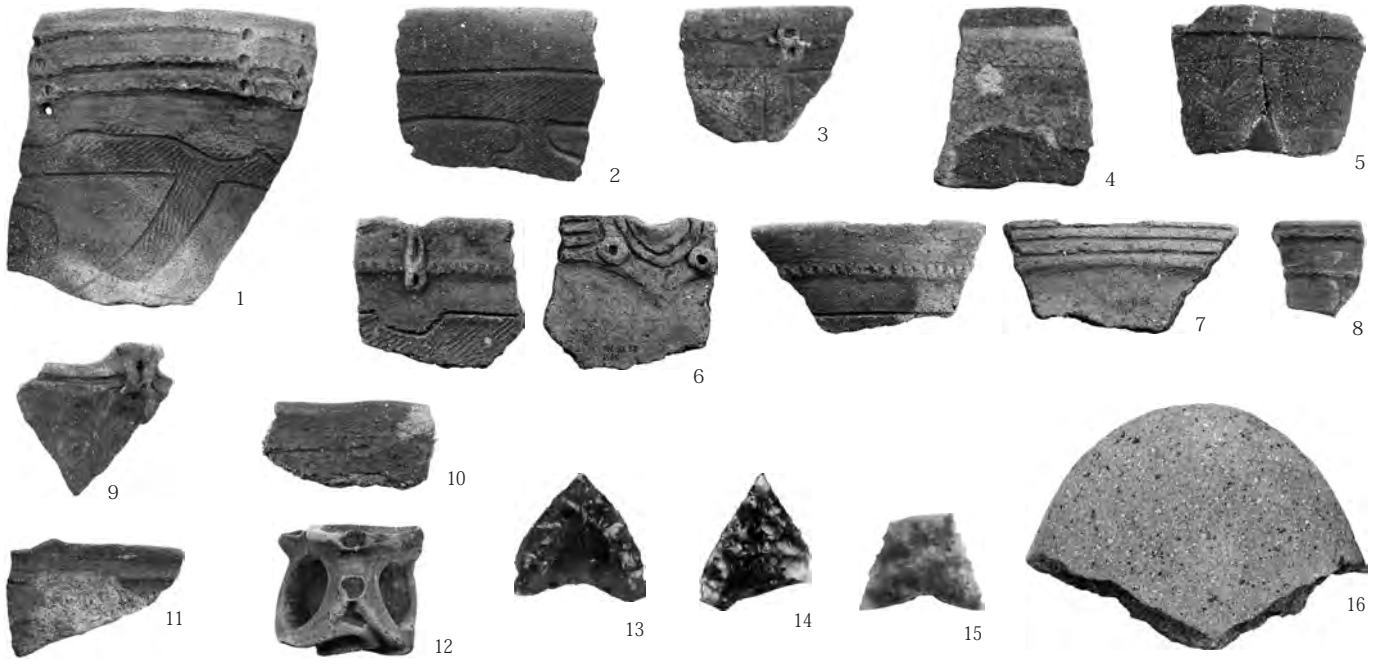


V区147号土坑

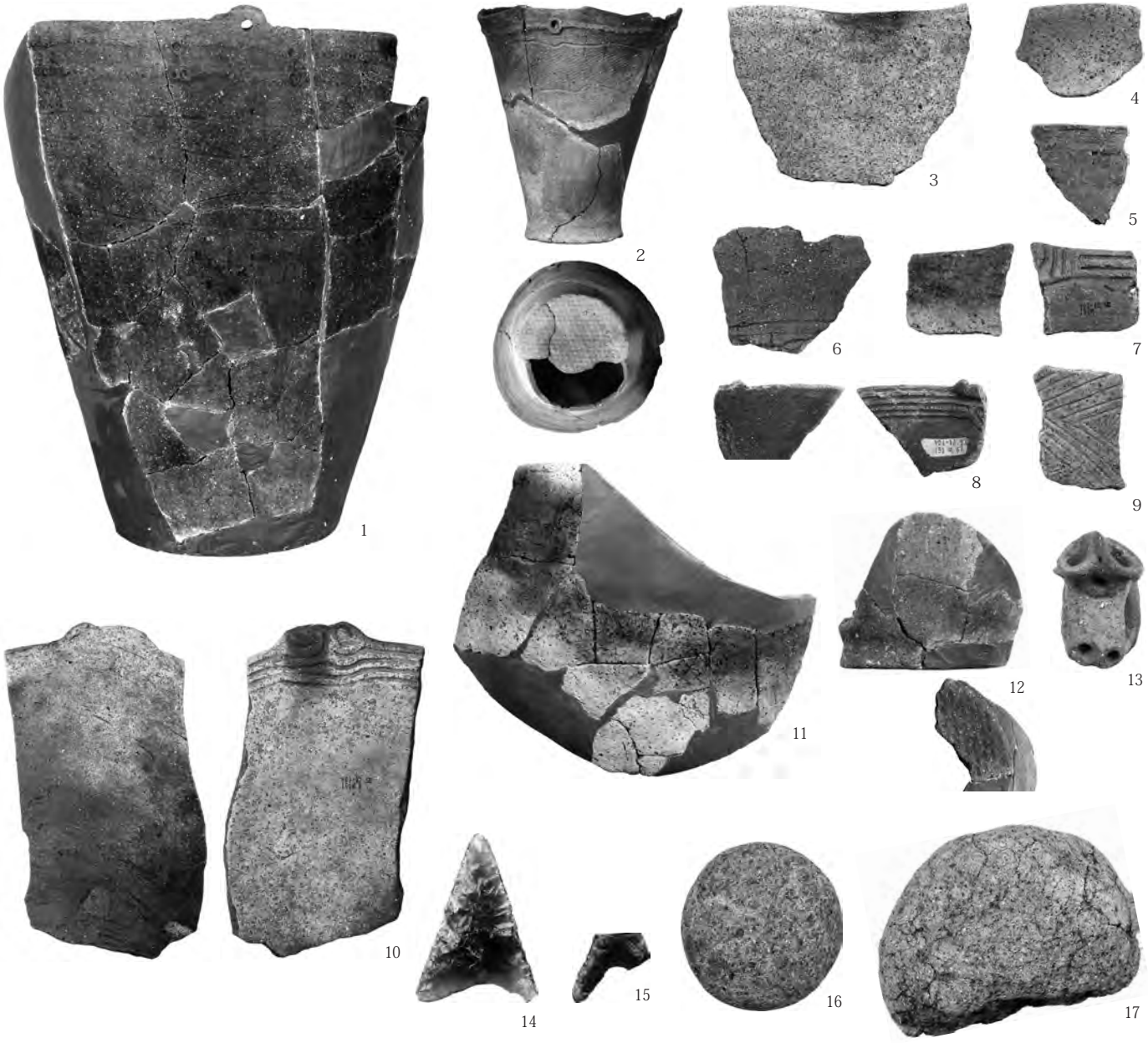


V区148号土坑

V区149号土坑



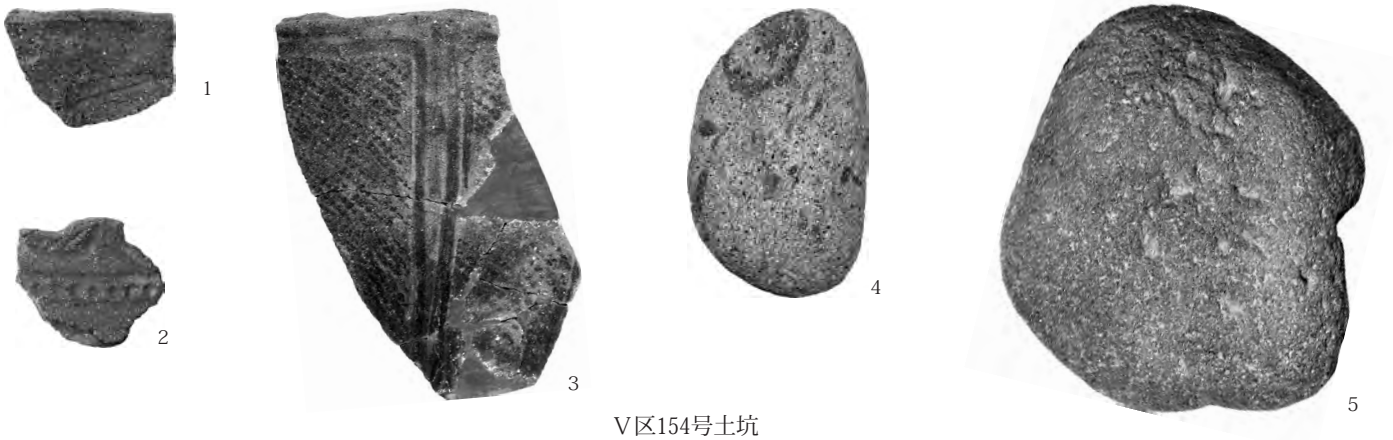
V区150号土坑



V区151号土坑

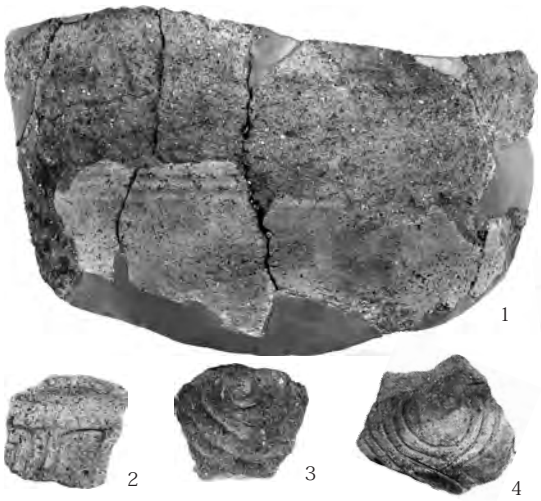
V区153号土坑

V区155号土坑

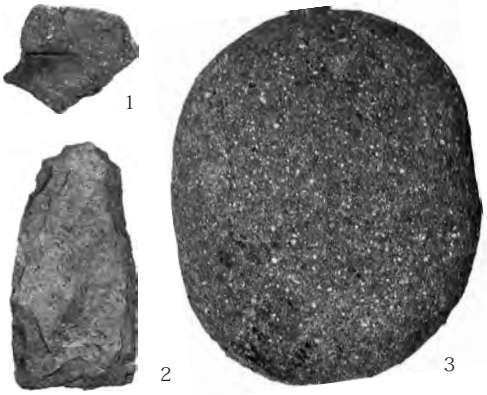


V区154号土坑

PL.196



V区156号土坑

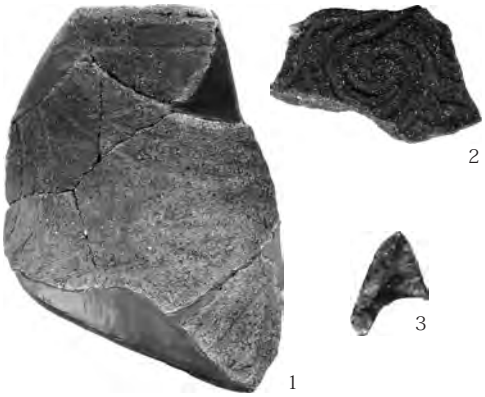


V区157号土坑

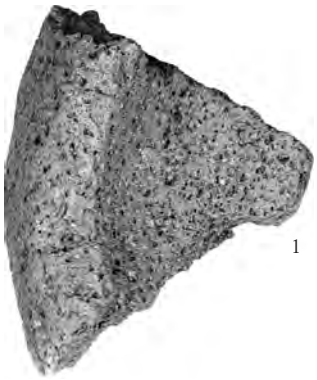
V区160号土坑

V区158号土坑

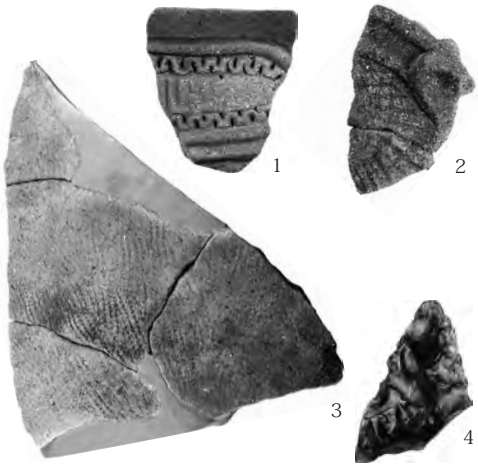
V区161号土坑



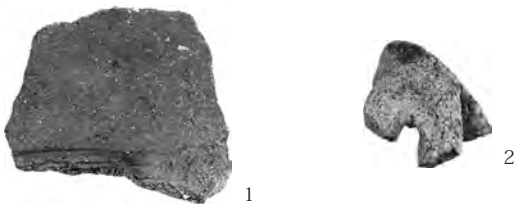
V区162号土坑



V区163号土坑



V区164号土坑

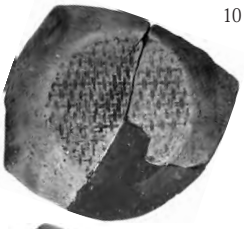


V区165号土坑

V区166号土坑

7

10



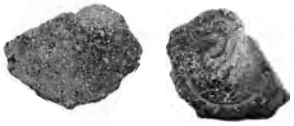
11

12

8

13

14


9

V区166号土坑

1

3

2

4

5

6

7

V区167号土坑

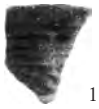
1

V区168号土坑

1

2

V区169号土坑


1

2

3

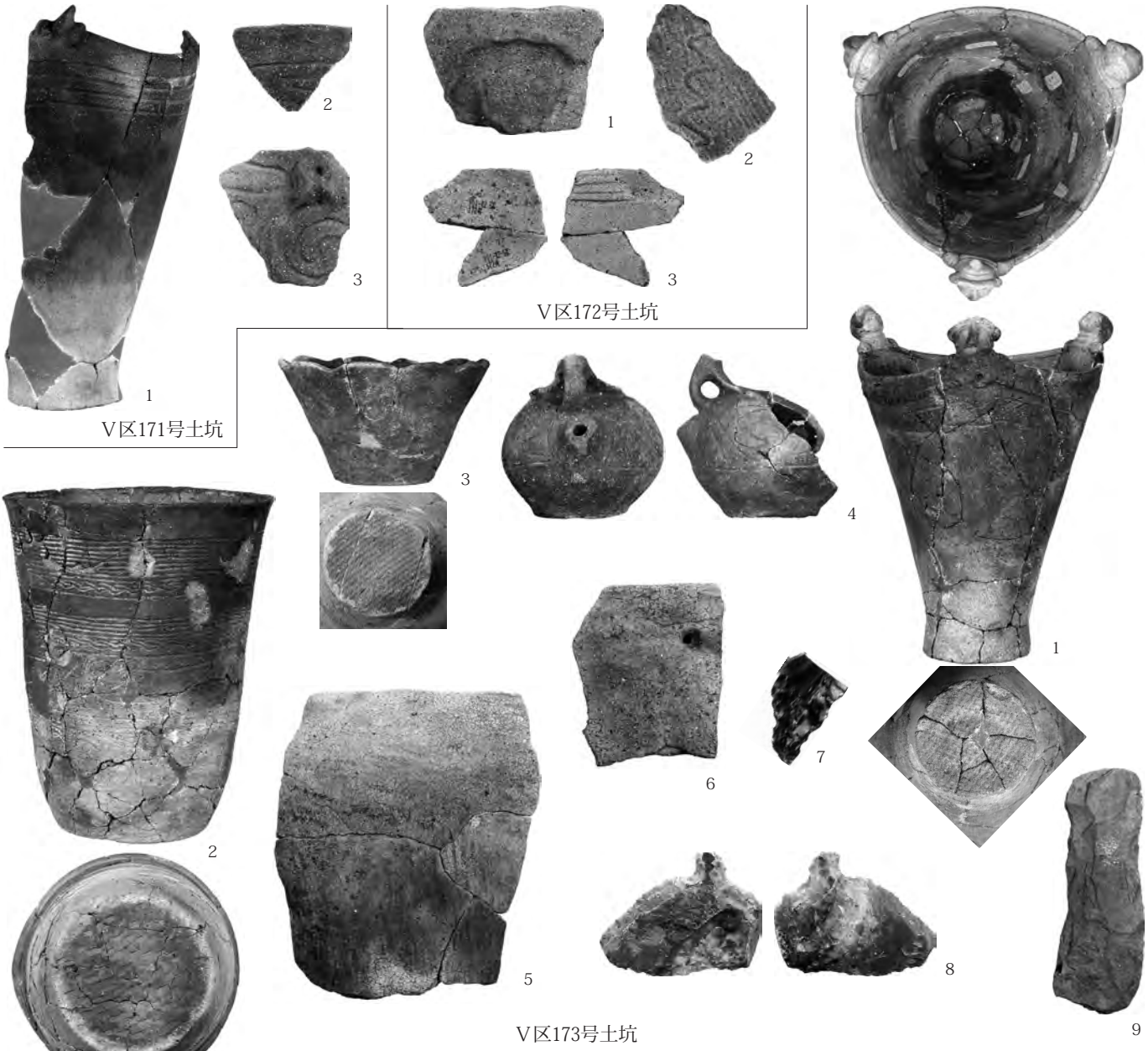
4

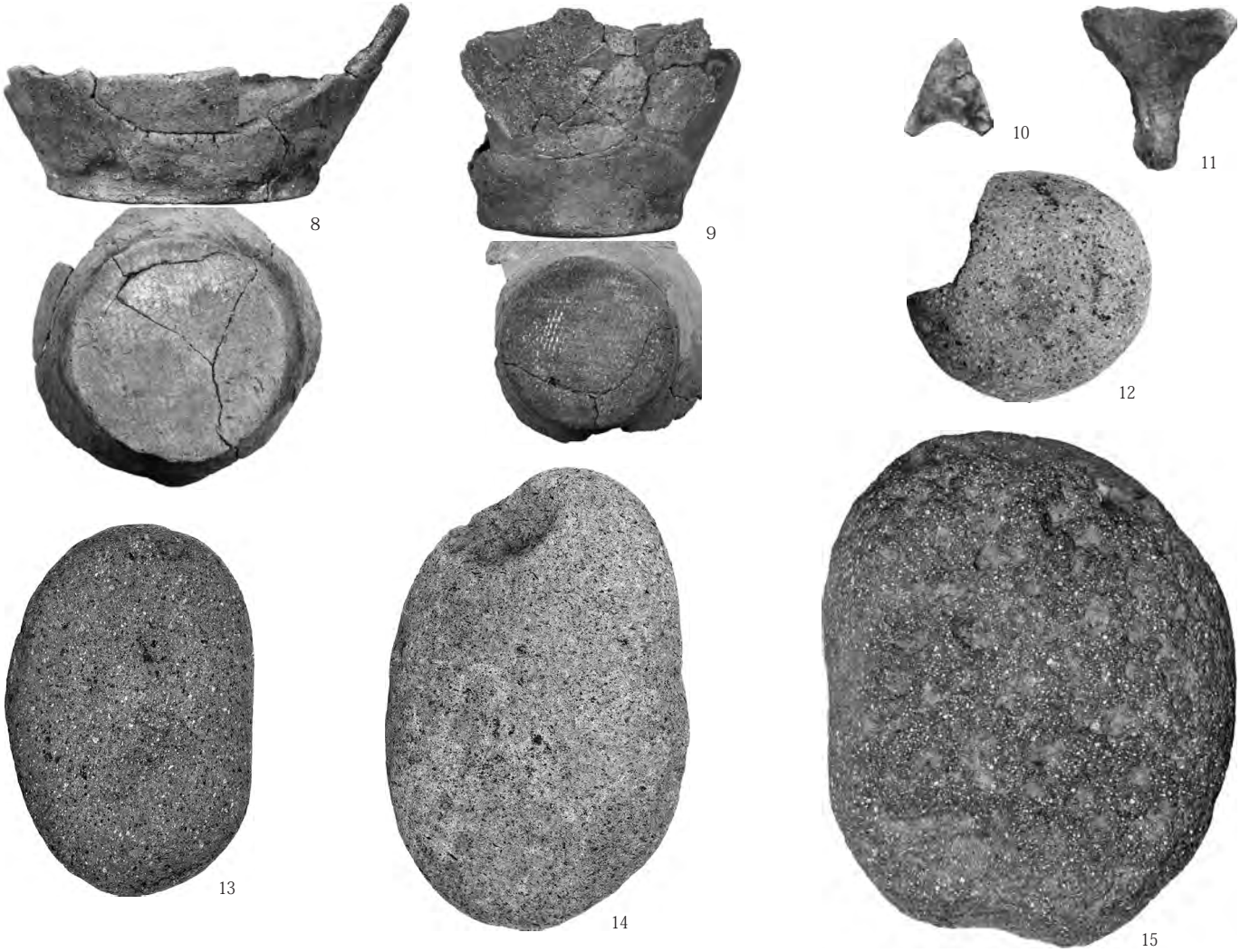
5

6

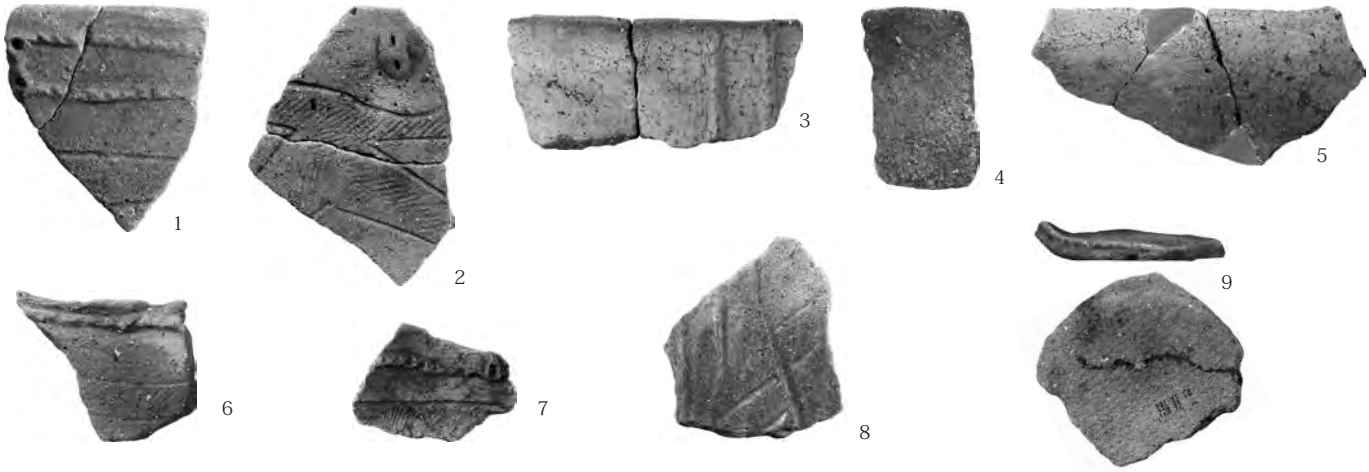
V区170号土坑

PL.198


1
2
3
V区171号土坑
1
2
3
V区172号土坑
1
2
3
4
5
6
7
8
9
V区173号土坑
1
2
V区174号土坑
1
V区175号土坑
1
2
V区176号土坑
1
2
3
4
5
6
7
V区177号土坑



V区177号土坑



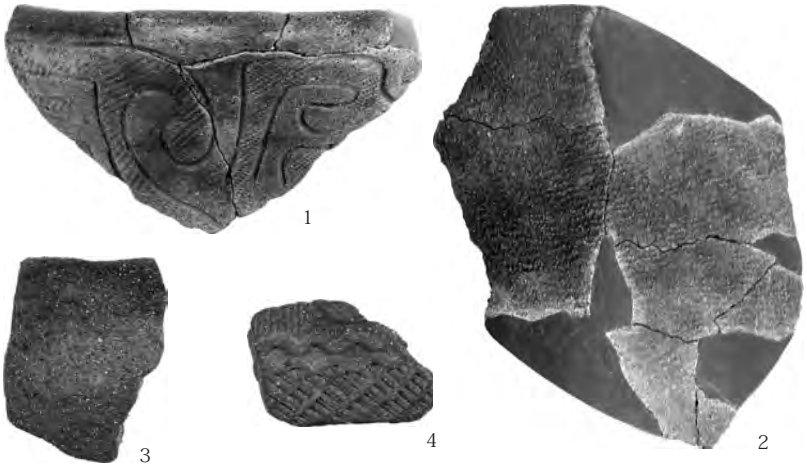
V区178号土坑

V区179号土坑

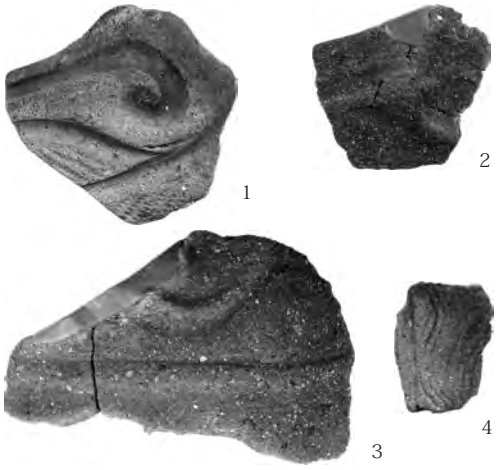
PL.200

V区180号土坑

V区182号土坑



V区181号土坑



V区183号土坑

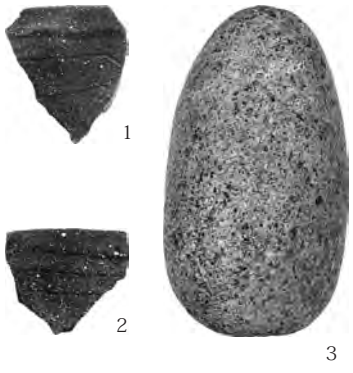
V区184号土坑

V区185号土坑

V区186号土坑

V区187号土坑

V区188号土坑



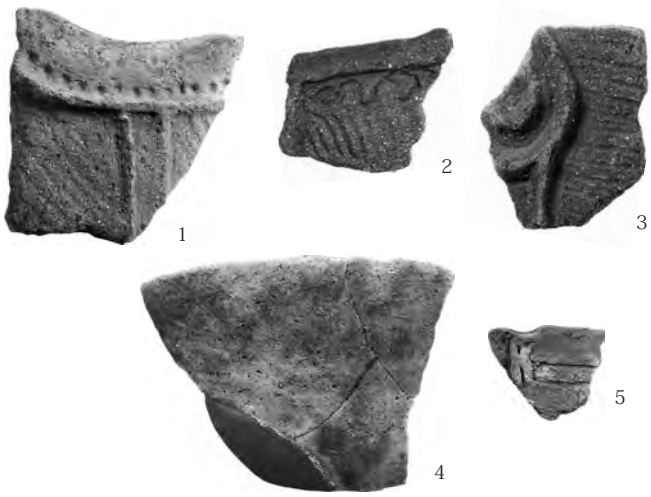
V区189号土坑

V区190号土坑

V区191号土坑

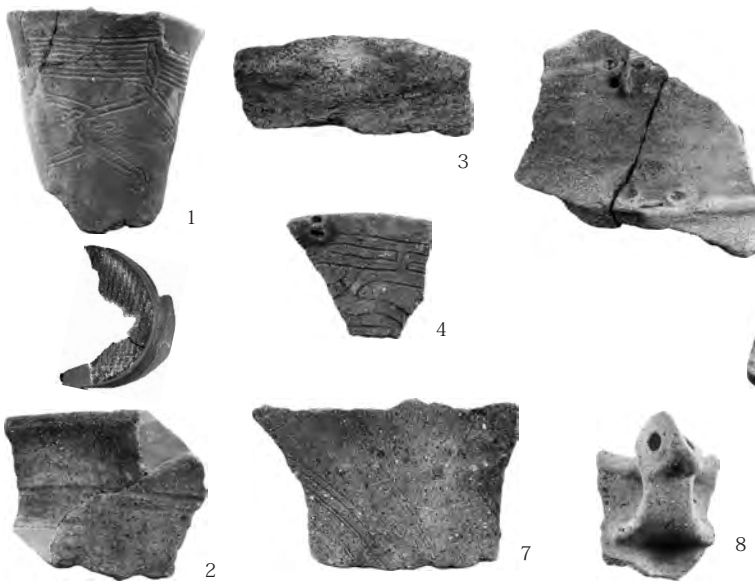
V区192号土坑

V区193号土坑

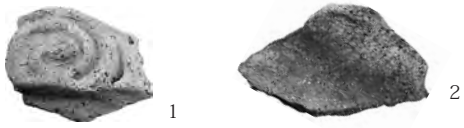


V区194号土坑

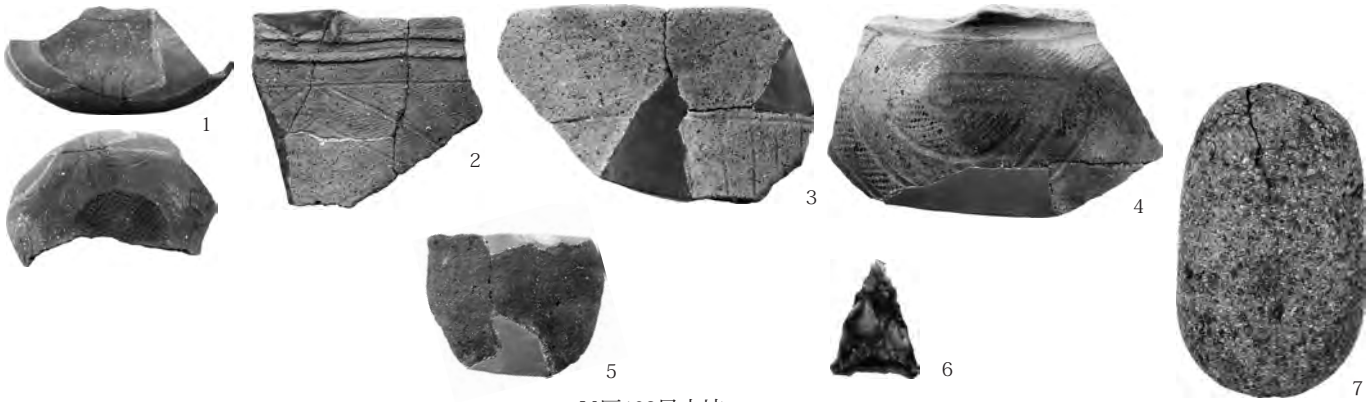
V区195号土坑



V区196号土坑

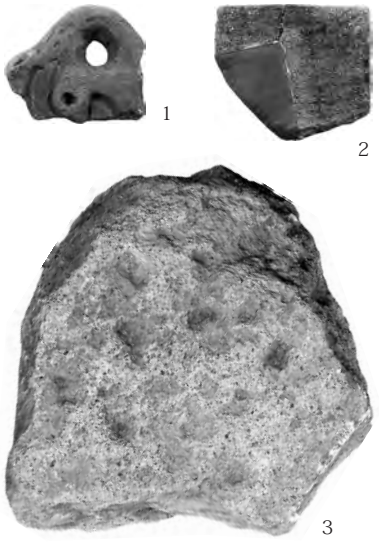


V区197号土坑



V区198号土坑

PL.202



V区199号土坑

V区200号土坑

V区201号土坑

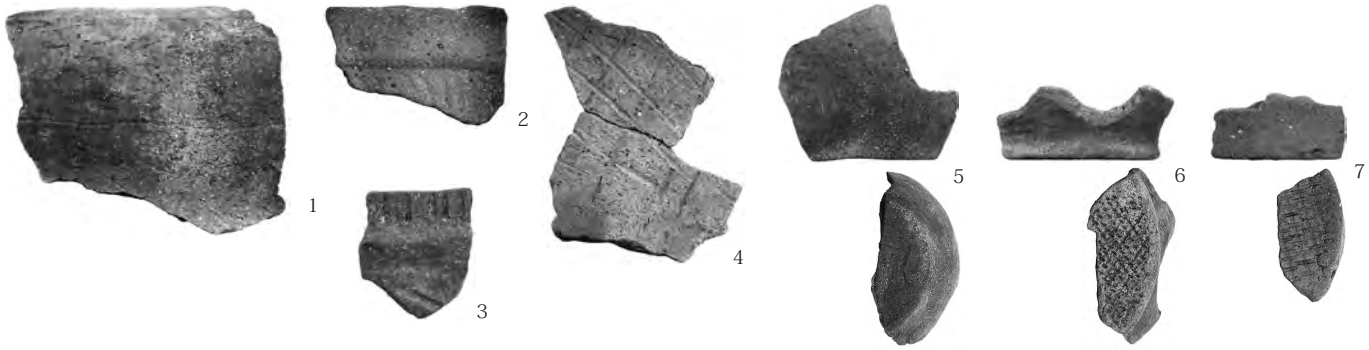
V区202号土坑

V区203号土坑

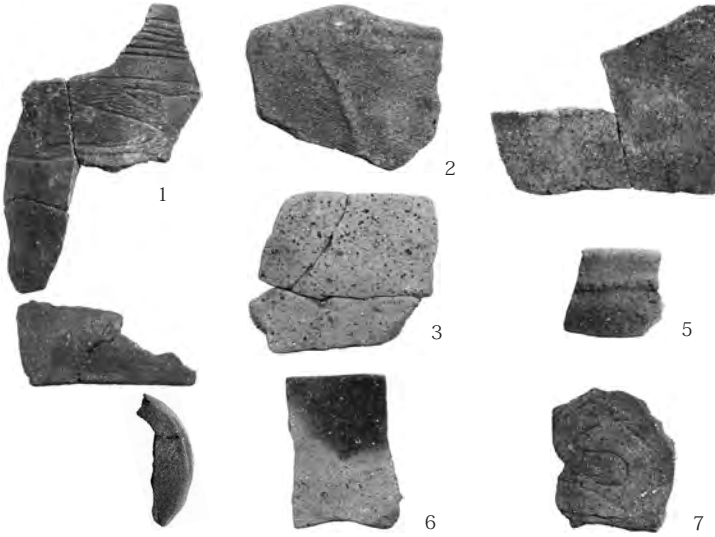
V区204号土坑

V区205号土坑

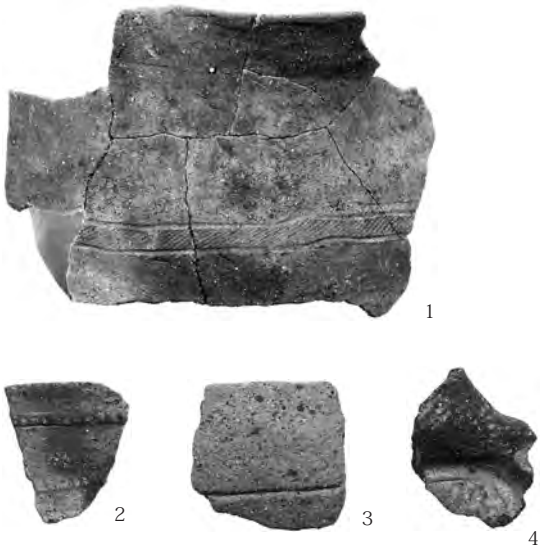
V区206号土坑



V区207号土坑



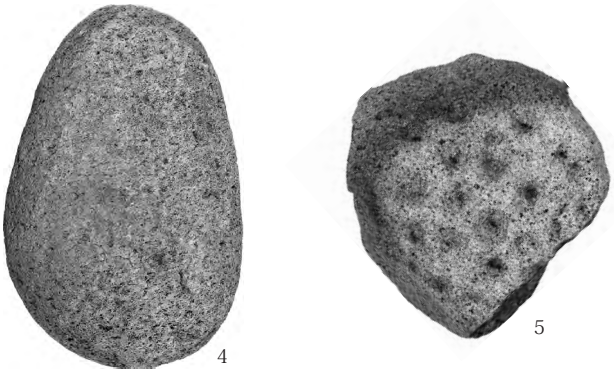
V区208号土坑



V区209号土坑

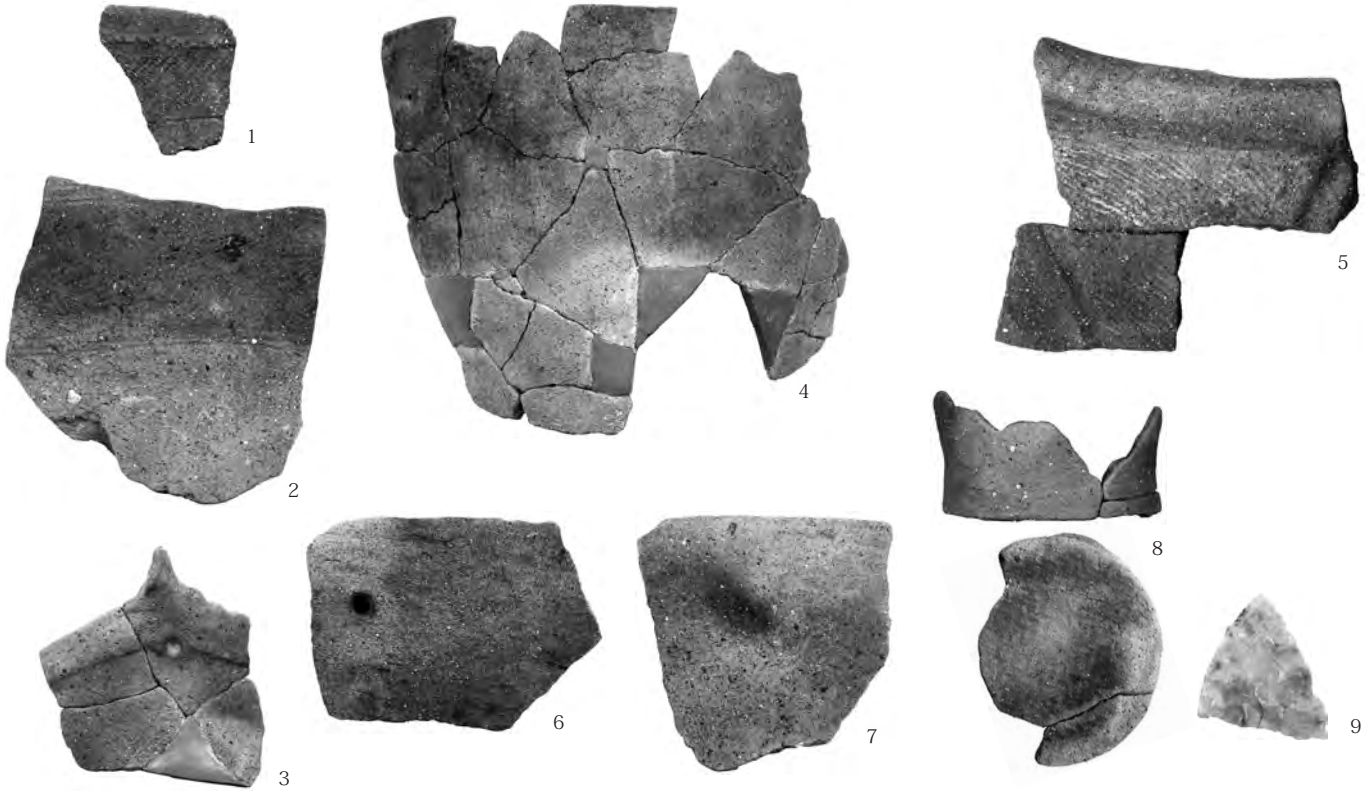
V区209号土坑

V区211号土坑



V区210号土坑

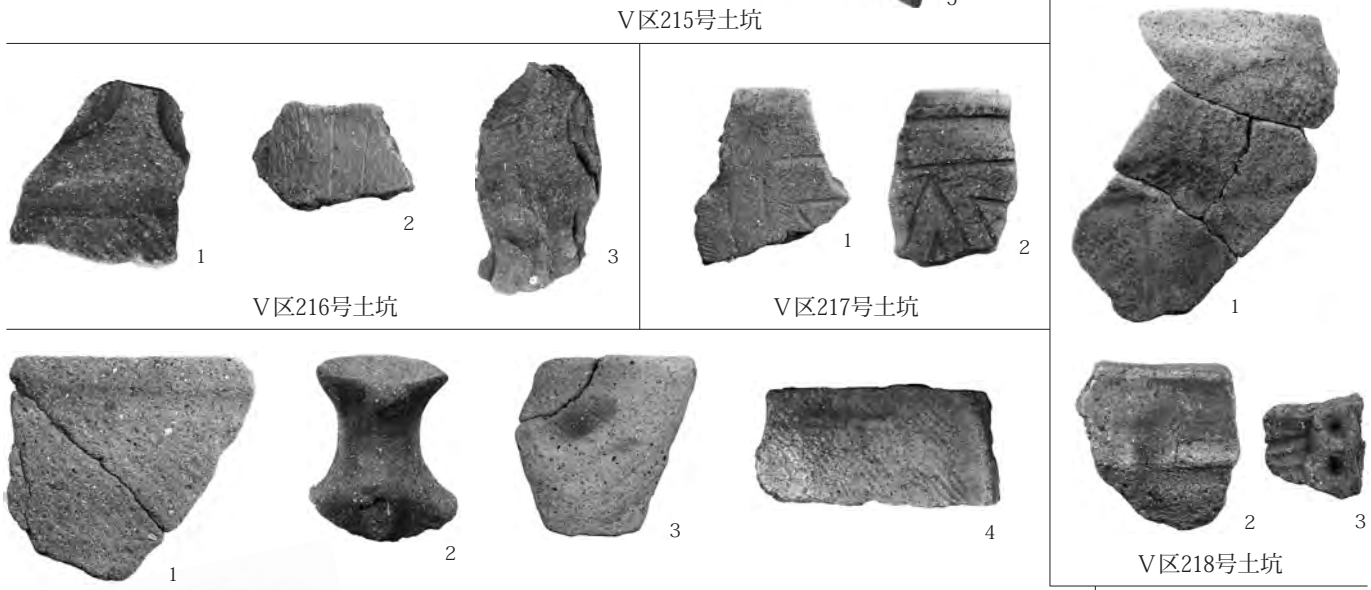
V区212号土坑

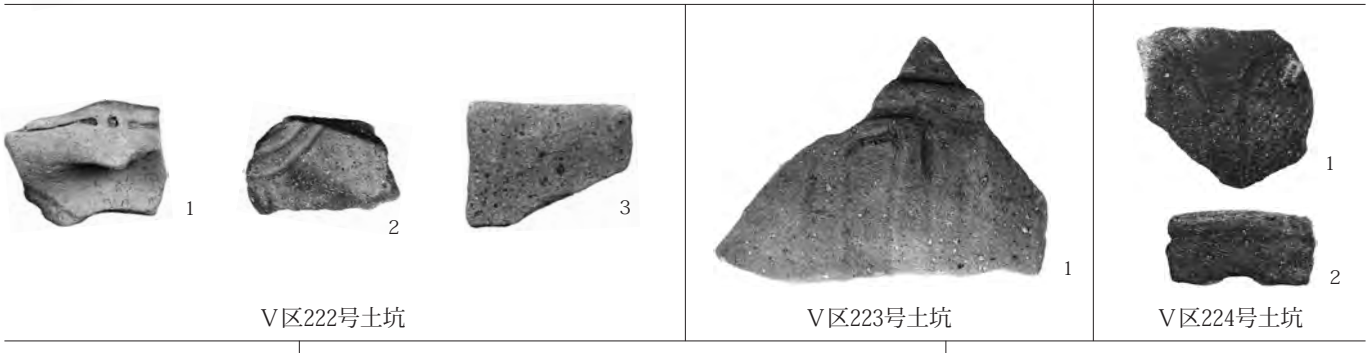


V区213号土坑

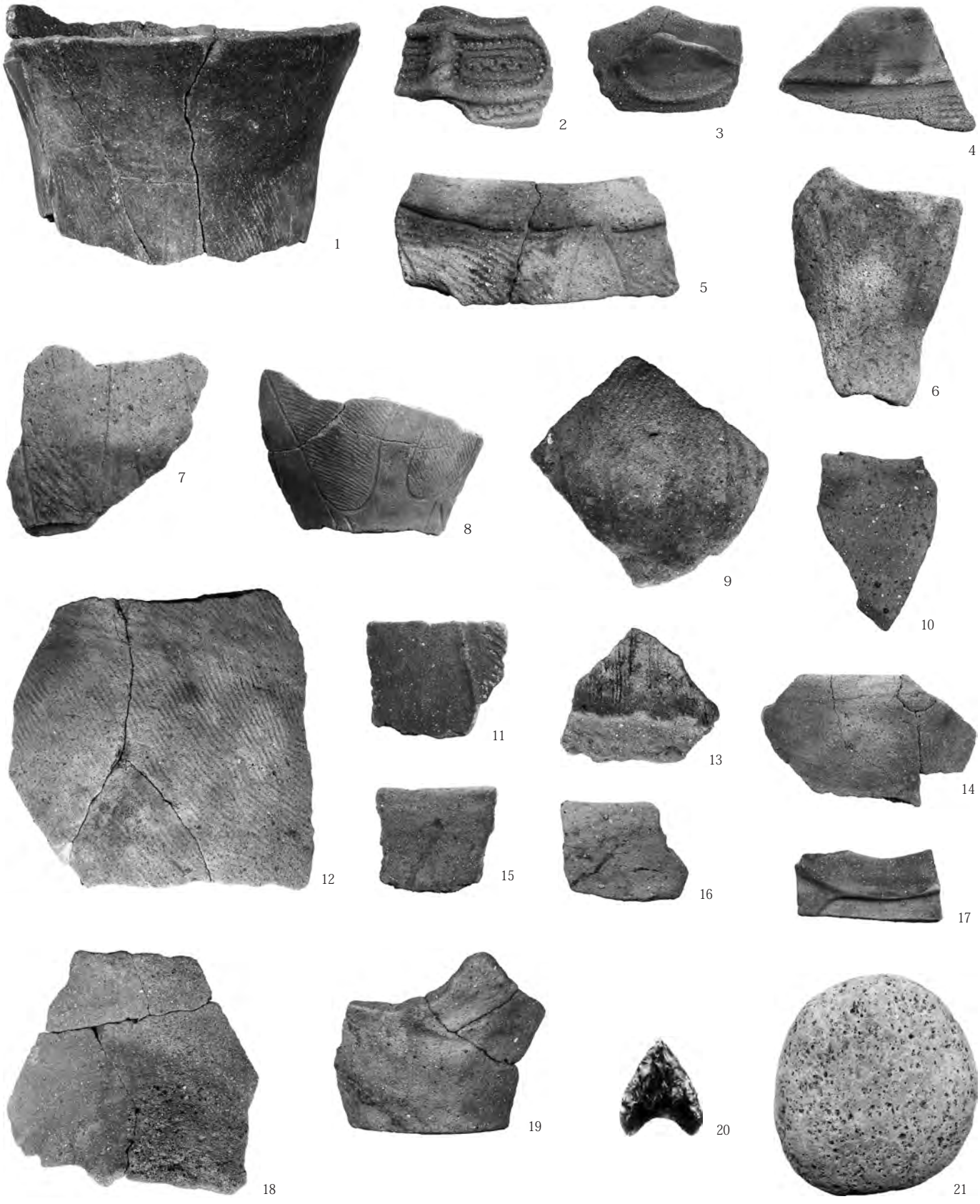
PL.204

1
2
V区214号土坑
1
6
8
9
2
3
4
7
5
V区215号土坑


1
2
3
V区216号土坑
1
2
V区217号土坑
1
V区218号土坑
1
2
3
4
5
6
7
8
V区220号土坑
1
V区221号土坑


1
2
3
V区222号土坑
1
V区223号土坑
1
2
V区224号土坑

1
2
V区225号土坑
1
2
3
V区226号土坑
1
2
V区227号土坑



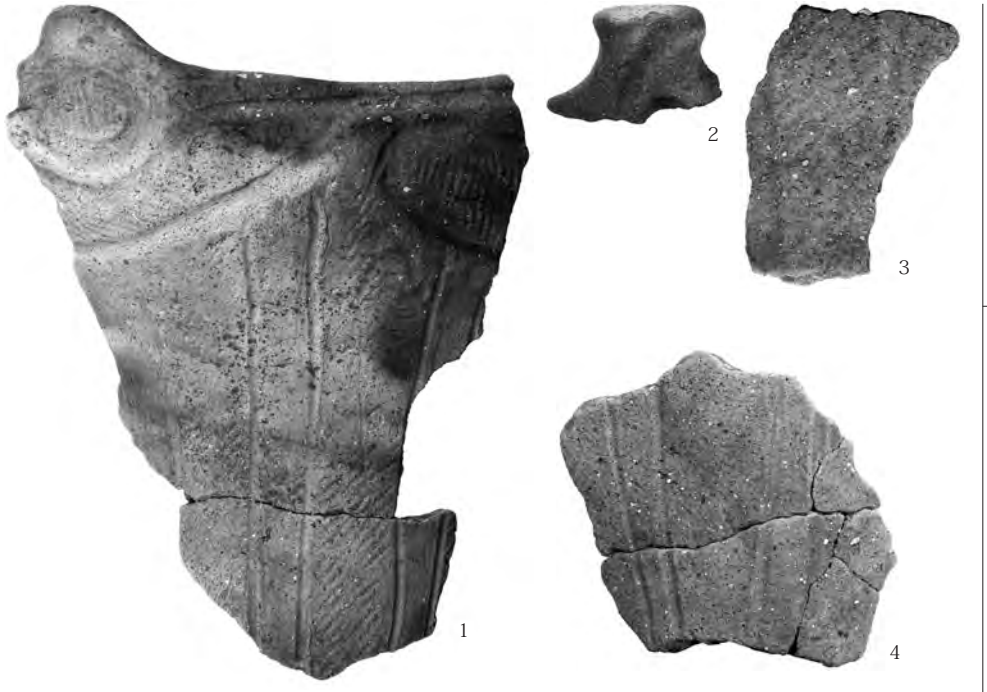
V区228号土坑

V区230号土坑

V区231号土坑

V区233号土坑

PL.206



V区234号土坑

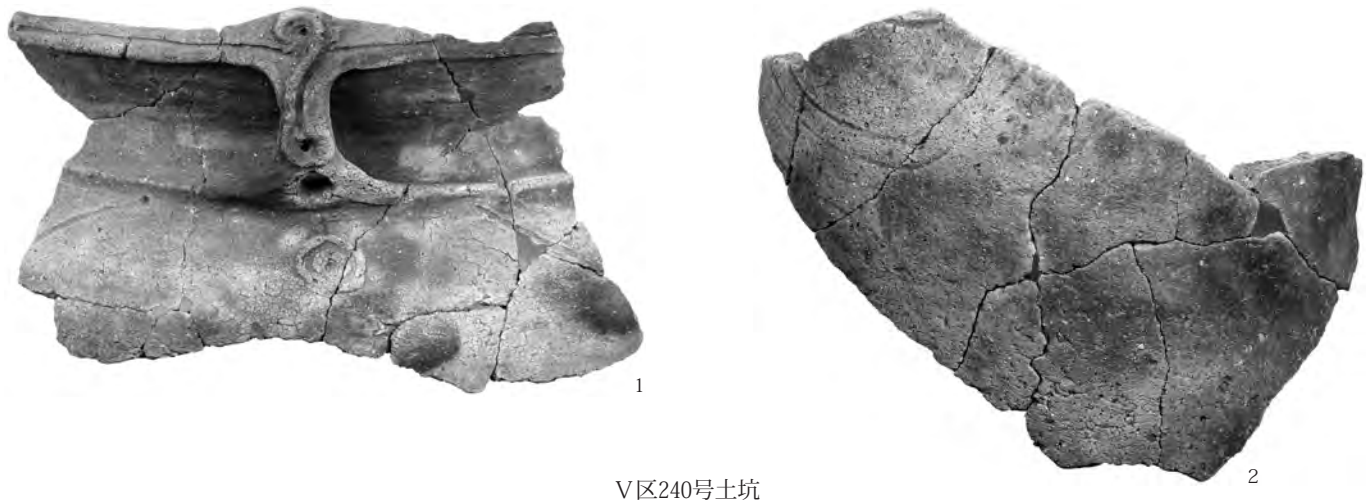
V区235号土坑

V区236号土坑

V区237号土坑

V区238号土坑

V区239号土坑

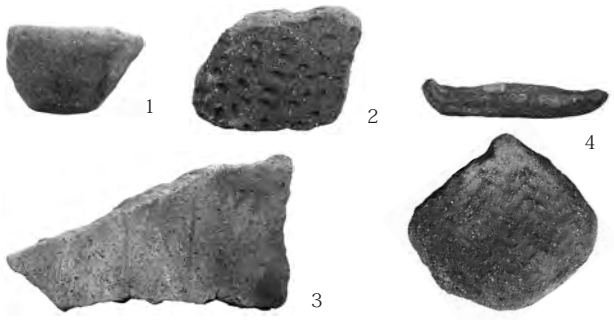


V区240号土坑

V区240号土坑

V区241号土坑

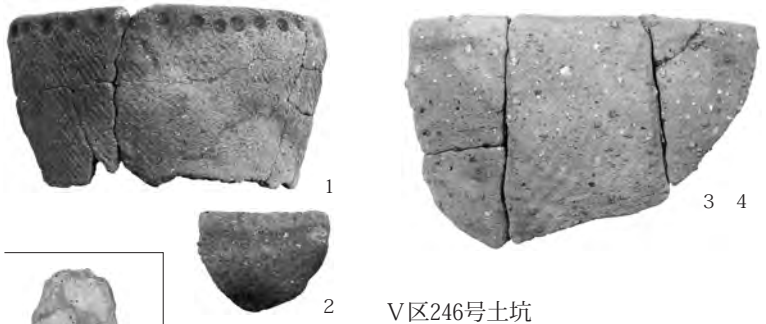
V区242号土坑



V区243号土坑

V区244号土坑

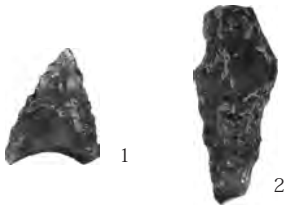
V区245号土坑



V区246号土坑

V区24号配石

V区１号配石

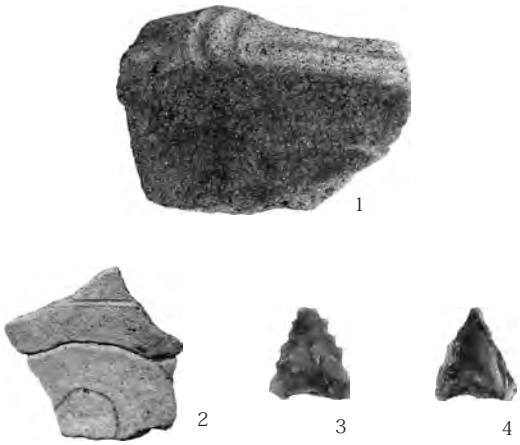


V区２号配石

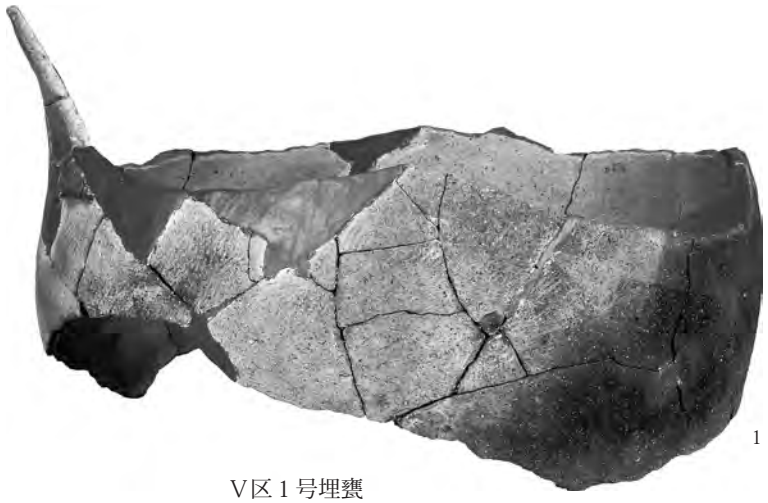
V区６号配石

V区26号配石

V区１号配石土坑



V区２号配石土坑



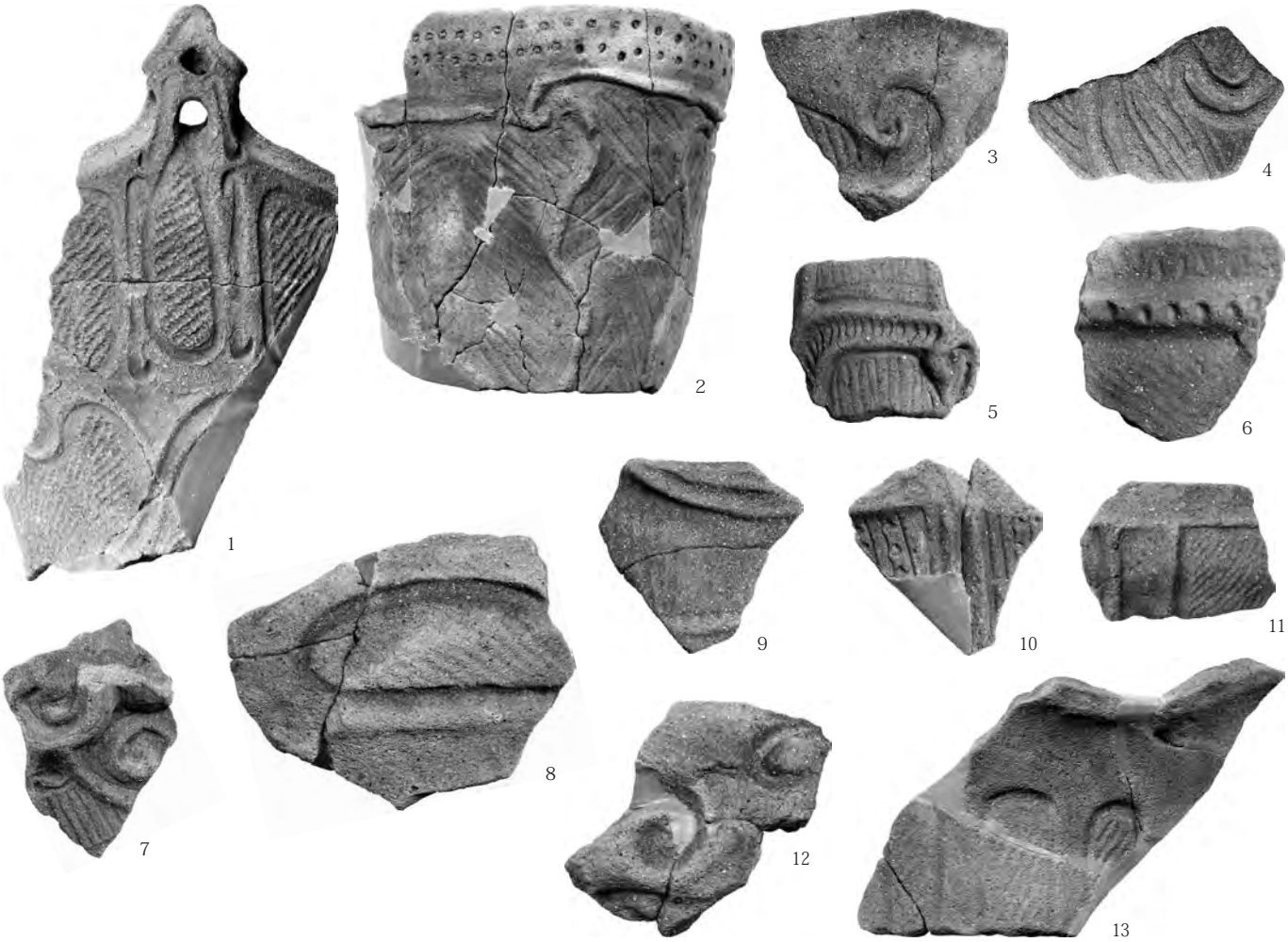
V区１号埋甕

V区10号焼土

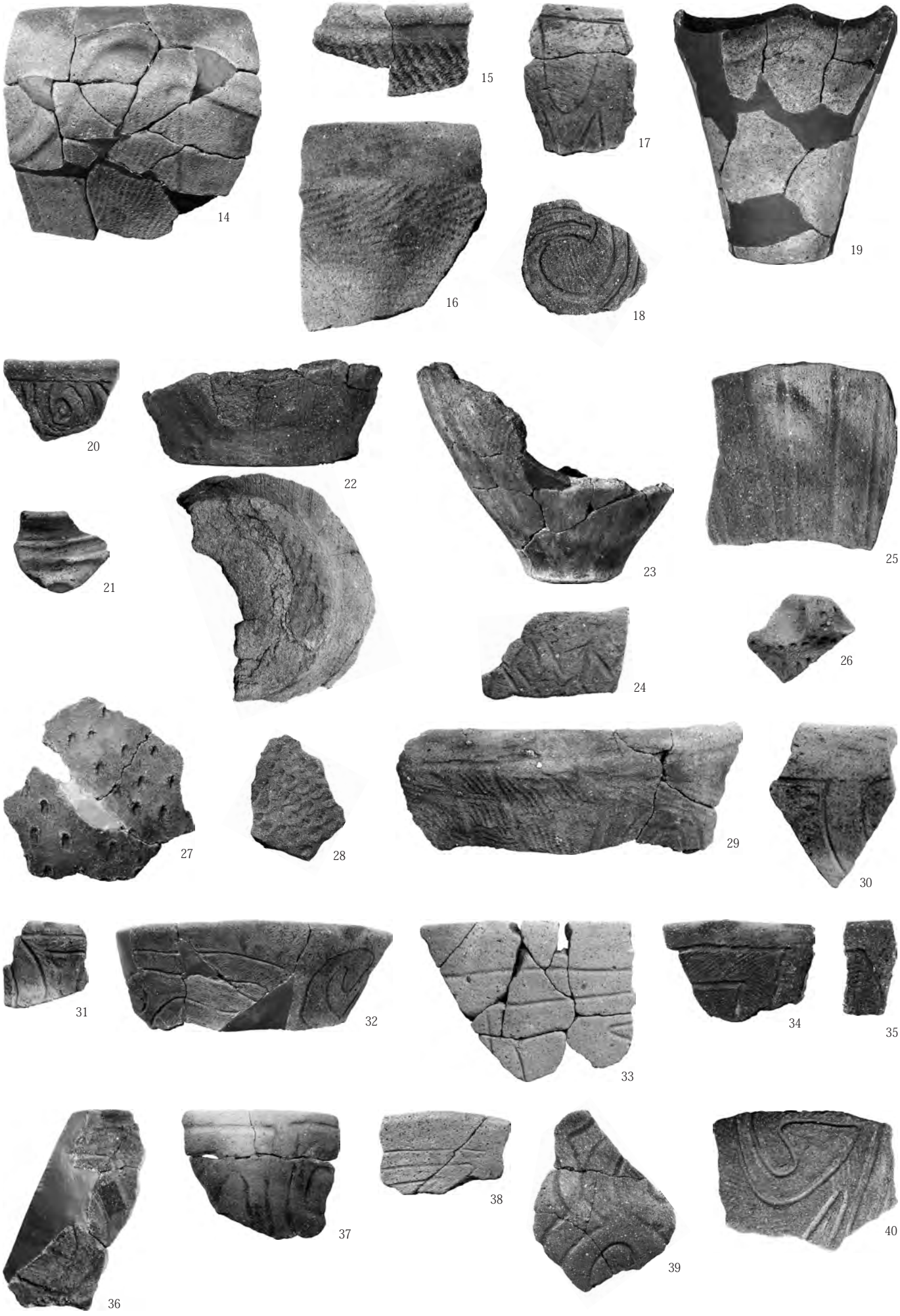
V区18号焼土

V区19号焼土

V区20号焼土

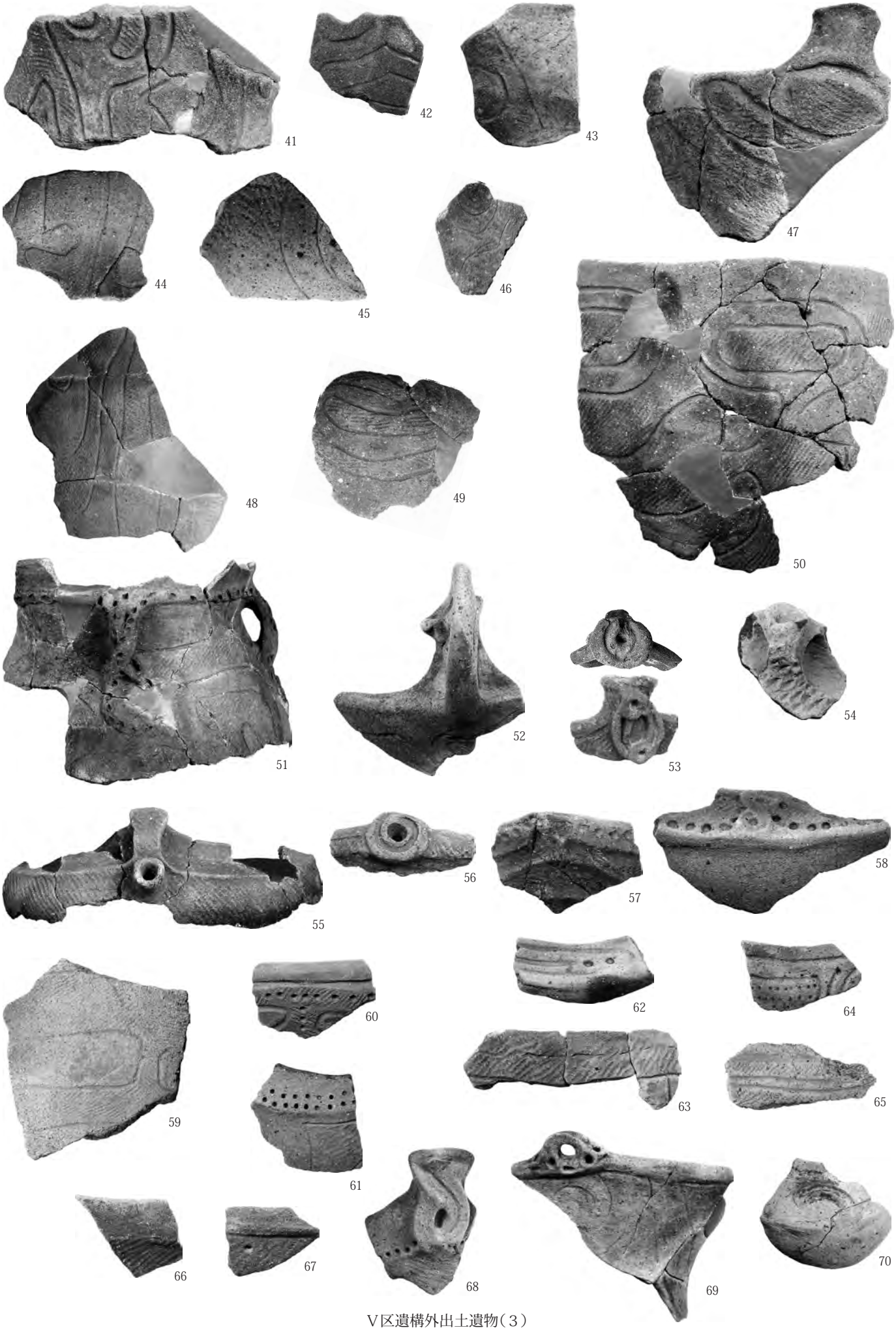


V区遺構外出土遺物（１）

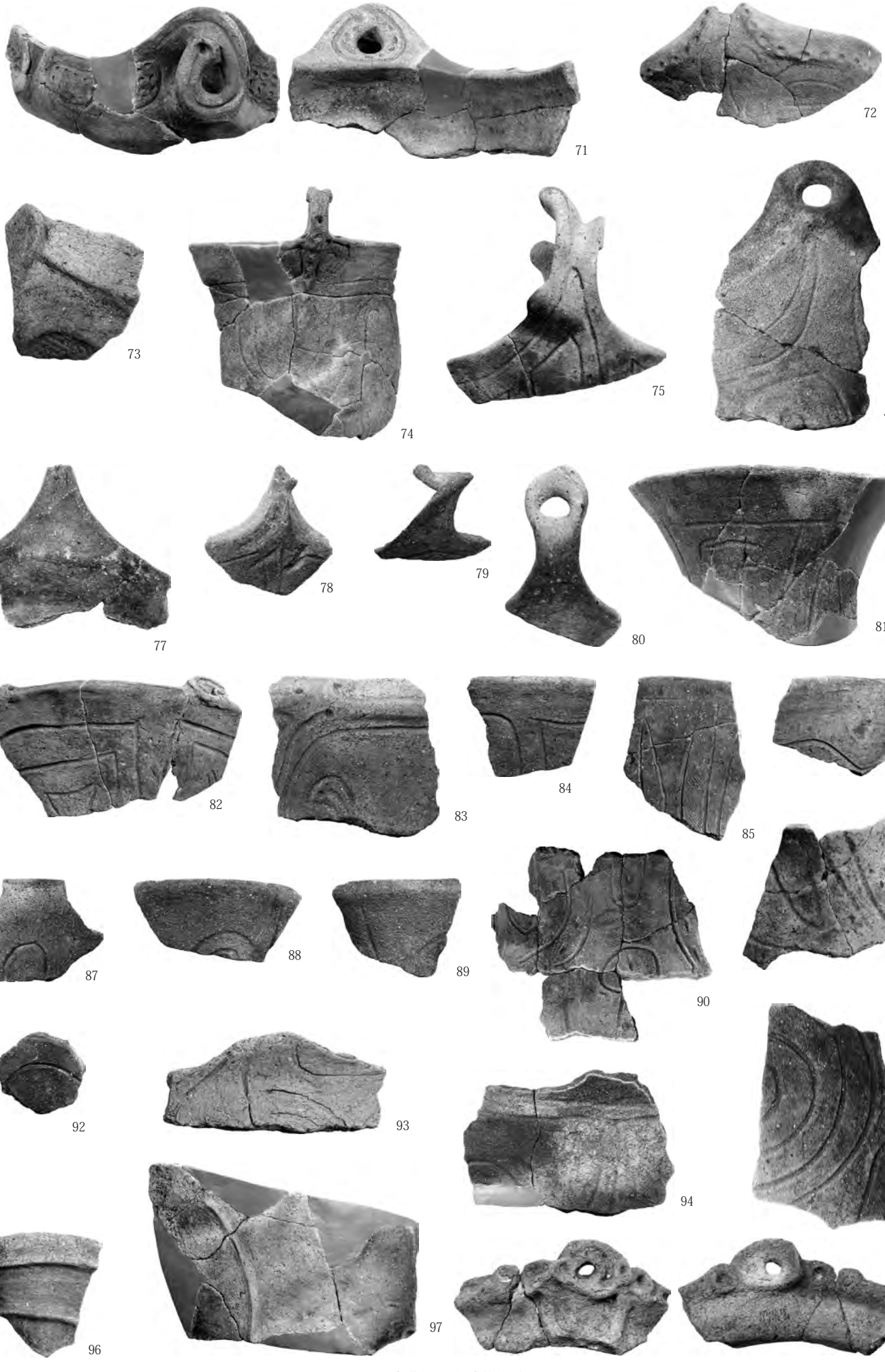

14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40

Ⅴ区遺構外出土遺物（２）

PL.210

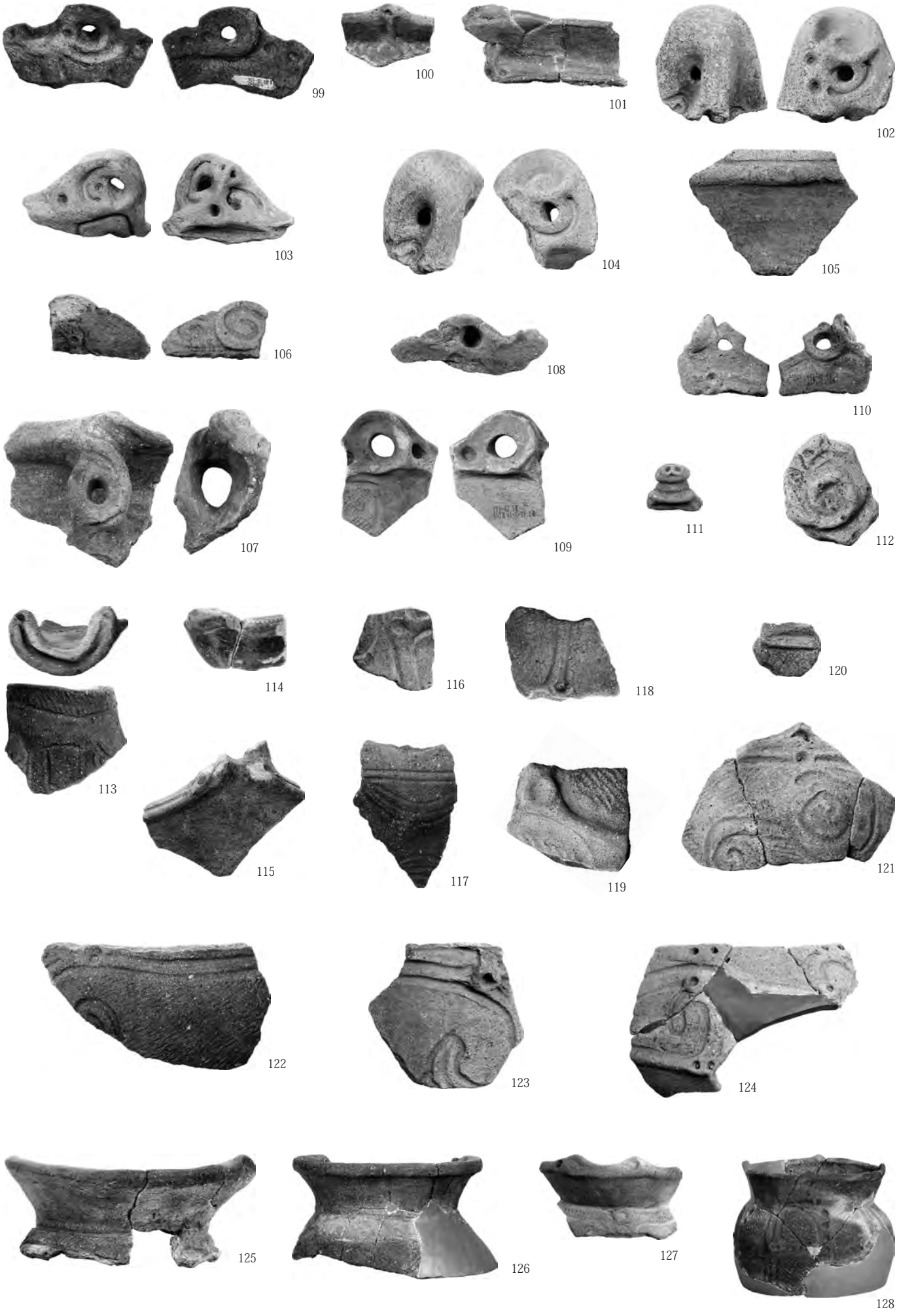


V区遺構外出土遺物（3）


71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98

V区遺構外出土遺物（4）

PL.212



Ⅴ区遺構外出土遺物（５）

129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
140
141
142
143
144
145
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160

Ⅴ区遺構外出土遺物（６）

PL.214

161

162

163

164

165

166

167

168

169

170

171

172

173

176

177

174

175

178

179

180

181

182

183

184

185

186

Ⅴ区遺構外出土遺物（７）

187

188

189

190

191

193

194

195

192

197

196

198

200

201

199

202

203

204

205

206

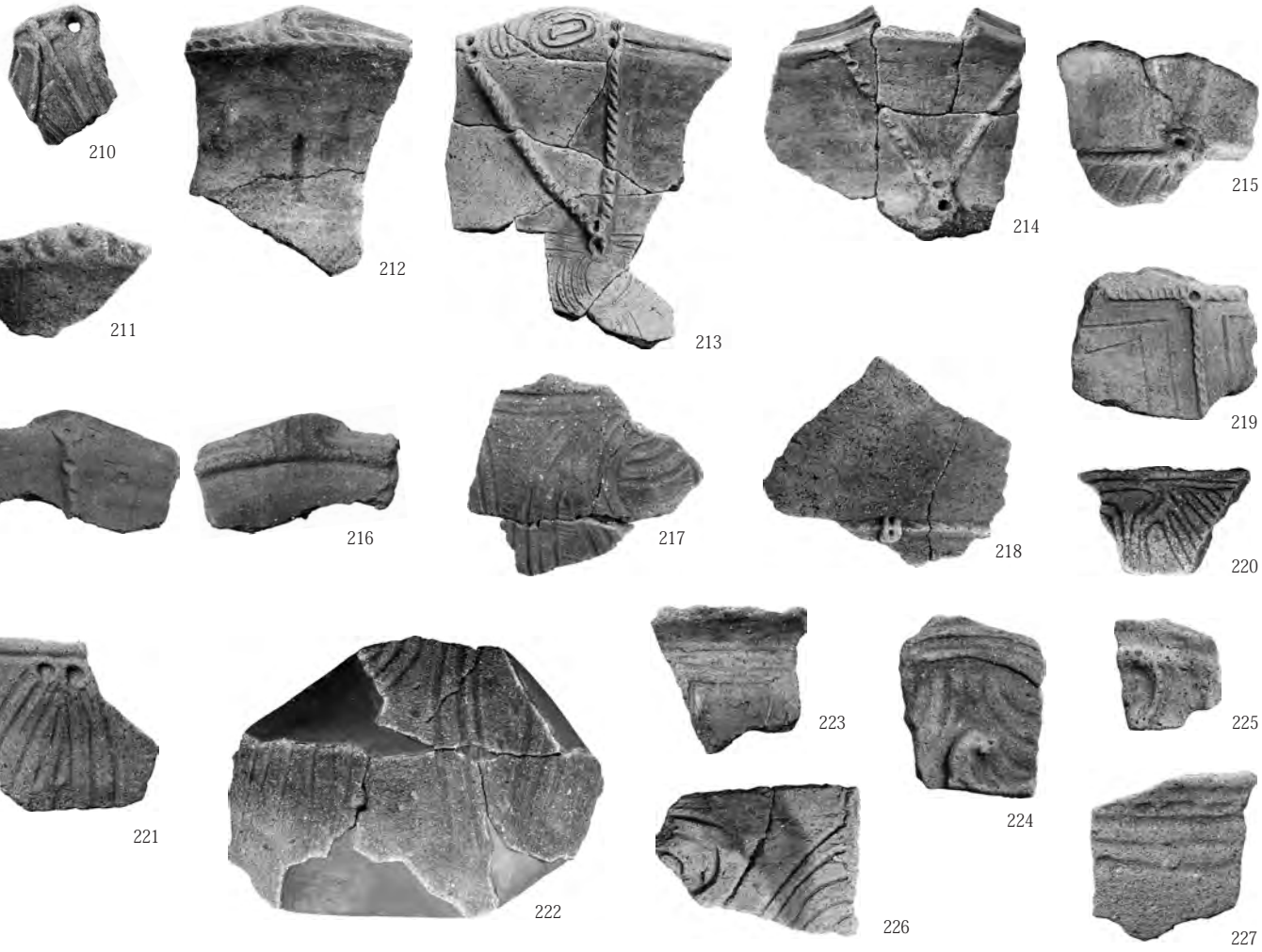
207

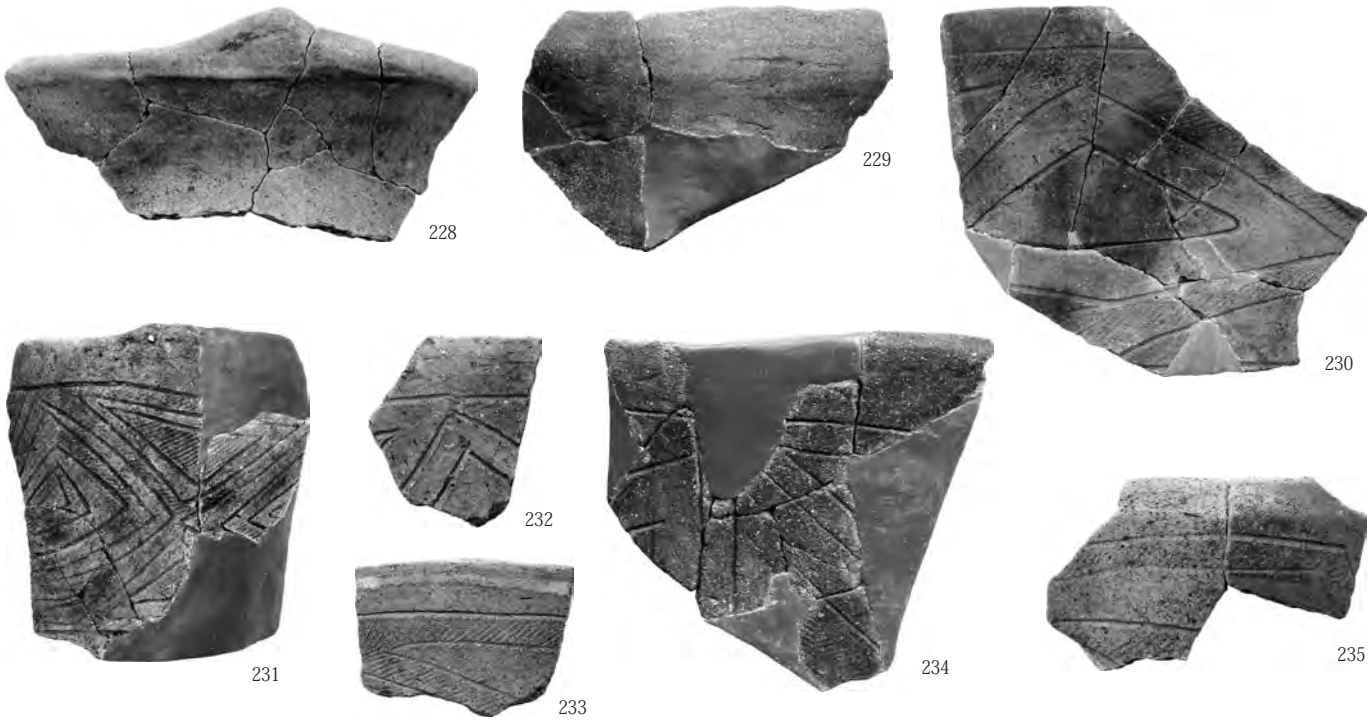
208

209

V区遺構外出土遺物（８）

PL.216





Ⅴ区遺構外出土遺物（９）

241

242

243

244

245

246

247

248

249

250

251

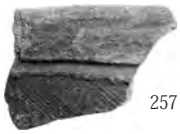
252

253

254

255

256


257

258

259

260

261

262

267

268

269

270

271

272

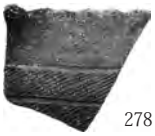
273

274

275

276

277


278

279

V区遺構外出土遺物(10)

PL.218

280

281

282

283

284

285

286

287

288

289

290

291

292

293

294

296

295

298

297

303

299

301

302

300

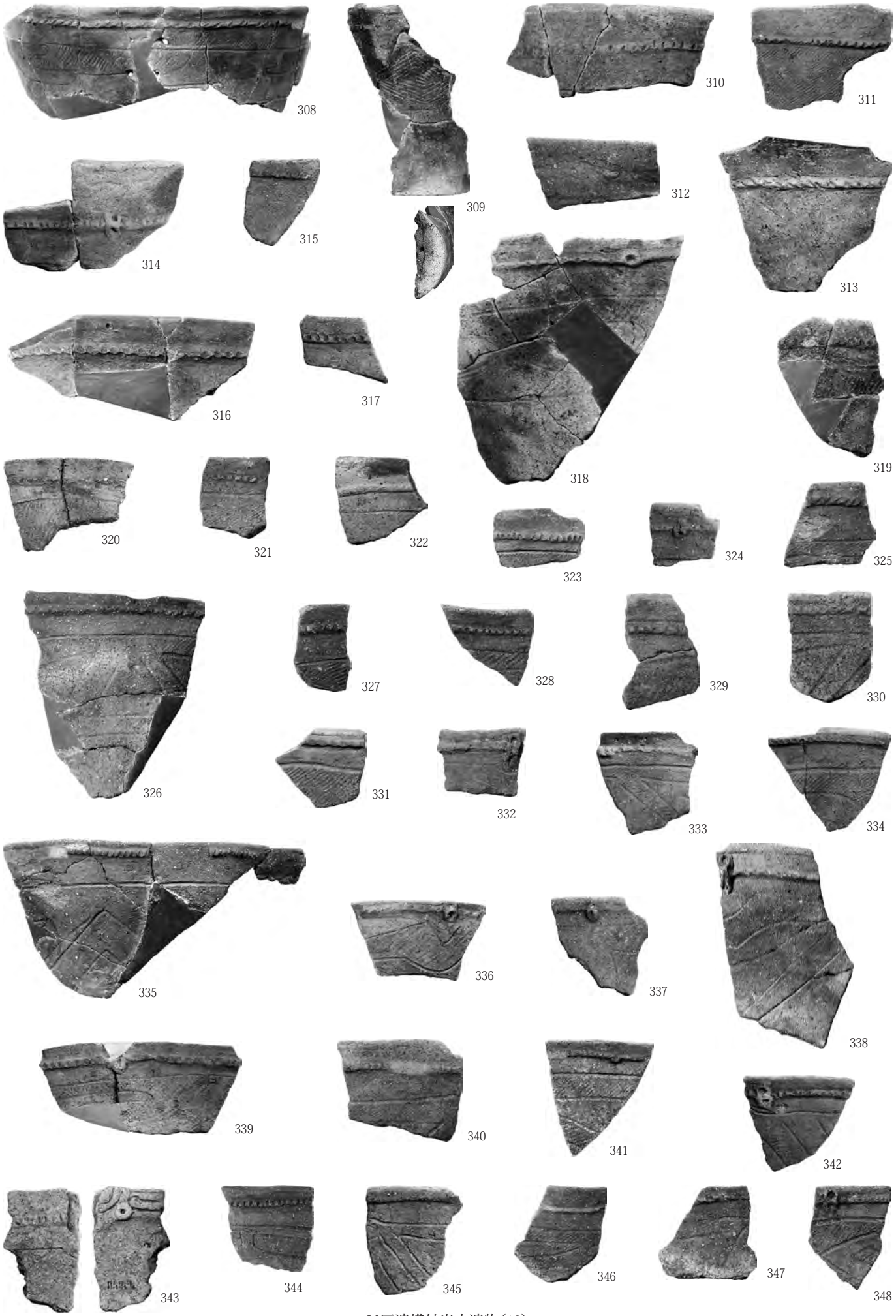
305

307

304

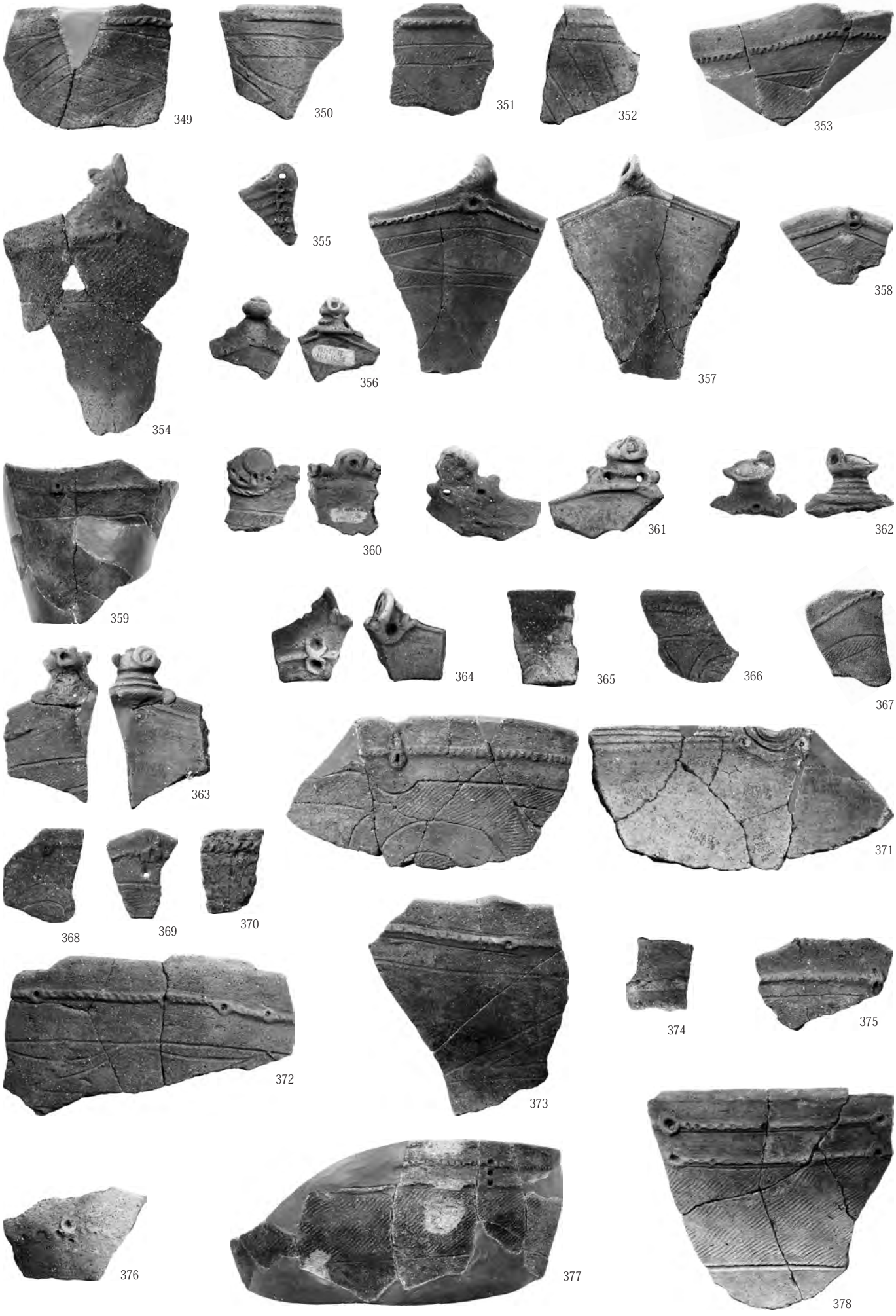
306

Ⅴ区遺構外出土遺物(11)



V区遺構外出土遺物(12)

PL.220



V区遺構外出土遺物(13)

379

380

383

381

384

382

385

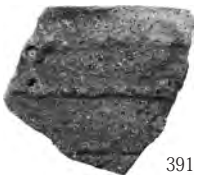
386

387

388

389

390


391

392

393

394

395

396

397

398

399

400

401

402

404

405

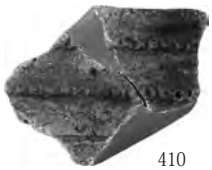
406

403

407

408

409


410

411

412

413

414

415

416

417

418

419

420

V区遺構外出土遺物(14)

PL.222

421

422

423

424

426

425

427

428

429

430

431

433

434

435

432

439

436

437

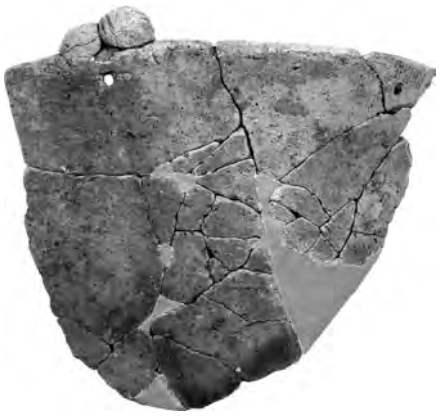
438

440

441

442

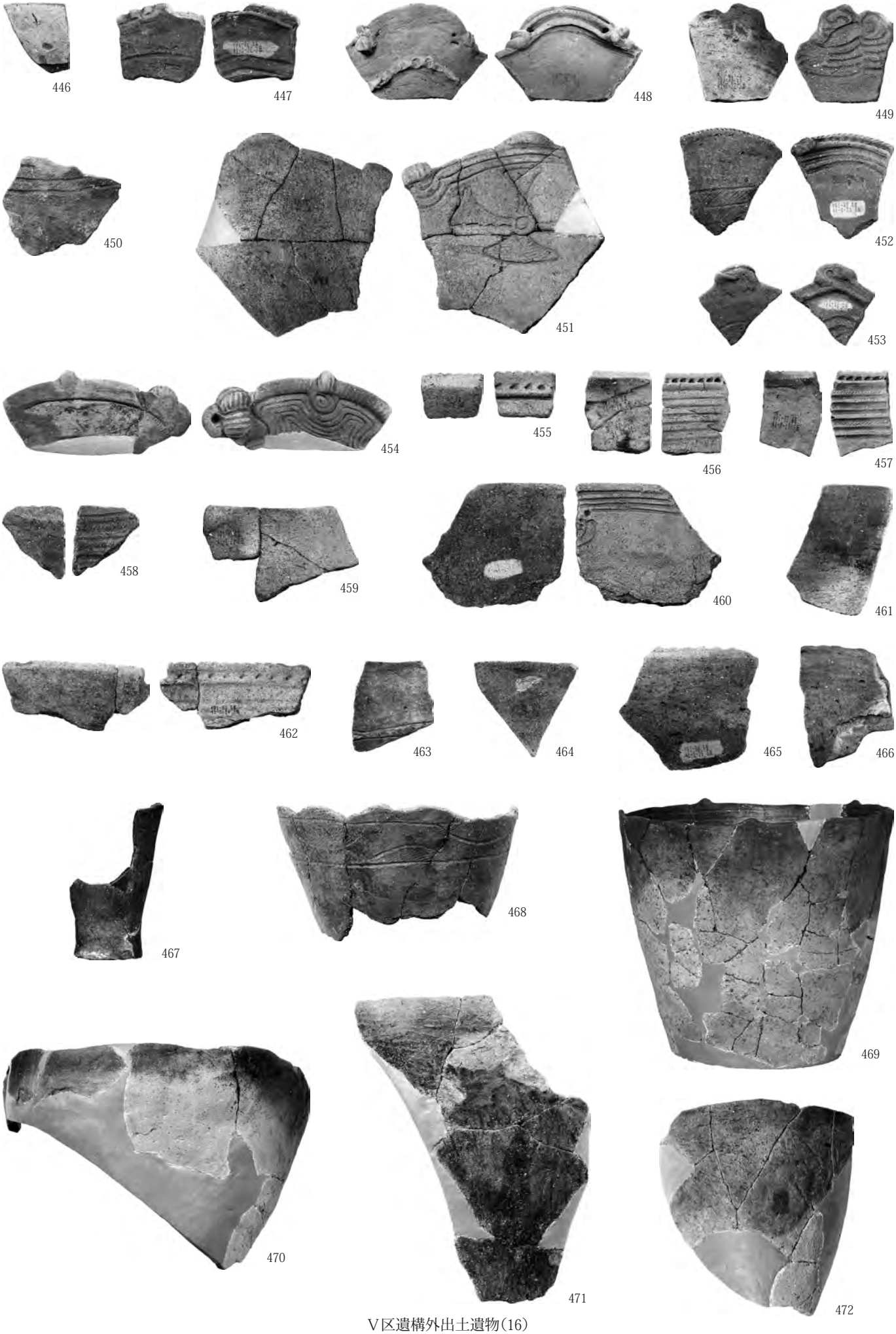
443



444

445

V区遺構外出土遺物(15)



Ⅴ区遺構外出土遺物(16)

PL.224

473

474

475

476

477

478

479

480

481

482

483

484

485

486

487

488

489

490

V区遺構外出土遺物(17)

491

492

493

494

495

496

497

498

499

500

501

502

503

504

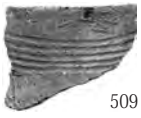
505

506

507

508

512

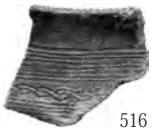

509

510

511

513

514


516

517

518

519

515

520

521

522

523

V区遺構外出土遺物(18)

PL.226

V区遺構外出土遺物(19)

V区遺構外出土遺物(20)

PL.228

574

575

576

577

578

579

580

581

582

583

584

585

586

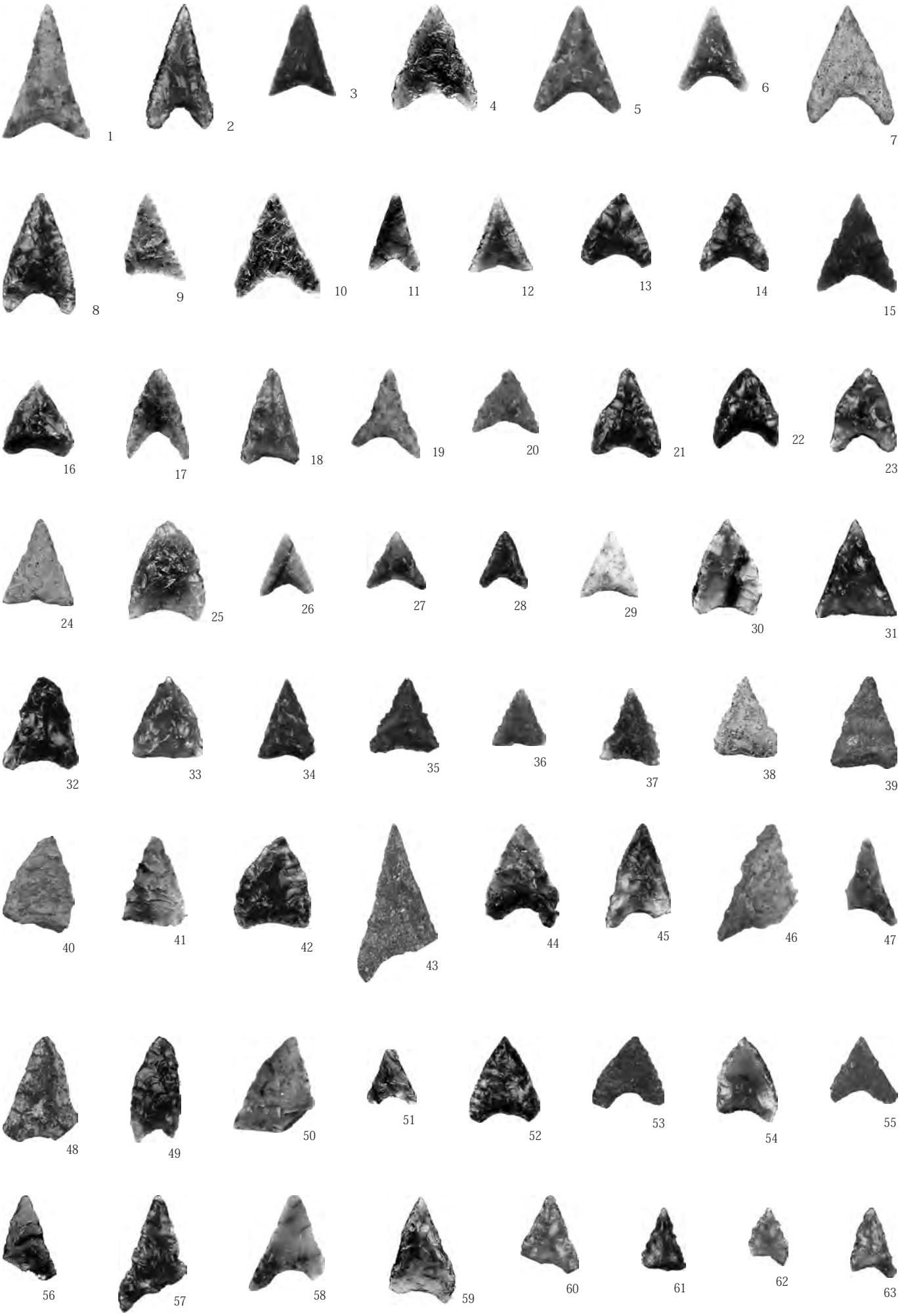
V区遺構外出土遺物(21)

1

2

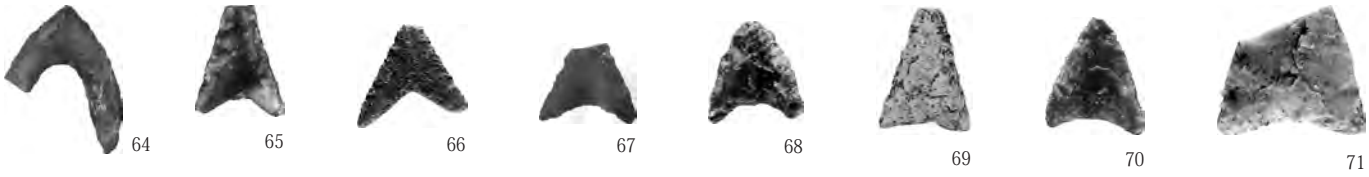
3

VI区遺構外出土遺物

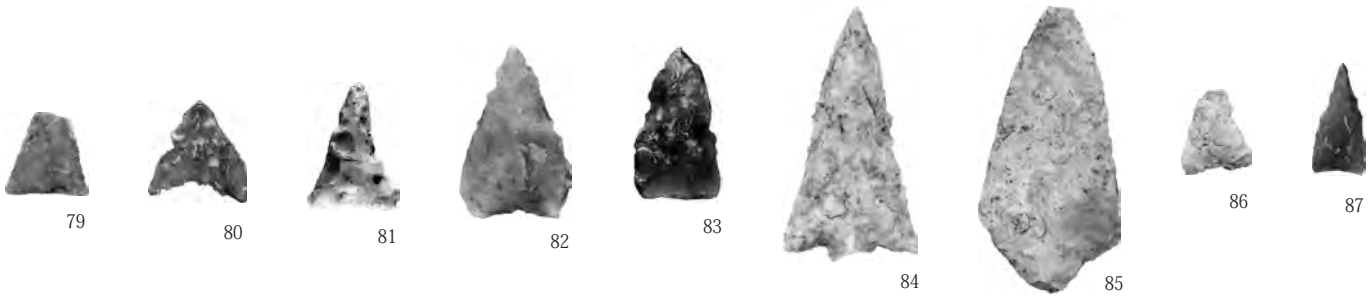


V区遺構外出土遺物(22)

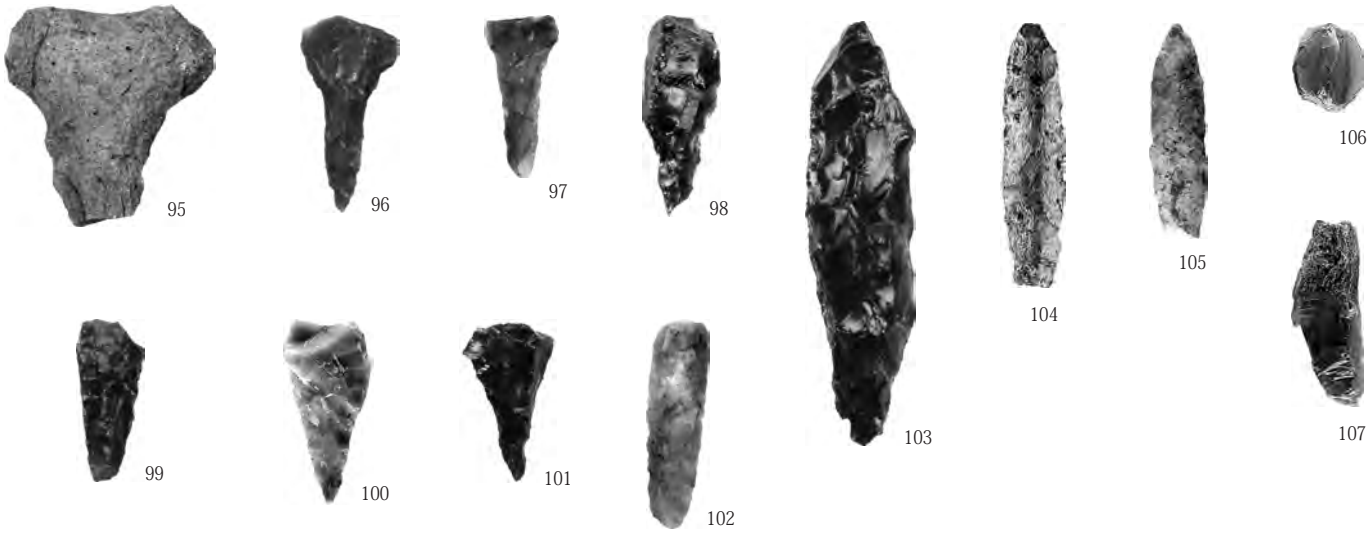
PL.230


64 65 66 67 68 69 70 71

72 73 74 75 76 77 78


79 80 81 82 83 84 85 86 87

88 89 90 91 92 93 94


95 96 97 98 99 100 101 102 103 104 105 106 107

108 109 110 111 112 113

V区遺構外出土遺物(23)

114

115

116

117

118

119

120

121

122

123

124

125

126

127

128

129

130

131

132

133

134

135

136

137

138

139

140

141

142

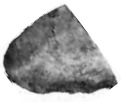
143

144

145

146

147


148

V区遺構外出土遺物(24)

PL.232

149

150

151

152

153

154

155

156

157

158

159

160

161

162

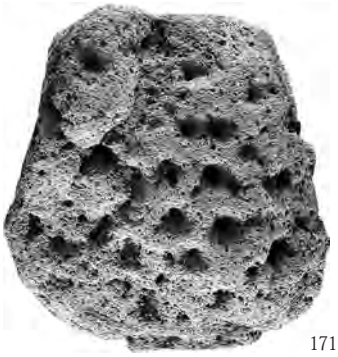
163

164

165

166

167


171

168

169

170

172

173

Ⅴ区遺構外出土遺物(25)

1　V区25・31号溝検出状況(東より)

2　V区25号溝全景(南東より)

3　V区31号溝全景(西より)

4　V区31号溝遺物出土状態(東より)

5　V区31号溝セクション(北より)

6　V区31号溝全景(北より)

7　V区89号土坑全景(南より)

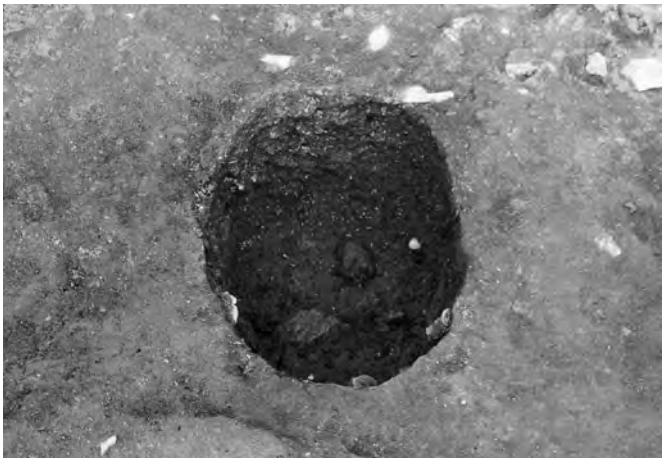
8　V区91号土坑全景(西より)

PL.234

1　95号土坑全景(西より)

2　111号土坑全景(東より)

3　120号土坑全景(東より)



4　123号土坑全景(南より)

5　127号土坑礫出土状態(南より)

6　129号土坑セクション(北西より)

7　129号土坑遺物出土状態(北より)

8　130号土坑礫出土状態(東より)

1　２面ピット群(南より)

2　２面ピット群(南より)

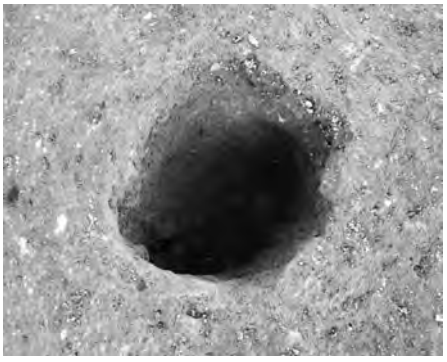
3　723号ピットセクション(南東より)

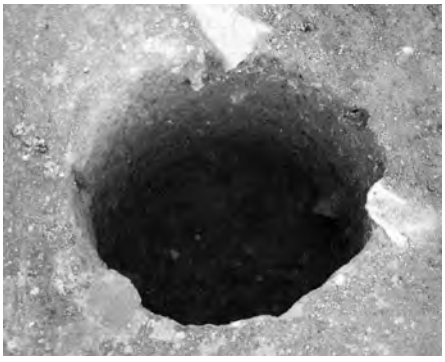
4　961号ピット全景(南より)

5　983号ピット全景(南より)

6　983号ピットセクション(南より)

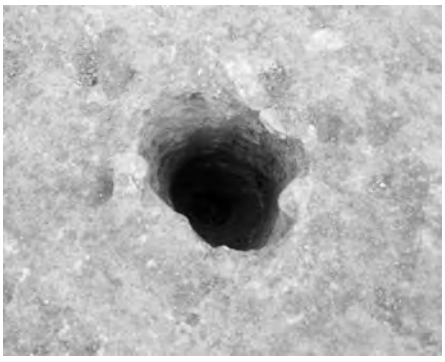
7　987号ピット全景(南より)


8　988号ピット全景(南より)


9　992号ピット全景(南より)

10　998・999号ピット全景(南より)

11　1000号ピットセクション(南より)


12　1003号ピット全景(北東より)

13　1004号ピットセクション(西より)

14　1004・1022・1026号ピット全景(南より)

15　41Ⅴ－10グリッドピット群(東より)

PL.236

1　３号土坑セクション(南より)

2　３号土坑全景(南より)

3　４号土坑セクション(南より)

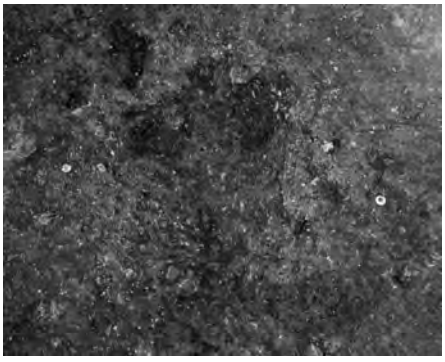
4　４号土坑全景(南より)

5　５号土坑全景(南より)

6　６号土坑セクション(南より)

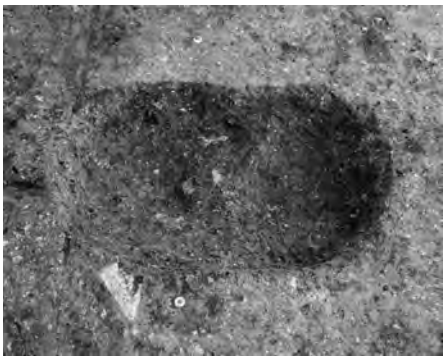
7　６号土坑全景(南より)

8　７号土坑全景(東より)

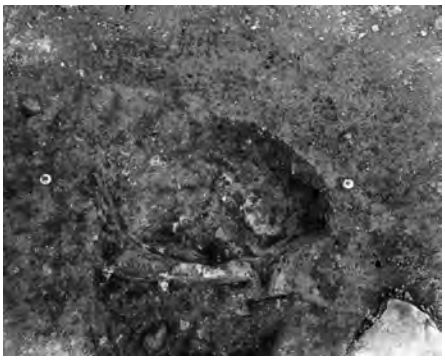


9　８号土坑全景(南より)

10　９号土坑セクション(南より)



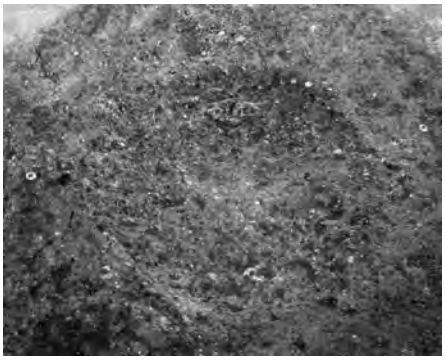
11　10号土坑全景(南より)



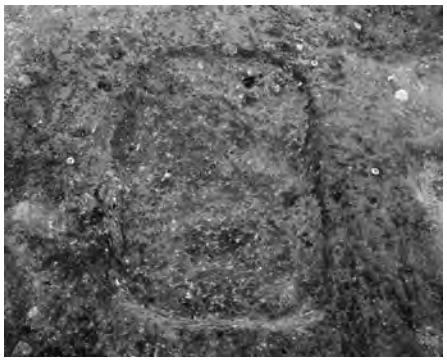
12　11号土坑全景(南より)

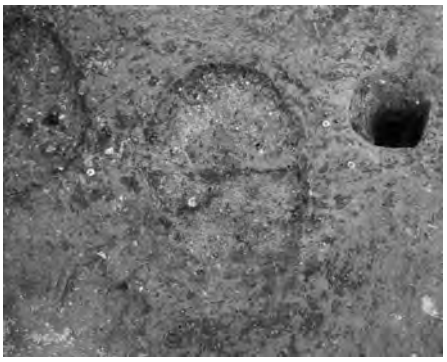
13　12号土坑セクション(西より)

14　12号土坑全景(南東より)

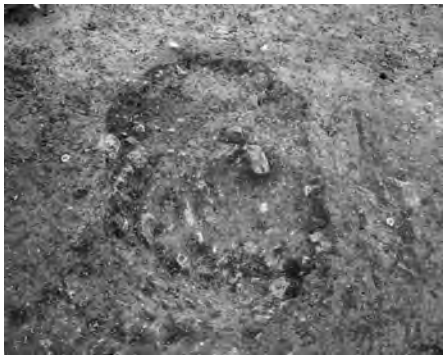


15　13号土坑全景(西より)


1　14号土坑全景(西より)


2　15号土坑全景(南より)

3　16号土坑全景(南東より)


4　17号土坑全景(西より)

5　18号土坑全景(西より)

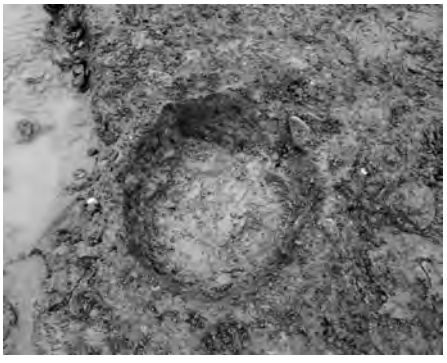
6　19号土坑全景(北より)

7　20号土坑全景(北より)

8　21号土坑全景(南西より)

9　22号土坑全景(南より)

10　23号土坑全景(南より)


11　25号土坑全景(南東より)

12　26号土坑セクション(西より)

13　26号土坑全景(西より)

14　27号土坑全景(南より)

15　28号土坑全景(南より)

PL.238

1　1号焼土セクション(南より)

2　2号焼土セクション(西より)

3　3号焼土セクション(南より)

4　3号焼土全景(南より)

5　1号水場遺構全景(東より)

6　1号水場遺構全景(北西より)

7　1号水場遺構板材検出状態(南より)

8　1号水場遺構全景(北西より)

1　24号溝・畑全景(南東より)

2　24号溝・畑および５号列石(北西より)

PL.240

1　V区（4面）・Ⅷ区（1面）全景（上空より）

2　32号建物全景（上空より）

1　32号建物全景(南東より)

2　32号建物囲炉裏・竈(東より)

3　32号建物囲炉裏・竈全景(東より)

4　32号建物馬屋全景(東より)

5　32号建物北側全景(南東より)

6　32号建物囲炉裏全景(南東より)

7　32号建物囲炉裏セクション(南より)

8　32号建物竈全景(南より)

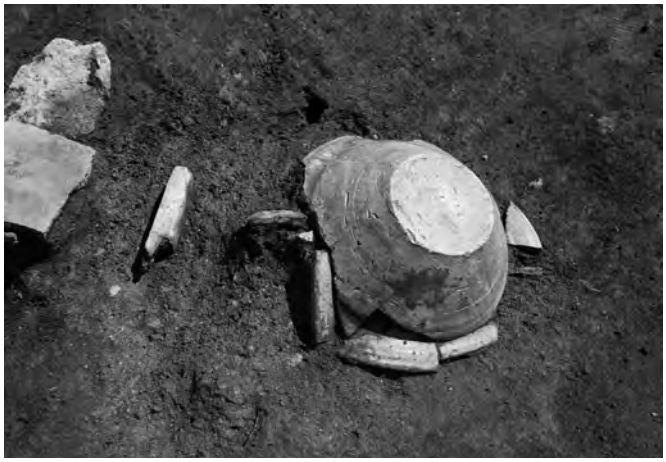
PL.242

1　32号建物竈全景(東より)

2　32号建物竈断ち割り状況(東より)

3　32号建物竈構築材状況(東より)

4　32号建物遺物出土状態(西より)



5　32号建物遺物出土状態(北より)

6　32号建物遺物出土状態(南より)

7　32号建物遺物出土状態(南より)

8　32号道検出状況(南より)

1　33号建物全景(上空より)

2　33号建物全景(南より)

3　33号建物全景(北より)

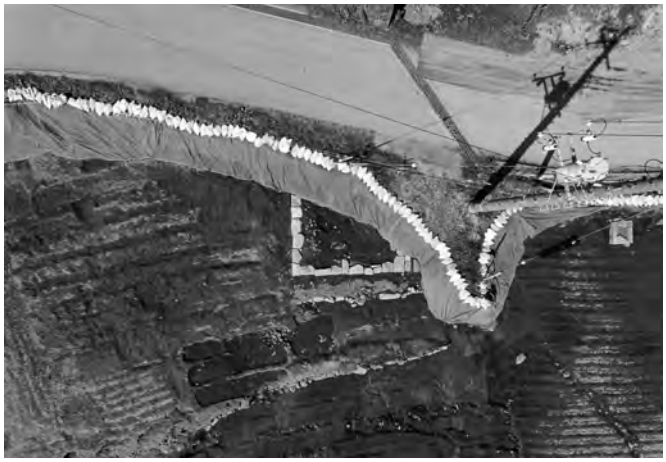
4　33号建物全景(南より)

5　33号建物全景(北より)

PL.244

1　34号建物全景(北より)

2　34号建物全景(南より)



3　35号建物全景(上空より)

4　35号建物全景(南より)

5　36号建物全景(上空より)

6　36号建物全景(南より)

7　36号建物全景(南西より)

8　36号建物建築材出土状態(北東より)

1　33・37号建物全景北（東より）

2　37号建物全景北（東より）

3　1号切石石組遺構全景（東より）

4　1号切石石組遺構全景（東より）

5　35号石垣全景（南より）

6　36号石垣全景（北東より）

7　33・37号建物・39号石垣検出状況（上空より）

8　39号石垣検出状況（北東より）

PL.246

1　39号石垣検出状況(東より)

2　39号石垣全景(東より)

3　39号石垣全景(東より)

4　39号石垣全景(東より)

5　畑・復旧坑全景(上空より)

1　２・３号復旧坑・38号石垣全景(南西より)

2　２号復旧坑全景(東より)

3　45号畑全景(西より)

4　47・48号畑全景(東より)

5　53号畑全景(南より)

6　53・54号畑全景(北東より)

7　２面確認１号トレンチ(南より)

8　２面確認２号トレンチ(西より)

PL.248

1　Ⅸ区４号トレンチ畑確認状況(西より)

2　Ⅸ区４号トレンチ畑確認状況(北より)

3　Ⅸ区５号トレンチ全景(北西より)

4　Ⅸ区６号トレンチ畑検確認状況(東より)

5　Ⅸ区４号トレンチ畑全景(南より)

6　Ⅸ区４号トレンチ全景(西より)

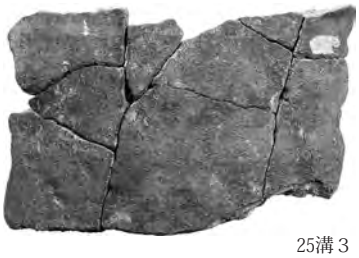
7　Ⅸ区８号トレンチ畑確認状況(東より)

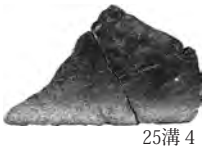
8　Ⅸ区９号トレンチ畑確認状況(東より)

11溝１

25溝１

25溝２


25溝３


25溝４

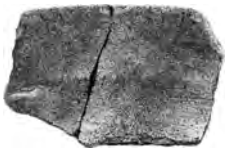
91坑１

109ピット１

368ピット１

1004ピット１

Ⅴ区遺構外１


Ⅴ区遺構外２

Ⅴ区遺構外３

Ⅴ区遺構外４

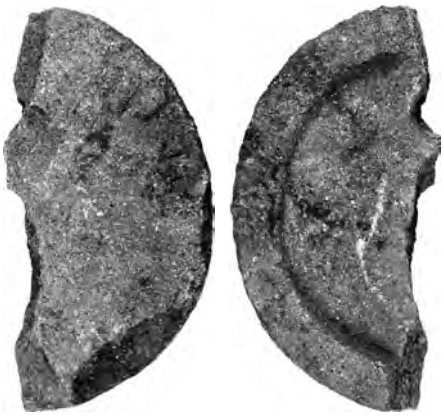
24坑１

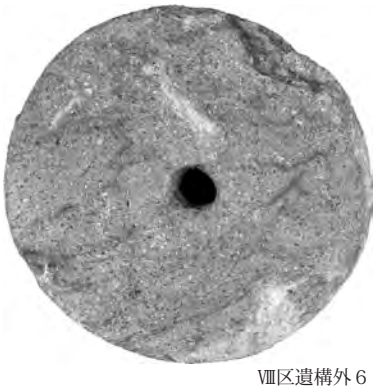
３焼土１

Ⅷ区遺構外１

Ⅷ区遺構外２

Ⅷ区遺構外３


Ⅷ区遺構外５


Ⅷ区遺構外６

Ⅷ区遺構外４

Ⅷ区遺構外７

Ⅴ区遺構外１

Ⅴ区２面溝、土坑、ピット、焼土、Ⅴ・Ⅷ区遺構外出土遺物

PL.250

32建物 1

32建物 2

32建物 3

32建物 4

32建物 5

32建物 6

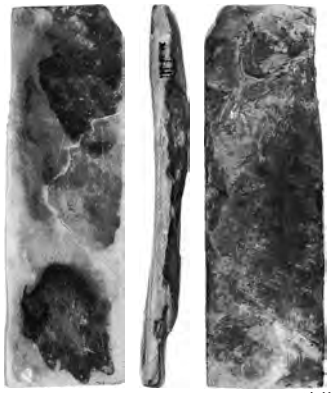
32建物 7

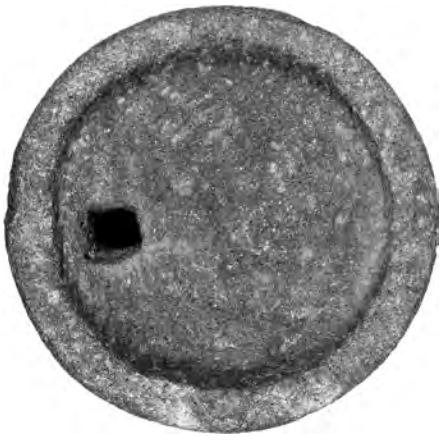
32建物 8

32建物10

32建物 9

32建物11


32建物12


32建物15

32建物13

32建物14

32建物16

32建物17

32建物18

32建物19

32建物20

32建物23

32建物24

32建物21

32建物22

32建物25

32建物26

32建物27

Ⅷ区 1 面32号建物出土遺物

32建物28

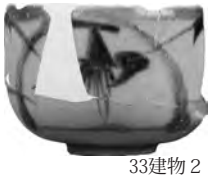
32建物29

32建物30

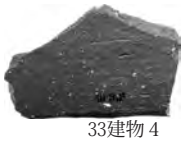
32建物31

32建物32

33建物 1

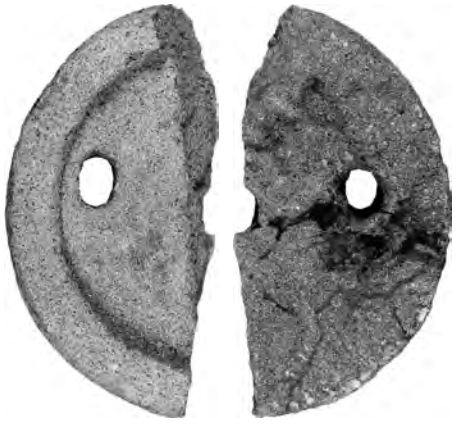

33建物 2

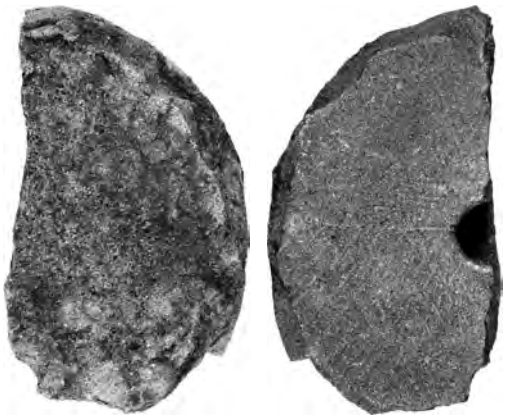
33建物 3


33建物 4

33建物 5

33建物 6


33建物 7

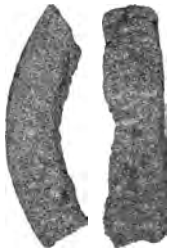

33建物 8

34建物 1

36建物 1

36建物 2

36建物 3


36建物 4

Ⅷ区 1 面32 ～ 34・36号建物出土遺物

PL.252

37建物１

37建物２

37建物３

37建物４

35石垣１

36石垣１

39石垣１

Ⅷ区遺構外１

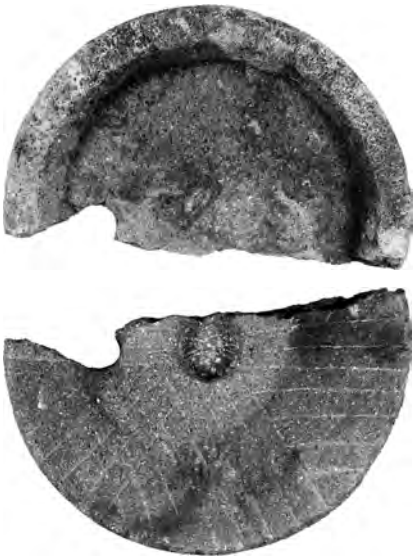
Ⅷ区遺構外２

Ⅷ区遺構外３

Ⅷ区遺構外４

Ⅷ区遺構外５

Ⅷ区遺構外６


Ⅷ区遺構外７

Ⅷ区遺構外８

Ⅷ区遺構外９

Ⅷ区遺構外10

Ⅷ区遺構外11

Ⅷ区遺構外12

Ⅸ区遺構外１

Ⅸ区遺構外２

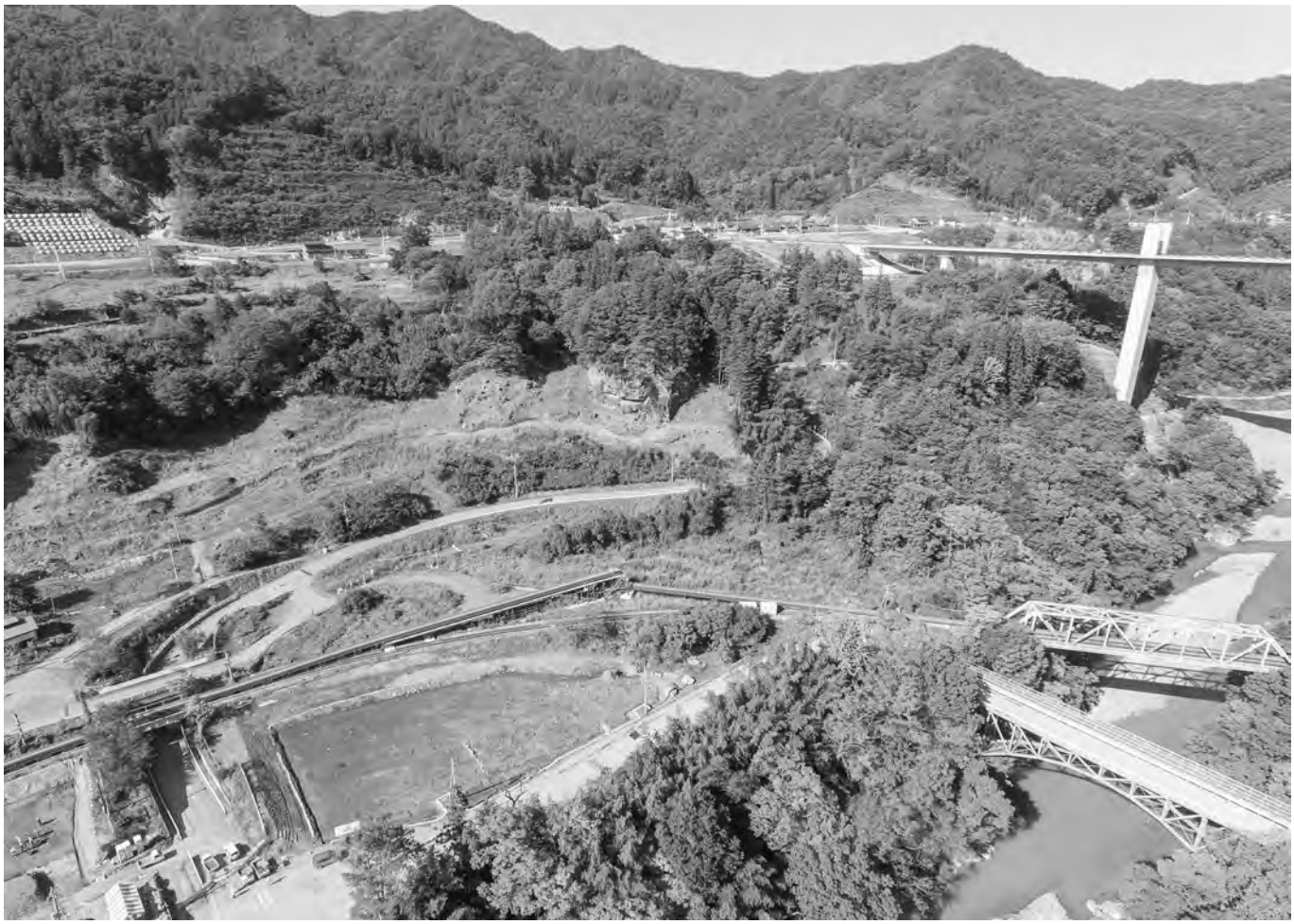
Ⅸ区遺構外３

Ⅸ区遺構外４

Ⅷ区１面37号建物、石垣、Ⅷ区・Ⅸ区遺構外出土遺物

写 真 図 版

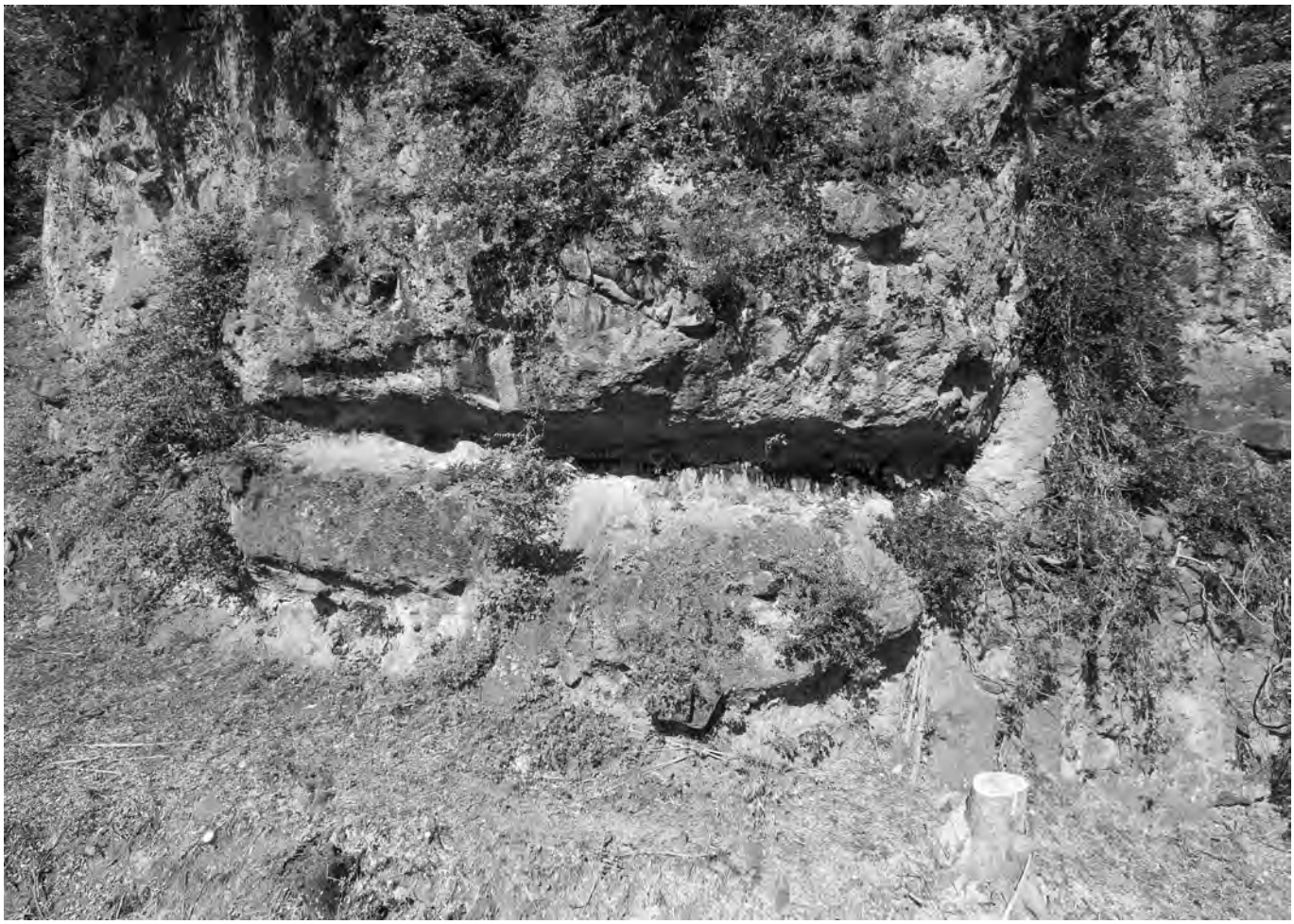
三ッ堂岩陰



1　遺跡遠景（東より）

2　岩陰遠景（東より）

PL.2



1　岩陰近景（東より）

2　1号トレンチ（北より）

3　2号トレンチ（南東より）

4　3号トレンチ（南西より）

5　4号トレンチ（東より）

1

2

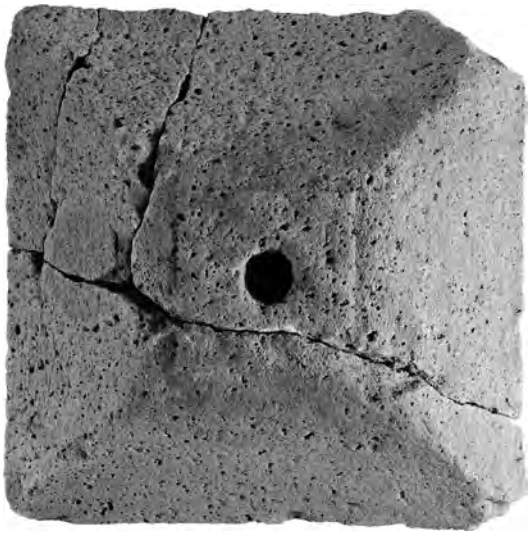
3

4

5

6

7

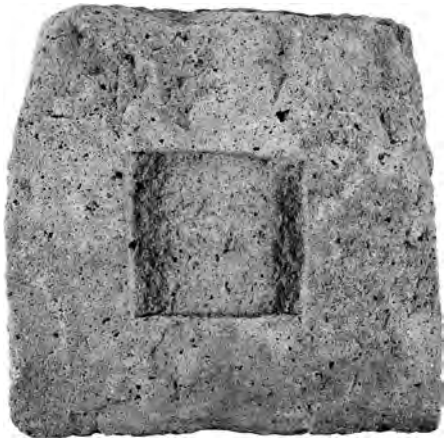


8

9

出土遺物（1）

PL.4



10

11

出土遺物（２）

報　告　書　抄　録

書名ふりがな	ひがしみやいせきかっこご・みつどういわかげ
書　　名	東宮遺跡（５）・三ッ堂岩陰
副　書　名	八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻　　次	74
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	675
編著者名	小野和之・都木直人・田村博
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20210324
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住　　所	群馬県渋川市北橘町下箱田784-2
遺跡名ふりがな	ひがしみやいせき
遺　跡　名	東宮遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんあがつまぐんながのはらまちおおあざかわらはた
遺跡所在地	群馬県吾妻郡長野原町大字川原畑
市町村コード	10424
遺跡番号	0208
北緯（世界測地系）	363307
東経（世界測地系）	1384206
調査期間	20160401-20161231,20170401-20171231,20180401-20180930
調査面積	33605(29421)
調査原因	ダム建設
種　　別	包蔵地/集落/墳墓/生産遺跡
主な時代	縄文/中世/近世
遺跡概要	集落―縄文―竪穴建物92＋土坑　列石７＋配石30＋配石土坑２＋焼土８＋縄文土器＋石器/中近世―土坑＋ピット＋焼土/集落―近世―建物６＋石垣６＋道１＋暗渠２＋切り石石組遺構１＋水場遺構１/生産遺跡―畑４＋陶磁器＋金属器
特記事項	Ⅴ区・Ⅵ区の第１面（近世、天明泥流下）・第２面（中近世）は『東宮遺跡（４）』に掲載。
要　　約	縄文時代中期の集落、複数の列石および配石と縄文時代後期の集落。江戸時代天明泥流で埋没した集落跡、畑等。
遺跡名ふりがな	みつどういわかげ
遺　跡　名	三ッ堂岩陰
所在地ふりがな	ぐんまけんあがつまぐんながのはらまちおおあざかわらはた
遺跡所在地	群馬県吾妻郡長野原町大字川原畑
市町村コード	10424
遺跡番号	0012
北緯（世界測地系）	363312
東経（世界測地系）	1384208
調査期間	20161006-20161130
調査面積	1,504
調査原因	ダム建設
種　　別	包蔵地
主な時代	近世
遺跡概要	包蔵地－近世－石製品
特記事項	旧三ッ堂（観音堂）移転後の跡地にあたる。
要　　約	近世の石製品出土。

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書　第675集

東宮遺跡（５）　三ッ堂岩陰

八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第74集

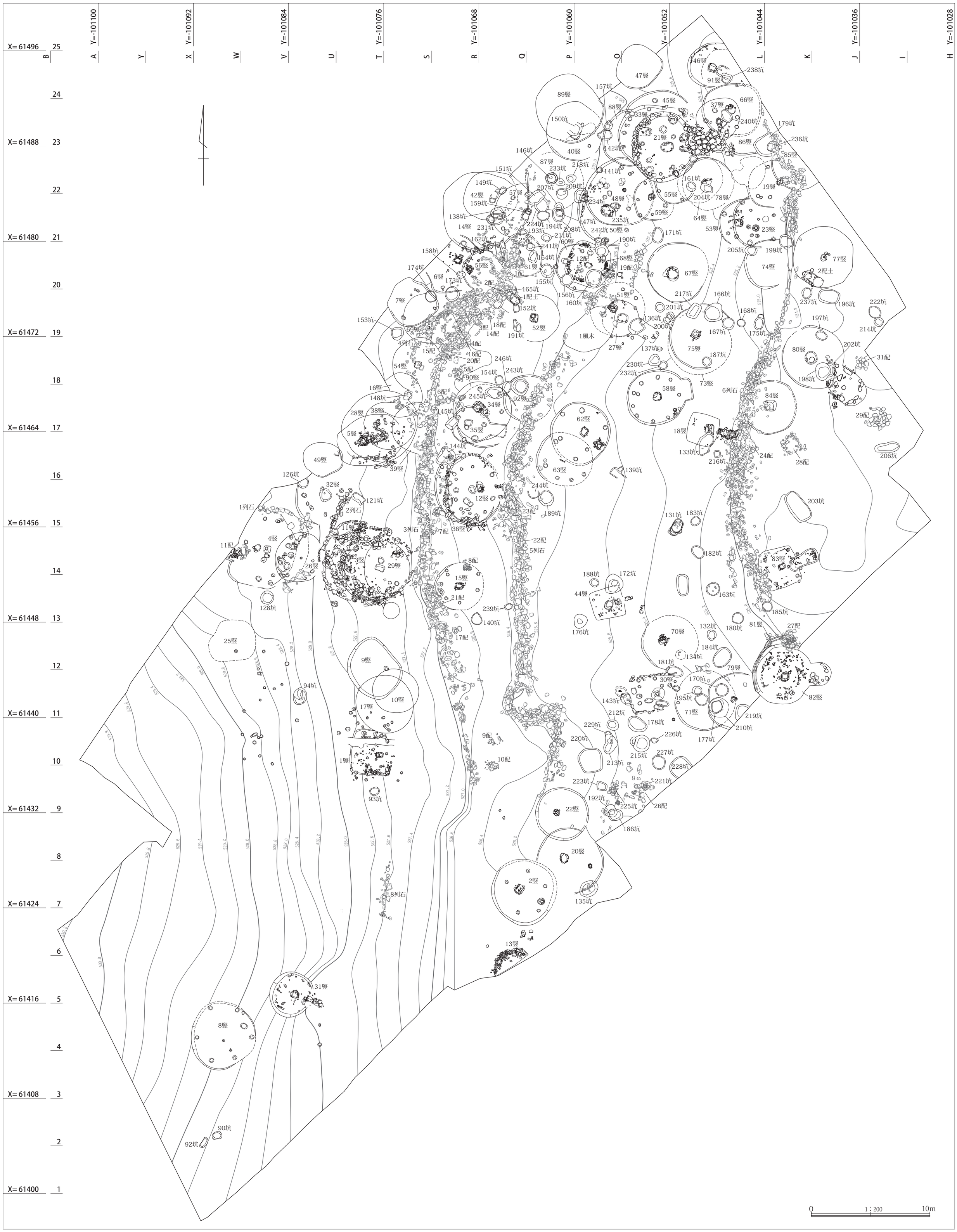
令和３(2021)年３月17日　印刷
令和３(2021)年３月24日　発行

編集・発行／公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555　群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2
電話(0279)52-2511(代表)
ホームページアドレス　http://www.gunmaibun.org/

印刷／ジャーナル印刷株式会社

付図１　東宮遺跡Ｖ区第３・４面全体図（1：200）



付図２　東宮遺跡第１面(天明泥流下)全体図（1：800）

(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第633集『東宮遺跡(４)・三ッ堂岩陰』付図 東宮遺跡第１面(天明泥流下)全体図加筆修正